

2021年度
事業報告書

社会福祉法人
聖隷福祉事業団

2021年度 事業報告書 目次

2021年度事業報告にあたり	…	1
2021年度事業成績報告	…	5
聖隷三方原病院	…	8
聖隷おおぞら療育センター	…	12
三方原ベテルホーム	…	14
聖隷浜松病院	…	16
聖隷淡路病院	…	19
聖隷横浜病院	…	21
聖隷佐倉市民病院	…	23
浜松市リハビリテーション病院	…	25
聖隷袋井市民病院	…	27
保健事業部	…	29
聖隷健康診断センター	…	31
聖隷予防検診センター	…	33
聖隷健康サポートセンターShizuoka	…	35
地域・企業健診センター	…	37
在宅・福祉サービス事業部	…	39
＜和合せいれの里＞ 和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みんとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷放課後クラブはなえみ 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合 聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和合 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉	…	42
＜聖隷ケアセンター初生＞ 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生	…	47
＜聖隷ケアセンター高丘＞ 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松	…	49
訪問看護ステーション住吉第二	…	51
聖隷コミュニティケアセンター	…	52
浜松市生活自立相談支援センターつながり	…	54
＜聖隷厚生園信生＞ 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北	…	56
＜聖隷厚生園讃栄＞ 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ 聖隷厚生園ナルド工房	…	58 60
＜浜松学園＞ 静岡県立浜松学園 聖隷チャレンジ工房浜松学園	…	62
もくせいの里	…	64
＜いなさ愛光園＞ いなさ愛光園特別養護老人ホーム いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン	…	66
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ	…	69
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	…	71

【 対応する拠点区分（会計） 】

聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター あさひ 児童発達支援センターひかりの子
三方原ベテルホーム
聖隷浜松病院
聖隷淡路病院
聖隷横浜病院
聖隷佐倉市民病院
浜松市リハビリテーション病院
聖隷袋井市民病院
保健事業部
聖隷健康診断センター
聖隷予防検診センター
聖隷健康サポートセンターShizuoka
聖隷予防検診センター
在宅・福祉サービス事業部
和合せいれの里（介護） 和合せいれの里（児童） 和合せいれの里（障害）
聖隷ケアセンター初生
聖隷リハビリプラザIN高丘 高丘地区在宅複合事業（公益）
訪問看護ステーション住吉第二
聖隷コミュニティケアセンター
浜松市生活自立相談支援センターつながり
聖隷厚生園信生寮
聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園障害在宅事業（浜松）
聖隷厚生園ナルド工房
浜松学園
もくせいの里
いなさ愛光園
聖隷リハビリプラザいなさ 引佐地区在宅複合事業
聖隷デイサービスセンター三方原 三方原地区在宅複合事業

2021年度 事業報告書 目次

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	…	73
＜浜北愛光園＞ 浜北愛光園特別養護老人ホーム 浜北愛光園デイサービスセンター 障害者相談支援事業所浜松東 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北 生活介護事業所きらめき	…	74
＜森町愛光園＞ 森町愛光園特別養護老人ホーム 森町愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター森町 森町愛光園ホームヘルプステーション 森町愛光園天宮サテライト 聖隷相談支援事業所森町 聖隷放課後クラブはなえみ森町	…	77
＜聖隷びゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター	…	79
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	…	82
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	…	84
浦安愛光園 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安	…	87
浦安ベテルホーム	…	89
聖隷ケアプランセンター浦安 浦安せいいクリニック	…	91
聖隷訪問看護ステーション浦安 浦安市高洲地域包括支援センター	…	92 93
＜松戸愛光園＞ 松戸愛光園特別養護老人ホーム 松戸愛光園デイサービスセンター 松戸愛光園ケアプランセンター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	…	94
＜横須賀愛光園＞ 横須賀愛光園特別養護老人ホーム 横須賀愛光園デイサービスセンター 西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルプステーション横須賀 聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀	…	96
＜宝塚せいいの里＞ 宝塚すみれ栄光園特別養護老人ホーム 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ 宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター	…	98
ケアハウス宝塚	…	100
結いホーム宝塚	…	102
宝塚栄光園	…	104
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷ヘルプステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター宝塚 聖隷訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター 聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ 聖隷デイサービスセンター結い 聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	…	106 109 111 112

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日
浜北愛光園
森町愛光園（介護） 森町愛光園（障害児者）
聖隷びゅあセンター磐田
浅田地区在宅複合事業
浦安市特別養護老人ホーム（特養） 浦安市特別養護老人ホーム（短期入所） 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安愛光園
浦安ベテルホーム
聖隷ケアプランセンター浦安 浦安せいいクリニック
聖隷訪問看護ステーション浦安 浦安市高洲地域包括支援センター
松戸愛光園
横須賀愛光園
宝塚すみれ栄光園
ケアハウス宝塚
結いホーム宝塚
宝塚栄光園
宝塚第二地区中州在宅複合事業（社福） 宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益）
宝塚第二地区逆瀬台在宅複合事業
聖隷デイサービスセンター結い 聖隷コミュニティケアセンター宝塚

2021年度 事業報告書 目次

＜花屋敷せいの里＞ 花屋敷栄光園特別養護老人ホーム 花屋敷デイサービスセンター 花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷	… 113
ケアハウス花屋敷	… 116
聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸	… 118
＜聖隷カーネーションホーム＞ 聖隷カーネーションホーム特別養護老人ホーム 聖隷カーネーションホームデイサービスセンター 聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうつつこ 聖隷在宅介護支援センター淡路 聖隷ケアプランセンター淡路	… 120
＜淡路栄光園＞ 淡路栄光園特別養護老人ホーム 淡路栄光園デイサービスセンター	… 122
＜聖隷ケアセンター津名＞ 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路第二 聖隷ヘルパーステーション淡路 聖隷ライフサポート津名	… 124
聖隷こども園夢舞台	… 126
＜奄美佳南園＞ 奄美佳南園特別養護老人ホーム 奄美佳南園デイサービスセンター 奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所 奄美佳南園訪問入浴事業所 奄美佳南園春日デイサービスセンター 聖隷チャレンジ工房カナン	… 128
春日保育園	… 130
のぞみ園	… 132
聖隷かがやき	… 134
＜聖隷ケアセンター沖縄＞ 聖隷訪問看護ステーションゆい 聖隷居宅介護支援センターゆい 聖隷デイサービスセンターゆい	… 136
聖隷こども園わかば	… 138
聖隷こども園桜ヶ丘	… 140
聖隷こども園ひかりの子	… 142
聖隷こども園めぐみ	… 144
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 146
聖隷のあ保育園	… 148
こうのとり保育園	… 150
聖隷こども園こうのとり東	… 152
聖隷こども園こうのとり豊田	… 154
＜聖隷こうのとり富丘＞ 聖隷こども園こうのとり富丘 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘	… 156
野上あゆみ保育園	… 159
野上児童館	… 161
逆瀬川あゆみ保育園	… 163
御殿山あゆみ保育園	… 165
御殿山児童館	… 167
高齢者公益事業部	… 169
浜名湖エデンの園	… 171
宝塚エデンの園	… 173
松山エデンの園	… 175
油壺エデンの園	… 177
浦安エデンの園	… 179
横浜エデンの園	… 181

花屋敷栄光園
ケアハウス花屋敷
北神戸地区在宅複合事業（公益）
聖隷カーネーションホーム
淡路栄光園
淡路地区在宅複合事業（社福） 淡路地区在宅複合事業（公益）
聖隷こども園夢舞台
奄美佳南園
春日保育園
のぞみ園
聖隷かがやき
聖隷デイサービスセンターゆい 沖縄地区在宅複合事業
聖隷こども園わかば
聖隷こども園桜ヶ丘
聖隷こども園ひかりの子
聖隷こども園めぐみ
聖隷浜松病院ひばり保育園
聖隷のあ保育園
こうのとり保育園
聖隷こども園こうのとり東
聖隷こども園こうのとり豊田
聖隷このとり富丘
野上あゆみ保育園
逆瀬川あゆみ保育園
御殿山あゆみ保育園
高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 入園金会計 宝塚エデンの園 入園金会計 松山エデンの園 入園金会計 油壺エデンの園 入園金会計 浦安エデンの園 入園金会計 横浜エデンの園 入園金会計 藤沢エデンの園一番館 入園金会計 藤沢エデンの園二番館 入園金会計
浜名湖エデンの園 施設有料 浜名湖エデンの園 施設診療
宝塚エデンの園 施設有料 宝塚エデンの園 施設診療
松山エデンの園 施設有料
油壺エデンの園 施設有料 油壺エデンの園 施設診療
浦安エデンの園 施設有料
横浜エデンの園 施設有料

2021年度 事業報告書 目次

＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞	
藤沢エデンの園一番館	
藤沢エデンの園二番館	
藤沢愛光園	… 183
聖隷デイサービスセンター藤沢	
聖隷ケアプランセンター藤沢	
聖隷ヘルパーステーション藤沢	
聖隷訪問看護ステーション藤沢	
奈良ニッセイエデンの園	… 187
松戸ニッセイエデンの園	… 193
明日見らいふ南大沢	… 195
法人本部	… 197
2021年度施設整備事業報告	… 202
法人の概要	… 203
実施する事業の概要	… 204
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	… 217
附属明細書	… 218

藤沢愛光園	
藤沢エデンの園一番館	施設有料
藤沢エデンの園二番館	施設有料
－	
－	
高齢者公益事業部	
法人本部	

2021 年度 事業報告にあたり

理事長 青木善治

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症（以下 コロナ）が蔓延する中、新規事業だけでなく、経営的にも積極的に取り組んだ年となりました。2 年前より大きな社会課題でありますコロナの対応において、各病院にて発熱外来や、コロナ専用病床を確保し、患者の受け入れを行いました。また、全国的にワクチン接種が開始され、聖隷福祉事業団においても、市町村・企業・商工会議所への接種支援、高齢者や障がい者施設入所者への接種、職員・職員家族に対する職域接種に取り組みました。しかしながら、変異株の出現もあり、様々な制限は年間を通して続き、各事業では、それぞれの事業特性に合わせた感染対策を徹底する中での事業運営となりました。また、マスクやプラスチック手袋などの確保だけでなく、感染者、濃厚接触者が発生した場合に、いかに事業を継続させるかということも大きな課題となりました。これに対しては、迅速なコロナの検査体制を構築するだけでなく、厳しい行動制限を継続するなど、職員の大きな努力によって、事業が途切れることなく、地域の医療・福祉を守ることができたと考えています。

このような状況の中、新たな事業展開として「ドクターヘリ格納庫」の運用が開始されました。今までは、台風の時など名古屋まで避難していましたが、近くに格納庫があることにより、緊急の出動要請に速やかに対応できるようになりました。また、当事業団として初めてとなる「宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター」の受託運営を行いました。住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるよう、個人の権利を守るための事業です。さらに 2019 年 4 月より指定管理にて運営してきました「静岡県立浜松学園」は、2022 年 4 月の移譲に向けた増築・既存改修工事が竣工しました。この浜松学園は、子供たちが将来の夢を描き、「なりたい自分」に向かい社会人を目指す、自立と就労を支援する入所と通所の施設です。その他、外来診療室不足の解消、感染症対応病棟やアイセンターなどの機能充実、駐車場混雑の解消を目的とした「聖隷浜松病院 S 棟耐震化増改築工事」をはじめ、「横須賀愛光園大規模改修工事」「宝塚エデンの園増築・建替計画の推進」など、新たな計画も着実に進んでいます。加えて、Vision2025 に掲げる聖隷 DX としてグループウェアの統一、職員の各種申請のデジタル化、高齢者施設における見守りシステムの導入も進みました。さらに、働き方改革における労働環境の整備として、不妊治療や家族介護などの両立支援制度の拡充や、職員・職員家族の健康を守る健康推進室も設置しました。昨年 7 月に発生した熱海の土砂災害に対しては DMAT（災害派遣医療チーム）、DWAT（災害派遣福祉チーム）、DPAT（災害派遣精神医療チーム）、その他にも災害支援ナースなど各専門的な知識を持った支援チームを派遣しました。

結びになりますが、経営面では厳しい状況は続いたものの、職員の献身的な努力により事業継続がなされた結果、コロナ関連の補助金による支援もあり、過去最高の黒字決算とすることができました。厳しい社会情勢が続く中、聖隷福祉事業団の総合化力を活かし、各事業部が協力し、地域貢献ができたことは大きな成果と考えています。地域の皆様をはじめ、ご支援いただいた皆様に厚く御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化
を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる

A 2025 年、聖隷福祉事業団はこうなっている

B 重要課題

事業

質の高い事業を行う

地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し、また先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦し、最高の質を追求した事業を展開している。



1 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

組織

組織力を活かす

地域課題の解決に繋がる事業部間連携や聖隷の質と規模を維持する人材の確保ができています。大規模広域法人に適した購入や物流、情報システムを構築し、大規模災害に対する連携の強化等、より一層の協働した組織となっている。



2 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

3 人材の確保と育成を推進する

4 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

運営

生産性の高い運営体制を築く

ICT・AI・ロボット等を活用し、少人数であっても質の高いサービスを提供できる効率性の高い業務体制を構築している。外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティが進み、働きがいのある仕事を推進している。



5 聖隷DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する

6 ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

財務

財務体質を強化する

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境を学びにし、需要減少時でも安定する経営構造を構築している。また、予期せぬ経営環境の急変にも揺るがない骨太の財務体質となっている。



7 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

C テーマ

- ・地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し挑戦する
- ・先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦する

- ・事業部を越えた職員間で情報交換しやすい環境、検討する場を設ける等、地域ごとで事業部間が連携し、利便性の向上や課題解決に繋がる仕組みを構築する

- ・生産年齢人口が減少する中、需要拡大が見込まれる聖隷の事業を支える人材確保を図る
- ・聖隷の質を体現・継承できる「聖隷人」の育成を推進する
※聖隷人（せいれいびと）
基本理念および使命を理解し、職員行動指針を実践している人

- ・大規模広域法人としてのメリットを活かし、人事・資材・資金・情報システムなどの一層の効率性を追求する
- ・広域な大規模災害に対する BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）対応と連携を強化する

- ・ICT、AI、ロボット等を活用して少人数であっても質の高いサービスを提供できる、効率性の高い業務体制を追求する
- ・事業部を越えた利用者情報の共有ネットワークシステムの整備、データヘルスサービスなど医療・介護・健康分野の情報化を推進する

- ・健康経営の推進、働き方改革等の制度へ対応するとともに、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティを推進する

- ・成長性：サービス活動収益の成長率 前年比 2%以上
- ・収益性：税引前当期活動増減差額 年 15 億円以上
- ・効率性：総資産に対し税引前当期活動増減差額率（ROA）年 1%以上
- ・安定性：純資産比率 45%以上（2025 年度末）

D 中期事業計画 2021-2025 における 聖隷福祉事業団と SDGs の関わり

事業 組織 運営 財務



事 生活困窮者支援などが当たります。



事 災害時の食事提供や健康寿命延伸に向けた栄養指導などが当たります。組 災害時にも安心して食事の提供ができる体制が必要です。BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）策定など準備を進めます。



事 新たなニーズや制度の狭間など支援が届いていない方への支援、より質の高い医療福祉の提供を目指します。



事 健康、介護予防教育や生活困窮の負の連鎖に対する教育支援などが当たります。組 優秀な人材の確保、育成は事業の質を維持するうえで極めて重要です。今後も人材育成に注力します。



組 育児支援など女性が働きやすい職場をつくと共に女性の経営職の増加を目指します。運 職員へより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。



財 エネルギー使用量を削減する取り組みを継続します。



運 職員へのより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。財 地域に必要な事業は行わねばなりません。法人として健全な成長を目指します。



運 医療福祉の領域での DX をはじめとした情報化やロボットなど自動化を推進し、生産性の向上と新たな価値創造に繋げて強みにしていきます。財 強靱で、より持続可能な施設設備を維持する管理を推進します。また DX やロボットなど先進的な技術の導入を推進します。



運 地域共生社会の実現を先導する組織として、内部でも年齢、性別、障がい、外国人などに関わらず活躍できるダイバーシティを推進します。



事 住み続けられるまちづくりは地域共生社会の理念と同一であり、地域包括ケアシステムなどを用いて社会福祉法人に求められています。



組 環境への影響を配慮された物品の使用や電気ガス等の効率的な使用が求められます。財 将来にわたり社会を支えていける様に、事業の持続性を確立します。



組 台風や大雨の激甚化など温暖化による大規模災害が増加していますので、災害に対する準備が一層必要になります。



事 子ども達により良い環境を提供することも私たちの大切な事業となります。



組 各所との連携体制の構築は最も重要なテーマの一つです。内部の連携強化と共に、外部組織とも連携を強めていきます。

基本理念

キリスト教精神に基づく
「隣人愛」

使命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・
経営基盤の安定化を実現し、
未来につなげる地域共生社会をつくる

中期事業計画2021-2025

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

基本理念

聖隷福祉事業団が事業を行なう上で根底にある考え方。

使命

聖隷福祉事業団の存在意義。

Vision2025

2025年、聖隷福祉事業団はこうなっている。

中期事業計画2021-2025

Vision2025へ到達するために、7つの重要課題およびテーマを提示し5年間かけて達成を目指す計画。

職員行動指針

使命をもとに職員が共有し実践する具体的な行動を示した指針。

2021 年度 事業成績報告

常務執行役員 井上英樹

(1) 事業の経過及びその成果

2021 年度は、新型コロナウイルス感染の波が第 4 波から第 6 波まで発生し、新型コロナ重症患者の受け入れや発熱外来の設置、新型コロナワクチン接種の受託等を通じ、地域におけるコロナ対応の一翼を担った。また、福祉施設並びにエデンの園においては感染防止対策の徹底を図り、職員一丸となって安心、安全なサービス提供の維持に努めた。

経営的には、各事業ともに利用者数が前年度に比べて大幅に回復するとともに、介護記録システムや見守りシステム等による業務の効率化が進み、なおかつ新型コロナウイルス対応に関する国庫補助の交付もあり、サービス活動収益 1,300 億円、税引前当期活動増減差額 65 億円を計上し、昨年度に比べ大幅に経営が回復した年度となった。

(2) 医療・保健事業

聖隷浜松病院においては、新型コロナウイルス感染拡大の中にあって、入院、外来患者や救急患者を積極的に受け入れ、高度急性期病院としての役割を果たした。その結果、入院患者数が大幅に増え、税引前当期活動増減差額 16.4 億円を計上することができた。

なお、眼科診療の拡大と駐車場の混雑緩和を目的とした新 S 棟の建築については、9 月に着工することができ、2023 年春の竣工を目指して工事が進んでいる。

聖隷三方原病院では、新型コロナウイルス重症患者専用病床を 6 床設置し、地域住民へのワクチン接種も延べ約 8 万回に及び、熱海市で発生した土砂災害の際には災害派遣医療チーム等を現地に派遣し、被災地復興の一助となるべく支援を行った。経営的には税引前当期活動増減差額 20.1 億円を計上した。

聖隷淡路病院は、地域における長期療養患者の受け皿として機能を果たすとともに緩和ケアを積極的に展開し、地域完結型医療の推進に貢献した。税引前当期活動増減差額は▲6,200 万円と改善傾向にあり、今後は診療体制維持のための医師確保が経営的な課題となる。

聖隷横浜病院では、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟および脳卒中ケアユニットの高稼働により入院患者数は前年度比 26.6%増となり、新型コロナワクチン接種も延べ約 1.8 万回実施した。税引前当期活動増減差額は▲1.7 億円となり、大幅に経営改善がなされた。

聖隷佐倉市民病院においても、「3 か年経営改善計画」に基づいた損益構造の改革に取り組んだ。医師の採用や、積極的な救急車受入れ等により入院患者数は前年度比 20.1%増となり、新型コロナワクチン接種も延べ約 3.2 万回実施し、税引前当期活動増減差額は 4.8 億円と黒字転換を図ることができた。

指定管理病院である浜松市リハビリテーション病院では、9 月より一般病棟 1 病棟、回復期リハビリテーション病棟 4 病棟体制に変更し、急性期病院および介護サービス事業所と連携した循環型リハビリテーションを目指した体制に移行した。袋井市立聖隷袋井市民病院においても天井走行式リフター等のロボット機器を導入し、先進的なリハビリテーションの提供に努める一方、新型コロナワクチン接種を延べ約 3 万件実施した。

保健事業部では、上半期、新型コロナウイルス感染拡大第4波（4月）および第5波（8月）の影響を大きく受けたが、下半期への期ずれ受診もあり、年間のドック受診者数は対前年度3.7%増、一般健診受診者数は28.8%増となった。また、新型コロナワクチン接種は市町村の集団接種、職域接種合わせて延べ約15万回を数え、地域住民の感染予防と地域経済の回復に貢献した。また、先駆的な取り組みとして、遺伝学的検査と遺伝カウンセリングを組み合わせた「SEIREI-CARE プログラム」を開発し、個別がん検診の提案に向けた事業を開始した。経営的にも税引前当期活動増減差額3.9億円を計上することができた。

(3) 在宅・福祉サービス事業

新型コロナウイルスの感染拡大により、通所系事業（デイサービス等）、訪問系事業（訪問看護、訪問介護等）、障害者就労支援事業の稼働率が低下した一方、特別養護老人ホームや障がい者入所事業においては稼働率を維持することができた。業務効率化にあたっては、見守りシステムや介護記録システム、インカム導入等 ICT 化が大きく進み、今後は導入効果の検証が課題となる。投資活動としては、静岡県立浜松学園の経営移譲に伴う増改築工事が完了し、2022 年 4 月より聖隷福祉事業団における障がい者福祉の重要な拠点として、事業運営に真摯に取り組んでいく。

事業成績は税引前当期活動増減差額12.4億円を計上することができた。

(4) 高齢者公益事業

高齢者公益事業部においては、宝塚エデンの園の大規模建替計画の策定等を通し、新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想に取り組んだ。入居者募集については、新型コロナウイルス感染拡大により困難を極める中、ホテルを活用した小規模セミナーや YouTube の活用等による募集活動を展開し、年間契約件数153件、42.5億円の入居一時金を計上することができた。

直営8施設の3月末時点入居率は91.1%。特に藤沢、油壺、浦安エデンの園等の関東地区施設が高稼働を維持している。税引前当期活動増減差額は3.6億円を計上することができた。

(5) 財務の状況

現預金の状況は、業績が回復する一方、新型コロナウイルス対応の国庫補助金交付等もあり、期首より42億円増加し、期末残高は159億円となった。

設備投資については、浜松学園増改築工事、聖隷浜松病院新S棟工事、聖隷三方原病院新型コロナウイルス重症患者専用病床の整備等により、事業団全体で69億円の固定資産整備（通常・特別・リース合計）を実施した。有利子負債については、計画通り返済を進めると共に新規借入が少なかった為、期末残高343億円まで減少し、サービス活動収益に対する有利子負債比率は27.9%。純資産比率も43.3%となり、経営基盤の安定を図ることができた。

《2021 年度 事業区分別事業活動計算書》

(単位：百万円)

勘定科目	社会福祉 事業	公益事業	収益事業	合計	内部取引 消去	法人合計
サービス活動収益	69,642	60,934	2	130,578	-600	129,978
サービス活動費用	66,747	57,378	2	124,126	-646	123,480
税引前当期活動増減差額	3,672	2,780	0	6,452	0	6,452

《中期事業目標の進捗状況》

指 標			2021 年度
サービス活動収益成長率	【年】	2%	107.3%
当期活動増減差額	【年】	15 億円以上	64.5 億円
総資産税引前当期活動増減差額率（ROA）	【年】	1%以上	4.0%
純資産比率	【2025 年度末】	45%以上	43.3%

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

2021 年度は、2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の蔓延が続いた。次々と変異株が置き換わり、当院の運営にも大きな影響を与えたが、地域における集団免疫獲得に向けて、地域住民のワクチン接種を開始した。さらには、コロナ重症患者専用病床の整備や感染患者の受け入れ、帰国者接触者外来、PCR 検査体制、地域と連携した感染対策を継続し、新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての使命を果たした。

また、2024 年 4 月から開始される医師の働き方改革については、あらためて診療部へ法改正の内容や取り組むべき課題について説明し、理解と協力を求めた。看護師による特定行為実践の推進等により、タスク・シフト／シェアを図り、超過勤務の削減を進めていきたい。医師の確保に関しては、初期研修医が 15 名フルマッチとなり、専攻医は 3 名が当院のプログラムで研修することとなった。さらなる医師の確保に向けて、今後も継続したフォローアップを行っていく。専門医制度においては、2019 年度に引き続き 8 領域の基幹施設として研修プログラムを実行している。

2021 年 3 月に完了したドクターヘリ格納庫・ヘリポート建築事業は、6 月に落成式を行い、7 月より施設の供用を開始した。この格納庫の活用により、ドクターヘリの整備を効率的に行うことができ、安全・安定的な運航体制が確保された。今後も、地域の救急医療へさらに貢献していく。

1981 年に日本で初開設された当院のホスピス病棟は、2021 年 11 月に開設 40 周年を迎えた。コロナ感染の拡大の影響により、家族の面会を制限せざるを得ない状況となったが、WEB での面会の開始等、可能な限り対応を行った。今後も、充実した終末期を提供するために尽力していく。

2021 年 7 月には、熱海市で発生した土砂災害の被災地へ災害派遣医療チーム（DMAT）、災害派遣精神医療チーム（DPAT）を派遣した。被災された方や現場で捜索活動が続ける方へ医療や精神的なケアを提供し、被災地復興の一助となるべく支援を行った。

2020 年度から開始された看護師特定行為研修については、8 区分 14 行為の研修を行った。2021 年度は 10 名の修了者を輩出し、合計で 18 名の特定行為実践看護師が在籍している。2022 年度は新たな区分の研修も開講予定であり、特定行為実践看護師をより一層活用することで、医師の業務負担を減らし、働き方改革にも対応していく。

新たな医療提供として、2021 年 3 月に新機種更新を行った手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」を活用し、様々な症例に対して手術を行っている。また、新たに最新型の 320 列 CT を導入し、医療用画像管理システム（PACS）の更新を行う等、画像診断部門の機能強化に取り組んだ。ICT の分野においては、電子カルテデータの遠隔地バックアップ体制の構築や遠隔画像診断システムの活用など、デジタル時代に沿った対応を行った。近年、ICT の技術はめざましく発展しており、将来的には厚生労働省の推し進めるデータヘルス改革も控えているため、当院としても対応を強化していきたい。これからも地域の方々によりよい医療を提供できるような体制の整備を目指す。

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	610 名	577 名	94.6%	98.6%	外来患者数	920 名	908 名	98.7%	102.3%
入院単価	67,800 円	70,752 円	104.4%	103.0%	外 来 単 価	21,000 円	23,001 円	109.5%	107.8%
職 員 数	1,581 名	1,548 名	97.9%	99.4%	病床利用率	79.2%	74.9%	94.6%	97.9%

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

1. 安全で質の高い医療の提供

(ア) 安全な医療の提供

①医療安全管理の促進

医療安全管理室会議・委員会を定期的に開催し、『患者誤認事例減少』を目的として、診療科含む各職場に積極的に関わった。またインシデント・アクシデント (I・A) レポート、オカレンス報告を元により検討を行い、必要時にはメディカル・リスクマネジメントマニュアルの改訂・追加・削除を実施した。

②感染管理体制の評価と更なる充実

新型コロナウイルス感染症患者の外来や入院の体制整備・受け入れを実施し、地域の医療提供体制に貢献。また、新型コロナウイルス感染症の院内感染予防と共に、院内発生時の拡大防止に努めた。

(イ) 質の高い医療の提供

②専門・認定・特定看護師の育成と活用

摂食・嚥下障害看護認定看護師の3人目が育成され、専門・認定看護師は31名になった。特定看護師は10名が育成され、18名になった。特定行為の13個の手順書が作成され、救急外来、院内ICU、呼吸器外科病棟、おおぞら療育センター、褥瘡対策チームなどで活動を開始した。

(ウ) 新たな病院機能の提供

⑤病院機能のICT活用によるDX推進

WEB会議実施の体制を整備し、1年間の実績として176回のWEB会議を行った。オンライン資格確認システム導入、電子カルテの遠隔地バックアップ体制の構築などを実施した。

2. 働き方改革と人づくり文化の継承

(ア) 働き方改革の推進

①医師の働き方改革への対応

医師労働時間短縮計画の策定について、ふじのくに医療勤務環境改善支援センター作成のマニュアルに沿った計画書案を作成し、記載に係る課題などを整理した。

(イ) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着

①専門医・専攻医採用の強化

初期臨床研修医の2022年度採用は15名フルマッチとなった。専攻医については当院初期研修医から1名、更に他院から内科、外科1名ずつが当院研修プログラムへ受入となった。

②看護師・介護職・看護助手の安定した確保

WEB説明会やホームページを活用、インターンシップ等への参加者を増加。結果、看護師エントリー数104名、採用者65名。また、看護助手採用者4名、おおぞら療育センター介護職は採用者2名となった。

(ウ) 職員教育の充実

④看護師特定行為研修の促進

8区分14行為で開講、10名の修了生を輩出。特定看護師の認知も徐々に進んでいる。

(エ) 多様な雇用形態の促進

①障がい者雇用の維持

退職補充の積極的な採用活動で法定雇用率 2.3%に対し、3.17%の雇用率を維持した。

②エルダー職の活用

魅力的な職場環境を提供しエルダーA 職 10 名、エルダーB 職 2 名の雇用ができた。

③両立支援が必要な人達の雇用

子育て世代 4 名の採用面接を実施。1 名は地区限定職員として採用。子育てと仕事の両立を図っている。

3. 地域より求められる病院機能の整備

(ア) 新型コロナウイルス感染症への対応

①新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての体制強化

4 月よりコロナ重症患者専用病床として 6 床増床。結核病床他においてもコロナ患者の受入を継続した。

②発熱等特殊外来の活用

毎週月曜日に浜松市からの依頼で自宅又はホテル療養中の患者受入のために発熱等特殊外来を開設。3 月末までに延 50 名の診察対応を行った。

③ワクチン接種体制の整備

6 月より一般市民向けに地域障がい者総合リハビリテーションセンターのアリーナにて大規模個別接種を実施。平日 300 名、土日 600 名の接種を行い、3 月末までに延約 80,000 回の接種を行った。

(イ) 各種認定施設としての機能の充実

①高度救命救急センター

円滑な救急医療の実践のため地域医療機関や消防など関係機関と継続した連携体制を維持。各市町の消防機関との訓練や検証会などは、Web を使用して継続的に実施。高度救命救急センターとして熱傷・急性中毒・指肢切断などの特殊疾患にも各診療科と対応した。

②基幹型認知症疾患医療センター

浜松市認知症疾患医療連携協議会を開催し、認知症サポート医や地域包括支援センターとともに浜松市の認知症施策について情報共有及び意見交換を実施。浜松市と認知症ケアパスの改訂を行った。地域包括支援センター向け勉強会、出張相談会を開催。相談支援体制の充実としては認知症看護認定看護師と共に認知症相談会を毎月開催した。

③精神科病棟

摂食障害患者受け入れマニュアルを作成。このマニュアルに沿った対応が可能な看護師 18 名を育成した。

また、休日・夜間に精神症状が悪化した患者さんが入院できるようベッド調整を実施、全患者を受入れた。

④災害拠点病院

7 月に発生した熱海市土石流災害に対して当院 DMAT と DPAT（災害派遣精神医療チーム）を派遣した。

⑤地域がん診療連携拠点病院

がん遺伝子パネル検査件数が 18 件（内訳、F1CDx11 件、F1LiquidCDx7 件）と増加するも、各部署間で連携し、スムーズに実施できた。

⑥地域医療支援病院

循環器医師と心不全連携の推進、整形外科医師と創外固定術（高齢者の脆弱性骨折）の連携推進を目的に医療機関訪問を実施。近隣医療機関への定期訪問、新規開業医療機関への連携手続き説明、診療のご案内（2021 年度版）の発行配布など、病診・病病連携を推進した。

（ウ）利用者サービスの向上

コロナ関連の情報は病院ホームページを効果的に使用し、2021 年度 31 件の更新を行い、面会制限の内容周知や新型コロナワクチンの大規模個別接種に関する情報をリアルタイムで利用者へ情報提供を行った。

（エ）病院機能評価の認定更新

自己調査評価表を活用し、院内全体で業務改善に取り組んだ。オンライン相談会の参加やケアプロセス調査のプレサーベイを実施し良質な医療を提供するための取り組みを行った。

（キ）環境保全のための省エネ活動の継続

空調機器の適正な運転管理と病棟照明 LED 化などで、エネルギー使用量を削減した。

4. 地域完結型医療実現への取り組み

（イ）地域包括ケアシステムの推進

③アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進

『人生会議手帳』『なあとらシート』のポスターを掲示、ACP 支援を希望する方の相談体制を整えた。

5. 安定した経営基盤の確保

（ア）施設基準の精度管理

新型コロナウイルス感染症に伴う臨時的な取扱いの注視を継続し、適切な施設基準届出を実践した。適時調査に準拠する形で実施された「病院による届出施設基準の自己点検」においても、部門横断的に取り組み施設基準の精度管理に努めた

（イ）職員の経営参画意識の向上

業務委託の見直しや医療技術部・事務部において、各部門の費用削減・増収対策の検討・管理を行った。

6. その他公共事業

高校生の看護体験 13 名を受け入れた。市民公開講座は、2 月に大ホールにて WEB ライブ配信併用で実施し、参加者は 32 名であった。産後ケア事業は 0 件であった。

〈医療保護施設・無料低額事業・入院助産〉

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。入院助産は 0 件であった。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

「医療型障害児入所施設/療養介護(重症心身障害児施設)・短期入所 ショートステイ」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設(18歳未満)と療養介護(18歳以上)の並立施設運用になっている。2021年度の利用実績は、4月時点の入所者は126人であったが、年度内の入所者16人(期間限定14人含む)、退所者21人(期間限定15人含む)で、2022年3月末では121人となった。また、地域の在宅利用者の家庭の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定の入所受け入れは2021年度14人(静岡県12人、愛知県2人)で、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設として役割を果たすことができた。重症心身障害で医療ニーズが高い当施設のサービス利用者にとって新型コロナウイルスへの感染は生命危機に直結する問題であり、施設への感染持込み防止対策を最重要課題として、継続するための働きかけに注力した。

2020年11月から長期中止になっていた家族面会への対策として、6月から予約制面会に移行した。感染拡大時期は屋外からの窓越し面会とし、感染が沈静化している時期は館内面会室を設けて短時間の直接面会とした。

入所利用者へのコロナウイルスワクチン接種では、6～8月に12歳以上の児・者112名の内、106名に実施した。また、2月に2回目接種後6ヶ月経過した18歳以上者97名の内、95名に追加接種を実施した。

ショートステイの2021年度利用実績は、1日平均利用者数が5.7人(定員20人)、利用登録者の総数は335人であった。新型コロナウイルス対策として、政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に5月、6月、7月、8月、9月、1月、2月、3月にショートステイのサービス提供を中止又は地域制限を実施した。また、感染拡大している期間は利用者の感染有無を判定するため、サービス開始前の抗原定量検査を実施した。

Zoomなどのオンライン会議が導入された影響で、職員間でもITへの関心が高まり、施設内外職員が参加する多職種勉強会のオンライン配信や、行政主催の支援連絡会への参加促進に繋がった。また、訪問看護や相談支援事業所など他事業職員が参加する緩和ケアやACP(アドバンス・ケア・プランニング)等の合同カンファレンス開催も回数を大幅に増やして、在宅利用者のケア連携の活性化に寄与できた。

2021年11月に浜松市社会福祉施設等施設整備費補助金(防災減災対策)により、1号館の非常用自家発電設備の更新工事を実施した。これにより1号館も災害発生後72時間の事業継続が可能となった。

あさひ(生活介護)

2021年度は、利用登録者数47人でスタートし、年度内の利用開始者0人、利用終了者2人で、45人で年度を終了した。利用実績は、1日平均利用者数26.3人(定員35人)となった。職員配置では、常勤専従の看護師・生活支援員の配置を維持し、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

2021年度より開始した祝日営業は、毎週定期的に利用したいという利用者ニーズの改善に繋が

った。

新型コロナウイルス対策として、政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に5月、6月、7月、8月、9月、1月、2月、3月にはサービス利用の自粛呼び掛けや提供地域の制限を実施した。

感染持込み防止策として、利用開始前の体調確認や受付を行うゾーンを設け、職員以外がサービス提供するゾーンに入らない仕組みを作った。

児童発達支援センターひかりの子

〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

児童発達支援センターは、通所利用障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い、地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2021年度は、利用登録者数8人でスタートし、年度内の利用開始者5人、利用終了者0人で、最終的には13人となった。利用実績は、1日平均利用者数6.1人(定員15人)となった。新型コロナウイルス対策として、政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に5月、6月、7月、8月、9月、1月、2月、3月はサービス提供を中止又は地域制限を実施した。

感染持込み防止策として、利用開始前の体調確認や受付を行うゾーンを設け、職員以外がサービス提供するゾーンに入らない仕組みを作った。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。2021年度は、利用登録者数45人からスタートし、年度内の利用開始者0人、利用終了者0人で、最終的には45人となった。利用実績は、1日平均利用者数4.2人(定員5人)となった。新型コロナウイルス対策として、政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に5月、6月、7月、8月、9月、1月、2月、3月はサービス提供を中止又は地域制限を実施した。

利用希望が集中する土曜日と特別支援学校の長期休暇中の休日枠の定員拡大の中止も継続している。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2021年度は新規契約者4人、契約終了者3人で、最終的な登録者数は188人となった。

	入 所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績
入院患者・利用者数	130 人	128 人	13 人	6 人	—	—	—	—
入院単価(医療)	29,750 円	29,676 円	—	—	—	—	—	—
入院単価(福祉)	9,300 円	9,600 円	30,000 円	31,153 円	—	—	—	—
外来患者・利用者数	30 人	22 人	—	—	36 人	31 人	20 人	11 人
外 来 単 価 (医 療)	4,900 円	4,624 円	—	—	12,550 円	12,370 円	14,440 円	15,710 円

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2021 年度はこれまで同様、医療依存度の高い方、終末期の方、緊急入所、緊急ショートステイの受入に積極的に取り組み、地域を担う老人保健施設として役割を果たすことができた。年度当初は特に入所者数が伸び悩み、予算には大きく未達となった。しかしながら質の高い充実したサービスを提供することにより超強化型の類型を維持、さらに介護報酬改定による科学的介護情報システムに職員が連携し取り組んだことで、入所、通所ともに高単価を維持し安定した事業運営となった。

年度末には施設内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したが、三方原病院事業部の協力支援により、速やかに終息することができた。

1. 地域包括ケアシステムの推進

在宅復帰率については 71.2%と過去最高となった。通所利用者の介護度 3～5 の割合は 30%から 40%台に上昇、入所・ショートも併用し、より重度な利用者の在宅生活の継続支援ができています。さらに施設内で看取った方の 42.4%が当施設の複数サービスを利用されており、終末期を含めた一貫した支援が提供できた。

2. 安定的に事業継続できる体制の構築

充実したリハビリテーションの提供と高い在宅復帰率を維持するなど、超強化型の類型を継続的に維持することができた。施設運営状況を職員へ発信し、情報共有と経営参画の意識向上に繋がっている。厚労省が推奨する科学的介護情報システム（LIFE）には各部門が早期から体制を整え 5 月から加算を算定した。

3. 安全で質の高いケアの提供

新型コロナウイルス感染症においては、面会制限、Web 面会を継続し、また入所者のワクチン接種に積極的に取り組み感染防止に努めた。介護テクニカルラダーに対応した「学研介護サポート学習スキーム」を導入した。また、ACP（アドバンスケアプランニング）・グリーフケアの運用基準を決定。併せて看取り指針の改訂も行った。

4. 次世代を担う人材育成と働く支援

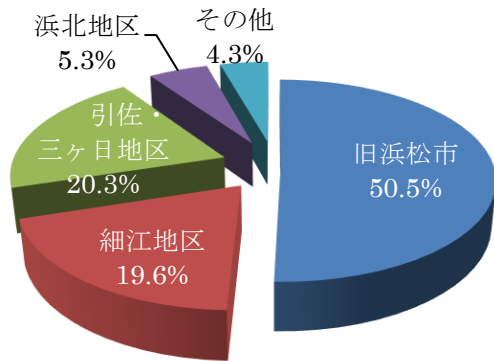
ICT 化等事業費補助金の活用により移動移乗介護ロボットを導入、介護職員の負担軽減と利用者の満足度向上を図ることができた。また、見守り介護ロボットについても導入を進め、次年度より本稼働を目指した。EPA（経済連携協定）による介護福祉士候補生の育成では、2 月より 2 名をインドネシアから受入れた。人材育成、労働環境の改善の取り組み等を評価され静岡県働きやすい介護事業所の認証を取得した。

5. 地域社会に期待される施設づくり

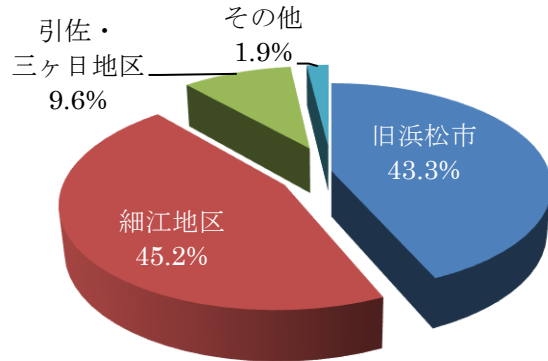
コロナ禍で、集会等が開催できないため、地域に向けた新たな取り組みとして、年 2 回のペースで情報誌を発行し地元自治会の全戸に配布した。無料低額利用事業として生活困難者への経済的支援により生活自立に繋いだ。2021 年度の無料低額介護老人保健施設利用事業の減免率は 12.2%であった。

【数値実績】

入所者 地区別利用状況



通所者 地区別利用状況



入所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (41.2)	女 (58.8)
65 歳未満	1.3	2.0
65 歳～	3.3	1.7
70 歳～	3.3	1.3
75 歳～	5.3	3.3
80 歳～	6.0	9.3
85 歳～	10.3	15.0
90 歳～	9.0	14.6
95 歳～	2.7	11.6

通所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (46.2)	女 (53.8)
65 歳未満	1.9	2.9
65 歳～	3.8	1.0
70 歳～	9.6	4.8
75 歳～	5.8	5.8
80 歳～	6.7	8.7
85 歳～	6.7	9.6
90 歳～	7.7	12.5
95 歳～	3.8	8.7

入所(短期含)利用状況 (定員 150 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	114.9	107.1	112.2	121.7	121.6	127.2	119.5	120.6	127.0	129.2	126.1	125.8	121.1
延人数(人)	3,214	3,098	3,133	3,558	3,576	3,666	3,488	3,343	3,761	3,859	3,380	3,714	41,790
稼働率(%)	76.6	71.3	74.8	81.1	81.1	84.8	79.7	80.4	84.7	86.1	84.1	83.9	80.7
平均要介護度	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.3

通所リハビリテーション利用状況 (定員 50 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	26.6	26.4	26.0	25.2	25.3	26.2	26.5	26.3	26.4	27.0	27.1	26.5	26.3
延人数(人)	692	686	677	680	658	680	688	684	634	649	651	636	8,015
稼働率(%)	53.2	52.8	52.0	50.4	50.6	52.4	53.0	52.6	52.8	54.0	54.2	53.0	52.6
平均要介護度	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4

訪問リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延人数(人)	4	12	9	9	6	4	9	8	6	8	8	8	91
平均要介護度	1.0	1.5	1.9	2.1	2.3	3.0	2.6	2.5	2.7	2.5	2.5	2.5	2.2

総合病院 聖隷浜松病院

引き続きコロナ禍、夏期第5波では重症患者が増大、冬期第6波では感染者や濃厚接触者となる職員が増加、業務に支障を来し予定入院を制限するなど、感染症対応と病院運営の両立を求められる1年となった。2021年度は医師の増員によるマンパワーを活かし、限りあるスペースの中で効率的な運営をするために、内視鏡室やカテーテル室など各ユニットにおける稼動状況を見える化し、運用改善に取り組んだ。また、近隣の医療機関において患者受入れが難しい状況下では、地域の医療体制を維持するために外来・入院・救急を断らないことに努めた。

2022年度は、DXの推進、業務プロセスを見直し再構築することで職員の負担軽減を図るなど、新たな課題に取り組んでいく。そして今後も高度急性期病院として利用者ニーズに応え、地域に貢献していく。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します ■環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

（ア）選ばれ続ける病院

- ①患者満足度調査結果（3回）この病院に満足している 90%以上 （実績：85.3%）
- ②新入院患者数 1,790人/月以上 （実績：1,791人/月）
- ③外来患者数（医科歯科計） 1,600人/月以上 （実績：1,666人/月）

（イ）丁寧な説明と対応

- ①麻酔外来予約件数 150件/月以上 （実績：259件/月）

（ウ）ディーセントワークの推進

- ①職員満足度調査結果（3回）お互い協力し業務を遂行する 80%以上 （実績：75.8%）
- ②職員人間ドック受診率（35歳以上） 40%以上 （実績：42.3%）
- ③有給休暇5日取得率 100% （実績：94.9%）
- ④超勤管理 医師：80時間/月超え7名以下 医師以外：45時間/月超え0名
（実績：医師80時間/月超え：10.6名 医師以外45時間/月超え0.6名）
- ⑤暴力発生報告書提出件 5件/月以上 （実績：6.1件/月）

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

（ア）断らない医療の徹底

①救急車制限時間（重症患者制限） 4-12月 30時間/月以下・1-3月 60時間/月以下
（実績：4-12月 77.9時間/月 1-3月 109.8時間/月）

②紹介患者断り率 3%以下 （実績：7.7%）

（イ）効率的な病床活用

①DPCⅡ期退院患者比率 55%以上 （実績：53.5%）

②病棟別稼働率の差異（7：1）20%以下 （実績：17.9%）

（ウ）地域連携の充実

①転院患者のDPCⅡ期以内比 33%以上 （実績：30.1%）

②紹介初診患者数 総数 2,050人/月・うち中東遠 235人/月・うち湖西東三河 100人/月
（実績：総数 1,948人/月・うち中東遠 201人/月・うち湖西東三河 66人/月）

（エ）ICTの活用

①ID-Linkの新規登録者数 250人/月 （実績：275件/月）

②ID-Linkの閲覧者数 100人/月 （実績：31件/月）

③オンライン 面会 20回/月・退院カンファレンス 8回/月・オンライン院内会議 10回/月
（実績：面会 60回/月・退院カンファレンス 4.4回/月・オンライン院内会議 47回/月）

（オ）外来機能の有効活用

①上部内視鏡検査件数 360件/月以上 （実績：327件/月）

②外来化学療法件数 570件/月以上 （実績：673件/月）

（カ）手術室・カテーテル室の効率利用

①手術件数 11,500件/年以上 （実績：11,875件/年）

②9:00～17:00のカテーテル室稼働率 60%以上 （実績：54.3%）

（キ）がん診療の推進

①サイバーナイフ件数 12件/月以上 （実績：17.8件/月）

②新規がん患者数 133件/月以上 （実績：144件/月）

3. 医療の質と安全の保証

（ア）災害・感染・環境対策

①ANPIC 返信率 2時間以内 60%・24時間以内 80%以上
（実績：2時間以内 56.8% 24時間以内 82.7%）

②手指衛生実施率 医師 45% 看護 76% 医技・事務 60%以上
（実績：医師 45.0% 看護 84.0% 医技・事務 80.6%）

③CO2排出削減（電気使用量）前年同月比 1%削減 （実績：2.0%）

（イ）安全な職場風土の醸成

①医師のIAレポート数 50件/月以上 （実績：47件/月）

②患者誤認発生率 事象レベル2以上 0.03%以下 （実績：0.02%）

- ③麻薬・ハイアライト薬品関連 IA 発生率事象レベル 2 以上 0.10%以下（実績：0.10%）
 ④転倒・転落による負傷発生率 事象レベル 2 以上 0.99%以下（実績：0.77%）

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

4. 明日を担う人材育成と活用

（ア）共に育つ職場づくり

①目標参画面談実施率 診療部長 100% 看護 95% 医技・事務 90%以上

（実績：医師 100% 看護 97% 事務・医療技術 96%）

（イ）必要とされる医療の資格取得支援

①新規資格取得者数 80 件/年以上

（実績：115 件）

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

5. 目指す医療ができる安定した財務

（ア）年度予算の達成

①収益（サービス活動収益） 34,002 百万円以上

（実績：35,450 百万円）

②費用（サービス活動費用） 32,991 百万円以下

（実績：33,176 百万円）

③利益（経常増減差額） 1,115 百万円以上

（実績：2,301 百万円）

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
入 院 患 者 数	684 名	689 名	100.7%	104.4%
入 院 単 価	91,500 円	90,951 円	99.4%	100.2%
外 来 患 者 数	1,560 名	1,666 名	106.8%	109.1%
外 来 単 価	21,600 円	22,396 円	103.7%	103.2%
病 床 稼働率	91.4%	91.9%	100.5%	104.3%
職 員 数	2,158 名	2,133 名	98.8%	101.0%

（注：入院単価、外来単価は歯科を除く）

【地域における公益的な取組】

2021 年度も 9 月こどもの医療・1 月おなかの医療・3 月むねの医療をテーマに「オンライン市民公開講座」を開催した。計 1,500 名を超える参加者に対し、当院の専門医を中心に解説を行なった。患者に対する支援活動では、治療と仕事の両立支援として、がんを含む長期療養者に対してハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を定期開催した。また、がん罹患した就労継続に困難をかかえる療養者や事業主に対しては、浜松商工会議所と連携し、当院の「がん相談支援センター」を相談窓口とした取り組みを継続した。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2021 年度は社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々 5 名に利用していただいた。

聖隷淡路病院

2021年度は“克服”を病院運営のキーワードとして掲げ、コロナ禍であっても“努力して困難にうちかつこと”を念頭に置いて経営課題に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症に対する対応は2020年度に兵庫県の「発熱等診療・検査医療機関」の指定を受け、さらに2021年4月より、陽性の入院患者を受け入れる「協力医療機関」の指定を受けた。以降、主に淡路島在住の軽症から中等症までの入院医療が必要となった患者を積極的に受け入れた。2022年1月にはオミクロン株の流行に伴い院内から5人以上の陽性者が発生し、保健所からクラスター指定を受けたが、職員が一丸となって冷静に対応し、短期間でクラスター状態を克服した。

財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価」は2005年に初回認定を受け、未更新のまま認定期間が終了していた。2021年度は再認定を受けることを病院目標として掲げ、プロジェクト組織を中心に病院全体で準備に取り組んだ。2022年2月に2日間に渡る訪問審査を受け、3月末の同機構からの中間の評価報告において認定基準を満たす結果であった。

常勤医師の年度途中の退職による影響もあり、2021年度の経営実績は2020年度実績を僅かに上回ったものの、当初の予算目標に到達することができなかった。非常勤医師の採用により外来診療の枠を維持し、2022年度に向けた常勤医師の採用活動を積極的に行った。

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する

地域包括ケア病床47床を有する3階病棟は、4階病棟の急性期治療を終えた転棟患者や地域の急性期病院からの転院患者を受け入れ、在宅への復帰支援に力を入れた。地域包括ケア病床では診療報酬の算定要件を超える患者の在院日数管理が課題であったが、看護部を中心に患者個々の状態に応じた病床管理を徹底することで、日数超過の患者実績はゼロとなった。5階病棟はコロナ陽性患者の受け入れを行いながら、長期療養患者の受け皿や、緩和ケアを行う病棟としての機能を果たすことができた。県立淡路医療センターからの転院受入は2020年度実績を上回り、地域完結型医療の推進に貢献した。保健事業は効率的な健診運営を目指して業務改善を行い、予算を上回る実績となった。2022年度に向けてさらなる保健事業の拡大を目指していく。

2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する

組織体制や委員会・会議のあり方を見直し、組織運営のガバナンスを強化した。医療安全・感染予防・医療倫理などの病院が積極的に取り組むべき課題に対して「病院機能評価」の審査基準に合わせて質的な改善に取り組んだ。

初期臨床研修における地域医療研修の受け入れを継続し、月交代で2～3名の2年目研修医の研修を行った。さらに明石の民間病院の総合診療専門研修プログラムの連携施設として後期研修医（専攻医）1名の受け入れを行い、内科診療を中心とした専門研修を行った。2022年度は神戸の民間病院と同様なプログラム連携を行い、計3名の後期研修医の受け入れを行う予定である。

3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

2020 年度から開始した「産後ケア事業」は淡路市・洲本市との契約に基づき、延べ 23 件の利用があった。過去の分娩施設としての実績や常勤助産師のマンパワーを活かして、今後も地域の子育て支援を推進していきたい。

淡路市内の聖隷福祉事業団が運営する施設と施設長間の交流だけでなく、看護師・リハビリテーション職・管理栄養士・相談員といった施設に共通して配属される専門職種との密な連携が進んだ。人材の欠員補充だけでなく人材育成を前提とした人事交流を計画することができ、聖隷の各事業が提供する質の高いサービスを淡路島内の地域住民に対して提供し続けることを共に目指していく。

4. 経営基盤の確立

医業事業収益は予算未達であり、特に患者数は入院・外来ともに予算との差異が大きかった。一方、診療単価は新型コロナウイルス感染症の診断目的の検査件数が増えたことにより、入院・外来ともに予算を超える結果となった。

新型コロナウイルス感染症の診療実績に対する国・県の補助金収入があり、経常増減差額では対前年のマイナス実績からは大きく改善されたものの、医療収益額の未達の影響が大きく、2021 年度は予算未達で年度を終えた。

5. 地域における公益的な取り組み

無料または低額診療事業を行う施設として、行政や医療機関・施設の相談員など関係機関への周知を行い、「生計困難者」だけでなく「生活困窮者」が必要な医療を安心して受けられるよう医療費の減免を行った。2021 年度は国が定める減免基準 10%以上に対して実績は 15.1%であった。

【数値指標】

〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	133 名	124 名	93.2%	107.0%
外 来 単 価	10,000 円	11,250 円	112.5%	115.0%
入 院 患 者 数	132 名	120 名	90.9%	101.7%
入 院 単 価	31,200 円	31,730 円	101.7%	104.3%
病 床 稼働率	86.8%	81.6%	94.0%	105.2%
職 員 数	195 名	192 名	98.5%	100.5%

〈健診〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
健診受診数	16.0 名	16.7 名	110.0%	105.4%
健診単価	11,194 円	11,674 円	104.3%	112.4%

聖隷横浜病院

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症への対応も 2 年目となり、神奈川モデルにおける重点医療機関協力病院・発熱診療等医療機関としての役割を果たすことができた。ワクチン接種の取り組みを開始し、市民接種や職域接種の枠組みを用いて、基礎疾患を有する利用者、取引業者、救急隊員、関東地区聖隷施設の職員家族などへの接種を継続して行い、2021 年度中に 17,769 回のワクチン接種を実施した。地域貢献の一環として、企業の職域接種実施に対する運営管理コンサルタント業務を行った。

診療体制の整備においては、10 月に脳卒中ケアユニット（SCU）を 6 床から 9 床に増床し脳疾患の受け入れ強化を図り、他の医療機関が応需できない救急車も積極的に受け入れた。2020 年度に開設および増床を行った回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟も高稼働を維持することができた。

各診療科の特徴に応じた指標と行動計画を策定し、診療部を含めた多部門協働での取り組みを推進した。また、地域連携の強化を目的に、紹介状の即日返信の向上、オンライン形式による市民公開講座の定期開催など、利用者に当院を知ってもらうための活動を積極的に行った。

これらの取り組みが当院の認知度や信頼感を高め、新たな来院患者の獲得に繋がった結果、入院患者数や外来患者数が増加した。全職員の努力と取り組みに感謝したい。

1. 安全で良質な医療の提供

（ア）医療安全管理体制および感染管理体制の充実

新型コロナウイルス感染症への対策として、全ての入館者に理解と協力を得ながら延べ 281,190 名の利用者に体調確認を実施した。従来の感染対策委員会に加えて ICD（感染制御医師）および感染管理認定看護師を中心に新型コロナウイルス感染症対策会議を毎週開催し、情報共有や必要施策の検討を行った。

（イ）救急診療体制の強化と充実

救急科入院患者の各科振り分け運用を開始し、救急科が受け入れ業務に専念できる環境を整備した。救急フォーラムの実施や救急隊への訪問活動などを継続的に実施し、コロナ禍においても応需率向上に向けて病院全体で取り組むことにより、4,544 件（目標:3,600 件）の救急搬送を受け入れた。

（ウ）診療科体制およびドック・健診事業の整備

脳卒中ケアユニット（SCU）の増床（6 床→9 床）を行った。整形外科、心臓血管センター外科、放射線診断科の常勤医を新たに招聘し、専門外来の設置、画像診断管理加算 2 を取得した。ドック・健診事業では、これまで行っていた日曜乳がん検診に加え、婦人科検診も同時開催した。安心して受診できる病院併設型ドック・健診施設として新規利用者が増加し、過去最高の売り上げ実績を残すことができた。

2. 地域包括ケアシステムの構築と推進

（ア）地域完結型医療の実践

2020 年度に新規開設した回復期リハビリテーション病棟の効果的な利用を推進し、新規開設後 10 ヶ月で入院料 1 の算定を開始することができた。緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟においても高稼働を維持することができた。

(イ) 外来機能の充実

アレルギー内科の常勤医を招聘、小児科との連携により質の高い専門的な診療体制を構築した。

(ウ) 地域連携の強化

紹介状に対する即日返信率のさらなる向上に取り組んだ。診療科医師と協働で戦略的にクリニック訪問を行い、顔の見える連携を強化した結果、診療所からの紹介件数が月平均 791 件（目標：800 件）となった。SNS（YouTube）を利用したオンライン市民公開講座を開始した。（年間 6 回）

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

診療部と協働で各科の特徴に応じた指標と行動計画を策定し、取り組みを推進した。人件費率単月 58%を目指し、収入確保、費用削減に取り組んだ結果、予算を大幅に上回ることができた。

また、緊急時における安否確認および連絡体制として ANPIC を導入し、大規模災害だけではなく自然災害での公共交通機関不通時の確認ツールとしての活用も同時開始した。

4. 多様な人材確保と育成

両立支援制度（育休・介護休等利用 46 名、短時間勤務・ワークシェア等利用 39 名）、障がい者新規雇用 2 名。

5. 最適な環境づくりの推進

働き方改革関連法への対応として部門横断の働き方改革プロジェクトを立ち上げ、労働環境整備の一環として医師等との面談の時間内実施を開始した。

設備整備では利用者エリアの一部と会議室エリアに Wi-Fi 環境を整備した。併せて老朽化した病棟の外壁塗装を継続的に実施し、壁面クラックならびにサッシからの雨漏り対策を行ったが、未実施の箇所が残されているため引き続き整備を実施していく。

<地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準 10%に対して 10.8%の実績であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	525 名	557 名	106.1 %	111.6 %
外来単価	15,800 円	17,351 円	109.8 %	105.3 %
入院患者数	280 名	305 名	108.9 %	126.6 %
入院単価	56,000 円	55,507 円	99.1 %	96.0 %
病床稼働率	76.3 %	83.1 %	108.9 %	126.6 %
職員数	677 名	700 名	103.4 %	102.8 %

聖隷佐倉市民病院

2021 年度は、新体制のもとコロナ診療、一般診療に全力で取り組んだ年であった。コロナ診療においては、発熱外来（濃厚接触者外来）、コロナ患者の入院診療、ワクチン接種に取り組んだ。発熱外来（濃厚接触者外来）は受診者数 2,169 名、うち陽性者数 477 名であった。コロナ患者の入院診療は、2020 年 4 月から 150 名（2021 年度実績 54 名）の受入を行ってきたが、2021 年 11 月に千葉県からの意向を受け、コロナ病棟を閉鎖した。ワクチン接種は、佐倉市から 20,000 回接種の要請を受け、2021 年 3 月から接種開始。計 32,310 回の接種に対応した。一般診療においては、救急車の積極的な受入、地域連携の強化に取り組んだ。結果、3 ヶ年経営改善計画初年度である 2021 年度は、予算を大きく上回ることができた。今後も職員の高い使命感と職員間の繋がりを大切にし、地域医療に貢献できるよう取り組んでいく。

1. 利用者ニーズを把握して、地域から選ばれる病院づくり

利用者ニーズへの対応として、4 月より眼科常勤医を招聘し診療体制の充実を図った。また、救急患者受入体制を強化し、年間 2,417 台の救急車受入を行った。その他、コロナワクチン接種や発熱時の受診方法のご案内など利用者が必要とする情報発信を積極的に行った。

利用者満足度向上に向けた取り組みとして、外来看護師とコンシェルジュが協働し、初診患者や高齢患者の受診支援を行った。また、患者支援センター看護師が病棟カンファレンスに参加し、患者情報の共有とスムーズな入退院支援に取り組んだ。

2. 安心・安全で質の高いサービスの提供

利用者が安心して療養できる病院づくりとして、院内見廻り隊を発足し、利用者視点での改善活動を行った。また、コロナ対策として、就業前健康観察や、入院時や外来手術時、付添い者の抗原検査の継続など、院内での感染拡大防止に努めた。

多くの職員に医療安全の知識を深めてもらうため、集合研修に加え動画視聴による研修体制を整えた。対策の徹底と積極的な情報発信ができるよう、専従の医療安全管理者を配置した。

3. 多職種協働と地域連携による病院機能の強化と広報

正面玄関や透析センター入り口での検温や、ワクチン接種、発熱外来、コロナ入院患者診療など全職員が連携してコロナ対策に取り組んだ。また、消化器内科と外科との合同カンファレンスの実施、整形術前合併症予防のための心疾患コンサルテーション体制の構築、長期連休時のリハビリテーション室や薬剤師による病棟患者対応など、多職種協働による支援体制を構築した。

近隣医療機関との連携強化、良好な関係構築に向け、紹介患者の 1 週間以内の返書を徹底した。また、コロナ患者の対応やワクチン接種など、佐倉市と連携し、地域のコロナ対策に貢献することができた。千葉県慢性腎臓病（CKD）重症化予防対策の取り組みである CKD シールの普及や協力医との連携強化を行い、腎機能の低下予防や人工透析の導入予防に取り組んだ。

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境づくり

働き方改革の推進として、始業時間前勤務の是正に取り組んだ。職員の成長を支援する取り組みとして、看護部の教育プログラムに e ラーニングを導入した。当院独自の取り組みとして、お礼の投書の多い職員や職場、資格取得などのスキルアップに取り組んだ職員に対する表彰を行った。また、コロナ対応として、2022 年 1 月より臨時学童保育を再開した。

5. 外部環境に耐え、持続可能な経営基盤への改革

日々の病床稼働を可視化し、管理会議や診療科責任者会、全体課長会で課題共有や対策検討を行った。救急車受入体制の強化、近隣医療機関との連携強化、看護部主導による退院調整などを行った結果、入院患者数 310 名／日と高稼働を維持することができた。健診部門においては、コロナの影響もあり、上半期は予算未達の状況が続いた。そこで未受診者向けにコロナ対策や健診の必要性などの情報発信を積極的に行った結果、下半期は予算達成することができた。また、委託や保守、水光熱契約の見直しや投資計画の再考を行い、費用削減に取り組んだ。

6. 地域における公益的な取り組み

(ア) 無料又は低額診療事業（減免実施率 21.5%）

(イ) コロナの影響により市民公開講座は開催できなかったが、地域情報誌を活用した病気予防、健康寿命延伸につながるための情報発信を行った。

【数値指標】

〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
外来患者数	833 名	829 名	99.5%	105.0%	入院患者数	300 名	310 名	103.4%	120.1%
外来単価	14,370 円	14,995 円	104.3%	103.3%	入院単価	53,840 円	54,548 円	101.3%	99.5%
職員数	808 名	779 名	96.4%	95.0%	病床稼働率	79.6%	82.2%	103.4%	114.1%

〈健診センター〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
受診者数	184 名	194 名	105.4%	108.1%	単 価	18,290 円	16,245 円	88.8%	101.7%

〈せいのけい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	340 件	313 件	92.0%	97.7%	利用回数	120 件	104 件	86.7%	116.0%
単 価	8,200 円	8,240 円	100.5%	101.4%	単 価	10,500 円	11,199 円	106.7%	104.3%

〈せいのけいケアプランセンター佐倉〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	33 件	35 件	104.5%	123.0%	単 価	10,820 円	10,647 円	98.4%	99.4%

せいのけい訪問看護ステーション佐倉/せいのけいケアプランセンター佐倉

2021 年度は、利用者のコロナ感染が増える中、感染対策の徹底・整備を行い感染拡大防止に努めることができた。また、ケアプランセンターでは、人員の補充・事業の拡大が図られた。今後も地域医療・支援に貢献できるよう取り組んでいく。

浜松市リハビリテーション病院

2021 年度は浜松市指定管理者受託後 14 年が経過し、5 年契約の 3 年目を終えた。長期にわたる新型コロナウイルス感染症への対応として外来、通所リハビリテーションの一部制限や訓練室の区分けを実施。対応するリハビリテーションスタッフも個人防護具を着用し治療にあたるなど感染対策を徹底的に継続した。新型コロナ患者受入医療機関より、速やかにリハビリテーションが必要な患者を引き受けるため、ポストコロナ入院判定チームを発足し 28 名の患者を受入れた。

年度途中で急に医師が退職し、手術件数の減少に伴う病棟運営の大幅な変更が必要となった。9 月より一般病棟を回復期リハビリテーション病棟に変更し、一般病棟 1 病棟（45 床）、回復期リハビリテーション病棟 4 病棟（180 床）の人員配置、運用変更を行った。2022 年 5 月の回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の取得に向け準備を進めている。

浜松ウェルネスプロジェクトとして、自動運転車椅子「WHILL」の医療機関における自動運転車椅子導入の課題検証に参画した。また、保健事業部と連携し実施した「はままつ健幸歩き」事業では、効率よく足の力を鍛えることが出来る「はままつ健幸歩き」を考案。理学療法士と健康運動指導士が協働し 10 月と 11 月に講演会を開催。健康寿命の延伸に向け普及啓発の一躍を担った。

2016 年に受審した日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新を迎え、受審に合わせ各部門で運用や業務の見直しと改善をすすめた。結果、S 評価 3 項目以外すべて A 評価での認定を受け、当院の運営について高く評価された。2018 年度「えんげセンター」、2019 年度「スポーツ医学センター」、2020 年度「高次脳機能センター」に引き続き、2021 年度浜松市医療奨励賞に、「市民いきいきトレーナー養成事業」の取り組みが選出され、これまでの育成実績とトレーナーの活躍が高く評価された。

1. 安全で質の高い医療の提供

リハビリテーション部門システムを活用し、医師業務支援として医師のスケジュールを可視化した。カンファレンスや面談、外来診療や委員会会議等、スケジュール調整を一元的に把握できる体制をつくり、時間管理の効果検証を開始した。コロナ禍で入館が制限されている状況に対応し、WEB を活用した面談や面会ができる環境を提供した。

医師のインシデント報告件数が 31 件（2020 年度比：221%）と大幅に増加し、医療安全意識の向上と再発防止の情報共有が図られた。感染対策として、個人防護具の着用機会が増加しスタッフの負担は増加したが、その分着脱時の手順獲得につながった（着脱手順正答率：99.2%）。結果として単発的な新型コロナ感染は見られたが、他の多くのリハビリテーション病院で見られたクラスター化は防止できている。

2. 地域に求められるサービスの充実

2020 年度は実施出来なかった小中学校の運動器健診を実施。健診結果を伝えると共に、障害予防支援のための運動指導を開始した。高次脳機能センター新規受診者は 119 名と増加し、自動車運転評価等ニーズに対応したサービス提供を実施した。脊髄損傷治療では重症の患者が多かったが（頸髄損傷：14 件）、チーム医療が十分に機能を発揮し 7 割の患者を在宅復帰につなげた。

静岡県リハビリテーション病院会を当院主催で開催し、急性期病院や地域との連携のあり方など、回復期病棟を運営している施設同士で情報共有を図った。

3. 人材の育成と労働環境の整備

リハビリテーション科専門医プログラムを経て、新たに3名の医師がリハビリテーション専門医として誕生した。また特定看護師は3名体制となり、効果的で安全な医療を提供出来る体制が強化できた。学会発表など学術活動は85件と積極的に取り組まれた(2020年度比:130%)。特に看護部、リハビリテーション部では「実践報告会」をそれぞれに開催し、業務の振り返りや、課題解決の検証など質改善の取り組みに力を入れた。障害者雇用率は2.55%であったが、障害者ボランティアからの就労支援の拡大がコロナ禍で十分に進まなかった。利用者満足度および職員満足度調査において全体的に2020年度を下回る結果となった。コロナ禍で様々な制約のある状況ではあったが接遇、コミュニケーション、職員の意欲への関わりを2022年度への課題とした。

4. 安定した経営基盤の確立

整形外科医退職に伴う運用変更として、回復期を3病棟から4病棟体制とした。急性期病院からの紹介患者をより積極的に受け、病床利用率は95.1%と2020年度(94.7%)を上回った。介護保険事業の利用回数も2020年度と比較し、通所リハビリテーションで153.5%、訪問リハビリテーションで112.6%と増加した。スケジュール調整やカンファレンスの運用見直しなど業務効率の改善に取り組んだが、療法士一人あたりの稼働率向上につながらなかった(2020年度比:99.7%)

5. 地域における公益的な取り組み

2011年より実施している「市民いきいきトレーナー養成事業」は開始から10年が経過し、経験を十分に積んだ「マスタートレーナー」を6名認定し、市民が市民を育てる仕組みを強化した。

介助・介護法などリハビリテーションに有益な情報を動画撮影し編集。入院患者、家族がいつでも視聴できるよう50項目の情報提供体制を整備した。

熱海市土砂災害発生時には、静岡 JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)の一員として、当院の医師、療法士が避難者の生活不活発病の予防や生活環境調整の支援活動に参加した。

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	170.6 名	149.7 名	87.7%	90.6%
外 来 単 価	8,010 円	9,007 円	112.4%	118.0%
入 院 患 者 数	213.5 名	214.2 名	100.3%	100.5%
入 院 単 価	39,443 円	39,433 円	100.0%	100.8%
病 床 稼 働 率	94.9%	95.2%	100.3%	100.5%
職 員 数	438.4 名	433.5 名	98.9%	101.7%

〈介護保険事業〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
通所リハビリ利用回数	508 件	587 件	115.6%	153.5%
単 価	4,300 円	4,574 円	106.4%	102.0%
訪問リハビリ利用回数	293 件	260 件	88.7%	112.6%
単 価	8,895 円	8,342 円	93.8%	94.3%

聖隷袋井市民病院

開院後9年目となった2021年度、各病院が医療提供体制を調整し、新型コロナウイルス感染症に対応してきた。当院においては、ポストコロナ患者の受け入れや発熱外来の実施、陽性者の経過観察、ワクチン接種の積極的実施、ホテル療養への看護師派遣等、着実に役割を果たす、そんな一年であった。

運用面においては、感染対策として職員の健康管理や患者家族の面会制限、会議の時間短縮やイベントの中止などを継続した。当院の役割である『地域包括ケアの推進』では、市民が安心して住み慣れた場所で生活を継続していけるよう在宅支援室の活動を継続し、新たな取り組みを開始したため後述する。経営面では、紹介患者獲得のため診療所や急性期病院に対してより具体的にアピールし、専門外来や回復期リハビリテーション病棟の患者の増加を図った。

切れ目のない医療と介護の連携体制を充実させることを継続しつつ、市民へのコロナワクチン接種を担う中で、袋井市との連携はさらに強固になったと実感できる。2022年度もコロナ禍での活動となるが、市民に必要とされ続けるための充実を図っていく。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療サービスの提供

継続的に質改善できる組織を目指して、職場や委員会で取り組みや実績の可視化を図った。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）や認知症ケアについては、研修への参加により知識を深めた。2022年度は、係長以上が参画し策定した事業計画を実践することで、より現場目線の改善が可能になり、進捗や成果を発表しあい互いを高められる職場へと進化していく。

医療安全管理では、転倒予防に焦点を当てた検証プロジェクトの継続、コードブルーの見直し、コードホワイトの体制構築等を行った。感染管理では、職員の健康管理や患者家族の面会制限、会議の時間短縮やイベントの中止などに加え、コロナ禍における行動や考え方に関する職員啓発を継続した。

リハビリテーション医療については、痙縮緩和のためのボツリヌス療法を開始したり、入院中に装具を作製した患者に対するフォローを実施したりと、退院後の外来診療の充実を図った。早期に安全な歩行訓練の開始ができるよう、また運転再開のための訓練ができるようロボット等機器を導入し活用を開始した。2020年度から中東遠圏域における高次脳機能障害の協力医療機関となったため、支援拠点機関との会議や保健所で開催される総合相談会にも参画した。

2. 地域包括ケアシステムの推進

在宅支援室の活動を主体として退院後の支援の在り方について検討した。訪問診療の検討、訪問リハビリテーションの拡充、看護師による退院後フォローアップなどに取り組みつつ、職員へ一般的な在宅医療に関する情報共有を行った。また、訪問看護ステーション看護師がカンファレンスに参加することにより退院支援の学習機会に繋がり、当院を知ってもらう良い機会にもなった。2020年度下半期から開始した嚥下入院（評価・リハビリテーション）は5件に増え、地域の『食べる』支援にも繋がっている。2022年度には、訪問診療の開始を予定している。地域の在宅診療医からの相談を受けリハビリテーション科としての専門的な訪問診療を展開する。

3. 人材の確保・育成および働きやすい職場環境づくり

採用困難職種である看護補助者の採用強化のため、高校や専門学校への訪問を拡大、指定校推薦枠の導入などにも取り組み、2名の新卒採用に繋がった。医師の退職申し出により採用活動を強化することとなったが常勤医師の獲得は困難であった。整形外科入院診療を継続することが地域に求められる役割の一つと認識しているため、常勤医が不在であっても患者を受け入れる体制の検討を重ね、聖隷浜松病院と協力した診療体制を構築して開始することができた。

『気管カニューレの交換』に係る特定行為研修の実習施設となり、2名を受け入れた。今後、職員の専門性向上への啓発となることも期待している。

4. 経営基盤の安定化

入院患者数は予算を下回ったが、急性期病床確保のための転院早期受け入れやポストコロナ患者の受け入れ等にまい進した。また、発熱外来やコロナ陽性者の経過観察、ワクチン接種等を地域から期待される役割として捉えて応えた結果、外来収益や保健予防活動収益が増加し、サービス活動収益は最終的に大きく予算達成した。

介護保険事業である訪問リハビリテーションは担当を0.5名増員かつ週一回言語聴覚士の参画を継続し、月平均675回（2019年平均469回）と拡大した。市の介護予防活動である介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービスC）にも参入した。

BCP（事業継続計画）を策定して2年目となった。課題としていた設備や備蓄は可能な限り改善し、緊急呼集体制も見直した。職員教育を考える訓練へと変更し実施したことで、有事の際の対応に成長を感じている。

5. 地域における公益的な取り組み

地域住民へのワクチン接種だけでなく、中東遠地区ホテル療養への看護師派遣も行った。

講演会の開催はかなわなかったが、市の政策でもある認知症初期集中支援チーム活動、袋井市総合事業へのリハビリ専門職の派遣を継続している。住民がん検診に当院を利用してもらうことで、バリアフリーで密を避けた環境の提供、受診者数の増加、機器の有効活用にも取り組んだ。

【数値実績】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	60 名	53 名	88.3%	94.6%
外 来 単 価	6,703 円	7,961 円	118.7%	119.1%
入 院 患 者 数	131 名	125 名	95.4%	99.2%
入 院 単 価	27,684 円	28,150 円	101.6%	101.5%
病 床 稼働率	87.3%	83.2%	95.3%	99%
職 員 数	190 名	186 名	97.8%	102.1%

〈訪問リハビリテーション〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数（月平均）	578 件	687 件	118.8%	146.4%
単価	3,259 円	3,393 円	104.1%	98.1%

保健事業部

2021 年度の保健事業部は、2020 年度に続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業継続という難しい舵取りを行う 1 年となった。職員が感染源とならないための事業部独自の行動規範厳守と体調管理の徹底により、利用者が安心して受診できる環境を整備した。2022 年 1 月、オミクロン株のこれまでにない感染拡大となった、いわゆる第 6 波までは、職員からひとりも陽性者を出さなかったことは、事業継続への大きな推進力となった。

感染症対策に万全の体制を敷いたものの、2021 年度を通じて、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、施設内利用者の減少、職域健診の中止や延期、市町村の住民健診・がん検診を控える動きは止まらず、経営的には非常に厳しい状況が続いた。この状況下で「保健事業部ができること」として、「できるだけ短期間で、できるだけ多くの方に新型コロナウイルスワクチン接種を行うこと」ができないか、を検討・取り組みを行った。新型コロナウイルスワクチン接種については、市町村の集団ワクチン接種、職域ワクチン接種への支援、施設内個別ワクチン接種等、様々な対象・手法により、合計 149,889 回の接種を行うことができた。これにより、地域における集団免疫の獲得だけでなく、地域経済活動を早く正常に戻すことに大きく貢献できた。事業部を挙げてのこの取り組みは、経営的なピンチをチャンスに変えることもできた。

未発症の乳がん・卵巣がんに関する遺伝学的保因リスクが高い方を対象に、遺伝カウンセリングや遺伝学的検査、個別化がん検診を提案する日本初のプログラム「SEIREI-CARE プログラム」が 2021 年 4 月からスタートした。対象利用者 10,449 名に対し、プログラムへの参加は約 10%、さらにそこから遺伝カウンセリングにつながった方は約 2%と、まだまだ遺伝性がんに対する啓発と教育が課題ではあるが、今後も継続して取り組む。また、健康寿命の延伸を図り、地域の住民ひとりひとりができるだけ長く、元気に暮らすことができるようフレイル予防にも取り組んだ。

2020 年 10 月に発足した「精度管理センター」は、がん検診のみならず、事業部全体の「健診の質を管理するセンター」としてスタートした。利用者が信頼・安心して受診できるよう、健康診断の「入口（契約、品質評価）から出口（精密受診、結果、請求、統計）」までの質的な管理を行うだけでなく、精密検査の受診勧奨までを施設横断的に捉え、「聖隷品質」の確立を目指す。

2021 年度、施設内、巡回健診の利用者減少による大きなマイナスを新型コロナウイルスワクチン接種によって挽回、予算達成できたことは、事業部全体が一丸となって真摯に目標達成に取り組んだ成果として、職員ひとりひとりに感謝したい。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

利用者が安心・安全に受診できる環境（感染予防策）を整えることを最優先に新型コロナウイルス感染対策を行った。全国労働衛生団体連合会、日本人間ドック学会など健診 8 団体が策定した「健康診断時における新型コロナウイルス感染症対策」ガイドラインに準じた対応を行うこと

で、受診環境を整えることができた。

また、センターごとに異なっていた判定付けについて、次期健診システム構築の中で判定基準の標準化を行った。

2. 経営基盤強化の取り組み

収益増加・費用削減においては、職場ごとの増収・費用削減策を設定し、目標では45,820千円の増収・費用削減策に取り組んだ。健診システム更新時期と重なり、超勤時間の削減はできなかったが、オプション追加や新規アレルギー検査開始など増収策については成果を上げた。

3. 人材の育成・確保と働き方改革への対応

採用の一元管理と必要な専門職の採用強化においては、大学医局非常勤医師採用において不手際が発生したため、採用の一元管理を徹底していくことの必要性を改めて感じた。

2022年4月の新健診システム導入にあたり、各職場で大幅に超過勤務が増加したため、働き方改革への大きな課題が残った。2022年度は改善を行う。

4. 健康経営の実践と発信

保健事業部職員の健康診断受診率向上のため、衛生委員会を中心として健診受診勧奨、精密受診勧奨を行った。また、禁煙への研修会や紙上研修を通して健康管理を促した。

また、保健事業部が支援を行った企業が健康優良法人ホワイト500に認定されたことは大きな成果であった。2022年度も継続して認定されるよう支援を強化していく。

5. データヘルス計画に向けて

浜松ウェルネスプロジェクトの一環として、浜松市、浜松医科大学、静岡大学共同で保健事業部が蓄積する利用者データを用いた解析を行い、2022年3月実施の事業報告懇談会において、浜松医科大学より報告された。2022年度以降もデータを活用し、利用者に有益な情報を提供できるよう取り組む。

6. 連携の強化

健診事業においては、一般財団法人芙蓉協会、一般財団法人恵愛会等の関連法人及び聖隷淡路病院、聖隷佐倉健診センターなどとの連携が進んだ。また、他業種との連携も強化できた。

7. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現

新型コロナウイルスワクチン接種については、市町村の集団ワクチン接種及び事業所の職域ワクチン接種への支援、施設内個別ワクチン接種等に積極的に対応し、地域住民の感染防止と地域経済活動の両面で貢献できた。

【数値実績】

	予 算	実 績	対予算	対 2020 年度
人間ドック	65,288 名	64,025 名	98.1%	103.7%
健康診断	683,626 名	814,249 名	119.1%	128.8%
外来精密	39,236 名	40,467 名	103.1%	102.1%

聖隷健康診断センター

2021 年度も新型コロナウイルス感染症対策に苦慮した運営であった。その中で、人間ドック利用者の状況は 2020 年対比 104.2%と改善し、目標人数も達成できた。しかし、施設内の「密」状態について利用者から多数の指摘があり、受付(予約)時間遵守の運用、受付の婦人科フロアへの追加設置、女性のドック利用者の入館後直接誘導等の対策により、利用者が集中する受付前の混雑を解消した。また、婦人科フロアでは検査に先んじての問診実施、利用者ニーズに合ったオプション検査の提案、より個人に合わせた人間ドック項目の提供ができた。今後は、人間ドック利用者の全員に問診からの開始の運用とし、セミオーダー化を図る。

65 歳以上の浜松市民(人間ドック利用者)を対象に、筋力測定及び運動指導を追加する提案が「浜松市ウェルネス認証事業」に採用され、フレイル予防の分野での地域貢献ができた。新型コロナウイルスワクチン施設内接種は、2021 年 5 月から約 11,000 回実施した。新型コロナウイルス感染症の対応とともに、「受診控え」に対して、今後も地域と連携して健康診断の積極的な受診勧奨を行っていく。

1. 質の高いサービスの提供

コロナ禍の中の「密対策」に重点を置き、利用者を分散させる運用を目指した。朝の受付時間帯では、婦人科フロアを活用し性別により受付場所を分けた。また、全課協力のうえ受診枠と呼び出し時間、健診順路を調整し、午前の最終受付時間を 11 時に設定した。サービスを低下させずに、常に混雑していた早い時間帯の利用者を分散できた。併せて、聖隷予防検診センターで導入している「スピードドック(正午までに終了できるドック)」を、2022 年 6 月の開始を目指して検討・調整した。さらに業務改善を継続し、検体分析及び結果判定の時間帯を早め、全項目結果説明ができる「リアルタイムドック」の実現に向けて、継続して検討する。

未発症の乳がん・卵巣がんに関する遺伝学的保因リスクが高い方を対象に、遺伝カウンセリングや遺伝学的検査、個別化がん検診を提案するプログラム「SEIREI-CARE プログラム」を開始した。この日本で初めての試みは、遺伝子カウンセリング 34 名、遺伝子検査 3 名の実績であった。

2. 経営基盤強化のための取り組み

年々増加する胃カメラ検査の要望に応えるため、受診枠を増設、10,753 名(対 2020 年度比 110%)の利用を得た。今後も効率化に努め、受診枠の拡大に取り組む。

稼働率の低い午後を有効活用する「午後ドック」も 4 年目を迎え、近隣の健康保険組合や事業所との連携により、年間 162 件(対 2020 年度 147.3%)の利用があった。「胃カメラ付きの短時間コース」という認知が年々定着してきた実感がある。

3. 人材(人財)の確保と育成

医師の退職欠員を非常勤で補ったため、経済的な負担が大きくなった。健康診断の質の担保や、労災二次健診等重症化の恐れがある利用者への対応等、優先度を高め、専門科の常勤医師確保に向け、継続的に活動する。

人材の育成では、中堅職員により、「聖隷健康診断センターをより良くする新しいサービス」という観点で課題解決に挑んでもらった。所属を超えた横断的な活動が展開でき、「滞在時間の短縮」という成果として、業務改善につながった。

また、職員が自信を持って働くことのできる仕組みづくりの取り組みとして、職員による対応・接遇を相互評価する「スマイルコネクト制度」や、職員同士が感謝の手紙を送りあうイベント「Xからの手紙」を行った。職員が互いに認めあうことでモチベーションが向上した。

労働衛生コンサルタントの育成活動としては、職員向け「第一種衛生管理者講習会」を開催、9名の合格者を輩出した。

4. 連携の強化

聖隷浜松病院地域連携室の職員が当センターに待機し、人間ドック結果説明後に精密検査や病院受診についての相談を受けた。利用者からの声は大変好評である。聖隷浜松病院からは、初診患者が増加しているとの報告も受けている。今後も連携して、利用者の健康を支援していく。

聖隷健康保険組合や団体に新たな糖尿病予防プログラムを提供した。近隣地域には糖尿病予備軍の方が多い傾向にあり、利用者の重症化予防としてニーズにあった健康づくり活動を提供できた。

5. 地域における公益的な活動

8月に開催したこども向け医療体験イベント「メディカルフェスティバル」は22名の参加者を迎えた。参加者からは「医療について関心をもった」等の意見が多数寄せられた。例年、参加希望も多く、参加者の満足度も高いため、今後も開催を予定していく。婦人科健診の啓発活動としては、年3回イベントを開催し、計139名の参加があった。若年層への医療情報の提供や、健康診断未受診の方の参加もあり、継続すべき有意義なイベントである。

また浜松市ウェルネス認証事業「人間ドック後の定期的な筋力測定によるフレイル予防事業」として、浜松市在住65歳以上の人間ドック利用者に筋力測定及び運動指導を行った。初回と半年後の測定・指導を聖隷、中間期の測定を株式会社杏林堂が実施する共同事業である。参加者109名。平均年齢73.3歳。参加者の運動習慣継続86.7%。男性参加者に筋力の増加が確認できるという成果を得た。

【数値実績】

ドック	P E T健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,579名	202名	61,260名	4,258名	22,939名
特殊健診	外 来	合 計	職員数	
3,049名	17,893名	136,180名	185名	

聖隷予防検診センター

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により変化する社会ニーズを見据え、新たな事業モデルの構築に挑戦しながら地域の課題解決を目指した年度となった。

国の施策である新型コロナワクチン接種事業に積極的に取り組むとともに、季節や時間等に起因する繁閑の平坦化に向けた「ピークシフト戦略」を継続、待ち時間を軽減しながらも2018年度と比較し午後の利用数をほぼ倍増できた。また産学官連携も積極的に推進、聖隷クリストファー大学と行う「SGE♥プロジェクト（※）」では、浜松市とともに女性に向けたがん検診啓発活動を実施、コロナ禍で多くのがん検診の受診率が低下した中において唯一子宮頸がん検診は受診率が1.1%向上、市担当者より本プロジェクトの活躍がその一因であるとの評価を頂くことができた。

浜松市や地域企業との共創によるフレイルの理解促進を目的とした「栄養はなまる弁当」の取り組みは、メディアや行政等からも注目され大きな評判を呼び、浜松市が2021年度新たに創設した「浜松ウエルネスアワード 2022」において、最高賞である浜松ウエルネス大賞（市民健幸部門）を受賞することができた。また、新たに若手職員を中心としたプロジェクトによるSNSを活用したデジタル販促も開始、オンラインによる保健指導や重症化予防事業の構築など新たな生活様式にあわせた事業モデルの開発も進んでいる。

その結果、経営数値としては、受診者数 93,979 人（対予算 108.9%、対前年 113.8%）、医療事業収益 1,566,663 千円（対予算 99.4%、対前年 105.3%）となり、収益は予算に届かなかったものの、職員全員一丸となって取組んだ費用削減施策が功を奏し、経常増減差額ではプラスとなった。多忙な中でも常に笑顔で現場に立ち続け、利用者視点を忘れずに最善を尽くし奮闘した全ての職員に対し、この場を借りて心からの感謝を伝えたい。

保健事業部では4月から、利用者にこれまで以上の安心・安全なサービス提供することを目的に新健診システムを導入した。今後も「利用者に選び続けて」いただくため、サービスの本質である「人が提供する温かみや優しさ」は大切に守りながらも、システムを活用した効果的・効率的な事業展開を推進、あわせて「職員がワクワクしながら生き活きと活躍できる環境」を提供、「職員も利用者も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

※SGE♥プロジェクト S…聖隷 G…gynecology（婦人科） E…enlightenment（啓発）に
対して♥（愛）を持って活動する

1. 全ての職員が生き活きと働くことができる職場づくりの実践（健「幸」経営）

「健康がスタッフを支え、スタッフがセンターを支える」の考えのもと、センターをあげて健康経営の推進を行った。ストレスチェックのサマリレポートに基づきストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善事例について報告会を行った。健康イベントについても感染防止に努めながら計画的に開催、2021年度は前年同様「個人の尊重」・「キャリア形成教育・施策」・「上司による人材育成」の項目が強みとして評された。

2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立

午前の一般健診枠を午後に大きくシフトし、人間ドック枠拡大を目指す「ピークシフト計画」を継続、受入態勢を整えた。新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が発令された上半期を中心に高齢者や海外赴任者の受診が伸び悩んだが、下半期は職員一丸となって営業に取り組んだ結果、総受診者数は予算を達成することができた。人間ドックは予算には届かなかったものの、センターとして初めて年間2万人を超える利用者を受け入れることができた(20,050名、対2020年750名増)。

3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供

感染予防対策を万全に行いながらもワンランク上のおもてなしを目指し、質の高いサービスの提供を行った。センターの「売り」であるスピードドック稼働率は95%を超え、3密回避の一助となっている。また、婦人科については丁寧な問診とともに追加検査を提案、経膈エコー検査数が対前年で103.2%になるなど、利用者目線でのサービス提供と成果を両立できた。

4. 地域における公益的な活動

国の施策である新型コロナワクチン接種に積極的に取り組み、計7,492名に接種を実施した。

また聖隷クリストファー大学とのSGE♥プロジェクトでは、ドック健康食の共同開発の他、保健事業部の専門医から研修を受けた大学生メンバーが、約100名の男女高校生に向け、子宮頸がん検診・HPVワクチン接種の講義を実施、事後のアンケートでは95%以上の学生が「子宮頸がん検診・HPVワクチンの重要性を理解した」と回答があった。

高齢者のフレイルの認知向上を目的に、市や地域企業・団体と共同開発した「栄養はなまる弁当」の取組みは、浜松市が2021年度新たに創設した浜松ウェルネスアワード2022において、最高賞である浜松ウェルネス大賞(市民健幸部門)を受賞することができた。

このような行政や地域資源との連携による新たな取組みは、メディアや他企業からも注目されており、引き続き地域の課題解決に向けた新企画も進行中である。今後も保健事業部が保有する「知を財に変える」知財変換事業を推進し、市場変動に左右されない持続可能な成長を目指していく。

【数値実績】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科検診
20,050名	39,931名	3,664名	16,098名
特殊健診	外 来	合 計	職員数
2,099名	12,137名	93,979名	158名

聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*

2021 年度、聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* (以下サポートセンター) は、開設 11 年目を迎えた。開設当初の単独事業から、2013 年に JR 静岡駅南口に聖隷静岡健診クリニックを開設、さらには 2014 年度から静岡県中部圏内への巡回健診事業を開始と、3 つの事業として展開してきた。

サポートセンターでは「健診機関併設婦人科外来」の強みを生かして、予防医療、プレコンセプションケア（注 1）に特化した仕組みを地域に先駆けて構築し、2022 年 1 月より運用を開始した。また、新型コロナウイルスワクチン接種については、職員と近隣事業所を対象に実施した。

聖隷静岡健診クリニックでは、新型コロナワクチン職域接種会場として、事業所ニーズに応えるとともに、利用者数を増やすための待合スペースの整備も進めて行く。

巡回健診においては、新規受注した富士市の肺がん検診が、コロナ禍による受診控えの影響で予定の半分にも満たない利用者数となるなど、各市町における利用者数の大きな落ち込みに苦慮した。新型コロナウイルスワクチン接種については、静岡市中山間地区住民に対し集団接種を実施した。

全体として、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うまん延防止等重点措置の影響で、延期やキャンセルが多発、利用者数が伸び悩み、累計では予算対比でドックは△460 名（97.4%）、一般健診については△11,825 名（87.3%）と大きく未達となり、収入では累計△73,660 千円となった。

サポートセンターは、さまざまな情報をいち早く収集し、迅速に対応することで、「選ばれ続ける総合保健施設」として、「静岡地区で最高の質の保健・医療サービス」を提供するため、「職員一人ひとりが自ら気づき、考え、行動する自立した組織」をさらに目指していく。

（注 1：「妊娠する前からのケア」という概念。妊娠前の生殖年齢の女性に医学的・行動的・社会的な保健介入を行なうこと。病気の予防と健康管理を通じて女性の健康状態を改善していくことを目的とする。）

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 質の向上と情報発信力の強化

質を維持するための設備投資として計画的な医療機器設備更新を行った。利用者からの投書に対しては週 1 回開催する職場長会で共有し、迅速な対応が必要な場合にはその場で決定、全体で考える案件は業務改善委員会にて検討した。

顧客満足度調査の実施を CS 委員会が中心となり、弱みを明確化し対策を検討した。

各団体依頼の講演会・取材への積極的な協力体制構築への取り組みでは、所長の鈴木美香医師のメディア取材対応を合計 6 回行った。

2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

巡回健診として富士市肺がん検診を新規受託し、先方所定の問診票にも対応できる運用を構築し、実績を上げた。

2022年1月より、静岡初となる本格的な「プレコンセプションケア健診」を開始した。

3. 人材育成・確保

2020年度に引き続き、各課で小チームを作り、経費削減について検討・実行する「ライズアップ計画」に取り組み、組織への貢献に加え、やりがいや達成感を感じられた。

4. 健康経営の実現

ストレスチェックの結果を基に職場環境改善の実施を推進した。すべての職場が管理会議にてストレスチェック結果の振り返りと、職場環境改善案の発表および改善結果についての報告会を行った。

5. 連携の可視化

巡回健診では、浜松の地域・企業健診センターや聖隷富士病院と、双方の窓口を決め、人員応援を強化することにより、無駄のない人員配置を実現した。

静岡済生会病院への読影依頼を積極的に行い、2022年度から増加する巡回健診にも対応する体制を構築した。

6. 地域における公益的な取組

静岡市中山間地への新型コロナウイルスワクチン集団接種の要請に対応し 29 回出動し、合計 2,544 回接種を実施した。

また、静岡市と清水エスパルスとがコラボで行ったがん検診啓発イベントに、地域・企業健診センターと共同で参加し、検診車展示やブース出展を行った。

【数値実績】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科検診
17,194 名	104,296 名	2,184 名	16,113 名
特殊健診	外 来	合 計	職員数
7,386 名	10,437 名	157,610 名	173 名

地域・企業健診センター

2021 年度は、「新型コロナウイルス感染症への取り組み」「巡回健診の平準化」「接遇の強化」の 3 点を重点目標として、職員とともに策定した『あしたの元気をおてつだい』というモットーを共有、「職員が働きやすい環境」と「安心・安全で質の高い巡回健診の提供」の両立に取り組んだ。

「新型コロナウイルス感染症への取り組み」では、地域における公益的な取り組みとして、近隣市町のワクチン集団接種（磐田市・袋井市・焼津市・島田市）を積極的に受託し 30,899 人に対し接種を実施した。また、安全な受診環境の提供として巡回健診先の会場や職場内でのクラスターの発生を防ぐ施策を行うとともに、事業所ニーズに合わせた PCR 検査の提案を行った。

「巡回健診の平準化」では、契約や季節等の要因による繁閑の平準化に向けた取り組みにより、現有資源（配車・人員・機材等）の有効活用の体制構築を図ったが、新型コロナの感染拡大により市町及び企業の健診実施月の期ずれや受診控えの影響を受けたことで目標には至らず、引き続きの取り組みが必要となった。そのような中でも、関連法人施設である聖隷沼津病院・聖隷富士病院と行った人的資源の有効活用施策や、2022 年度からの静岡地区への大口契約先（3 団体）移行計画の推進等、事業部内外施設との連携ができた。

その他、静岡県及び静岡社会健康医学大学院大学からの受託事業である「賀茂地区コホート研究（かもけん!）」の参画や、島田市住民健診プロポーザルにおける受託の獲得など、経営基盤の安定につながる取り組みについて成果を上げた。

「接遇の強化」では、職員の接遇評価や人材育成研修を定期的に行い、役職者間で接遇に対する課題を明確化するとともに改善に向けた取り組みを行った。

これらの取り組みの結果、経営数値としては、受診人数 412,446 人（対予算比 102%、対前年比 108.6%）、医療事業収益 2,453,769 千円（対予算比 98.8%、対前年比 104.8%）と、予算には未達となったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける前の 2019 年度実績（2,436,245 千円）まで取り戻すことが出来た。

2022 年度は、質の高いサービスの提供と経営基盤の安定に職員が一丸となって引き続き取り組む。「聖隷 DX」の推進については、「新健診システム」の安定稼働によって、利用者の視点からも満足できる質の高いサービス提供体制を構築する。引き続き、職員の働きやすさ、働きがいの追求、仲間を大切にする風土を醸成し、働く仲間・利用者・事業所・地域とともに、「一人ひとりの健康（幸）の実現」を目指す。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

「新型コロナウイルス感染症への取り組み」として、職員一人ひとりが万全な感染予防対策を行いながら、契約団体との協力のもと、安全で質の高い巡回健診の受診環境を提供した。また、事業所からの要望に応じ PCR 検査（253 件：5,540 千円）を実施した。

浜松・静岡地区の巡回健診エリアの計画的な移行を進め、2022年度の豊橋市住民健診の契約を新規に獲得した。

接遇の強化として、接遇評価の実施と役職者対象とした接遇に関するワーキング「接遇の土壌づくり」勉強会を開催し、利用者目線に立ったサービスの提供につなげてきた。

また、検診車48台（静岡地区含む）を保有する施設として、安全・安心を第一に、職員向けに「検診車等誘導研修」を行い、会場駐車場内等での事故防止に取り組んだ。

2. 経営基盤安定のための取り組み

戦略的な事業拡大施策として、大口住民健診の継続として島田市についてはプロポーザルにより2022年度から3年間の契約受託を獲得し、胃がん検診単価アップへつなげた。

また行政が推進する事業として、行政と協働連携した新型コロナワクチン集団接種の受託や「賀茂地区コホート研究（かもけん!）」の参画、コロナ禍の受診控えに対する未利用者対策健診の実施等により、利用者から多くの感謝の言葉をいただいた。

3. 人材の育成と確保

課長会主催による「人材育成研修」（年3回）を開催し、役職者を中心とした事業計画の活動進捗報告会や接遇勉強会を行った。『あしたの元気をおてつだい』のモットーづくり、チーム力を発揮した職員の「Good Job 事例」の掲示や全体会での報告等、働きがい向上に取り組んだ。

4. 健康経営の実践と発信

全部署に対し、ストレスチェックの職場環境改善策の立案と改善結果について報告会を行い、職場単位で働きやすい職場環境づくりを推進した。浜松地区・静岡地区の巡回健診エリアの計画的な移行により、職員の効率的な業務の整備へつなげることができた。

5. 地域における公益的な取り組み

各地域の健康フェスティバル等への参加では、清水エスパルスフライデーナイト（Jリーグ）でのブース展示、マンモグラフィ検診車・婦人科検診車展示による婦人科検診啓発活動を実施した。

また、近隣市町の新型コロナワクチン集団接種及び賀茂地区などの行政が推進する事業への参画は、社会貢献へ寄与するとともに、職員にとって「自分たちが価値ある仕事をしている」と実感できる機会となっている。

【数値実績】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	合 計	職員数
340,614 名	32,387 名	39,445 名	412,446 名	182 名

在宅・福祉サービス事業部

生活や活動の制限がある中でも職員ひとりひとりが尽力し 2021 年度を乗り越えることが出来たことに感謝したい。そして利用者視点に立って現場改革を考え、行動に移した大切な年度となった。現場にはあらゆる場面において取り組むべき課題があり、変化するべき未来がある。課題を見つけること、本質を見失うことなく考えを深めること、行動すること、そのプロセスにわくわくすることが 2021 年度の目標であった。

介護保険分野 LIFE（ライフ）により高齢者の状態やケア内容のデータベース化の本格運用が開始され、新設の「科学的介護推進体制加算」の取得を通して利用者の状態把握に対する取り組みが変化した。また ICT 導入による補助金交付を活用して「見守り支援システム」等を関東、関西、静岡の各エリアで検討し、一部の施設で導入が実現した。居室センサーの設置は職員の負担軽減だけでなく AI による利用者の行動を予測、リスク回避の為の原因分析データ集積に繋がっている。導入により見出された「業務の空き時間」をどのように活用し利用者支援に還元していくか、職員が発見した新たな課題である。保育現場では磐田地区に続き、宝塚地区でも「コドモン」の導入が開始され、保育計画に沿った記録がなされ、保護者携帯との登園管理や保育日記、コロナ感染の危機に関しては保護者との連絡ツールとして格段の利便性を発揮することとなった。障害分野では事務部門と共に労務業務を本格的な障害者就労とする取り組みを構築するために、事業部職員全国 4000 名の労務業務を本部運営管理部に集約し、人材派遣会社と共同しながら障害者による労務業務センターの設置に向けた準備が出来た。また、静岡地区では紙おむつの一括管理に続き、全施設入所者の車椅子、ベットマットの一括貸出し管理を障害者就労の事業として開始した。現場介護職員においては利用者の状態に合った車椅子、ベットマットを提供することで介護の標準化が出来、洗浄や保管の業務から解放された。他にも入所者おやつの製造提供、タオル類の洗濯等、高齢者施設と障害就労のコラボ事業はますます進められる期待が持てることとなった。通所系サービスも訪問系サービスも新システム機器等の導入により ICT 化が進められ、次なるステップへの展望が広がった。

このような中で、介護事業、保育事業を提供する事業体は急速に増加したことにより、地域によって供給過多の時代を迎えることとなっている。高齢者施設は特養 60 万人、有料老人ホーム 50 万人、サービス付き高齢者住宅 27 万人、2030 年には高齢者人口増の安定期を迎えるとされており、高齢者福祉サービスの転換期を迎えようとしている。児童福祉においても年間出産数が 90 万人を割り、人口減少と合わせて大きな課題を抱えている。しかし、待機児童施策から保育所の増設、認可保育所への転換を含めて待機児童数は 5,600 人を割り、待機児童は 8 割の市町村が解消されたとしている。

事業部が運営する特別養護老人ホーム、保育施設の存在意義を踏まえつつ、担うべき新たな役割に向かって変化していく時期を迎えたとの認識を深めたい。そのために必要な現場改革は次のステップに向かっていくことになる。

【事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における事業部目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0 時代を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる。

効率性(ジャストインタイム)から持続性(ジャストインケース)へ

【2021 年事業部目標】

現場改革 secondstep

改革すべきことの本質を見極め、そして行動する。

【2021 年重点目標】

1. 仕事にわくわくする

仕事の自動化に向けて ICT 機器、ロボット機器を実験し実装する。福祉の未来に期待と希望を以て従事する。

2. 欲しい情報がもらえる

利用者にとっても、職員にとっても正確で必要な情報が個別化され、伝達され、分かちあうことが出来る。

3. 期待される役割がわかる

自身の役割を自覚し、個人としての成長が実感できる

4. 職員自身が充実する

与えられた仕事からやりたい仕事を意識した主体的な働き方をする

5. 地域（エリア）での役割を掴む

地域(エリア)の主体性を最大限発揮し、地域ニーズを掘り起こす

6. 共通する主な取り組み

- ①介護報酬改定、障害報酬改定における事業対応
- ②介護記録入力支援システム HIMVIT の本格運用
- ③保育業務入力支援システムコードモンの導入
- ④関東、関西、浜松における見守りシステムの導入
- ⑤訪問看護スケジュール管理システム ZEST の導入
- ⑥訪問介護連絡管理システムけあピアノートの導入
- ⑦介護・看護職員の e-ラーニングの全面導入
- ⑧介護施設入浴設備更新に伴う負担軽減と安全性の向上の取り組み
- ⑨施設の老朽化設備の更新、長期的視野からの建物補修改修の重点化

(静岡第1・2・3エリア) (浜松・磐田保育エリア)

- ① 静岡県立浜松学園の移譲が決定し、新棟増築を機会に新たな就労事業を立ち上げ、新旧居住スペースが完成した。それに合わせて、浜松地区における障害福祉サービス事業の再編し、ナルド工場の就労 A 型事業と生活介護事業所きらめきについては事業を廃止した
- ② 聖隷相談支援事業所森町を閉鎖し、障害者相談支援事業所浜松東に合併した

- ③ 福祉共同住宅ファーストステップの定員を7名から12名まで増やした
- ④ 聖隷こども園めぐみの定員を166名から216名へ増やした
- ⑤ 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合を6月に開設し年度末迄に定員を20名とした。また、児童発達支援センター開設に向けた準備を行った。併せて浜松市における児童発達支援、医療ケア児の支援のネットワークづくりを行った
- ⑥ 予防接種を受けることの出来ない、独居高齢者、ホームレスの方に対し、接種予約、会場送迎、状態見守り、緊急連絡等の支援事業を行った
- ⑦ 浜松市受託事業として介護者が感染または濃厚接触者となったために一人で生活出来ない要介護者への緊急一時入所支援体制を生活支援ハウスやまぶきで構築した
- ⑧ 感染又は閉所によってケアマネージャー不在となった利用者に対して、共同でケアプラン作成と相談を支えるネットワーク事業を行った
- ⑨ 生活困窮支援事業を通して課題が明確化された生活再建支援を強化していくこととなった
- ⑩ 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘では、居宅訪問型児童発達支援事業を4月より開始した

(関東第1・2エリア)

- ① 横須賀愛光園機能強化、現状回復を目的に施設改修の協議を行い、整備事業として採択、改修工事が開始された
- ② 浦安せいれいクリニックについて浦安市と協議し、3月で閉鎖した

(宝塚第1・2エリア) (宝塚保育エリア)

- ① 宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センターの事業受託が開始された
- ② 企業主導型保育事業すみれ保育園を3月で閉鎖した
- ③ 宝塚栄光園短期入所2床の増床を10月より行った

(淡路エリア)

- ① 淡路栄光園短期入所施設2床増床を4月より行った
- ② 淡路市内で保育事業を行う民間法人と行政との会議体設置を行った
- ③ 聖隷ヘルパーセンター淡路では重度訪問介護事業を12月で廃止した

(奄美・沖縄エリア)

- ① 聖隷居宅介護支援センターゆいを9月に、聖隷訪問看護ステーションゆい、聖隷デイサービスセンターゆいを3月に閉鎖し、沖縄エリアにおけるすべての事業撤退がなされた

和合せいれいの里

和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき
障害者支援施設みとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合
聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき
浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉

2021 年度、和合せいれいの里は、新型コロナウイルス感染症を恐れるだけでなく、如何に利用者や家族、地域の方々の日常を取り戻していけるかの検証と実践を重ねてきた。職員も自己管理を行い、感染症を持ち込まない対策を徹底した結果、施設内での感染症拡大は阻止できた。

また、2021 年度は介護保険事業・障害福祉サービス事業とも報酬改定が行われ、特に、介護保険制度は LIFE（科学的介護情報システム）へのデータ提出等、実践しているケアの科学的根拠を問われる仕組みに舵を切られた。その中で、我々は何のために事業を行っているのかを改めて自問し、それぞれの専門職が目指すべき方向性を確認することで、より質の高いサービス提供や適切な加算算定に意欲的に取り組むことができた。同時に、介護・福祉に従事する職員がプロフェッショナルとしての業務に専念できるよう記録システムや見守り支援システム等の ICT 機器を導入し、職員の働き方を刷新する基盤整備を行った。あわせて、2021 年 6 月には児童発達支援事業所を開設し、障がいを持ったこどもの支援強化も図った。このように、和合せいれいの里は利用者や家族、地域の方々の「やりたいこと」と、サービス提供主体となる我々職員の「やりたいこと」を合致させることができるよう、各事業所の特性や能力を繋ぎ合わせ、その方のライフステージに応じた適切な支援を切れ目なく提供できる体制を構築し、和合せいれいの里がこの地にある意義を見出し続けていく。

1. 高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム和合愛光園・和合愛光園和合サテライト

- ①市中の感染状況を検証しながら、随時、対応レベル（面会や外出等）の見直しを図った。
- ②ユニット・フロア間でのサポート体制が強化でき、業務の省力化・効率化が進んだ。
- ③浜松地区の共通する重大課題として、相談員部会にて計画的に解決策を立案した。
- ④空床状況に応じ、緊急時や障害者等のショートステイを受け入れた。
- ⑤各専門職が連携し、利用者・家族の意思決定についてサポートを行った。

(イ) 和合愛光園デイサービスセンター・聖隷トライサポート和合

- ①聖隷ケアプランセンター和等の事業所と利用者情報を共有する定期会議を開催した。
- ②リハビリテーションだけでなく、他の活動においても個別支援を意識して展開できた。
- ③聖隷トライサポート和合にて、機能訓練終了後の生活介護事業を新たに開始した。
- ④複数事業所の実情に応じて、セラピストの効果的な配置・活動が実施できた。
- ⑤HIMVIT（タブレット型介護記録入力システム）導入に合わせ、配車に関わる業務を省力化できるシステム開発に着手した。

⑥2022 年度に加算算定ができるように管理栄養士も含め具体的な計画が立案できた。

(ウ) 障害者支援施設 みるとす

①「みるとす」(施設入所支援生活介護第1単位)

利用者変化等を見逃さず、チームケアで臨める組織体制の再編を図った。

②「みるとす」(生活介護第2単位) あすなろ

利用者ニーズに応えられるチーム体制の再編を図り、祝日の営業を開始した。

(エ) 障害者相談支援事業所 くすのき

①かるみあ和合の開設に伴い、医療的ケア児の受け入れ調整等に努めた。

②今後の役割拡大を鑑み、2022 年度には1名増員する計画を立案した。

(オ) 聖隷チャレンジ工房和合

①就労移行支援事業所にて就職者は目標通り輩出できた。

②和合せいれいの里の業務を切り出し、新たな就労メニューを開発できた。

③定員増に伴う利用者確保には至らなかったため、2022 年度は定員を戻すこととした。

④キッチン和合弁当販売の販路は拡大せず、2022 年度における販路拡大計画を立案した。

(カ) 聖隷放課後クラブはなえみ和合

①事業所としての根拠を改めて確認し、利用者・家族支援の在り方を職員間で共有できた。

②計画通り、はなえみ体操クラブを実施できた。

③事業所運営の在り方を根底から再考し、2単位から1単位の運営に切り替えた。

(キ) 生活支援ハウス やまぶき

①浜松市との協議の結果、新型コロナウイルス対策として新たな役割を受託した。

(ク) 聖隷ヘルパーセンター

①継続的に検討しているが、新たな提案には至っていない。

②けあピアノート(訪問介護記録ツール)を実装でき、登録ヘルパーも含め活用を始めた。

(ケ) 訪問看護ステーション住吉

①障害系事業所と定期会議を重ね、自事業所の役割や介入のタイミング等を協議した。

②主要職員の兼務等を計画的に実施し、両事業所の連動を促進した。

③セラピストを中心に具体的な連動が図られた。

(コ) 聖隷ケアプランセンター和

①オンライン会議等も活用し、適時適切な情報共有・連携に努めた。

(サ) 地域包括支援センター和合

①圏域内の居宅介護事業所と感染症や災害等を想定した具体的なネットワークを構築した。

②相談員ラダーを活用し、計画通り、職員のスキルアップが図られた。

(シ) 浜松市中障がい者相談支援センター

①関係機関と協議を重ね、都度、課題の吸い上げを行い、解決に向けた展開に努めた。

②オンライン会議等も活用し、適時適切な情報共有・連携に努めた。

(ス) 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合

①2021 年6月に定員10名にて開設し、計画通り利用者の受け入れができた。

②2023 年度の児童発達支援センター開設に向けた計画を関係機関と協議・立案できた。

2. 職場環境改善・業務改善を進めることでサービスの質も高める

- (ア) 各種業務等の根拠を改めて確認し、業務の優先順位を共有化できた。
- (イ) 記録システムや見守り支援システム、介護ロボット等を計画的に導入した。
- (ウ) 2022 年度の実装を目指し、業者とともに介護保険データベース LIFE 対応のシステム開発を進めた。
- (エ) HIMVIT 導入に合わせ、配車にかかわる業務を省力化できる送迎システム開発に着手した。

3. 共生社会実現のための連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する

- (ア) 関連事業所がケース事情に臨機応変に対応・連携し、ワンストップ相談機能を発揮した。
- (イ) 市中の感染状況を検証しながら、随時、対応レベル（面会や外出等）の見直しを図った。
- (ウ) 2023 年度の開設に向けた協議の末、児童発達支援センター開設計画が立案できた。

4. 新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する

- (ア) 介護職への学研介護サポートの導入を始め、看護職、就労支援職への e ラーニング導入が進んだ。
- (イ) 和合せいれいの里の業務を切り出し、新たな就労メニューを構築した。
- (ウ) オンラインでの対応も活用し、人材育成計画通り実施できた。

5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす

- (ア) 計画通りの実践を基本にしながら、感染状況等も考慮し臨機応変に対応した。
- (イ) DWAT（静岡県災害派遣福祉チーム）の要請には都度応えるように努めた。BCP 策定に向け、計画的に協議を進めた。

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 聖隷キッチン和合の学習支援事業への弁当配食・困窮家庭へ支援を継続した。
- (イ) 介護保険利用者への負担軽減制度を実施した。
- (ウ) 新型コロナウイルスワクチン接種が困難な地域住民に対する、ワクチン接種サポートを実施した。
- (エ) 河川里親制度に登録を継続し、隣接河川の環境美化活動を実施した。
- (オ) 福祉職業体験等の積極的な受け入れは、新型コロナウイルス感染症に伴い、難しかった。

【数値実績】

■高齢者入所・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテ ライト	和合愛光園デイサ ービスセンター		やま ぶき	聖隷トライ サポート和合		
	特養入所		短期		通所介護			生活 支援 ハウス	通所介 護・予 防	共生型 機能訓練 生活介護
	従来型 (3号館)	ユニット 型	従来型 (障害)		ユニット 型	一般型 ・予防				
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名	12名	5名	40名		
利用延数	22,444 名	13,954 名	6,486 名	10,306 名	7,943 名	2,512 名	25 名	10,466 名	1,609 名	
一日平均 利用者数	61.5名	38.2名	17.8名	28.2名	25.6名	8.1名	0.1名	34.1名	5.2名	
稼働率	99.2%	95.6%	88.6%	97.4%	51.3%	67.5%	0.01%	65.6%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	310日	310日	365日	307日		
平均介護度	3.71	3.88	3.03	3.78	2.07	3.36	—	1.08	—	
単価（一人 一日）	12,236 円	14,867 円	12,236 円	14,957 円	10,279 円	13,997 円	—	6,671 円	8,988 円	
正職常勤換 算数	33.6名	26.1名	9.6名	13.6名	7.2名	2.9名	0.2名	9.0名		
パート常勤 換算数	8.3名	3.7名	0.8名	5.7名	11.4名	3.7名	1.2名	7.2名		

■障がい者入所・通所・相談関係事業

	障害者支援施設 みるとす			相談支援事業所 くすのき 特定・児童	浜松市中障がい者相談支援センター
	施設入所支援生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所		
利用者定員	20名	20名	2名	(者)延数	相談延数
利用者延数	7,279名	6,192名	1,090名	1,114名	10,683名
一日平均利用者数	19.9名	20.9名	3.0名	(児)延数	—
稼働率	99.7%	104.2%	149.3%	340名	—
稼働延日数	365日	297日	365日	—	—
平均介護度・区分	5.82	4.95	4.56		
単価(一人一日)	18,271円	14,628円	8,905円		
正職常勤換算数	13.2名	6.5名	—	3.1名	7.0名
パート常勤換算数	5.0名	8.7名	—	1.0名	(出向含)

■就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷放課後クラブ はなえみ和合		かるみあ 和合
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	学校日	休校日	児童発達支援
利用定員	10名	15名	15名	一名	20名		10名
利用者述べ人数	3,674名	4,097名	2,162名	66名	3,153名	495名	1,925名
一日平均利用者数	9.6名	14.8名	8.9名	—	13.1名		9.3名
稼働率	95.8%	99.0%	59.6%	—	65.7%		93.0%
稼働日数(延べ)	279日	276日	242日	—	240日		207日
単価(一人一日当り)	6,263円	8,282円	7,877円	—	10,599円	9,702円	18,147円
正職常勤換算数	7.3名				5.4名		3.9名
パート常勤換算数	15.6名(うち、就労A型利用者7.0名)				3.3名		3.2名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数		年訪問件数		単価		常勤換算職員数
	209 名	1, 048 件		12, 576 件		10, 225 円		19. 2 名
聖隷ヘルパーセンター	介護給付			予防給付		単価		常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者数		介護(回)	予防(回)	
		月間	年間	月間	年間			
	62 名	703 件	8, 436 件	31 名	370 名	4, 572 円	3, 869 円	14. 5 名
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数		平均単価			訪問調査		常勤換算職員数
	介護	予防	介護	予防		年間件数	単価	
	2, 207 件	369 件	18, 032 円	4, 211 円		5 件	4, 400 円	6. 5 名
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数		うち再委託件数		予防プラン単価	常勤換算職員数
	30, 490 千円		3, 445 件		2, 764 件		4, 471 円	
	日常生活支援総合事業の予防プラン							
	種別		ケアマネジメントプラン請求件数		うち、再委託件数		予防ケアマネジメントプラン単価	
	ケアマネジメント A		2, 090 件		1, 637 件		4, 471 円	
	ケアマネジメント B		139 件		0 件		3, 246 円	

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2021年度は、新型コロナウイルス禍の中で、いかに事業を滞りなく継続するか、常に問われながら日々取り組みを重ねた一年であった。ケアセンター全体で、手厚くはない配置人員の中で、介護サービスは「新しい生活様式」の中でも、要援護者にとって「安心安全で必要不可欠なサービス」として認知されるように、全職員が、組織の一員として一丸となって取り組んだ。

1. いかなる時も事業が継続できるように、個々の職員の防災力、感染対応力を高め、実践した
 - (ア) 和合愛光園と連携し、地域の新型コロナウイルス感染状況への感度を高めながら、抗原検査キット等を最大限に活用し、その時に必要な対策を迅速に実施することで、感染者が出てくもクラスター化しない対応ができた。
 - (イ) 防災アプリケーション、SNS等を積極的に活用し、その都度必要な対応を行う事で、人的、物的被害が出ることなく一年を過ごすことができた。
2. 「自立支援ケア」「重度化防止」を実践し、利用者の生きがいを支援した
 - (ア) 通所介護は利用者本人の意思に基づいた様々な活動への参加を支援した。
 - ① 個別機能訓練時には、常に利用者の求める活動を意識したメニューを提供した。
 - ② 送迎支援システム「らくピタ送迎」を導入し、送迎業務全般の改善に取り組んだ。
 - (イ) 小規模特養入居者本人の意思、本来の姿に沿った生活を実現し、重度化を防止する。
 - ① 移乗支援機器「SASUKE」、移乗サポートロボット「Hug」などの介護ロボットを積極的に導入したことで、利用者、職員双方の身体的な負担を軽減し、質の高いケア提供を実現した。
 - ② アドバンス・ケア・プランニングの取り組みは十分ではなかったが、入院者を一人も出さず、4名の逝去者全員を、施設で看取ることができた。関係職員全員で、最期まで利用者、家族に寄り添い、ケアを継続できた。
 - (ア) ケアセンター初生全体で、認知症の利用者とのコミュニケーションスキルを高めた。
 - ① 全職員が「ユマニチュード」のケア技法を身につけるために閲覧できる資料を整えた。
 - ② 認知症利用者の「想い」を理解するように、記録を工夫し、統一してかわりを持った。
 - (イ) 通所介護における認知症利用者の対応力を向上させた。
 - ① コロナ禍でも、認知症初任者研修1名・実践者研修1名の受講を進めることができた。
 - ② プログラム「寺子屋」を試行錯誤しながら実践し、MCI（軽度認知障害）の利用者への取り組みを工夫した。
 - (ウ) 小規模特養入居者における認知症利用者への対応力を向上させた。
 - ① 認知症実践者研修1名の受講を進めることができた。
 - ② 生活総合機能改善機器「フリーダム」をフロアに導入し、少人数スタッフでも機能訓練、脳活性化プログラムへの利用者の参加を進めることができた。

3. サービス・プロフィット・チェーンの概念を活かした事業所づくりをすすめた

(ア) 人が自然と集まり、成果が実感できる組織づくりに取り組んだ。

- ① 初生サテライトに介護ロボットの「SASUKE」、「Hug」を導入し負担軽減に寄与した。
- ② センター独自の Wi-Fi 環境を整備し、全職員がアクセスできるようにした。その結果、全職員が e-ラーニングを受講し、ケアに必要な知識と技術を学ぶことで、ケアの標準化、土台を構築することができた。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 施設周辺のゴミ拾い等、環境美化に常に取り組んだ。

(イ) オレンジメール（浜松市が行う徘徊高齢者早期発見事業）の職員への登録を進め、情報受信時には、共有し対応した。

【数値実績】

	和合愛光園初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利 用 者 定 員	29 人	50 人	(50 人)
利 用 延 数	10,525 人	10,209 人	1,039 人
一日平均利用者数	28.8 人	33.1 人	3.4 人
稼 動 率 (%)	99.3%	69.7%	
稼 動 延 日 数	365 日	308 日	
平 均 介 護 度	3.81	1.8	—
単 価	14,723/日	9,709 円/回	38,107 円/月
職 員 数 (正 職)	13.3 人	5.8 人	
職 員 数 (パ ー ト)	6.4 人	17.0 人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘

聖隷リハビリプラザ I N高丘

地域包括支援センター高丘

聖隷ケアプランセンター浜松

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携を図り、センター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる

- (ア) 訪問看護ステーション高丘はリハビリテーション強化型ステーションとして、看護師とリハビリスタッフが協働してサービス提供できた。要支援の方へのリハビリテーションも行い、重症化予防のための生活習慣の見直し、日常生活の自立やデイサービス継続へつなげる事ができた
- (イ) 聖隷リハビリプラザ I N高丘は、リハビリテーション特化型デイサービスとしての強みを活かし、共生型サービス（自立訓練 機能訓練）を開始した
- (ウ) 地域包括支援センター高丘は様々な相談に対応するとともに、地域住民を交えた地域ケア会議の開催や大学と協働して地域課題を抽出する等、地域づくりの促進をした
- (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づき、複雑化・多様化するニーズに対応できるよう、毎月の事例検討会や意思決定支援のガイドライン読み合わせを行いスキルと知識の向上を図った。また聖隷浜松病院との Web による連携会議や聖隷三方原病院との事例検討会への参加等を通し医療機関との連携強化に努めた
- (オ) 各事業所が、日常業務の中から課題を発見し、事業計画をもとに解決に取り組んだ
- (カ) 高丘拠点のそれぞれの事業所が日々の実践や成果を高丘ケアセンター学会で発表した

2. 感染予防に留意し、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築する

- (ア) ケアセンター内でデジタル推進係を立ち上げ、業務の効率化、業務負担の軽減を目的に、ホームページの改定を含めた利用者への情報発信や、会議等の議事録のペーパーレス化を実施した
- (イ) ケアセンター内委員会を中心に定期的な勉強会、マニュアルの見直しを行った。ケアセンター内でコロナウイルス感染があったが、職員個々が感染対策を徹底し、拡大せずに済んだ
- (ウ) ケアセンター全体の BCP を作成した。各事業所でも作成に向け、研修の実施や情報収集を行った

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ロコモーショントレーニング事業の継続ができた。地域交流やフレイル予防を目的に、新たに散歩教室や体操教室を企画し実施ができた

- (イ) 地域行事はコロナ禍の影響で中止になり参加できなかった
- (ウ) 各事業所でコロナウイルスの感染拡大状況を鑑みながら、エリア内での感染予防対策に準じて、大学等の専門学科の実習、ロコモーショントレーニング事業でのいきいきトレーナー等ボランティアの積極的な受け入れを行った

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	職員数 （常勤換算）
200 人	1,038 件	12,457 件	9,255 円	15.1 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N 高丘）

介護給付			予防給付		障がい給付		職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	
22.8 名	649.5 名	7,794 名	68 名	816 名	27.4 名	329 名	11.0 名
単価(円)	6,134 円		33,100 円		9,053 円		

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	職員数 （常勤換算）
41,400 千円	3,308 件	2,549 件	4,400 円	
日常生活支援総合事業の予防プラン				7.7 名
種別	予防プラン	うち	予防プラン	
	請求件数	再委託件数	単価	
ケアマネジメント A	1,939 件	1,189 件	4,400 円	
ケアマネジメント B	360 件	0 件	3,195 円	
ケアマネジメント C	0 件	0 件	2,195 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
2,463 件	499 件	16,117 円	3,940 円	8 件	4,400 円	5.8 名

訪問看護ステーション住吉第二

2021 年度、当訪問看護ステーションは医療保険の利用者の増加に伴い、訪問件数も上昇した。聖隷浜松病院だけでなく地域の病院や支援事業所からの相談も増え、在宅への移行や地域での生活を多職種と連携しながら支えることができ、継続看護や地域でまると支える看護が実現した。また、職場内でグループごとに勉強会や事例検討会を行うことでチーム全体での知識の共有と底上げをし、地域で暮らす方々の支援に大きくつながったと考える。

1. 病院や地域の連携（居宅介護支援事業所・相談支援事業所・他サービス）

- （ア）聖隷浜松病院だけでなく、相談支援事業所や居宅介護支援事業所との連携、スタッフ誰もが新規の利用者に関わり顔の見える、話の出来る関係づくりを構築した。
- （イ）新規のサービス事業所や医師からのご依頼の際は必ず挨拶をし、以降も継続した利用が見込まれる。

2. 地域における公益的な取り組み

- （ア）住吉交友会への定期的な健康相談・健康体操・健康講話（アドバンス・ケア・プランニング）の実施。
- （イ）難病患者等介護家族リフレッシュ事業に登録しているが、利用がなかった。

3. 施設内の連携

- （ア）聖隷浜松病院ひばり保育園と、感染症発生時の対応を共有し双方が安全に運営できる仕組みづくりを行った。
- （イ）聖隷浜松病院ひばり保育園と定期的な防災訓練の実施。

4. 得意分野を伸ばしニードの高い疾患の探求学習し利用者の思いに沿える支援を行う

- （ア）職場内で勉強会、事例検討会を開催し、利用者へ質の高い知識を持った訪問を行った。
- （イ）認定看護師の勉強会を開催し、知識や質の向上を図った。

【数値実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	職員数 (常勤換算)
143 人	753 件	9,043 件	9,816 円	12 人 (8.98)

聖隷コミュニティケアセンター

1. 障がい者就労支援事業との連携強化

- (ア) 浜松学園と連携をとり、就労作業メニューの構築と仕組み作りを行う
 - ① 浜松学園内に売店の運営を7月に開始する事ができた
 - ② 浜松学園で介護ベッド卸事業が開始できるまでの仕組み作りを共同で行い、下半期より開始する事ができた
- (イ) 施設向け車いすレンタル・マットレスレンタルを森町愛光園、いなさ愛光園と開始する事ができた

2. 店舗販売の変革

- (ア) 浜松市リハビリテーション病院店を業務委託から直営化する事ができた。レジシステムを整備し、浜松学園の売店に対して卸としての役割を担う事ができた
- (イ) 浜松病院店、三方原店にクレジットカード決済の導入が行えた
- (ウ) 浜松学園にフェリカカードを導入しキャッシュレス決済を開始する事ができたが、施設向けのキャッシュレス決済は導入まで至らず、今後の課題である

3. 業務改善と働きやすい職場環境作り

- (ア) 貸与業務管理ソフトを導入し3年が経過し、電子署名や選定相談書をソフトの活用ができてきたが、点検モニタリングの作業を標準化させマニュアルを整備するまでには至らなかった
- (イ) 事務職員の役割を整理する事ができ、一人にかかる負担を軽減し超勤の削減をする事ができた
- (ウ) 有給休暇について計画的にとる事ができ、全体の有給消化率が前年度44%から55%に上げる事ができた
- (エ) 効率的に業務を遂行できるよう、定期的に会議で確認し業務改善する事ができた

4. チーム活動を活性化させ組織力を向上させる

- (ア) 職場内のチームを再編成しリーダーの主体的行動を支える仕組みを作った
- (イ) 内部研修の年間スケジュールを作成し、スケジュール通りに車いすに特化させた研修を行い専門性の底上げをする事ができた
- (ウ) 聖隷居宅平均紹介率69%と目標の70%には届かなかったが、ケアマネジャーとの関係構築を維持する事ができた

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 行政が行う福祉用具展示会に参加し、地域に向けた取組みに協賛していく事ができた

【数値指標】

レンタル件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	職員数 (常勤換算)
15,051 件	186,595 千円	302,190 千円	20,108 千円	30.0 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2021年度は、昨年度に引き続きコロナウイルスの影響に伴う生活困窮の相談が多く寄せられた（2019年度 681件、2020年度 2,675件、2021年度 2,086件）。相談内容は仕事が減る、離職に伴う収入減少の相談、住居を失う恐れのある相談が大半を占めていた。また、食べ物が無い、ライフラインが止まるなどの緊急対応が必要な相談者も多く見られた。2022年3月の相談件数も162件となっており、コロナウイルス感染拡大前の平均月相談件数の約2倍となっている。コロナウイルスの影響が続く中、生活困窮の相談も高止まりの状況と予測される。2022年度も関係機関との連携をより一層強化し、複合的な課題を抱える生活困窮世帯への支援を実施していく。

1. 地域における公益的な取組

- (ア) 生活困窮世帯のうち、緊急一時的もしくは支援上『食の支援』が必要な世帯へ食材・食事の提供ができる仕組みを検討・実施する。
 - ① フードバンクを利用し緊急の一時支援を実施した（280世帯、530名）。また、学習支援教室に通う食のニーズがある子どもへ聖隷キッチン和合のお弁当を夕食として提供した（655食）。
- (イ) 住居を失う恐れのある世帯が新たな仕事と住居が見つかるまでの間、一定期間住居を提供し、就労支援・家計支援ができる体制・仕組みを検討・実施する。
 - ① 浜松市福祉総務課と実態の共有及び仕組みについて検討し、2022年4月1日より一定期間住居を提供し就労支援・家計支援ができる『生活困窮者一時生活支援事業』を浜松市より受託することができた。

2. 学習サポートおよびキャリア形成支援

- (ア) 本部教室にて、将来を描き、将来の目標を達成するための学力及び社会性を身に着けるため、中学1年生から学生の受け入れを開始する。
 - ① 中学1年からのキャリア支援受け入れを開始した（中学1年生4名、2年生5名）。
- (イ) 学習支援卒業生を対象に高校定着・退学防止のために必要な支援を具体化し実施する。
 - ① アンケートの実施、個別の面談を実施した。左記以外の具体的な支援について未実施であるため次年度の課題として継続する。
- (ウ) キャリア形成支援の一環として「就労体験」を実施する。
 - ① コロナウイルスの影響で就労体験未実施。就労体験の代わりに、将来を考える機会として将来の収支を学ぶ「マネー講座」や「専門学校見学・体験」の企画を実施した。
- (エ) 教室に通えない生徒への訪問型・通信型の学習支援を実施する。
 - ① 訪問・通信側の支援を実施した。子どもや世帯との関係性が切れることなく継続した支援ができた。

3. 就労支援および就労準備支援

(ア) 就労支援対象者のうち、年間 120 名を就職につなげる。

①年間 95 名の就職となった。職種や給与面等の条件を絞られる求職者が多く就職につながりにくい現状がある。職種選択と家計の見直しに対する支援が課題である。

(イ) 就職希望者のうち、就職率 80%、6 ヶ月定着率 70%を目指す。

①就職率 100%、6 か月定着率 72%であった。就職率が高い割合となっているが、支援を受けずに自身で求職活動を希望する方も多く、就職できない方も散見される。就労支援が必要な方に確実に支援を提供できる支援体制が課題である。

(ウ) 就労準備支援事業の対象者を年間 15 名とする。

①就労準備支援持病の対象者を年間 15 名実施した。

(エ) 協力企業を活用し中間的就労や職場体験を実施する。

①協力企業を活用し職場体験や見学等を年間 15 件実施した。

4. 地域との連携強化・充実

(ア) 各地区の民生・児童委員会定例会に参加し、事例に関する情報共有を積極的に実施する。

①各地区の民生・児童委員長定例会に参加し、情報共有を積極的に実施した。また、民生・児童委員各専門部会や圏域会議にてつながりの事業説明や事例紹介を行った。

(イ) 各地区の民生・児童委員会において、生活困窮事例の発掘を実施する。

①各地区の民生・児童委員より個別に生活困窮世帯の相談をいただいた。また、地区広報誌へつながりの紹介を掲載していただき、広報誌を見た方が相談につながった。

(ウ) 支援開始時から民生・児童委員や関係機関等と支援方針を検討し、地域支援体制を検討・実施する。

①生活困窮世帯について民生・児童委員より相談のあった生活困窮世帯の支援開始前に支援方針、支援体制を検討する支援会議が実施できた。

【数値指標】

	つながり			学習サポート事業
	生活困窮者自立支援事業	学習支援事業	ホームレス巡回支援事業	
利 用 者 定 員	- 名	75 名	- 名	- 名
利 用 者 延 べ 人 数	8,518 名	1,037 名	68 名	501 名
一 日 平 均 利 用 者 数	34.3 名	6.8 名	2.7 名	3.2 名
稼 働 率	- %	- %	- %	- %
稼 働 日 数 (延 べ)	248 日	152 日	25 日	155 日
単価 (一人一日当たり)	-円	-円	-円	-円
職員数 (常勤換算)	12.2 名			3.3 名

聖隷厚生園信生

2021 年度は医療と介護・福祉の連携強化が進み、コロナ禍でも利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように一体的なサービス提供がさらに進んだ1 年となった。

聖隷厚生園信生寮では、多職種協同で廃用性による身体機能の低下を予防するための個別リハビリテーションを充実させることができた。また 2020 年度から開始したノーリフトケアをさらに推進させ、働く職員の身体的負担の軽減につなげることができた。在宅部門においては、退院時支援や介護保険、障害福祉分野との利用者を中心とした連携強化を進めることができた。

1. 利用者の尊厳を守り、入所・通所者の重度化・高齢化を踏まえた支援を行う

- (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行うことができた。
- (イ) 入所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、支援につなげることができた。一方で新しいやわらか食の開発については、感染予防対策を優先し、未実行となったため次年度の課題とした。
- (ウ) 排泄介助では、専門家に相談し、夜間のオムツ交換回数を調整し、利用者が快適かつ十分に睡眠がとれるように配慮できた。
- (エ) 虐待防止セルフチェック表を年 2 回実施し、各職場の状況を把握することができた。
- (オ) てんぷらやそば打ち、寿司の実演会を行い、目で見ても楽しめる食事企画を行った。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア) 訪問看護ステーション細江では、聖隷三方原病院との連携によるターミナルケアの受け入れを積極的に行うことができた。また、特定行為看護師研修に参加し、2022 年 12 月より実働できる準備を進めることができた。
- (イ) 聖隷ヘルパーセンター浜松北では、利用ニーズの高い都田地区への訪問を積極的に行い、利用件数を伸ばすことができた。
- (ウ) 聖隷ケアプランセンター細江では聖隷三方原病院の病棟カンファレンスに参加して、入退院時の情報交換に努め、タイムリーな連携を図ることができた。
- (エ) 在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等による合同カンファレンスは、上半期は実施できたが、まん延防止等重点措置により、下半期の実施を見合わせた。
- (オ) 浜松市基幹相談支援センターの緊急一時入所の要請は本年度 0 件だった。
- (カ) 特別支援学校から体験実習を 3 件受け、うち 2 件まじわりの家の利用契約につながった。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア) ノーリフトケアの実施率は約 97%、腰痛を訴える職員は昨年度比 43%減少した。
- (イ) 新しい介護機器等の情報収集は感染拡大の影響で十分に行うことができなかった。
- (ウ) 感染拡大時のシミュレーションを 2 回行い、発生時には迅速な対応をすることができた。
- (エ) セルフケア、ラインケアの研修を行い、職員のメンタルヘルスケアの充実に努めた。

(オ)テレビ会議、eラーニング等を活用したWEB研修、訪問看護のスケジュール自動作成システム、訪問介護の介護記録ツールの導入等により業務効率化に努めた。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用した人材育成を行うことができた。
 (イ)人事企画部と連携し、EPA介護福祉士候補生の就業・学習支援をすることができた。
 (ウ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、2022年度3名の新卒者の採用につなげることができた。
 (エ)就労継続支援A型による障がい者雇用を新規1名採用することができた。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

- (ア)災害時マニュアルの整備については内部監査で指摘を受けたため、見直しを図った。
 (イ)新型コロナウイルス感染施設への応援職員を派遣する仕組みを整備することができた。

【数値実績】

■障害者入所・通所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園まじわりの家	
	入所	短期入所	生活介護	機能訓練
利用者定員	60名	10名	14名	6名
利用者延べ人数	22,208名	2,465名	4,298名	1,063名
稼働延日数	365日	365日	258日	257日
一日平均利用者数	60.8名	6.8名	16.7名	4.1名
稼働率	101.4%	67.5%	119.0%	68.9%
単価(1人1日当り)	17,739円	14,452円	17,198円	10,585円
職員数(常勤換算)	54.6名		15.3名	

■訪問看護ステーション細江

利用者数		訪問件数		単価	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均		
2,333名	194名	11,042件	920件	10,921円	15.0名

■聖隷ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価		サテライト(三方原)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	年間相談件数	
2,093件	383件	16,580円	4,381円	486件	4.8名

■聖隷ヘルパーセンター浜松北

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
月平均 利用者数	訪問件数		利用者数		介護(回)	予防(月)	
	年間	月平均	年間	月平均			
45 名	4, 252 件	354 件	417 名	35 名	4, 109 円	19, 234 円	6. 1 名

聖隷厚生園讃栄

2021 年度は新型コロナウイルス感染症予防に関して、利用者の協力もあり、施設内での感染発生することなく生活支援に取り組むことができた。同時に利用者のストレス緩和にも考慮し、生活に極力制限をかけずに大きな精神的不調を抑え対応が出来たと考える。その反面、民間のグループホーム開設等の地域での障がい福祉サービスの充実やコロナの影響からくる精神科病院における退院促進抑制もあり、讃栄寮の入所稼働に大きな影響があった。今後の救護施設に求められる地域ニーズを見直すきっかけとなる年であった。

1. 利用者と職員の間を深め、利用者が「主人公」となる支援の実施

- (ア) 感染対策を徹底し、食事行事や遠足、スポーツ等利用者と共に実行し、楽しみを共有できた。
- (イ) 利用者と職員が相談し、予定通り個別支援計画を立案し実行できた。
- (ウ) 作業療法士が行う専門的評価と日常生活支援が協働し、個別支援計画へ反映することで、身体機能低下予防を図る事ができた。

2. 年齢・心身状況に応じた移行支援と地域ニーズに対応した新規入所受入

- (ア) 居宅生活訓練事業において、年間 2 名の地域移行支援を実施できた。
- (イ) 高齢者施設へ 1 名、障がい者グループホームへ 1 名の施設移行支援を実施できた。
- (ウ) 医療機関から新規入所 4 名を受入れた。生活困窮支援からは救護への受入実績はなかったが困っている方への支援として取り組める事がないか情報共有を行った。

3. 利用者の人権を尊重した支援・施設サービスの質の向上

- (ア) 2020 年度に第三者評価事業において指摘された管理者の責任所在や人材育成計画等を書面化し、改善策に取り組めた。
- (イ) 利用者満足度調査を 11 月に実施し、集計結果から傾向の分析と対策に取り組んだ。
- (ウ) 虐待防止委員会を中心に「虐待防止セルフチェック」を行い、職場における虐待防止に取り組んだ。

4. 障がい者がサービスを効果的に活用できる地域生活支援の実施

- (ア) 相談支援事業所ナルドでは、2021 年度新規・更新ケースとして 527 件(2020 年度 494 件 2020 年度比 106.6%)の相談受入れを実施した。
- (イ) 相談支援事業所ナルドにおいて、就労支援事業の利用希望者に対して訪問看護の案内や訪問介護の支給手続き、短期入所の提案を行い、将来的な不安解消に繋ぐ事ができた。
- (ウ) 生活訓練事業所ナルドでは、精神疾患、発達障害、強度行動障害に関する研修に参加し、学んだことを職場内で共有して実践的な対応方法に反映できるよう取り組んだ。
- (エ) 福祉共同住宅ファーストステップでは 11 床から 12 床に増床し、より多くの地域ニーズに対応できるようになった。

5. 公益的活動における地域貢献等

(ア) コロナ禍で感染対策を徹底し、延べ 246 人(2020 年度比 192%)の実習受入を行った。

(イ) 関係教育機関へソーシャルワーク実習指導講師派遣を実施した。

【数値実績】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)
利 用 者 定 員	60 名	10 名	4 名
利 用 者 延 べ 人 数	22,995 名	4,004 名	1,357 名
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
一日平均利用者数	63.0 名	11.0 名	3.7 名
稼働率	105.0%	109.7%	92.9%
単 価 (一人一日当り)	9,501 円		6,287 円
職 員 数(常勤換算)	28.1 名		

	生活訓練事業所ナルド		相談支援事業所 ナルド		福祉共同住宅 ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	障害者	障害児	
利 用 者 定 員	10 名	10 名	-	-	12 名
利 用 者 延 べ 人 数	2,094 名	2,612 名		-	3,540 名
稼働日数(延べ)	254 日	257 日	-	-	365 日
一日平均利用者数	8.2 名	10.2 名	-	-	9.7 名
稼働率	82.4%	101.6%	-	-	84.3%
単 価 (一人一日当り)	9,946 円	7,972 円	-	-	4,567 円
職 員 数(常勤換算)	5.0 名		6.2 名		2.8 名

聖隷厚生園ナルド工房

2021 年度は終息の見えない新型コロナウイルス感染症の脅威の中にあって、2020 年度同様に企業からの請負作業が減少したが、これまでの経験を活かし、早期に臨時作業の提案を行い、関係各所の協力もあり、利用者の就労機会を維持することができた。

また、利用者が心身ともに健康な生活ができることで、仕事にも安定して通うことができるように、相談支援事業所と連携して、在宅サービスの導入を推進し、就労と生活の両輪を支える支援ができた。

1. 利用者が地域と接点を持ちながら活躍できる場所の提供

- (ア) 就労継続支援 A 型では、介護補助作業の範囲を広げ、信生寮のリネン業務と讃栄寮のハウスキーピング作業を創出し、利用者への就労機会を増やすことができた。
- (イ) 菓子販売では、コロナ禍でイベント等に参加できなかったが、予約や注文販売を中心に年間売上目標 600 万円を達成することができた。また、感染症対策を講じて、聖隷内の事業所販売を継続することができた。
- (ウ) 作業担当ごとに定期的なグループワークを行い、仕事の成果や感染症対策を利用者自身が考えられるように支援した結果、作業参加の意欲向上につながり、利用者 3 名の利用回数を増やすことができた。
- (エ) 就労移行支援、就労継続支援 B 型の新規作業として名刺・IC カード印刷作業を開始した。今までになかった事務作業の導入により、1 名の身体障がい者へ就労機会を提供することができた。
- (オ) 就労移行支援では、コロナ禍で企業見学が制限を受けたが、ソーシャルスキルズトレーニング等で就職へのイメージ作りの支援を行い、年間 5 名の就職者を輩出することができた。

2. 利用者を支える多職種・関連機関との連携と顔の見える関係作り

- (ア) 就労移行支援では、定期的に他職種協同によるケアカンファレンスを実施したことで、他職種間との顔の見える関係作りと利用者の就職に向けた支援の充実が図れた。
- (イ) 就労定着支援では、ICT 等の活用を提案し、利用者、企業担当者と相互理解を深め、3 年定着を目指した支援を実践することができた。3 年定着後のアフターフォローとして継続的な支援が必要な方 1 名を障がい者就業・生活支援センターへつなぐことができた。
- (ウ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を利用者と職員が一緒に考え、就労移行支援の利用者は全員作成することができた。就職活動の際に、利用者が働くうえでのアピールポイントや必要な配慮について、企業との情報共有ツールとして有効であった。
- (エ) 特別支援学校から計画的に実習を受けることができ、2021 年度新設の浜松みをつくし特別支援学校からは 1 年生 2 名の実習を受け入れることができた。

3. 職員の役割分担と人材育成体制の整備

- (ア) 職員の役割分担を明確にして個々の業務負担の整理を行い、ICT 等を活用しながら業務の

効率化を図ることができた。

- (イ) 利用者の障がい特性の理解や職業指導スキル向上、感染症対策のための研修会に Web 研修を中心に参加することができた。
- (ウ) 虐待防止セルフチェックを年 2 回（7・3 月）実施することができた。結果を職員間で分析し、利用者への関わりや職場での課題を振り返ることができた。
- (エ) 新人・中途採用職員・異動者の教育マニュアルを整備し、フォロー体制を構築することができた。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 有事の際に協力ができる関係作りをするために、近隣施設へ合同防災訓練を企画・提案することができたが、コロナ禍のため実施には至らなかった。

【数値実績】

	就労移行支援	就労継続 B 型	就労継続 A 型	就労定着支援
利 用 者 定 員	10 名	15 名	10 名	20 名(利用者数)
利 用 者 延 べ 人 数	2,702 名	4,379 名	1,070 名	11 名(登 録 者)
一 日 平 均 利 用 者 数	10.9 名	17.6 名	3.6 名	-名
稼 働 率	109.0%	116.8%	35.5%	-%
稼働日数（延べ）	248 日	250 日	301 日	-日
単価(一人一日当り)	13,882 円	8,674 円	19,896 円	29,788 円
職員数（常勤換算）	17.2 名			

浜松学園

障害者支援施設静岡県立浜松学園

聖隷チャレンジ工房浜松学園

2022 年 4 月の完全民営化に向け、2021 年 7 月に既存棟改修（浴室・厨房）・新棟増築の工事が開始された。2021 年度は安心・安全に施設利用ができるように利用者や保護者、関係者に丁寧に説明をしながら建築と通常の施設運営の両立を図ることが課題となったが、大きな事故等もなく、予定通り 2022 年 3 月にすべての工事が完了した。またソフト面においては、地域貢献できる新しい浜松学園となれるように「働く」「暮らす」「学ぶ」の 3 つの項目ごとにプロジェクトチームを編成し、どんな浜松学園にするのか、具体的にはどのような支援を展開するのかを考え、次年度に向けて行動計画を立てることができた。

1967 年の創設時に浜松市浜松手をつなぐ育成会の方々が浜松学園に期待した思いを忘れることなく大切にして、時代の変遷やニーズに柔軟に対応でき、地域から信頼される施設運営を目指していきたいと考える。

【事業・運営計画】

1. 多種多様なニーズに応じた体制作り

(ア) 利用者の状態に応じた「働く」支援の提供

- ① “売店事業” を開設し、利用者が店長・店員として主体的に仕事を行う取り組みを行った。
- ② 入所通所で作業評価表を統一して、評価基準を標準化した。マイスター制度は、新作業導入後に仕組みを考えることとしたため、次年度の課題とした。
- ③ 作業の難易度に応じて作業場を再編し、効率よく支援ができる環境を整えた。ランドリーセンターやオフィスハマガクなど、次年度に向けて新たな作業を開発することができた。
- ④ 利用者と面接の中で振り返る内容や目的、頻度を決めて実施できる仕組みを整備した。
- ⑤ 就労継続支援 B 型では、目標工賃を達成することができた。

(イ) 生活に必要な知識技術を身に付ける「暮らす」支援の提供

- ① 浴室・厨房改修工事時には仮設設備で生活をするを通じて、当たり前にあるものが当たり前でないことを利用者と確認する機会となった。
- ② 利用者用 IC カードを導入し、新設の売店で自由に買い物ができる仕組みを作った。決められた範囲の中で金銭管理を行う機会となった。
- ③ 料理実習や金銭管理、感染予防対策など、家庭でも役立つ生活スキルを習得する機会は提供できた。家庭でそれがどう役立っているのか確認が不十分なため次年度の課題とした。

(ウ) 成長し続けるための「学ぶ」支援の提供

- ① 自治会で利用者が主体的に生活を決め、行動することで自信や自立につなげることができた。
- ② 就労に必要なスキル等を身に付けられるよう、小集団にてグループワークを実施できた。
- ③ 電子黒板の活用方法は定まったものの、運用は次年度の課題とした。
- ④ 社会科見学やライオンズクラブの方々と一緒にみかん狩りに行くなど、地域に触れ合う機会を作り、社会人としてのマナーについて学ぶ機会とした。

(エ) 働き続ける支援体制作り

- ①サービス担当者会議を利用者で行い、働き続けるために何が必要かを個別に確認できた。
- ②就職前カンファレンスは関係者を交えて行うことができた。

2. 安心できる環境の整備と安定した経営

- (ア) 安心して施設利用できるよう、工事予定等利用者・保護者・関係機関に説明できた。
- (イ) 想定しない自然災害や大規模災害にも事業を継続できる BCP(事業継続計画)対応を強化することができた。
- (ウ) 作業内容ごとに交換研修を実施し、次年度の作業再編に備えることができた。
- (エ) e-ラーニングを導入、支援における根拠を整理し、職員の共通理解を促すことができた。
- (オ) 改めて報酬改定の内容を確認し、どのような成果が報酬につながっているのかを把握した上で、次年度の事業計画に反映することができた。

3. 地域ニーズを把握し、新たな価値の創造

- (ア) 民営化に伴い開始する新規事業（生活介護・就労継続支援 A 型・短期入所）の準備を行い、次年度予算における想定 of 契約者数を確保することができた。
- (イ) 保護者会やあり方検討委員会等でご利用者・ご家族・関係機関の声に耳を傾け、次年度の事業計画に反映することができた。
- (ウ) 本年度より始めた個別利用相談に積極的に応じて利用者ニーズに向き合うことをした。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 浜松市浜松手をつなぐ育成会、浜松市肢体不自由児親の会などと意見交換を行った。
- (イ) 工事期間が想定されるため、防犯・防災対策を適宜見直し、県・浜松市と協議した。
- (ウ) グラウンドや体育館など学園内施設の貸し出しを行った。

【数値実績】

	静岡県立浜松学園			聖隷チャレンジ工房浜松学園	
	施設入所	就労移行	就労定着	就労移行	就労継続 B 型
利 用 者 定 員	60 名	60 名	20 名	10 名	10 名
利 用 者 延 べ 人 数	10,491 名	8,983 名	32 名	1,798 名	1,884 名
稼働日数（延べ）	346 日	266 日	一日	262 日	262 日
一日平均利用者数	30.3 名	33.8 名	一名	6.9 名	7.2 名
稼働率	50.5%	56.3%	－%	68.6%	71.9%
単価（1人1日当たり）	2,657 円	4,868 円	29,365 円	9,674 円	8,118 円
常勤換算職員数	20.3 名			6.3 名	

軽費老人ホーム もくせいの里

2021 年度もコロナ禍での生活が続く中、施設では感染予防対策に努めながら、可能な範囲で施設行事や外出支援等を行ってきた。社会や地域とのつながりを重視しつつ、施設内での支援のあり方も見直す1年となった。

また施設サービス計画作成ソフト「CareGrowth」の導入により、入居者一人ひとりのニーズを把握し、職員によるサポートや外部サービスの利用などによる個別支援に取り組むことができた。

要支援・要介護入居者が7割という現状において、転倒などによるADLの低下により他施設へ移行するケースが増えている。もくせいの里で1日でも長く安心して生活できる支援体制を充実させるとともに、次施設への移行もスムーズに行うことが今後の課題となった。

【事業報告】

1. 利用者に合わせたサービスの提供

- (ア) 「CareGrowth」の導入により、PDCA サイクルに沿った取り組みができた。勤務の調整を行い、入居者とのコミュニケーションの時間も確保できた。
- (イ) 施設にて行う直接援助業務について、内容や期間の基準をつくって対応してきた。必要に応じて、外部サービスの利用へつなぐことができた。
- (ウ) 入居者の施設内ボランティア活動の仕組みとして、「かがやき隊」を1年間運用し、約10名の方が継続的に参加できた。

2. 安心と安全を重視したサービス

- (ア) 配食サービスにて食事を届けるとともに、安否確認を行った。不在時には家族やケアマネジャーに連絡を取って所在確認をした。一人暮らし高齢者・障害者のニーズに応えるために、配食エリアの再検討を次年度の課題とした。
- (イ) 感染症発生時のBCPを作成し、職員間で共有した。対応訓練も実施し、感染症への対策を進めた。
- (ウ) 嚥下能力の低下した入居者のケアカンファレンスを実施し、安心安全な食事を提供できた。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 年間スケジュールに沿って施設内勉強会を開催し、虐待防止や身体拘束廃止に関する研修をおこなった。
- (イ) 嚥下能力に応じた食事を提供できるよう職員間で情報共有をおこない、安全な食事の提供に努めたが、誤嚥やむせる入居者も増えてきた。多職種協同での嚥下機能の維持・向上のための具体的な取り組みを次年度の課題とした。

4. 地域社会への貢献

- (ア) 配食サービスを継続して受託し、ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者の食事支援と

ともに安否確認を行うことができた。

- (イ) コロナ禍により、2020 年度に引き続き、視覚特別支援学校との交流はできなかった。
近隣幼稚園とは、お花のプレゼントを受け取ったり、卒園児へプレゼントを贈ったりするなどの交流ができた。

5. その他

- (ア) 設備点検等で指摘された事項について早期に対応し、大規模修繕を避けることができた。
(イ) 浴室・脱衣室の修繕を行い、アメニティの向上を図った。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利 用 者 定 員	50 名	—	
利 用 者 延 べ 数	18,250 名	17,963 名	
稼 働 延 日 数	365 日	309 日	
一 日 平 均 利 用 者 数	50.0 人	58.1 人	
稼 働 率	100.0%	—	
単価（1 人 1 日当り）	6,231 円	682 円	
職 員 数（常勤換算）	12.6 名	2.4 名	15.0 名

いなさ愛光園

いなさ愛光園は中山間地域の高齢者が選択できるサービス提供事業及び、信頼されるサービス提供機関として選ばれるよう運営をしてきた。2021年3月末に遠州鉄道渋川線のバス運行が終了したが、2022年10月からは伊平線のバス運行が終了することになった。また、地域包括支援センターと連携して、細江町だけでなく、三ヶ日町を視野に入れた運営を始めた。

2021年度介護報酬改定では、「感染症や災害への対応力強化」が重要な柱のひとつとなった。感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供されることが重要であることから、介護施設・事業所における業務継続計画(BCP)の作成をした。災害時における地域と連携した対応の強化として、地域の自主防災訓練に参加し、救急法の指導をした。感染予防委員会を中心に感染症の対策には十分な対応をしてきた。ユニット型の入所サービスで2月中旬に入所者9名、職員4名が新型コロナウイルス感染症陽性と判明し集団発生(クラスター)となった。在宅部門は通常営業ができたことで、利用者への影響は最小限に止めることができた。

介護職員の定着と新規就業を促進するため、「キャリアパス制度・人材育成の推進」、「サービスの質の向上」、「労働環境の改善(ワークライフバランス)」に取り組む県内介護事業所として2022年3月、「静岡県働きやすい介護事業所認証制度」に認証された。

1. 利用者の尊厳を守り、生活の質の向上を目指した取り組みをする

- (ア) 介護サービスの質の評価と科学的介護の取組のために連携を強化した
- (イ) 入所サービスでは面会制限の期間が増えたので、6月からオンライン面会を始めた
- (ウ) 入所サービスでは30名が退所され、21名の入所者に対し施設で看取り加算を算定した
- (エ) 各サービスに選択できる車椅子38台のレンタル契約を4月から始めた
- (オ) 2022年からレンタル導入に向けて、褥そう予防マットの準備をした

2. 人材育成と働きやすい職場環境の整備をする

- (ア) 2022年3月「静岡県働きやすい介護事業所」に認証された。
- (イ) ナースコールの更新だけでなく、新たに見守りシステムを導入した
(介護サービス提供体制整備促進事業費補助金)
- (ウ) 介護職員と看護師はeラーニング等を活用した学習をした
- (エ) EPA介護福祉士候補者1名が帰国となった

3. 質の高いサービスを提供するように努める

- (ア) 集合研修がWeb研修に変更した研修も多かった
- (イ) 年間を通して感染予防対策に務めた
- (ウ) 看取り担当者会議を毎月実施した
- (エ) 入所サービスにおいて利用者満足度調査をした
- (オ) 喀痰吸引等修了者は1名だった

4. 安定した施設運営をする

- (ア)各サービスの新たな利用者の発掘とし、細江町だけでなく、三ヶ日町についても検討した
- (イ)介護報酬改定の対策として、科学的介護情報システム（LIFE）をはじめ新たな加算を取得した
- (ウ)業務継続計画（BCP）の作成をした
- (エ)建物修繕、設備更新及び車両更新を計画的に実施した
- (オ)認知症対応型通所介護の定員増の準備をし、2022年4月より開始することができた

5. 地域における公益的な取組み

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| (ア) 中山間地域介護予防支援活動 | (延べ回数 1 回、延人数 13 人) |
| (イ) 高齢者サロン活動（伊平）の支援 | (延べ回数 6 回、延人数 84 人) |
| (ウ) 社会福祉法人利用者負担軽減事業 | (実人員 9 人、延人数 2,019 人) |
| (エ) 自主防災訓練（東黒田地区）の支援 | (実人数 53 人、延人数 53 人) |
| (オ) 熱海市豪雨災害に係る静岡 DWAT の派遣 | (実日数 1 人、延日数 3 日) |

【数値実績】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員（名）	30 名	40 名	20 名	35 名	
利用者延べ人数（名）	10,785 名	14,805 名	6,129 名	7,588 名	1,083 名
一日平均利用者数（名）	29.5 名	40.5 名	16.7 名	24.4 名	3.4 名
稼 動 率（％）	98.4％	101.4％	83.9％	79.9％	
稼動日数（延べ日）	365 日	365 日	365 日	310 日	
単価（一人一日当り）	13,233 円	14,428 円	13,686 円	9,782 円	
職員数（常勤換算）	45.5 名		15.7 名	15.8 名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9 名			10 名	
利用者延べ人数	3,271 名	1,590 名	566 名	2,653 名	0 名
一日平均利用者数	8.9 名			8.5 名	0 名
稼 動 率	99.5％			85.5％	
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	310 日	
単価（一人一日当り）	14,003 円	17,768 円	3,939 円	12,679 円	
職員数（常勤換算）	8.6 名	4.0 名		5.9 名	
	訪問介護		居宅介護 {障害}	配食サービス	在宅介護支援 センター
	介護	予防			
利用者定員					
利用者延べ人数	1,914 名	1,199 名	497 名	1,729 名	
一日平均利用者数	5.3 名	3.3 名	1.3 名	5.9 名	
稼 動 率					
稼動日数（延べ）	361 日		361 日	293 日	365 日
単価（一人一日当り）	4,744 円		3,363 円	677 円	
職員数（常勤換算）			5.5 名		
	合計				
利用者定員					
利用者延べ人数					
一日平均利用者数					
稼 動 率					
稼動日数（延べ）					
単価（一人一日当り）					
職員数（常勤換算）	101.0 名				

聖隷ケアセンターいなさ

2021 年度は地域の高齢化や介護や生活の担い手不足の影響により生活に困難さを訴える事例が多く見受けられた。また、8050 世帯で象徴されるような複合課題を抱えた世帯も増加し、地域の困りごとの質の変化や感染症の影響も続いた。地域実状に対応できるよう、拠点機能を活かし、法人内の病院、施設、サービス事業所を中心として介護分野、障がい分野等の地域の支援者などとの連携を強め支援を行った。

1. 連携による地域ニーズへの対応

(ア) 聖隷法人内関係機関との連携

①リハビリプラザいなさ

訪問看護ステーションと連携し、早期の変化への対応など状態の悪化予防への取り組みにより 2021 年度比で入院者の数を減らすことができた。

②ケアプランセンターいなさ南部

聖隷三方原病院からの相談や依頼を多く受け、退院後の在宅療養の支援を行った。また、これまでいなさ愛光園の利用実績のなかった地域利用者が利用を開始するなどの結果に結びついた。

③地域包括支援センター細江

聖隷三方原病院看護相談室やケアプランセンターいなさとの定期的な事例検討会を通し、単独機関での対応が困難事例への協働対応を行った。

(イ) 地域関係機関や団体との連携

①障がい分野や自立支援分野等との支援者ネットワーク会議を開催し、8050 世帯などへの支援の強化体制づくりを行った。

②地域の学校（小・中・高・大学）と協働し、認知症の周知や社会資源のアプリづくりを行い、地域へ情報発信を行った。

③災害、感染症拡大時その他の非常事態時の事業継続の為のネットワーク強化を目的とし、地域の居宅介護支援事業所と協働して研修を行い、非常時への備えを進めた。

2. 経営の安定化の推進

(ア) リハビリプラザいなさ

①リハビリプラザいなさサテライト三ヶ日での稼働曜日を増やし受け入れ人数を拡大した。

②在宅での生活の支援に視点を置き、体調管理を訪問看護ステーションと協働して行った。安定的な利用により入院などの体調不良による欠席者を減らすことができた。

(イ) ケアプランセンターいなさ南部

①訪問看護ステーション及び市内外病院からの新規在宅療養者やケアマネジャー不足地域における新規担当を積極的に引き受け、担当件数が増大した。

(ウ) 地域包括支援センター細江

①増加を続ける介護予防支援及び介護予防マネジメントを滞りなく提供した。

3. 地域における公益的な取組

聖隷ケアセンターいなさ全体

- (ア) ロコモ事業による健康づくり、ノルディックウォークの自主運営サークルの支援を行った。
- (イ) 認知症の早期発見と認知症の周知を目的とした軽度認知障害（MCI）チェックテストを聖隷クリストファー大学の学生と協働し地域サロンで実施した。
- (ウ) 静岡大学、聖隷クリストファー大学の学生と協働し、地域の社会資源アプリを作成し、住民及び地域ケアマネジャーを中心とした支援機関に提供した。

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

予防支援/マネジメント A・B	内再委託件数	予防ケアマネジメント 単価（円）	職員数 （常勤換算）
予防支援 4,246 件	3,209 件	4,471 円	10.1 名
マネ A 2,933 件	2,103 件	4,471 円	
マネ B 1,198 件	-	3,246 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
1,800 件	300 件	15,800 円	4,100 円	25 件	4,000	4.6 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 （常勤換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
26.4 人	682.1 人	8,186 人	108.8 人	1,306 人	6,944 円	27,756 円	14.0 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

【事業報告】

1. 浜松市北部エリアにおいて「地域に求められる」ケアセンターになる
(ア) 事業団内の病院・障害施設との連携を図りながら継続的に新規利用者を受け入れた。
(イ) 終末期の関わり方に必要な知識を習得するための勉強会へ各自で参加したが、一部の職員にとどまり、事例検討会は行えなかった。
2. 利用者の思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
(ア) 利用者の思いを形にするためのケアの質の向上を図る。
 - ①デイサービスセンター三方原
通所リハビリからの利用者を積極的に受け入れ、地域の居場所となる場へつなげていけるよう働きかける。
科学的介護推進体制加算・個別機能訓練加算・ADL維持等加算の取得に向けて入力しやすいようマニュアルを作成し、入力業務を分担し、加算が取得できた。
 - ②ケアプランセンター三方原
ターミナルケアマネジメント加算算定に向けて必要な制度の理解ができ、訪問看護ステーションとの連携強化をはかることができた。
 - ③訪問看護ステーション三方原
事例検討を通して家族・本人の思いを確認しながら終末期ケアを提供することができた。
外部講師を招いての勉強会・事例検討会は継続でき、ケアの内容について振り返ることができた。
3. 地域における公益的な取り組み
(ア) 地域のシニアクラブへの出張講座を2事業所共同で開催できた。
(イ) 三方原協働センターでのロコモーショントレーニングサロン活動の内容を見直し、21名まで参加者を増やせた。
(ウ) 地域活動（清掃活動・防災訓練等）は中止となり、参加できなかった。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数（人）		月訪問件数（件）		年訪問件数（件）		単価（円）		職員数 （常勤換算）
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療	14.6
116	70	475	366	6,110	4,803	8,681	10,587	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数（件）		平均単価（円）		訪問調査 年間件数（件）	訪問調査 単価（円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
1,949	409	16,014	3,935	10	4,400	6.4

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

平均利用者数（人）		月利用件数（件）		年利用件数（件）		単価（円）		職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	介護	予防	介護	予防	19.9
101	77	838	77	10,060	4,791	6,444	30,822	

共生型サービス自立訓練・機能訓練（聖隷デイサービスセンター三方原）

平均利用者数（人）	月利用件数（件）	年利用件数（件）	単価（円）	職員数 （常勤換算）
6	37	449	8,438	19.9

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

2021年度は、施設理念である「地域の社会資源と連携し、利用者に安心を届ける」ことを念頭におき、地域のニーズを捉えより良いサービスの提供・頼られる事業所をつくることを目標として活動してきた。特に地域の医療機関やサービス提供事業所との顔の見える関係づくり、新規紹介者を断らない姿勢の継続、積極的な広報活動に取り組んだ。湖西市においても新規利用者紹介に繋がっている。

今後は、利用者により良いサービスを提供する事を継続しながら、地域住民の疾病・介護予防に対する意識向上を目指せるよう聖隷内事業所と連携し、支援していく。

1. 医療機関・サービス提供事業所との関係を強化する

積極的な営業活動や勉強会の開催を通して、地域の医療機関・サービス提供事業所との関係強化に取り組んだ。また、日本難病看護学会認定の難病看護師による勉強会を事業所にて開催し、難病に対する理解に努めた。

2. 聖隷三方原病院との連携継続

コロナ禍で厳しい状況であったが、退院前ケアカンファレンス開催を積極的に依頼し、スムーズな在宅移行ができるよう情報共有に努めた。

3. 聖隷内の連携

聖隷リハビリプラザいなさサテライト三ヶ日と定期的に利用者の情報共有を行い、相互の新規利用者の獲得に繋がった。聖隷ケアセンターいなさとは、定期的な会議に加え、平時より相談体制を整え、新規利用者増加に努めた。

4. 地域における公益的な取組み

北区の薬剤師に向けて、訪問看護について説明する機会をいただき、訪問看護の普及に繋がった。

【数値実績】

利用者数		訪問件数		単価	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均		
978 名	82 名	4,695 件	391 件	9,688 円	4.49 名

浜北愛光園

浜北愛光園特別養護老人ホーム	浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東	聖隷ケアプランセンター浜北
地域包括支援センター北浜	訪問看護ステーション貴布祢
聖隷チャレンジ工房浜北	生活介護事業所きらめき

2021年度は、新型コロナウイルス感染症が未だ終息の見通しが立たない中、市中の感染状況を伺いながら面会・外出制限の段階的な解除の実施、感染対策を行った上での行事開催、利用者の「やりたい」を尊重した個別レクリエーションの実施等、コロナ禍で制限が多い中でも利用者が自分の意思を表出し、その人らしい生活が営めるよう支援する取り組みを継続して取り組んだ。

2020年度から継続している ICT を介護分野に導入し、業務の効率化・ケアの質の向上を図る取り組みは、2021年度にインカム、見守り支援システムを 1, 2 号館に導入し、既に導入済のタブレット型介護記録システムと合わせて介護 ICT 化の大部分の実装化を果たした。インカムの導入によりコミュニケーションの活性化、見守り支援システムの導入により職員の業務負担の軽減、事故防止対策の向上が図られた。また、これら ICT 機器の運用を進める過程で、新たにフロア・職場の枠を越えて横断的に業務を行う職員の試験的導入を行い、介護・福祉職の新たな働き方の創出に取り組むことができた。

1. 制度の枠を超えた支援体制の構築

- (ア) 地域で困っている人に対して、その人だけでなく家族全体が抱える課題についても複合施設として支援できないか検討、実践した。結果、短期入所利用につなげることができた。
- (イ) 地域サロンへ赴き、地域の困りごとをヒアリングした。コロナ禍による訪問自粛により訪問回数の減少したこと、自治会活動への参加もままならなかったため、地域と疎遠傾向となった。また、近隣企業への訪問、ヒアリングを通じてリワーク支援につながる事例があった。
- (ウ) 浜北愛光園内の在宅サービス利用者が施設入所する際に在宅サービス職員、入所職員がサービス担当者会議を実施し、利用者の在宅時からの生活歴や趣味、病態等の情報共有、伝達を行った。

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 入所前訪問を専門職数名で行うことで、漏れのないニーズ抽出に努めた。入所後の意向もサービス担当者会議や看取り期のムンテラ等を通し、利用者・家族の意向を具体的に把握し、ニーズに即したサービス提供に努めた。また、職員に対する質の評価として職場間で相互チェックを実施し、サービスの質の向上に努めた。
- (イ) リスク管理について、事故防止のためのマニュアルや運用の変更に留まらず、人員配置や備品購入等経営資源を含めた視点からも対策を検討しリスク回避を図った。また、見守り支援システム導入により映像による事故分析が可能となり、事故防止対策の立案が

根拠に基づき行えるようになった

- (ウ) 多職種・多事業所が連携し、支援困難者の受け入れを随時検討し、調整が図れた。在宅時から施設入所までの情報共有シートの作成、運用ができた。
- (エ) 利用者のやりたいことを聞き取り、日常の中でやりがいや喜びを得られるレクリエーションを企画した。また、個別の活動を充実させるために、フロア、職場の枠を超えた業務横断的職員を配置し、職員が利用者にかかわる時間を増やしレクリエーションを充実させることができた。
- (オ) より適切な認知症ケアの実践を行うために、普段の接遇の様子を映像に記録し、職場会議・認知症プロジェクトで振り返りを行い、対応方法、技術の見直し及びスキルアップを図った。

3. 新たな働き方の創造

- (ア) 外部研修の殆どが新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン研修に切り替わったため中止になることはなく、喀痰吸引研修等、予定通りに受講することができた。
- (イ) 新人教育のみならず感染やリスクマネジメント研修といった法定研修もe-ラーニングに移行した。同時に施設内階層別研修（新人・中堅・リーダー・プリセプター研修）を充実させ、OJTと組み合わせて効果的な教育、研修を実施した。
- (ウ) 業務の切り出しを進め、介護員とケアサポーターの業務の切り分けは順調に進められた。ケアサポーターから介護職員への職種変更はなかったが、ケアサポーターとして業務の幅が広がり、見守り、レクリエーションにおいて活躍するケアサポーターが増加した。
- (エ) インカム、見守り支援システムを導入し、職員の業務負担の軽減、業務の省力化、自動化を推進した。また、シャワー入浴装置の導入により、短時間で温まることができ、利用者の身体負担を軽減した入浴が可能となった。
- (オ) 介護・福祉職の「やりたかった」、「やりたい」を集約した結果、利用者の「やりたい」とも合致する内容が数多くあり、それらをレクリエーションとして具現化した。特に個別レクリエーションに注力した結果、実施過程で利用者との交流の機会が多く得られ、その人となりにより深く知れたことは収穫であった。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 稼働年数、必要度を評価しながら適切な設備更新を実施できた。
- (イ) LIFE 関連加算をはじめ、2021 年度介護報酬改定にかかる加算を順調に取得できた。また、適正な人員配置につとめ、人件費コントロールを行うことができた。
- (ウ) 消耗品の見直しを随時実施する等費用コントロールに努めた。また、業務委託契約の見直しを行い、適切な委託契約の締結に結び付けることができた。

5. 全世代を対象とした地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣の福祉施設と福祉避難所の相互連携について打合せを行った。地域の防災訓練等へは参加できなかった。
- (イ) 新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
					一般型	予防	
		従来型	ユニット型	従来型	ユニット型		
利 用 者 定 員	50 名	100 名	20 名	20 名	40 名		
利 用 延 数	18,350 名	36,058 名	5,799 名	6,229 名	7,817 名	131 名	
一日平均利用者数	50.3 名	98.8 名	15.9 名	17.1 名	21.4 名	0.4 名	
稼 動 率 （ % ）	100.5%	98.8%	79.4%	85.3%	64.5%		
稼動延日数	365 日	365 日	365 日	365 日	308 日		
平 均 介 護 度	4.2	3.8	3.0	2.6	2.2		
単価（一人一日）	12,515 円	14,253 円	11,388 円	13,801 円	10,399 円		
職員数(常勤換算)	32.1 名	67.1 名	10.2 名	12.7 名	16.9 名		2.5 名

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
182名	912件	10,950件	10,136円	14.1名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
2,137件	366件	16,505円	3,879円	5件	4,400円	7.2名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	職員数 (常勤換算)
36,200千円	3,914件	1,711件	4,471円	6.1名

■聖隷チャレンジ工房浜北/生活介護事業所きらめき

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	職員数 (常勤換算)
就労移行	15名	1,912名	48.7%	262日	9,030円	11.6名
就労継続	25名	6,423名	85.6%	300日	7,802円	
就労定着		124名			29,234円	
生活介護	20名	2,720名	56.2%	242日	7,487円	5.6名

森町愛光園

2021年度森町愛光園は、新型コロナウイルスの蔓延により大きな影響を受けた1年となった。

入所サービスにおいては、例年開催されている納涼祭や敬老会等の行事が、2020年度に引き続き家族を招いての開催が出来ず、職場ごとでの開催となった。また、家族や友人との面会や外出についても、長い期間の制限をせざるを得ない状況が続き、利用者の想いに応えていく支援としては充分とは言えない1年であった。

在宅サービスにおいては、「暮らし」と「リスク」のバランスをとりつつ、安心して信頼のできるサービスの提供に努めた。一人暮らしの在宅利用者で新型コロナウイルス陽性者が発生した際も、訪問介護員と介護支援専門員が協力して自宅療養の支援にあたった。

障がいサービスでは、聖隷放課後クラブはなえみ森町において、新1年生と継続利用児童との利用調整を行い、過不足なく利用できる体制を整えた。相談支援事業所森町においては、相談件数が開設時の想定を下回っており、2022年3月末をもって単独事業所としての運営を終了し、「聖隷相談支援事業所浜松東」のサテライト事業所として運営することとした。

最後に、2022年3月に、新型コロナウイルス感染症が集団発生してしまった。感染症により重症化した利用者・職員はいなかったが、利用者の日常生活や、職員の負担等大きな影響があった。

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの追求

- (ア) 利用者と家族や友人との関わりが減る中、情報提供や面会方法の工夫を行い、利用者の想いを大切にしたい支援を行った。
- (イ) 楽しみのある生活を目指し、行事食・おやつ等の充実に取り組んだ。しかし、買い物・外出企画は行う事ができなかった。
- (ウ) 「虐待の芽チェックリスト」を実施し、評価及び対策を立案し取り組んだ。
- (エ) 給食委託業者との協働のもと、利用者個々の嗜好に合った献立を考え、楽しみのある食事の提供を行った。

2. 人材育成と働きがいのある労働環境の推進

- (ア) 専門職ラダーとeラーニングを活用し、人材育成に取り組んだ。
- (イ) 記録時間の削減のため、介護記録システム導入に向けた検討を行った。
- (ウ) 夜勤体制を見直したが、体制を変更するまでに至らなかった。
- (エ) 会議・委員会・研修の在り方としてデスクネットの回覧機能を活用した。

3. 健全経営の推進と衛生管理・防災管理体制の向上

- (ア) 2022年3月に従来型施設より新型コロナウイルスの感染者が発生してしまった。
- (イ) 介護報酬改定に対応し、新たな加算取得を目指した。
- (ウ) 在宅サービス事業所は、居宅介護支援事業所を訪問し利用者確保に努めた。また、待機者及び新規利用者確保のため、特に袋井市の社会資源を中心に関係作りを行った。
- (エ) 2022年3月末をもって相談支援事業所森町の事業廃止を決断した。

4. 地域共生社会の実現に向けた取組

- (ア) 在宅と施設相談員の職場を統一し、利用者の複合的な課題に対応していく環境を整えた。
- (イ) はなえみ森町において、児童と施設利用者や地域住民との交流はできなかった。
- (ウ) 一宮幼稚園と DVD を活用した交流を行うことができた。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 静岡県共同募金会「赤い羽根共同募金会」災害ボランティア活動資機材整備事業により、敷地内に資機材倉庫を設置した。
- (イ) 地元小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入れはできなかったが、特別支援学校や、高校や福祉系学校の介護実習は受け入れを行った。
- (ウ) 一宮地区の地域課題解決に向けて、話し合いの場に職員派遣を行った。

【数値実績】

【表Ⅱ-Ⅰ】

	特養		天宮サライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名		
利用者延べ数	21,101 名	6,930 名	10,188 名	2,871 名	7,477 名	1,199 名	
1 日平均利用者数	57.8 名	19.0 名	27.9 名	7.9 名	24.3 名	3.9 名	
稼働率	96.4%	94.9%	96.3%	65.6%	67.1%		
稼働日数（延べ）	365 日		365 日	365 日	308 日		
単価（一人一日当り）	13,679 円		13,914 円	11,440 円	9,421 円		
職員数（常勤換算）	38.1 名	12.4 名	20.2 名	6.7 名	13.8 名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護
		介護	予防	介護	予防	障害	合計
利用者定員							
利用者延べ数		1,908 名	290 名	4,611 名	936 名	403 名	
1 日平均利用者数				12.8 名	2.6 名	1.1 名	
稼働日数（延べ）				359 日			
単価（一人一日当り）		15,168 円		4,193 円	4,698 円		
職員数（常勤換算）	0.1 名	4.9 名		5.8 名			102.0 名
	放課後等 デイサービス	相談支援事業		障害 合計			
		特定相談	障害児				
利用者定員	20 名						
利用者延べ数	4,022 名	90 人	222 人				
1 日平均利用者数	17.3 名						
稼働率	86.6%						
稼働日数（延べ）	243 日						
単価（一人一日当り）	8,483 円						
職員数（常勤換算）	7.4 名	0.6 名		7.5 名			

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

2021年度は、「つながりからの利用者支援の価値の創造」を目的とし、地域への情報発信（広報活動）と事業所間の連携を強化する取り組みを開始した。職員が地域との協同や事業所間のつながりを意識し、複合的な課題を抱える家庭への重層的な支援を提供することができた。また、地域に根差した運営となるよう、行政と「発達支援の在り方・子育て支援センターに求められていること等」を意見交換し、磐田市子育て支援総合センターのびのび・磐田市発達支援センターはあと・磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センターの受託事業を継続することとなった。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

（ア）聖隷こども発達支援センターかるみあ・聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① 療育目標に沿った支援を積み重ねられるよう、日案を見直した
- ② 職員それぞれの療育感を共有し、子どもの長所を活かした支援方法を実施した
- ③ 磐田市全小学校へ“はなえみ通信”を配信し、事業所の理解促進と連携強化に努めた
- ④ 「ペアレントプログラム」で“行動を見る視点”を学び、アセスメントに活かした
- ⑤ 感染対策を講じて実施できる社会体験、外部講師・団体を招いての親子行事を行った
- ⑥ 保護者が子ども理解を促進できるようビデオを活用したグループワークを開始した
- ⑦ 行事や講座の開催は、感染対策のためオンラインを活用することが多く、保護者同士のつながり・子どもの成長を実感する場の確保は課題である

- ⑧ 中学卒業後の進路選択に関する不安軽減のため、先輩ママの体験講話を開催した
- ⑨ 保護者に地域で相談できる場所を提案するもつながらないケースが多く、安心して相談できる場を確保する取り組みは継続課題である
- ⑩ 保護者と関係機関が子どもの状態を分かち合えるよう、担当者会議を開催した

(イ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 新規作業や作業訓練時間のシフト制を開始し、ご利用者の“できる”を増やした
- ② ご利用者が当日の作業担当を決める仕組みを導入し、役割の明確化と主体性を育んだ
- ③ 月に1回グループワークを実施し、ご利用者がステップアップを意識する場を設けた
- ④ 就労定着率向上のため、“働き続ける”をご利用者と考え、必要な支援を明確化した

(ウ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① 職員が保護者に寄り添い同じ視点で関わることを通して、子育て感を自ら語り、子どもの得手不得手を理解する保護者が増えた
- ② コロナ禍がもたらす言語発達への影響に対応するため、言語発達の検査を導入した
- ③ 発達支援の在り方について、磐田市と協議し、“理想とする姿”を共有した

(エ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① 複合課題のある世帯に対して関係機関と連携し、途切れのない支援を提供できた
- ② 退院前カンファレンスや情報交換にて、退院後の支援の役割分担を病院と共有できた
- ③ 生活応援クラブと就労支援事業所が協働する体制を社会福祉協議会とともに整えた
- ④ 民生委員と「高齢者の実態把握にて自治体がない地区」の対応を協議した

(オ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① 多様な課題を抱える子育て相談は、専門機関と連携し継続的に関わる体制を整えた
- ② ファミリーサポートの援助会員を対象としたフォローアップ講座を開催した
- ③ “子育ての孤立化”を防ぐため、市の感染対策に則してイベントを開催した

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

(ア) BCP 作成に着手し、全職員で研修を実施した

(イ) 業務分掌のマニュアル・年間計画を作成し、「目標とする姿」の意識化を行った

(ウ) 職員がリスク管理を主体的に捉えられるよう、類似事象を考える機会を設けた

(エ) 障害福祉サービス報酬改定の趣旨理解を目的とし、職員の研修を実施した

(オ) 所長・リーダーが主体的に運営する会議体を設け、職場目標管理を計画的に実施した

3. 地域における公益的な取組

(ア) 研修講師派遣 6 件、実習 2 件、ボランティアは定期的な受け入れを行った

(イ) 交流センター祭りへの作品展示、出前講座を通して、情報を発信した

(ウ) コンサルテーション 9 園・ペアレントプログラム養成研修をオンラインで実施した

(エ) 発達障害の支援の在り方について、磐田市と協議し“あるべき姿”を提言した

(オ) 乳幼児一時預かり保育において求められる「役割」を磐田市と意見交換し、公益的な取り組みとして継続実施とした

(カ) 地域の感染状況をふまえ、発達が気になる親子の療育と集いの場は不定期開催となった

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	はなえみ 放課後デイ	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練	チャレンジ 定着支援
利 用 者 定 員	30 名	—	20 名	14 名	15 名	6 名	—
利用者延べ人数	7,916 名	625 名	5,567 名	3,105 名	3,759 名	1,112 名	133 名
一 日 平 均 利 用 者 数	32.4 名	—	22.2 名	11.7 名	13.9 名	4.4 名	—
稼 働 率	108.1%	—	110.9%	83.4%	92.5%	73.8%	—
稼働日数(延べ)	244 日	244 日	251 日	266 日	271 日	251 日	—
単 価 (一人一日当り)	15,503 円	17,828 円	11,567 円	9,868 円	7,916 円	7,978 円	25,010 円
常勤換算職員数	17.5 名	1.7 名	12.7 名	6.5 名	4.8 名	1.3 名	0.3 名

	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	はあと	のびのび	南部包括	南部相談
利 用 者 定 員	—	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	—	—	—	—	—	—
一 日 平 均 利 用 者 数	—	—	—	—	—	—
稼 働 率	—	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	242 日	307 日	365 日	365 日
単 価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	—
常勤換算職員数	2.3 名		7.6 名	5.4 名	3.3 名	2.2 名

浅田在宅地区複合事業

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

2021 年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大により対応に追われる 1 年となった。その中でもステーションとケアプランセンターが連携することで安定した新規利用者の獲得ができた。また専門分野のスタッフによる勉強会の開催や同行訪問を通してより実践的な指導ができ、スタッフの知識とスキルの向上ができた。一方、コロナ禍で地域への公益的取り組みが前年度から実施できていないため、感染状況を確認しながら地域での役割を果たせるようにしていきたい。

【事業・運営計画】

1. ターミナルケアと障がい者支援に強い事業所になる。

- (ア) 緩和認定看護師による勉強会の開催や同行訪問にて、パート職員も実績を積むことができた。
ケアプランセンターは初回契約時に人生会議手帳を全員に配布し、早期から利用者の意思確認を行った。
- (イ) 認定資格取得者を中心に、勉強会や家族指導、同行訪問を行うことができた。
- (ウ) 若い世代の障がい利用者を就労に繋げることができた。精神疾患の利用者については、必要に応じて相談を行った。
- (エ) ステーションとケアプランセンター、訪問診療医（主治医）と連携し、タイムリーな関りができたことで在宅での看取り件数が増えた。
- (オ) コロナ禍で直接会えない中でも、電話や WEB 開催のカンファレンスに参加にし、連携することができた。カンファレンスが解禁されている病院については積極的に参加している。

2. 次世代の職員を育てる。

- (ア) 日常場面において管理者として必要なマネジメントについて指導できた。
- (イ) アサーションの勉強会を通してカンファレンスで発言できるスタッフが増えた。
- (ウ) 緩和ケア・栄養水分管理・心臓運動療法等の専門分野の勉強会を実施した。
また個別によるスタッフ指導も行った。

3. 働きやすい職場を作る。

- (ア) 席の周りで小グループを作り、アサーションを意識的に取り入れ話し合うことができた。
定期的に席替えを行うことでいろいろなスタッフと関わることもできた。
- (イ) ステーションとケアプランセンターで、必要に応じて利用者に対するカンファレンスを行った。また、短時間の小カンファレンスを行うことで、タイムリーな連携と利用者への支援ができた。
- (ウ) 研修参加者が勉強会を開催し、カンファレンスや職場会でスタッフを対象にアサーショントレーニングを行った。

(エ) 計画的な人員の確保はでき、ケアプランセンターは加算を算定することができた。

4. 防災・感染症対策を実践し、職員と利用者を守る。

(ア) 担当者を中心に、ステーション・ケアプランセンターともに災害時と感染症発生時のBCPを作成した。

(イ) コロナ禍のため地域の防災訓練は要請がなく参加できなかったが、職場内では、年1回BCPに沿ってステーションとケアプランセンター合同で防災・防犯訓練を実施できた。防犯面からインターホンを設置した。

5. 地域への公益的な取り組み

(ア) コロナ禍のため地域のサロンや老人会への講座は実施できなかった。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価（円）	職員数 （常勤換算）
173名	948件	11,377件	医療 11,446 介護 9,418	20.0名 (13.0)

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
1,064件	240件	14,500円	3,951円	16件	4,400	4.0名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2021 年度は 2020 年度同様、新型コロナウイルス感染症への対応が中心となった 1 年であった。浦安市特別養護老人ホーム・高洲デイサービスセンター・猫実デイサービスセンターの各事業にて利用者・職員の陽性者が発生し、経験の無い感染対応に職員一同で取り組んできたが、利用者のご協力、ご家族からのご協力やご支援、浦安市からの支援等を受けたことで何とか対応できたことに感謝したい。また、日々の感染予防対策の中で今までの業務を見直す機会が増え、感染予防の標準化が具体的となり、また面会や会議・記録等の ICT 化が加速され、その必要性も実感できた 1 年でもあった。コロナ禍で職員は心身ともに疲弊していたが、「利用者のために」と一丸となったことで団結力が強化された感もある。これらの経験を生かして 2022 年度は、with コロナの中で今一度入居者・利用者が安心安全に生活できること、職員の働きやすい環境づくりを意識して、更なる業務改善や新たな仕組みの導入に挑戦する年度としたい。

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

- ①施設サービス計画書は、入居者の状態変化時はその都度見直すことになっていたが、退院後や ADL 低下に伴う見直しが速やかにできていなかったケースがあった。
- ②コロナ禍ではあったが、密を避けながら工夫をしてレクリエーションを実施することができた。また、浦安南高校の体育祭を見学することができ、入居者に喜んでいただいた。
- ③対面面会や定期的に来園されるご家族とは、情報共有することができた。また、状態変化のある入居者に関しては、ご家族へ連絡し直近の状況について共有することができていた。しかし、新入居の方に関しては、入居後の様子について伝えることが不十分であった。
- ④事故への対応は、対策を立案することを優先し、事実確認が不十分なケースがあった。

(イ) ケアハウス

- ①緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、外出機会が限られ閉じこもり傾向が強まったことから、健康ウォーキング・クリーンデイや上映会を行い、フレイル予防に努めた。
- ②退去に係る条件整備について、浦安市高齢者福祉課と協議を開始した。
- ③浦安ベテルホームのリハビリ職員の協力を得ながら入居者の E-SAS チェックを定期的に行い、入居者と自身の状態を情報共有した。
- ④入居者とともに個々の転倒等の事故リスクを共有し、ケアマネジャーやサービス事業所、ご家族のご協力をいただきながら事故の予防に努めた。

(ウ) 通所介護

①高洲デイサービスセンター

個別機能訓練のみならず、余暇の時間にも利用者個々の状態に合わせて在宅生活に必要なと思われる動作獲得のための関わり、認知面へのアプローチを実践した。

②猫実デイサービスセンター

低栄養である利用者の栄養改善に向けた朝食サービスと服薬管理を継続的に支援したことで体調の安定化が図れた。また、生活の充実を図るために、自立支援と重度化予防に向けた科学的介護推進システムを導入した。各利用者の生活に欠かすことができない習慣や生活機能を維持するための機能訓練を支援したことで、年間の平均介護度は「1.6」を維持できた。

2. 職員が専門職としてやりがいを持って仕事に取り組むことができる

- (ア) 正職員は各職種のラダーを実施し、自己の能力を客観的に把握するとともに、目標参画を通じ、個々の職員の意識と取り組みを可視化することで、自主性の向上に取り組んだ。
- (イ) 介護周辺業務のパート職員の雇用は進んだが、更に業務内容の精査が必要である。
- (ウ) 新入職員は、3ヶ月プログラム〔無資格・未経験〕の内容に沿った育成ができた。OFF-JT とOJT を効果的に使い分け、育成システムに沿って実施・評価を行った。
- (エ) 浦安高洲地区全体で、1年目～3年目職員を対象に「若手のこえ聴かせて」アンケートを実施し、仕事に関するやりがいや悩み等の確認を行い、離職防止への新たな仕組み導入を開始した。(6月、12月)

3. 経営の安定化を図る

(ア) 特別養護老人ホーム

- ①迅速に入居決裁ができるように、紙の様式からデスクネットの回覧での決裁に変更して、申し込みから入居までの期間短縮に繋がった。
- ②新型コロナウイルス感染症の影響を受け、短期入所生活介護の稼働が低下したため、入居の空床ショート利用には至らなかった。

(イ) 短期入所生活介護

2021年度の措置受け入れは3名、緊急受け入れは14名であった。今後も受け入れ相談があった際に迅速に受け入れられるよう体制を整えていく。

(ウ) ケアハウス

- ①2021年度の公募停止により待機者がなく対応できなかったが、入居希望の問合せに対し、ケアハウスを利用できない場合の手段などについての情報提供に課題が残った。
- ②2021年度末に、浦安市と聖隷福祉事業団により、今後のケアハウスについて協議する進め方についての話し合いが開始された。

(エ) 通所介護

①高洲デイサービスセンター

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間の一平均利用者14.4名と低下した。中でも各居宅支援事業所との連携を密に図り、必要な情報提供は継続できた。基準緩和型デイサービスは未実施であったが、再開に向けて体制整備を進めた。

②猫実デイサービスセンター

毎月、居宅支援事業所への利用案内の情報提供と連携が図れたことにより、年間の一日平均利用者は 21.1 名となった。朝食、服薬管理サービスの提供による効果を定期的に各居宅支援事業所へ周知したことによって、年間の一日平均朝食サービス利用人数は、4 名以上を維持することができた。

- (オ) 介護周辺業務のパート職員が中心となり、働きやすい職場環境づくりを推進した。業務を可視化することで、必要な業務と無駄な業務の整理が明確となり、業務効率が上がった。
- (カ) 入居 3 階にて、見守りセンサーの試験的導入を行った。訪室前に心拍や脈拍等の確認ができるため、介護職員の精神的負担軽減に繋がった。

4. 防災体制の確立

高洲地区全体での実態に即した訓練実施やマニュアル改訂を行い、また BCP 体制の素案を作成した。BCP は 2022 年度上期で完成させて、2022 年度下期で訓練を実施する。

5. 地域における公益的な取組

- ・浦安市新町圏域地域支え合い会議の座長として、介護予防に資する住民主体の「通いの場」の創出に向けて定期的交流を継続した。
- ・うらやす健康・元気コンソーシアムにて、参加事業者と連携して Web 体操を継続実施して、地域のフレイル予防に寄与した。
- ・介護福祉士・看護師の実習受け入れを実施した。(延べ日数 102 日)
(東京福祉専門学校 4 名、慶応大学看護学部 4 名)

【数値実績】

	特 養	短 期	ケアハウス	高洲デイ	猫実デイ	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利用者延数	36,072 名	12,370 名	14,726 名	4,415 名	6,450 名	74,033 名
一日平均利用者数	98.8 名	33.9 名	40.3 名	14.4 名	21.1 名	—
稼働率 (%)	98.8%	67.8%	80.6%	57.7%	84.3%	—
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	365 日	306 日	306 日	—
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	—
職員数 (常勤換算)	68.6 名	24.5 名	7.2 名	9.2 名	9.3 名	118.8 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安

2021 年度は、感染対策および業務継続に向けた取組みを実施しながら安全・安心な入居者の日常生活を送ることができた。外出行事こそ制限したが、それ以外の園内行事や余暇活動は職員が創意工夫しユニット単位でサービスを提供することができた。経営面の大きな課題である待機者確保に向けて浦安せいいいの里内及び地域の居宅介護支援事業所等との連携を強化し、改善傾向にあるが予算未達、2022 年度へ課題継続となった。人材育成については 4 月新卒採用者に対して、無資格・未経験者育成マニュアルが稼働した。介護記録システム HIMVIT は予定よりも遅れてしまったが、3 月に導入することができペーパーレス化を促進することができた。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 安全・安心で質の高いサービスを提供する
 - (ア) 感染対策および感染対応を実施しているため制限はあったが、日常生活や余暇活動の支援を行った。特に少人数単位や個別のサービス支援が充実した。
 - (イ) 状態変化を早期発見できるよう、ユニットリーダー会議で日々の状態観察のポイント・記入と申し送り方法を決定し実施した。情報共有と多職種連携については、3 月に導入した HIMVIT の効果的な活用を 2022 年度継続課題とした。
 - (ウ) シーティング・ポジショニングについて、浦安ベテルホームリハビリ職に適宜相談ができた。
 - (エ) 職員 1 名が認知症実践者研修を受講し、施設内研修として認知症の理解を講義した。新人や無資格者が増えているため、基礎的な内容と事例検討を中心に行った。障害の理解については未実施であった。
 - (オ) アドバンス・ケア・プランニングについて高洲地区内での共通理解をするため、専任講師を招き合同研修を開催した。
2. 多様な人材の確保・育成・定着に向けた取組みの強化
 - (ア) 経営方針や事業計画を会議・委員会・個別面談等で直接伝えることができた。
 - (イ) シニア世代のケアサポーターの疾病による退職が顕著であったが、障がい者雇用については雇用率を維持することができた。
 - (ウ) 4 月の新卒採用から無資格・未経験者育成プログラムを実施、現場との乖離状況や課

題を整理し育成システムの見直しができた。

(エ) 新型コロナウイルスの影響で時期によっては職員が自宅待機する日数が多く、一部の職員が超過勤務でフォロー対応したり、すべて計画通りとはいかなかった。

(オ) FIP での取り組みを開始したが、入職 3 年以内の職員が 2 名退職した。

3. 地域共生社会の実現

(ア) はぐくみ浦安において、障がい福祉課や基幹相談センターからの依頼や浦安市高洲包括支援センターからの相談で多職種と連携をして実践に取り組んだ。

(イ) はぐくみ浦安において、定期的に浦安市の連携会議に参加。相談支援専門員が足りずサービス調整で困っている実情を把握し、新規受け入れを行った。

(ウ) 障害ショート相談は数件あったが、利用までには至らなかった。

4. 経営の安定と業務改善の継続

(ア) 稼働率 93.9%と予算未達成。待機者数の減少、事前調整の不足、入院者数増加が要因と考えられ、対策を実施するが成果がでるまで 1 年を費やしてしまった。

(イ) リフト浴について、安全性の向上と職員の負担軽減について千葉県に報告済。浴室を各階 1 か所に集約し、生産性を向上するという目標に対しては感染対策のため想定した協力体制がとれず思ったほど効果がでていない。

(ウ) 3 月に介護支援システム HIMVIT 導入済。運用については 2022 年度課題として継続。

(エ) 食事形態極刻みとムースの朝食を変更したが、むせ込みみられず安全な食事提供が確認できた。リヒートウォーマーを導入したことで、委託会社の人員の省力化ができた。

5. 地域における公益的な取り組みと地域貢献

(ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習受け入れを検討したが、コロナ禍では難しいと判断、実績なし。

(イ) 高洲中学校特別支援学級との交流継続を検討したが、コロナ禍では難しいと判断、実績なし。

(ウ) BCP 作成に着手したが、完成には至らなかった。2022 年度上半期完成、下半期訓練実施とする。

(エ) 社会福祉法人による利用者負担軽減制度 利用実績 1 名

【数値実績】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	－	－
利用者延べ人数	25,356 名	377 名	－
一日平均利用者数	69.4 名	－	－
稼働率	93.9%	－	－
稼働日数（延べ）	365 日	242 日	－
単価（一人一日当たり）	15,535 円	15,153 円	－
職員数（常勤換算）	48.7 名	1.0 名	49.7 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2021 年度の介護報酬改訂によって地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設の役割・存在意義が高まることとなり、医療機能、リハビリテーション機能、在宅生活支援機能が評価・重視されるようになった。地域における多様なニーズ・課題に多職種が連携して応えていく中で、医療機能の強化としては要望があった利用者の看取り対応を開始、またリハビリテーション機能の強化としては初めて言語聴覚士を採用配置、そして在宅生活支援機能の強化としては新たに訪問リハビリテーションの開始可否を検討した。入所においては年間稼働率が 90.9%で対予算 +1.9%（対前年+6.3%）で稼働予算達成、また従来型居室、ユニット型居室ともに 1 年を通じて在宅強化型を算定できた。通所リハビリテーションではコロナ禍における自粛利用が増えたこと等により 1 日平均利用人数が 35.0 名で、対予算で-3.7 名（対前年+0.3 名）と稼働予算は未達成であった。コロナ禍という社会情勢の中、利用者や地域との非接触での接点づくりとして SNS を開始、また開設以来 2 度目の経常増減差額での黒字達成となったことから現場革新に必要な ICT 導入のみならず、現場に必要な福祉機器を更新整備し、利用者・職員の安心安全向上に繋げた。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. エビデンスに基づく、利用者本位のケアの追及

- (ア) コロナ禍において、アクティビティ活動の範囲が制限されたが、計算、書字、大人の塗り絵等脳トレプログラムは実施できた。
- (イ) 施設内での感染症や転倒による入院は、2020 年度比 11.7%増と未達成であった。
- (ウ) 障がい者の受け入れ件数は 2020 年度比 15%増加。トライ&エラーを経て、障がい特性の理解やニーズ把握を OJT で学び、カンファレンスで深めながらチームとしての対応力を高めた。
- (エ) 利用中に看取り期に入られ、ベテルホームを最期の場所に選んでくれた利用者の看取りを 6 名実施。看護介護で看取りの学習および手続きや対応力の強化を図れた。
- (オ) 超低床ベッドや入浴機器等、必要な福祉機器更新を計画的に実施、利用者・職員双方の安全とケアの環境が向上した。

2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成

- (ア) 2021 年度は 6 項目のプロジェクト組織を構成したが、専門性や役割を発揮する場の創出は 2022 年度以降の課題となった。
- (イ) 法定研修や職員内外育成研修に Web 研修と学研 e - ラーニングを積極的に活用できた。
- (ウ) いいとこプロジェクトは職員の頑張りを役職者からの感謝状授与という形で表現できた。
- (エ) 職員が働くうえでの不安や悩みを早期に相談・サポートできる支援体制を構築するために、地区全体として 1～3 年目の職員に対し自己申告以外での意向確認する仕組みを導入

した。

(オ) 介護保険改正に伴ったフロア間連携（従来⇄ユニット）体制を確立したが、コロナ禍によって人流の交差を控えた為、実施には至らなかった。

(カ) タブレット型介護記録入力システム（HIMVIT）導入は 2022 年度へ延期することとなったが、インカム機器は継続使用して、業務効率に寄与している。

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化

(ア) 医療型短期入所事業を 12 月に開始、信頼を得ながら段階的に地域ニーズに応じていく。

(イ) 年間を通じて従来型居室、ユニット型居室ともに在宅強化型を維持算定できた。その中で経管栄養対応者の受け入れを増やす他 2022 年度での超強化型算定への下準備ができた。

(ウ) 通所リハビリテーションにおいて、市内のニーズに合わせた新たな運営体制を検討、2022 年度に実施すべく準備を開始した。

(エ) 施設運営のプロモーションを目的として SNS を開始した。

4. 防災・防犯体制の強化

(ア) 災害発生時に職員が適切で実践的な行動ができるよう、地震、火災、風水害、夜間帯想定各訓練を施設実態に合わせて実施した。

(イ) 年間を通じて、職員の同居者等の感染や濃厚接触者及び疑いが数件続き、その都度感染対応期間を設定、職員の感染対応力が高まった。またガウンテクニック等の習熟度も増している。

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

(ア) 「地域に向けたお役立ち情報」を定期的に発信するために、デュアルタスク体操の YouTube 投稿を 2 回実施した。

(イ) 地域包括支援センターを通じて日の出地区自治会で介護予防のリハビリ講座を実施した。

(ウ) 1F にある中庭を有効活用するため、地域ボランティアを受け入れ、花壇作り等憩いの場整備に取り組んだ。

6. 社会福祉施設の役割遂行

(ア) 生活保護受給者の受け入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準（10%）を満たした運営を行うべく、あらためて市外含め周知活動を行ったが未達成となった。

【数値指標】

	入所			通所リハビリ		合計
	従来	ユニット	短期入所	一般(短時間含)	予防	
利 用 定 員	56 名	44 名	空床利用	45 名		145 名
利 用 者 延 べ 数	18,948 名	12,437 名	1,776 名	9,718 名	1,062 名	43,941 名
一日平均利用者数	51.9 名	34.1 名	4.9 名	31.6 名	3.4 名	-
一日平均利用者総数	90.9 名			35.0 名		125.9 名
稼 動 率	90.9%			77.8%		-
稼動日数(延べ)	365 日			308 日		-
単価(1 人 1 日当り)	15,575 円			11,775 円		-
職員数(常勤換算)	-			-		83.3 名

聖隷ケアプランセンター浦安

2021 年度は、2020 年度同様に新型コロナウイルス感染予防に努めた 1 年であった。利用者、家族とのモニタリング面談や退院前の会議等あらゆる場面でリモート等の ICT を積極的に活用することで、他の業務改善に繋げることもできた。

地域包括システム遂行に向けては、同法人との更なる連携強化に向けて、課題とその解決方法を見出すことができ、2022 年度にその仕組みを実践する。

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムの遂行

- (ア) 浦安ベテルホームを中心に連携を図り支援を行うことができたが、今後浦安市内の高齢化が高まっていくことを踏まえ、同法人との更なる連携・共同が必要になっている。
- (イ) 2021 年度は人員の関係で加算を取得することはできなかったが、浦安市内の医療関係者との連携については円滑に行い、利用者の支援ができた。

2. 利用者が安心して相談等を行える質の高いサービスを提供

- (ア) リモートでの事例検討会や研修会に参加をして個々のスキルアップに繋げることができた。
- (イ) 相談支援スキルラダーは、今回上位レベルを申請せず、苦手なところなどを解消できるよう 1 年間取り組みを行った。

3. 安定した経営と働きやすい職場づくり

- (ア) 1 月から年度末にかけて入院者が多くなり、新規のケースを受け入れても賄うことができず、下半期は予算未達成であった。
- (イ) 1 年を通じて業務の洗い出し、職員間の業務の振分け等を行い、全体で超過勤務時間を削減することができた。

【数値実績】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価（1 人 1 日当り）	職員数 （常勤換算）
—	1,502 名	242 日	15,932 円	3.2 名

浦安せいれいクリニック

2021 年度は、管理医師不在等の理由により休診、2022 年 3 月 31 日付で廃止することとなった。

聖隷訪問看護ステーション浦安

2021年度は、サテライト稲毛海岸との一体的な運営の継続のため4月から正職員2名を増員し、緊急対応含め安定した利用者対応を目指した。職員の育成をしながら、予算達成を目指して新規依頼を受けてきたが、10月末に正職員1名（看護師）、12月末にパート職員（作業療法士）の退職が続き、その後の人員配置ができず、新規利用者受け入れをコントロールせざる得ない状況になった。職員超過勤務は30時間超が続き、運営と経営のバランスを取りながら調整する一年となった。次年度は、医療保険、介護保険ともに加算取得の申請をし、訪問単価を上げることで安定した収益を確保する方向で事業目標を立てている。

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションになる
 - (ア) ターミナルケア算定は、20件/年の在宅看取りを行っており、加算取得につながった。
精神障がい訪問は、職員の訪問の評判から新規依頼が増えた。またアロマを使った看護ケアについても利用者や医師から高評価を得ている。
 - (イ) 東京海上日動ベターライフサービス㈱と、情報共有しながら同一の利用者に訪問する等、良好な連携が取れている。
 - (ウ) コロナ禍のため、研修会や連携会はオンライン開催が定着している。また市内の訪問看護ステーションが集まって協議する場に参加、情報共有ができた。
2. 聖隷訪問看護ステーション浦安サテライト稲毛海岸の経営を安定させ、開設から3年で独立運営できる基盤づくりをしていく
 - (ア) 職員退職後も新規を受け年間で訪問件数予算比633件増（昨年度比611件増）となった。
 - (イ) 浦安とサテライトの訪問を兼務でこなす一体的な運営が継続できた。
 - (ウ) サテライト稲毛海岸勤務としてパート職員1名を新たに採用、育成をしている。
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) 職場目標の共有と目標参画は実施できた。役割分担しながら、職場運営を行った。
 - (イ) 職員の看護の質の向上への意識が高く、オンライン研修による外部研修参加が増えた。
 - (ウ) 業務改善に向けて、スケジュールツール導入を検討、業務短縮を目指した。
4. 地域における公益的取組
 - (ア) サテライト稲毛海岸では、建物内併設のケアローソンにて、月の一度の健康相談を継続実施することができた。

【数値実績】

	介護（有償含む）		医療		合計		
	浦安	サテライト	浦安	サテライト	浦安	サテ	計
利用者	530名	160名	475名	86名	1,005名	246名	1,251名
訪問件数	3,038件	993件	3,426件	834件	6,464件	1,827件	8,291件
単価（1件当り）	9,165円		10,459円		9,829円		
職員数（常勤換算）					平均 10.3名		

浦安市高洲地域包括支援センター

2021 年度も、コロナ禍によって「通いの場」も自粛を余儀なくされ、地区の情報収集や課題を検討する会議自体も積極的には行うことができず、地域の活動は足踏み状態であった。

担当圏域では新型コロナウイルス感染症が市中で蔓延するのに合わせ、センター訪問を控える傾向が増加した為、状況に応じて周知活動を行うとともに、生活の場へ出向いての相談を実施した。また困難ケースにおいては、関係機関との情報共有・連携のもと速やかに対応を行った。

【事業・運営計画】

1. 地域における機能と役割の強化

(ア) 地域での活動に制限がある中、可能な範囲でオンラインに切り替えてサロンや会議を開催することができた。しかし活動自粛によるフレイルの進行で介護サービスの相談も増加、2022 年度以降の介護予防普及啓発に課題が残った。また表面化していない課題を抱える方に情報が届くようメール配信を開始し、地域からの相談につながるよう民生委員や老人クラブへの周知を適宜行った。

2. 専門職としてのやりがいの創出

(ア) 相談内容が年々多様化しており、地域包括支援センター内でのケース検討会を実施することで、チームでの支援体制を強化した。また関連機関との情報共有や法人内での連携のもと相談対応を行うことができた。研修は職種ごとに必要なもの、相談対応状況に合わせてオンラインで受講した。

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	職員数 (常勤換算)
39,400 千円	予防支援 1,074 件	367 件	4,800 円	5.4 名
	マネA 495 件	60 件	4,800 円	

松戸愛光園

松戸愛光園特別養護老人ホーム
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸

2021年度の松戸愛光園は、新型コロナウイルス感染症対応を続けつつ、各事業が試行錯誤を重ねながら利用者主体の支援を継続することができた。また、昨年延期とした空調・介護浴槽更新や見守り機器導入などの設備更新や新規導入工事を計画通り実施することができた。

今後も地域の福祉の拠点として、各事業が利用者ニーズに合わせた支援を提供していく。

1. 高齢者・障がい者の個別ニーズに合わせた専門的なサービスの提供

- (ア) 入所・短期入所でのケアプランを基に、利用者の生活リズムに合わせたケアを提供することができた。
- (イ) 多職種での協働により、利用者の状態に合わせた看取りケアや機能訓練などのケアを提供できた。
- (ウ) 通所介護事業では、機能訓練が必要な軽度の利用者から医療的ケアが必要な中重度の利用者まで、ニーズに合わせたサービス提供が実施できた。
- (エ) 居宅介護支援事業では、地域の医療機関との連携により在宅でのターミナル利用者の支援を実施できた。
- (オ) 共生型生活介護については、障がい特性に応じた個別のプログラムを検討し実施できた。

2. 働きがいと成長を実感できる職場づくり

- (ア) 専門職ラダーやWEB研修等を活用した人材育成を実施した。
- (イ) EPA職員や無資格職員を各1名採用し施設内での学習支援を実施した。
- (ウ) デジタル化を進めて、業務のペーパーレスを進めることができた。
- (エ) 感染対策を続けながら、各専門職養成校の実習を受け入れることができ、就職に繋げることができた。

3. 設備更新によるデジタル化や効率化の推進

- (ア) 記録システム等を活用し、効率的な記録業務を実施できた。
- (イ) 見守りシステムを導入し、効果的な活用方法について検討できた。
- (ウ) 空調・介護浴槽の設備更新を行うことができた。

4. 新たな手法での社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と共に実施していた、チャリティバザー、地域清掃活動は地域の感染状況により中止した。福祉学会については感染対策を検討したうえで実施することが

できた。

- (イ) 地域の二次福祉避難所として、実際の災害時を想定した必要物品の確保をすすめることができた。

【数値実績】

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用延数	35,909 名	6,331 名	58 名	5,331 名	1,790 名	263 名
一日平均利用者数	98.6 名	1.4 名	0.1 名	17.2 名	5.7 名	0.8 名
稼働率 (%)	95.7%	83.0%		69.1%		
稼働延日数	365 日	365 日		309 日		
単価 (一人一日)	15,166 円	14,972 円	14,918 円	11,120 円	4,106 円	9,301 円
職員数 (常勤換算)	71.5 名	13.7 名		14.7 名		

	ケアプランセンター		障害者 (児) 相談支援事業
	介護	予防	
利用者定員	—		—
利用延数	1,441 名	253 名	378 名
一日平均利用者数	—		—
稼働率 (%)	—		—
稼働延日数	—		—
単価	17,393 円	4,856 円	15,283 円
職員数 (常勤換算)	4.0 名		1.2 名

横須賀愛光園

横須賀愛光園 特別養護老人ホーム
横須賀愛光園 デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター
聖隷訪問看護ステーション横須賀
聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀

2021年度は、予てより計画をしてきた、老朽化した施設の大規模改修について、「介護施設等の大規模修繕に合わせて行う介護ロボット・ICT導入」、「介護施設等の整備（看護小規模多機能型居宅介護）にあわせて行う広域型施設の大規模修繕」、「高齢者施設等の非常用自家発電設備整備更新」など地域医療介護総合確保基金等の補助金の決定を受け、施設機能を拡充する形での改修工事に着手することができた。

そして、感染症による影響は受けつつも、各事業の稼働状況は順調に推移し、施設経営は全般的に安定することができた。今回の改修工事は2023年2月までと長期間を予定しているが、安全に実施することはもとより、働く職員にとっても魅力ややりがい創造できるよう進めていく。

1. 施設の継続性を意識した変革と新たな価値の創造

- (ア) 各種補助金の決定を受け、施設の大規模改修を開始することができた。非常発電設備の更新は完了し、その他改修については2023年2月の工事完了に向けてすすめていく
- (イ) 特別養護老人ホーム・デイサービスセンターにおいて、タブレット型介護記録入力システムHIMVITを導入し、ペーパーレス化と効率化に取り組むことができた

2. 働き方の改革と多様な人材の確保、育成

- (ア) 各職場長によるラダー、目標参画の実施やeラーニングを活用した研修が実施できた
- (イ) 『横須賀わくわくプロジェクト』を継続し、見守りシステムの導入検討を行うことができた
- (ウ) 求人活動において、動画の作成配信やオンライン見学等、柔軟な対応ができた
- (エ) 新型コロナウイルス感染等もあり、労働災害発生0件の達成は未達となった

3. 介護報酬改定に対応し、利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供

- (ア) 特別養護老人ホーム
 - ① リーダー会を中心にペーパーレス化や接遇改善に向けた取り組みの継続ができた
 - ② 新型コロナウイルス感染者などが発生したが、クラスターの発生はなかった
- (イ) 短期入所
 - ① 個別支援計画の整備については具体的な実施ができなかった
 - ② 全体稼働率は目標未達となったが、障がい短期入所については前年比157%と向上できた
- (ウ) デイサービスセンター
 - ① 提供プログラムの転換について具体的な計画作成や取り組みができなかった
 - ② 新型コロナウイルス感染症の発生による、休業が延7日間発生した

(ウ) 西第二地域包括支援センター

- ① 生活支援コーディネーターを配置が継続できた
- ② 人材育成については具体的な取り組みができず、予定された研修の参加のみとなった

(エ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ① 看護ラダーの実施や研修等の参加が実施できた
- ② 訪問スケジュール作成のペーパーレス化など業務改善に取り組むことができた

(オ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ① 訪問介護記録システムけあピアノートアプリの活用について、積極的に取り組み、登録ヘルパーの記録業務の電子化が進んだ
- ② 感染症対応等の影響もあり、事業所内のケース移行については未達となった

(キ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① 相談ラダーの活用と計画的な研修の参加ができた
- ② 特定事業所加算Ⅱの取得が継続できた

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域清掃活動や地域ボランティアセンター運営への参加が継続できた

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	64名	40名	16名	30名	—
利用延数	22,647名	14,260名	4,595名	6,077名	—
一日平均利用者数	62.0名	39.0名	12.5名	19.7名	—
稼働率(%)	96.9%	97.6%	78.6%	65.7%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	308日	—
単価(1人1日)	12,647円	15,411円	10,753円	10,111円	—
職員数(常勤換算)	34.5名	25.3名	7.3名	9.2名	4.8名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	116.0名	43.4名	85.7名	14.5名	27.0名	—
月平均訪問件数	585.2件	287.3件	1006.6件	59.9件	251.8件	—
単価	11,146円/件	12,059円/件	4,931円/時間	4,132円/時間	4,564円/時間	—
職員数(常勤換算)	13.6名		7.9名			

聖隷ケアプランセンター横須賀						
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,788件	125件	17,999円	3,864円	39件	4,186円	5名

宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護

宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ

宝塚すみれ栄光園園内保育所、宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が継続する中、利用者、家族に安心と安全を提供する取り組みを継続した。フロア・ユニットごとの行事企画増加、簡易陰圧装置の台数増や見守りセンサー機器の全床設置、介護記録システムの機能アップ、まん延防止措置や緊急事態宣言発出中でも家族が安心して会える面会室の設置を行った。入居者、利用者から新型コロナウイルス感染者は出なかったが、職員並びに職員家族の感染者は発生しており、職員が出勤出来ない状況が重なった事でデイサービスは数日間休止せざるを得ない状況も経験した。その為、家庭内での感染拡大防止について職員、委託業者に啓蒙を行った。感染対策の徹底から施設内感染はなかったが、年間の退居者数 37 名、入院者数 53 名と、特に 12 月以降に体調不良者、退居者が多く見られた。

短期入所、デイサービスセンター、ケアプランセンターの在宅事業は、稼働率、紹介率といった数字を意識すると共に、繋がらなかったケースを振り返る事で、次に繋がる情報共有が進んでいる。また、開設より 2 年目となる権利擁護支援センターでは、各専門職団体の権利擁護・成年後見ネットワークの構築や市民後見人の養成について見直しを行った。

2015 年より開始した企業主導型事業所内保育については、新型コロナウイルス感染症の影響からか 0~1 歳で育休復帰希望者の減少が地域的に見られ、同様施設が近隣に開設した事もあり、利用者獲得が難しい状況が続いた為、2022 年 3 月を以って事業閉鎖とした。

職員体制では、採用年度等、横の繋がりを意識した研修を継続して実施し、特に新卒採用者の離職率は下げる事ができている。ケアハウス宝塚より開始した夜勤 1.5 勤務体制についても、3 階・4 階フロアにて試行した。

地域自治会等との連携では、大規模な催しについては 2021 年度も見送られたが、定例会議には出席し、顔の見える関係性は継続されている。事業者関係の会議・委員会、研修は web 会議が定着した事もあり、会議・委員会への出席、研修会の参加は積極的に行われた。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する

(ア) 生活の場として日常生活を大切にするために行っている「設えコンテスト」は、リビングだけでなく浴室やベランダも含めて取り組まれた。

(イ) 新型コロナウイルス感染症を含め、介護職・看護職共に入居者の体調の変化に気を配り、必要な受診は行う事で体調管理に努めた。

(ウ) 面会室を設置し、非接触で安心して家族と会える機会を設けた。

(エ) ボランティアによる企画や外出が出来ない中、季節感を大切にした企画を行った。

(オ) 介護記録システムを活用した、支援計画やアセスメント作成が進んだ。

2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

(ア) 兵庫県支給の抗原検査キットを確保し、必要時迅速に職員の検査を実施した。

(イ) 夜勤 1.5 勤務体制を試行し、職員欠員時でも柔軟に対応できる体制を検討した。

(ウ) 宝塚地区施設を回るオリエンテーションは出来なかったが、春・秋の 2 回に、聖隷・地区の歴史、ケアの基本といった聖隷スタンダードとなる研修は継続して実施した。

(エ) 職員間の横の繋がりを意識した、採用年度・勤務年数・役割に応じた研修を実施した。

(オ) 係長 1 名の登用を行った。リーダーを含め、多くの職場で経験を積むためにも、宝塚せいの里内異動も積極的に取り組んだ。

(カ) 兵庫県助成金を活用し、簡易陰圧装置台数増・睡眠時見守りセンサー全床設置・介護記録システムの機能アップ、通用口の自動扉化を行った。

3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

(ア) 待機者管理ソフトを活用し、宝塚地区聖隷入所 6 施設の情報を一元管理した。

(イ) 防災委員会が中心となり、火災防災訓練・不審者防犯訓練を実施。また、訓練時にはアンピックによる緊急通報訓練も同時に実施した。

(ウ) 事業所内保育所、長期休み時の自習室解放利用は、他の聖隷事業所からも利用があった。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

(ア) 地域サロン等の休止が継続している中、地域コミュニティ会議には定例参加を行った。

(イ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会に参加し、地域専門職研修へは企画段階から参加した。

5. 環境活動への取組

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響がでない範囲内で実施した。

【数値実績】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援	
				介護	予防
利用者定員	100 名	20 名	30 名	-	-
利用者・請求延べ数	34,673 名	7,060 名	5697 名	2,229 件	214 件
一日平均利用者数	95.0 名	19.3 名	19.6 名	-	-
稼働率	95.0%	96.7%	69.9%	-	-
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	303 日	-	-
単価 (一人一日・件当り)	15,948 円	16,125 円	11,694 円	18,187 円	4,370 円
職員数 (常勤換算)	75.6 名	12.7 名	17 名	8.2 名	

宝塚せいの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2021年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が継続する中、入居者の感染者は出さなかったが、職員・職員家族の感染者は発生しており、職員体制が厳しい状況が続いた。しかしながら、ケアハウス宝塚では、2020年度より導入した、睡眠時見守りセンサーを活用した夜勤1.5勤務体制による柔軟な勤務体制により、サービスを継続する事ができた。

ご利用者の平均年齢は宝塚すみれ栄光園よりも高いが、要介護度は低い。外出等の活動的な企画が行えない中、施設内での企画を増やす事で、生活の質を維持する事に努めた。施設で看取りを迎える入居者も年々増えているが、中間施設の役割を担っており、18名が退居、2名が住み替えを行っている。入居対象者の要介護度が低い施設では、新型コロナウイルス感染症の対応で、施設に入所すると家族と会えなくなるという事から、入居希望待機者が減っている。ケアハウス宝塚も同様で、宝塚すみれ栄光園で設置した面会室の共用は行っているが、入居者と家族の新たなコミュニケーションツール導入の必要性を感じている。

職員間のつながりを目的とした研修は、新卒採用者の離職率減少効果として表れており、次は中途採用者へ広げていかなければならない。事業者関係の会議・委員会、研修はweb会議が定着した事もあり、会議・委員会への出席、研修会の参加は積極的に行われた。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【事業報告】

1. 入居者の状態・多様なニーズに応じたケアサービスを提供できる体制

- (ア) 睡眠時見守りセンサーの機能を活用し、看取り期の入居者の状態変化に早期に気づき、家族への連絡、看取り期面会へ対応した。
- (イ) 入居者の状態に合わせてフロア間の居室移動やユニット間の移動を行った。
- (ウ) 新型コロナウイルス感染症対応のため、外出企画は控えたが、室内で楽しんでいただくレクリエーションを職員が積極的に企画した。

2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

- (ア) 兵庫県支給の抗原検査キットを確保し、必要時迅速に職員の検査を実施した。
- (イ) 夜勤1.5勤務体制の継続運用より得られた運営効率化効が、宝塚すみれ栄光園の導入に繋がった。
- (ウ) 職員間の横の繋がりを意識した、採用年度・勤務年数・役割に応じた研修を実施した。
- (エ) 係長1名の登用を行った。リーダーを含め、多くの職場で経験を積むためにも、宝塚せいの里内異動も積極的に取り組んだ。
- (オ) 兵庫県助成金を活用し、簡易陰圧装置台数増・睡眠時見守りセンサー全床設置・介護記録システムの機能アップを行った。

3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供
- (ア) 宝塚地区聖隷入所 6 施設の情報を一元管理する待機者管理ソフトを活用し、新規入居者獲得へ繋げた。
 - (イ) 防災委員会が中心となり、火災防災訓練・不審者防犯訓練を実施。また、訓練時にはアンピックによる緊急通報訓練も同時に実施した。
 - (ウ) 事業所内保育所、長期休み時の自習室解放利用は、他の聖隷事業所からも利用があった。
 - (ア) 緊急事態宣言が発令され、家庭で子供の面倒を見るために仕事を休む職員のために、事業所内保育所は閉所せず、小学生自習室を開設した。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

- (ア) 新型コロナウイルス感染症により地域サロンや運動会の休止は継続となったが、中学生から職員へ慰労のタオル寄贈と応援メッセージを頂き、地域との繋がりを継続する事ができた。
- (イ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会に参加し、地域専門職研修に企画段階より参加した。

5. 環境活動への取組

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響でない範囲内で実施した。

【数値実績】

	軽費老人ホーム (特定施設入居者生活介護)
利 用 者 定 員	70 名
利 用 者 延 べ 数	24,839 名
一 日 平 均 利 用 者 数	68.1 名
稼 動 率	97.3%
稼 動 日 数 (延 べ)	365 日
単 価 (一 人 一 日 当 り)	14,242 円
職 員 数 (常 勤 換 算)	45.6 名

宝塚せいのりの里

介護付き有料老人ホーム 結いホーム宝塚

新型コロナウイルス感染症の長期化の中で、2021 年度は結いホーム宝塚においても入居者・職員に陽性者が発生したが、発生後は感染を拡大させずに終結を迎えることができた。入居者・家族の理解と、職員一人ひとりが自覚と責任を持って自身の生活を管理し、感染予防策を徹底して勤務することで、陽性者の発生を最小限にすることができている。入居者の生活においては、面会や外出の制限は継続を余儀なくされているが、新規感染状況を見ながら柔軟に対応し、面会室の環境を整えることができた。

入居待機状況に関して、新型コロナウイルス感染症による施設入居控えは続いており、2021 年度も厳しい入居調整を強いられたが、有償利用の見直しを行うなどして、予算を上回る稼働を達成できた。入居申込者からは、過去に結いホーム宝塚に入居されていた方のご家族から紹介を受けたという声や、宝塚地区内在宅事業所への評価の言葉が聞かれ、それに恥じないサービスを今後も提供していきたい。

一方で、宝塚せいのりの里内での住み替え対応を柔軟に行うことができず、特に宝塚すみれ栄光園の稼働に影響を与えた。関係機関への待機状況の連絡や各種媒体を活用した入居者募集活動は行ってきたが、一定数の待機者を確保し続ける状況には至っておらず、見直しが必要な状況である。

2020 年度に引き続き介護ロボットや ICT 機器の導入を進め、業務の効率化、職員の負担軽減を一部では図ることができたが、目的としている入居者のケアや生活の質の向上に向けて、実践・評価が 2022 年度の大きな取り組み事項となる。

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供

- (ア) 職員研修や会議の中で、施設理念・経営方針を確認し、日頃の支援を振り返った。
- (イ) オンライン面会予約システムを導入し予約管理は格段に効率が上がった。オンライン面会機能だけでなく、写真送信機能も活用し、誕生日や行事参加時の様子を家族に送るようにし、喜ばれている。
- (ウ) 外部業者によるオンラインアクティビティを定期的に行い入居者の好評を得た。
- (エ) フロアに捉われず、入居者の身体状況・認知機能等の状態に応じたグループでアクティビティを行った。内容の充実とともに、他階の入居者との交流が生まれ、入居者からは喜びの声があった。
- (オ) 年中行事を意識したイベントを毎月実施し、それにまつわる食事やおやつを提供した。

2. 職員が生き生きと働くことができる職場環境、職員教育の推進

- (ア) 就寝時見守り支援システムを全室に設置、インカムを導入し、これらをナースコールと連動させ、2021 年度末に運用を開始した。夜間巡視方法をモニター確認中心に変更し、職員の負担は軽減している。2022 年度は夜勤職員 6 人から 5 人への体制変更を予定している。また、腰痛を発症し休職・業務制限を要す職員が 2 名発生したため、移乗介助機器を 2 台追加整備し、対象入居者を拡大させた。新たな腰痛者を出さないようにしたい。

(イ) 評価ツールの完成には至らなかったが、デスクネッツを活用し、交代勤務の中でも新人教育の進捗を都度共有し、成長度合いに応じた関わりを持てるようにした。職場長間でも情報共有・助言・サポートし、施設として育成する意識で取り組んだ。

(ウ) 夜勤5人体制に向けて、夜勤業務を見直し、日勤帯のサポーター業務を拡張した。

3. 安定した施設運営

(ア) 修繕では室外機の故障が2機あり共用部のエアコンが作動しないことがあったが、その間床暖房を稼働させることで対応することはできた。4階共用部のテーブル・椅子の入れ替えや、各居室の車椅子や歩行器による接触傷に対してコーナーガードの設置など、経年劣化に対して対応した。

(イ) 契約している高齢者施設検索サイトと検索状況を分析し、状況に適したオプションを追加したが、申込数に大きな変化は得られなかった。有償利用の費用設定を見直し、早急の入居希望者に対してゲストルームを弾力的に運用することで、契約戸数100の維持と予算を上回る稼働に繋げた。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

(ア) 新型コロナウイルス感染症の影響で、施設の開放や地域住民の受け入れが難しい状況が続き、一部のボランティアを再開するにとどまった。

(イ) 地域における住民活動も縮小が続いており、情報交換や協働の機会は持てなかった。

(ウ) 宝塚第四地区の地域生活支援会議に参画し、総合相談支援体制づくりや分野を超えたネットワークづくり・地域住民との協働の関係づくりに取り組んでいる。

(エ) 宝塚市の福祉教育プログラム見直し協議に参画し、介護や福祉の仕事をより身近に感じてもらえるよう検討しており、2022年度の受け入れに繋げたい。

5. 環境活動への取り組み

(ア) 昨年度全居室のエアコンを入れ替えたことも功を奏し、電気代の低減は図れた。一方で貯湯ユニットの故障が3回生じ夜間電力による貯湯が稼働しないことがあった。

(イ) 近隣住民と地域の清掃活動を実施した。

【数値実績】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	35,270名
一日平均利用者数	96.6名
稼働率	96.6%
稼働日数(延べ)	365日
単価(一人一日当り)	17,339円
職員数(常勤換算)	64.6名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

2021 年度は開設 43 年目を迎え、宝塚市で最も歴史の長い特別養護老人ホームである宝塚栄光園は、利用者の生活環境向上の整備と職員の労働環境充実の実践を行った。2 階の一角に個室 2 部屋を増床してショートステイのニーズに応えることができた。また、ICT 機器を継続して取り入れることで更なる職員の業務効率改善に取り組むことができた。ゆとりのできた時間は利用者へのケアや生活環境向上に繋がることに使うことができ、サービスの質の向上に繋がった。宝塚エデンの園附属診療所との連携は引き続き強化できしており、医師の往診、作業療法士によるリハビリの評価を実践することができた。2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、1 年間を通して安定した経営を行うことができ、経常利益では介護老人福祉施設、短期入所生活介護合計で予算を大きく上回ることができた。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者を守る

(ア) そのひとらしく最期を迎えるための個別性を尊重した柔軟な対応

①看取りケアで各利用者の状態に合わせたケアを行うことができた。

(イ) 新たな生活様式に則った余暇活動の充実

①疑似外出行事や少人数制ドライブを実施することができた。

(ウ) 宝塚エデンの園附属診療所と連携した個別機能訓練の継続

①宝塚エデンの園附属診療所のセラピストと個別機能訓練で連携を継続し、利用者の現存機能維持に繋ぐことができた。

2. 施設を守る

(ア) 事業継続活動維持の一環として大規模災害対策等シミュレーション訓練の定期的な実施

①年間 2 回のシミュレーション訓練を一部職員で実施することができた。

(イ) ICT を活用した防犯体制の構築と防犯訓練の実施

①防犯カメラの設置を実施することができた。

②宝塚警察署の職員参加のもと、防犯訓練の実施を行うことができた。

3. 職員を守る

(ア) 見守りセンサーの導入で効率的なケアが可能

①全床対象に見守りセンサーの導入を実施し、効率的に利用者の状況把握ができた。

(イ) 外部研修・交換研修を積極的に実施する

①新型コロナウイルス感染症の影響もあり、交換研修を実施することはできなかった。

②外部研修はリモートを活用しながら参加できる研修を受講することができた。

(ウ) WINCARE の更なる活用で事務業務の削減

①WINCARE の活用はさらに促進することはできたが、事務業務の削減には至らなかった。

(エ) チャレンジ精神を尊重する職場風土の構築

①職員の「やりたい」気持ちを尊重して、利用者の生活の質向上に繋がることを実施できた。

4. その他公益事業

(ア) 地域に向けて介護技術に関する勉強会資料の配布を実施

【数値実績】※特養・短期とも従来型のみ。(個室 21 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	17 人	87 人
利用者延べ人数	24,519 人	6,015 人	30,534 人
一日平均利用者数	67.2 人	16.5 人	83.7 人
稼働率	96%	103.1%	97.3%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	13,126 円	14,098 円	13,322 円
職員数(常勤換算)	45.7 人	6.8 人	52.5 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚

聖隷逆瀬川デイサービスセンター

2021 年度、宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）の運営は、職員の育成やシステムの構築、ケアセンター宝塚内での事業所間の連携を図り、利用者の多様なニーズに応えられるように、また職員が生き生きと働き続けられる取り組みを行った。

1. 利用者のニーズに対応できる事業所作りをする。

- （ア）身体介護の必要な利用者に対し必要となる喀痰吸引の資格を正職員全員取得することが出来た。それにより、医療的ケアの必要な利用者も断ることなく新規依頼を受けることができた。
- （イ）訪問介護記録ツール「けあピアノート」を導入し、登録ヘルパーの業務改善で働きやすいシステムの構築は行えたが、新たな登録ヘルパーの確保には至らなかった。
- （ウ）要支援者に対しては、デイサービスでは月 15 人前後の利用者を受け入れ、またヘルパーステーションでは、ケアハウス花屋敷の利用者を受け入れ、予防的な観点で関わった。
- （エ）IADL 機能訓練に着目し、レクリエーションの一環で洗濯物干しや、移動店舗などで買い物をする際に金銭管理を行ってもらったが、一部の利用者に留まった。
- （オ）デイサービスの送迎時に、利用日の日程調整や利用者家族の状態確認など家族との連絡調整を密に行えた。
- （カ）同法人の宝塚地区のデイサービス相談員が集まり、各デイサービスの事を知る機会を持つ取り組みを行うことで、利用者のニーズに合わせたデイサービスの役割を認識した。

2. 業務の ICT 化を進めていく。

- （ア）利用者の記録はすべて WINCARE 内で行い、ペーパーレス化が定着した。
- （イ）連絡・報告・情報共有は、WINCARE を活用することで密な連携が図れた。
- （ウ）登録ヘルパーのスケジュール確認や報告を電話で行っていたが、けあピアノートを活用することで正職員・登録ヘルパー双方に有益な業務改善が行えた。

3. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

デイサービスのセラピストが訪問看護の現場で交換研修を実施し、人材育成をおこなった。またケアセンター宝塚 5 事業所共同で ACP の研修や ACP のノートを作成した。その際に職員が主体的にリーダーシップを図り企画運営を行った。

4. 地域における公益的な取組

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、緊急事態宣言、まん延防止措置期間以外は、地域住民が集える活動を控えて頂いたが、それ以外の期間は、活動の場を提供した。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	予防 (月)	
105.4 人	1,154 件	13,853 件	47.5 人	570 人	4,602 円	18,631 円	15.5 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	総合 (月)	
27.4 人	705 人	8,463 人	16.4 人	197 人	10,102 円	39,901 円	16.5 名

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷ケアプランセンター宝塚

聖隷訪問看護ステーション宝塚

逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供

- (ア) 在宅で療養者が増え看護・セラピスト・介護・相談が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を支援した。聖隷訪問看護ステーション宝塚において、今年度は特定医療行為研修の受講はできなかったが、次年度も引き続き受講できる体制づくりを強化していく。
- (イ) 聖隷訪問看護ステーション宝塚においては機能強化型訪問看護管理療養費1を、聖隷ケアプランセンター宝塚においては特定事業所加算Ⅳの算定を今年度も継続できた。
- (ウ) 地域住民に対しては、ACP 啓蒙活動はできなかったが、ACP について活用できるノートの作成はできた。

2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

逆瀬川地域包括支援センターでは、花屋敷地域包括支援センターと共同で、若手社会福祉士の育成のため、毎月勉強会を実施した。ケース対応において、アセスメントを深めること、根拠を持って支援ができることをテーマに実施した。知識や実践力の習得と、階層における事業所を超えた横の繋がりを持つことができた。

3. 資源の効率的活用と生産性の向上

ケアセンター宝塚2階の4事業所のレイアウト変更をおこなった。各事業所が持っていた備品等をケアセンター宝塚で共有とし、新たな空間を生み出し、デスクやパソコンの配置を変更し働きやすい職場環境を整えた。

4. 地域における公益的な取組

新型コロナウイルス感染症の蔓延で実際に集まりの場を開催するには至らなかったが、コロナ禍でもできる活動内容を住民、専門職とともに協議を重ねた。次年度の開催に向けて準備をすることができた。

民生委員・児童委員との交流会を今年度3回開催。民生委員が地域で気になる方について相談しやすい関係性を築き、実際に地域包括支援センターへ相談し、支援に繋がったケースが多々あった。地域で開催している住民主体の活動（サロン・いきいき百歳体操など）に出向き、地域で気になる方を聞き取りし、実態把握のための訪問や参加されている高齢者の状況把握に努めた。

認知症の方を、地域でどのように見守っていくかを議題として、地域ケア会議を年間に何度か開催をした。専門職だけでなく、地域住民も参加してもらい、地域で起きていることを我が事として捉えること、専門職・住民との繋がりづくりの土台になった。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
医療	68 人	656 件	7,876 件	10,142 円	21.9 名
介護	117 人	611 件	7,332 件	9,312 円	
予防	23 人	70 件	842 件	7,623 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
3,784 件	364 件	19,401 円	3,951 円	1,954 件	4,501 円	15 名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		職員数 (常勤換算)
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）	
4,698 件	2,991 件	4,901 円	720 円	13 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

新型コロナウイルス感染症流行のなか、サービス提供をするうえでの安全性担保、感染症予防対策に尽力し、「今、困っている」利用者へのサービスが途切れないよう調整した。看護師増員することで医療ニーズを伴う中重度利用者へのサービス提供ができ、地域の中で在宅介護を支える役割を発揮できている。

【事業・運営計画】

1. 質の高い介護サービスを提供し、利用者が在宅生活を継続できるよう支援する。
 - (ア) 本人・家族が安心できる安全な介護サービスを提供する。
 - ①要介護3以上の中重度介護が必要な利用者受入50%以上を維持できた。
 - ②職員への介護技術研修委員会を創設し、OJT・OFF-JT機会を作り人材育成に努めた。
 - ③ケアの安全性を高める介護機器を導入検討したが、導入には至らなかった。
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する。
 - ①ICTを活用し訪問看護・在宅医と連携することで、医療対応をスムーズに実施できた。
 - ②看護体制を強化し看取り期の利用者を受入、ご逝去1週間前までご利用頂くケースもあった。
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるよう支援する。
 - (ア) 認知機能評価により行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する。
 - ①作業療法士と協働し、音読や識字など認知機能やコミュニケーション機能、前頭前野機能へのアプローチを実施した。
 - ②個々の行動・心理症状への対応ができるよう、生活歴を紐解いた個別ケアを実施した。
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるよう関わる。
 - ①電話・連絡帳等で家族とのコミュニケーション機会を増やすことはできたが、事業所と利用者家族が関係構築できる場作りは検討したが、コロナ禍もあり実施には至らなかった。
3. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 逆瀬台地域の単身・高齢世帯への見守り活動に協力する。
 - ①自治会・包括・社協と協力し、地域の高齢者への弁当配達「助け愛デリ」を実施できた。

【数値実績】

通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
23.5人	595人	7,139人	2.2人	26人	13,638円	40,414円	24名

地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
6.3 人	161 人	1,935 人	人	人	16,138 円	円	7.1 名

聖隷デイサービスセンター結い

コロナ禍の中、利用者の活動量低下により身体機能への影響が出ている。その中でもデイサービス利用時の個別機能訓練の充実を図ることで、在宅生活継続への支援を続けることができた。今後も自立支援と要介護状態の重度化防止の為に、より質の高いサービス提供を目指していく。

【事業・運営計画】

1. 地域で最も質の高い機能訓練を提供できるデイサービスを目指す

- (ア) セラピストによる個別運動指導を充実させ、結いデイでしか提供できないリハビリを提供する。
- (イ) 生活機能向上連携加算の算定率を 30%UP する。
- (ウ) 質の高いリハビリを病院の退院支援・居宅介護支援事業所に積極的に発信していく。
- (エ) 法人内、提携法人のセラピスト間で連携・教育体制を構築しスキルアップを図る。
 - ①他機関のセラピストとの連携体制を継続し、生活機能向上連携加算を算定できた。
 - ②生活課題への具体的な改善目標を設定し、理学療法士による個別機能訓練を実施できた。

2. 報酬改定・制度の変化に対応し、事業継続ができるよう運営体制変更をしていく

- (ア) 利用率は要介護 4 割：要支援 6 割以上を目指し要介護の利用者獲得を図る。
- (イ) 業務見直しを行い介護度の上昇に対応しつつ、人件費率 60%前後を維持する。
- (ウ) 報酬改定・制度に合わせて取得可能な加算は積極的に算定する。
- (エ) 通所の相談員で研修会を開催し、他事業所との調整能力・相談技術向上を図る。
- (オ) 介護技術の向上を目的とした研修体制を構築し、要介護者の受け入れ範囲を拡大する。
 - ①稼働率 80%以上の高稼働率を維持し、利用者へのサービスを提供できた。
 - ②LIFE への情報提供を確実に実施でき、関係加算を算定することができた。

3. 地域とのつながりの更なる発展

- (ア) ぷらっと野上において施設設備を開放し、機能訓練を体験する場の提供を行う。
- (イ) 機能訓練を通して地域向けにセラピストが行う介護予防講習会を開催する。
- (ウ) コミュニティケアセンター宝塚と連携し福祉用具の展示会を開催する。
 - ①コロナ禍の影響により地域活動が停滞する中、話し合いの場に参加し活動方法を模索した。
 - ②理学療法士による福祉用具の提案ができた。

【数値実績】

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(日)	予防(月)	
14 人	369 件	4,435 人	116 人	1,391 人	6,451 円	25,541 円	11.9 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2021年度は、継続した新型コロナウイルス感染症による行動制限や活動自粛となり事業の拡充だけでなく、欠員による職員のモチベーションコントロールが難しい状況であったが、新たに貸与請求代行サービスの導入による業務の見直しや新たな体制を見出すことができた。介護報酬改定による福祉用具貸与単価の見直しがあり減収が見込まれていたが、貸与紹介件数を増加させることにより予算達成させることができた。

【事業・運営計画の振り返り】

1. 貸与受発注業務の改善

- (ア) 当初、浜松地区で導入している貸与業務管理ソフト（スマートシェイク）の導入を検討していたが、当店の事業規模や業務運営に適した貸与請求代行サービスを導入した。
- (イ) 貸与請求代行サービスの導入により請求業務の効率化が図れ、請求事務担当者が営業担当者のサポートを行う体制を構築することができた。
- (ウ) 貸与請求代行サービスの導入により災害時や感染症などの緊急事態における事業継続のための体制を見出すことができた。今後は受発注業務などの見直しに取り組む。

2. 自費貸与サービスの拡充

- (ア) 福祉用具等の取引先に働きかけを行った結果、貸与品の拡充には至らなかったが、電動ベッドセットや車いすの利用条件の範囲を緩和させることができた。また、宝塚栄光園との車いすレンタルサービスを開始した。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 新型コロナウイルス感染症予防のため、デイサービスセンターと協働した地域への福祉用具相談やPR活動を行うことはできなかったが、障害者相談支援事業所からの依頼により市役所担当官と連携し、利用者のおむつ管理及び定期的配達を行っている。

【数値実績】

年 間 貸与件数	年 間 貸与収益	年 間 販売収益	年 間 住宅改修収益	職員数 (常勤換算)
9,432 件	101,764 千円	62,706 千円	20,209 千円	11 人

花屋敷せいのりの里

花屋敷栄光園特別養護老人ホーム
花屋敷デイサービスセンター
花屋敷地域包括支援センター
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
聖隷訪問看護ステーション山本
聖隷ケアプランセンター花屋敷

2021年度、長期化しているコロナ禍による様々な制限の中、在宅事業、施設ともに、これまでの支援方法等を変容させながらサービスの継続に努めた。しかし、職員又は職員の家族に感染者が発生し、更なる活動の自粛が必要となり職員体制にも大きく影響を受けることとなった。一方、入居者の感染者は発生しておらず、職員一人ひとりが入居者への感染予防や体調管理に努めたことにより、入院者や退居者も2020年度に比べ約25%減少している。

施設設備等においては、ネットワーク環境等の整備を進め、各種研修のオンライン受講による資格取得やスキル向上を図ることができた。また、ショートステイユニットに簡易陰圧装置を設置した静養室を増床し、感染対策も含めた看取りケアや医療的ケアが必要な利用者の支援に取り組んだ。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
 - (ア) 事業所・施設を問わず、利用者ニーズに応じた支援調整と協働したケアを行うことができている。今後も継続した地域への周知に努めたい。
 - (イ) ショートステイにおけるリハビリテーションは継続することができており、デイサービスにおいても訪問看護と協働したリハビリテーションを開始することができた。また、ショートステイユニットに静養室を増設し、簡易陰圧装置を設置する等の環境整備を行った。

- (ウ) 地域包括支援センターや地域交流委員会等の地域活動が限定的であったため、地域ニーズの把握にまで至らなかったが、デイサービスセンターにおいてリハビリテーションを中心とした短時間利用の受け入れ枠を拡充することができた。

2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する

- (ア) 認知症実践者研修や喀痰吸引等研修の受講による有資格者の増員と専門的スキルの向上を図ることができた。
- (イ) 状態変化の早期発見と予防ケアにより、2020年度に比べ入院者数や退居者数を減少させることができています。
- (ウ) 看取りケア委員会が中心となり ACP(アドバンスケアプランニング)研修を実施し、看取りケアに活かすことができています。
- (エ) オンラインを活用した体操や音楽療法等を実施。恒例行事である納涼祭についても開催日数を増やすなど少人数で参加できるよう企画を変更した。結果として入居者に好評であったため新たなアクティビティの提供方法を見出すことができた。

3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり

- (ア) 施設内育成スキームを基に、eラーニング等を活用し新入職員や2年目職員を対象とした階層別研修に取り組むことができた。
- (イ) 主任介護専門員資格の取得や看護師教育プログラム等の受講により、必要とされる知識等の習得や資格取得を図ることができた。
- (ウ) 介護支援システム(HIMVIT)の機能向上や送迎システムを導入し、負担軽減を図った。
- (エ) ネットワーク環境を整備し、オンライン受講やWEB会議を促進させることができた。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 脱臭装置の見直しと空調設備の修繕や入替えを行った。
- (イ) 感染予防となるマスクやグローブ等の確保と使用の徹底に努め、発生時にも迅速な対応を行うことができた。
- (ウ) ケアサポーターの業務定着が図れ、専門職スタッフが利用者へ関わる時間の確保とケアの充実に繋げることができている。今後も効果的な配置と業務整理を進めたい。
- (エ) 安定した加算取得が行えるよう業務手順の見直しや職員配置等の体制を整えた。

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域交流委員会が中心となり、介護講座等を計画していたが実施には至らなかった。
- (イ) 感染予防から地域コミュニティ等も自粛となり継続的な活動は中止となった。

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型空床型	通所介護					
			通常規模型	予防型				
利 用 者 定 員	108 名	12 名	47 名					
利 用 延 数	38,360 名	4,451 名	6,919 名	815 名				
一 日 平 均 利 用 者 数	105.0 名	12.1 名	22.3 名	2.6 名				
稼 動 率 (%)	97.3%	101.6%	52.9%					
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	311 日					
平 均 介 護 度	4.0	3.4	2.1	1.5				
単 価 (一 人 一 日)	15,371 円	15,581 円	10,014 円					
職 員 数 (常 勤 換 算)	81.6 名	9.0 名	20.1 名					
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)	障害者相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)				
宝塚市受託収入(千円)	37,786 千円	—	—	13,559 千円				
年 間 請 求 件 数	予防ﾌﾟﾗﾝ 請求件数	3,840 件	348 件	110 件	—			
	予防ﾌﾟﾗﾝ 委託件数	1,080 件						
平 均 単 価	予防ﾌﾟﾗﾝ 単価(円)	4,175 円	15,100 円	15,100 円	—			
職 員 数 (常 勤 換 算)	10.6 名	3.7 名						
	聖隷訪問看護ステーション				聖隷ケアプランセンター			
	平均利用 者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価(円)	職 員 数 (常勤換算)	年訪問 件数	単価(円)	職 員 数 (常勤換算)
医療	37 人	277 件	3,324 件	9,800 円	16.2 名	—	—	—
介護	101 人	578 件	8,252 件	9,170 円		3,596 件	18,014 円	9.19 名
予防	34 人	119 件	1,429 件	9,170 円		211 件	4,596 円	

ケアハウス花屋敷

2021 年度は、新型コロナウイルス感染が私たちの生活に大きな影響を与えた 1 年であった。速やかなワクチン接種、施設内での感染対策、入居者への注意喚起などを行い、幸いにも感染により体調を崩す方はいなかった。高齢者施設であり感染した際のリスクが高いことから、行事などに制限がかかり、楽しんでもらう事がどうしても二の次となってしまった。外出の自粛要請などもあったことから、入居者の行動範囲、人との交流が減り、精神的な負担につながったのではないかと考えている。また、職員も生活行動を自粛し、かつ感染対策には厳しく臨み、前年度に引き続き、苦しい 1 年だった。人の確保も難しい状況の中、いろいろな工夫をしながら、体制は整えていきたい。

1. アドバンス・ケア・プランニングについての理解を広め、体調変化や急変時等、本人の意思を尊重した対応ができる
 - (ア) 職員の欠員により居室への定期的な訪問が予定より少なくなったが、日ごろの会話や聞き取りから本人の考えを聞き取るように意識して動くことはでき、本人の思いや希望を尊重することができたがまだ十分ではなく、今後も関わりを深め支援に繋げていく。
 - (イ) 急変時の医療的な処置の要否を確認し、緊急時対応記録に残すことはできた。
2. 入居者の心身の変化、状況の変化にタイムリーに対応できる体制と対応力の強化
 - (ア) 職員の欠員が大幅に出たことで、定期的な訪問が遅れがちとなった。
 - (イ) 毎日午後に 30 分の検討時間を持ち、情報共有・支援の検討を行うことができた。
 - (ウ) アセスメントツールについてはうまく活用することができず、再検討が必要。
 - (エ) 学研 e-ラーニングの活用が十分できなかった。
3. 健康維持増進のための取り組み
 - (ア) 楽しんで行事に参加していただくことを大事にしたいと思っていたが、感染状況拡大により予定していた行事を中止せざるを得ないことが多かった。敬老会やクリスマスディナーも 2 部制にし、食事を持ち帰れるようにするなど工夫をした。
 - (イ) 訪問看護ステーション山本の理学療法士にケアハウス花屋敷で実施している内容を専門的観点で評価してもらい、効果のあるものを提供できていると確認できたことは職員にとっても良かった。また、理学療法士のプログラムで実施もできた。
 - (ウ) 各階の廊下でラジオ体操を継続することができた。
4. ケアハウスらしい「健康的で美味しい食事」の提供
 - (ア) 季節を感じてもらえる献立、栄養バランスのとれたおいしい食事を提供することができ、入居者からおおむね良い評価を頂けた。
 - (イ) 季節の行事を通じて日本古来の習慣や関西の食の文化を大切にしたい食事を提供できた。

5. 運営の安定化の推進

- (ア) 高齢者住宅閲覧サイトを活用したことで広くケアハウスの存在を知ってもらい、入居に繋げることができた。
- (イ) 感染状況が悪化しても希望者には感染対策を行ったうえで場所を特定して見学対応をした。結果、入居者数を減少させることなく運営することができた。
- (ウ) 地域活動・サロン訪問は中止になることも多かったが、地域との繋がりは継続することができた。
- (エ) ADL の変化などで自室での生活が困難となった時に、訪問看護や訪問介護サービス、花屋敷栄光園のショートステイが利用でき、入居者の不安を軽減することができた。また、今年度は希望された方には早めの情報提供などにより、6 名の方が花屋敷栄光園に入居することができた。
- (オ) 職員の欠員もあり、業務内容等の見直しには至らなかったが、日常業務は滞りなく調整することができた。

6. 災害時の準備、避難方法等、入居者の協力を得て、更にバージョンアップする

- (ア) 入居者とともに夜間想定火災訓練を行ったが、新たな避難体制と安否確認方法を確立させる事ができなかった。

7. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域のサロンに出張講座の実施

入居者状況（2022 年 3 月 31 日現在）

(ア) 年齢

	人数（名）	最高年齢（歳）	最低年齢（歳）	平均年齢（歳）
男性	19	99	77	86.0
女性	80	99	70	87.4
合計	99			87.4

(イ) 入居前居住地(名)

宝塚市	38
市外 (他府県込)	61

(ウ) 介護度内訳（名）

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
26	20	19	9	2	4	0	80

【数値実績】

定員（名）	100
稼働率（％）	99.2
単価（一人一日：円）	4,289
職員数（名）	11.3

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

2021 年度は、コロナ禍における感染対策を充実させ、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう対応力を強化した。最期まで自宅で過ごしたいという意向が増えてきており連携を強化し切れ目のない支援で在宅看取りにつなげることができている。聖隷訪問看護ステーション北神戸及び聖隷ケアプランセンター北神戸ともに人材確保の厳しい状況が続いていたが運営に関しては予算通り達成できた。2022 年度は、人員を整えて地域ニーズに対応できる事業展開を拡大していきたい。

1. 専門性の高い人材を育成し利用者のニーズに沿ったサービスを提供する

(ア) ①計画的に研修に参加し、専門知識や対応力の向上を図ることが出来た。

②医療依存度の高い小児の新規依頼はなかったが、小児専門病院の研修参加や、重度障がい施設とのセラピスト同士の情報共有や研修には積極的参加し、顔の見える関係作りは継続している。

③精神科病院からの新規依頼は継続してあり全利用者の 30%を占めている。神戸市看護大学での精神訪問看護事例検討会に参加し、対応方法の共有や専門的知識が深まった。

(イ) 癌末期利用者に限らず、他の利用者への意思決定支援の取り組みを強化し在宅看取りは 11 件であった。小児では医療的ケア児が 2 人に減り機能強化型 2 の算定取得はできていない。

2. 各機関との連携を強化し、地域ニーズの解決への取り組む

(ア) 退院当日から継続看護や家族支援ができるように訪問し、多職種連携で早期に退院しても在宅療養できるよう迅速に対応した。

(イ) 地域包括ケア推進協議会へ積極的に参加し、地域課題となっている介護職員への吸引実地指導の現状等について相談対応や問題解決に向けて話し合った。

(ウ) 認知症初期集中支援チーム員として 1 名派遣し、北区の認知症困難事例に初期対応し、支援機関へとつなぐ活動ができた。

(エ) 兵庫県立ひょうごこころの医療センターとの看護交換研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

(オ) ケアマネジャー連絡会の企画運営に参画し、他事業所も交えた事例検討会を開催し対応力向上に取り組んだ。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 認知症初期集中支援チーム員として 1 名を派遣

(イ) 介護保険認定審査会審査員として 2 名を派遣

(ウ) 神戸市委託事業介護予防講座に講師として 2 名の派遣

(エ) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授・臨床講師を務めた。

(オ) 兵庫県看護協会看・看連携実習は新型コロナウイルス感染拡大防止ため中止となった。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数 （人）		月訪問件数 （件）		年訪問件数 （件）		単価 （円）		職員数 （常勤換算） （人）
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療	13.9
77	66	422	497	5,065	5,980	8,621	9,696	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数（件）		平均単価（円）		職員数 （常勤換算） （人）
介護	予防	介護	予防	
1149	659	17,720	3,504	4.8

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホーム特別養護老人ホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうつつこ

聖隷在宅介護支援センター淡路 聖隷ケアプランセンター淡路

2021年度の聖隷カーネーションホームは、法改正及び感染症対策を踏まえた内部強化・機能強化を推進しつつ、施設単体並びに淡路エリア全体での業績の質的・量的向上に取り組んだ。経営面ではコスト抑制と収益確保のバランスが難しい1年であったが、内部強化面ではICT機器やeラーニングの本格導入を図り、福祉・介護現場のイノベーション・仕事の自動化を推し進めることができ、今後の経営改善に繋げていく。また入浴介助機器の更新によってケアのノーリフト化を推進でき、利用者・職員の双方にとって安心・安全・安楽な環境整備を進めることができた。

今後、現場改革の成果を経営成績に結び付けることを重視しつつ、引き続き利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある総合福祉拠点を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求

(ア) 事業継続計画は完成途上だが、感染症発生時（ノロウイルス）に対応方法の確認を兼ねて試用・活用した。併せて標準予防策の徹底に取り組み、園内衛生管理体制及び施設間連携を強化した。

(イ) 記録の自動化及びWINCAREの掲示板機能を活用した情報共有・伝達の見直しに取り組み、よりタイムリーな情報を基にケアを提供できるよう改善できた。

(ウ) 障害者の利用は伸長しなかったが、一方でターミナルや重度認知症のニーズが高く、各事業とも積極的に受け入れを行った。

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 自立(自律)人材育成と事業目標達成の両立のために、事業計画と連動した目標管理及び達成支援及びe-ラーニングの導入・活用を行った。
- (イ) ノーリフトケア推進のため入浴キャリーを導入・更新し、職員の身体的負荷の軽減と安全性の向上を図り、働きやすい介護環境を整備した。
- (ウ) タブレット型介護記録入力システム (HIMVIT) 及び既存の WINCARE 介護支援システムの活用により、業務の省力化を図ることができた。

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

- (ア) ICT・IoT・スマートデバイスの導入により省力化は進展したが、抜本的な業務改善や経営改善に活かすまでには至らなかったため、今後も継続して取り組む。
- (イ) 施設が地域の社会資源として有効に活用されるために、短期入所の増床(2床)に向けて関係機関との交渉・調整を行い、2022年度において実行できる見通しとなった。
- (ウ) 適切な加算算定と合理的な人員配置を行い、極力損失なく収益を確保できるよう努めた。

4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、潜在的な福祉ニーズを発掘に努めた。その結果サービスの利用に繋がるケースもあった。
- (イ) 地域全体の福祉の向上のため認知症サポーター講座を年間3回計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施は1回のみであった。
- (ウ) 福祉避難所としての役割を意識し、地域内での防災・防犯連携活動を模索した。感染症の影響で実行できなかったが、2022年度の実施に向けて関係機関と調整継続となった。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	16名	25名		12名
利用者延べ人数	19,255名	5,236名	5,753名	570名	2,649名
一日平均利用者数	52.8名	14.4名	18.6名	1.8名	8.5名
稼働率(%)	97.6%	89.5%	83.0%		70.9%
稼働日数(延べ)	365日	365日	309日		311日
平均介護度	3.8	3.4	2.4	—	2.9
単価(1人1日当り)	11,771円	11,598円	9,979円	6,277円	12,092円
職員数(常勤換算)	33.3名	7.5名	9.9名		5.1名
	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷在宅介護 支援センター淡路		
年間請求件数	介護	予防			
	1,784件	314件			
訪問調査年間件数	42件				
職員数(常勤換算)	5.7名		1.2名		

介護老人福祉施設 淡路栄光園

淡路栄光園特別養護老人ホーム

デイサービスセンター淡路

2021 年度、新型コロナウイルス感染拡大のなか淡路栄光園の利用者と職員には、さらなる感染管理や制限を求めることとなった。苦しく不自由な 1 年であったものの、利用者や職員、多くの関係者の協力と支援により園内での大きな感染拡大を抑止し、利用者の命と生活を守ることができたことについて、深く感謝を述べたい。

さて、2021 年度の淡路栄光園の取り組みとして、リモートによる家族面会や行事参加など利用者の楽しみを追求するとともに、新たな介護システムや機器による職員の働きやすさにも注力することできた。コロナ禍で生じた新たな地域行事に他法人と参画協働し、また障害ショートステイなど新たなニーズに対応しつつ、増床による事業の安定継続にも取り組むことができた。これら各分野の課題に対し園内各部署、各職員が考え行動することで、実績を上げることができたことを誇りに思うとともに、淡路栄光園が取り組むべき、さらなる課題も見えてきた。

2022 年度の淡路栄光園は、新たなシステムや機器の導入と実践活用をさらに推し進め、職員 1 人 1 人の仕事のあり様、各部署の業務内容や連携、家族や関係機関との情報通信など、多くの面でさらなる進化に取り組んでいく。その取り組みの先には利用者や家族、地域の喜びがあること、その取り組みのプロセスと結果には職員の成長があることを念頭に、日々邁進していきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 感染や災害に強く、利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
2. 職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
3. 介護報酬改定に対応し、今後も安定継続して利用者サービスができる施設になる。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

【事業・運営計画】

1. 感染や災害に強く、利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
 - (ア) 新型コロナ感染症発生に際し、初動の重点対応で施設内感染拡大を抑止できた。兵庫県老人福祉事業協会調査研究委員として活動し、県下及び自施設の BCP 策定を推進できた。
 - (イ) リモートによる地域行事への参加や別法人のデイサービスセンターとの交流行事等ができた。リモート面会の機器と体制整備など、施設と家族をつなぐ新システム導入に向けた準備ができた。
 - (ウ) 大型厨房機器及び食器類の入替ができた。トイレ周辺の修繕環境整備は資材不足等で遅延し翌年度繰越しとなる。LED 化計画案を策定し、次年度実施の準備ができた。

2. 職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
- (ア) 2 階浴室に入浴移乗機器の新規導入及び、デイサービスの荷物スペースを職員休憩室に変更完了により職員の働きやすさの向上につながった。
 - (イ) タブレット型介護記録管理システム(HIMVIT)の導入と施設内 Wi-Fi 化工事を実施でき、職員の業務改善と効率化につながった。
 - (ウ) 淡路栄光園で初となる EPA 人材を受け入れ、順調なスタートがきることができた。学研介護サポートを活用し各種研修受講や受講環境の向上により、人材育成の強化ができた。
3. 介護報酬改定に対応し、今後も安定継続して利用者サービスができる施設になる。
- (ア) 2 床増床後のショートステイが順調にスタートし、年度を通じて高い稼働を維持することができた。また、障害者ショートステイ受入開始など、地域の介護ニーズにも応えることができた。
 - (イ) 科学的介護推進加算の取得と、それに伴う新システムを開発導入できたことで、利用者ケアの PDCA サイクルとともに、職員の業務効率化を推進することができた。
 - (ウ) 聖隷淡路病院 MSW と施設相談員の連携会議を定期参加。また淡路エリア各デイサービスの連携会議にも定期参加し、サービス希望者の最適な利用調整を図ることができた。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。
- (ア) ACP 研修への看護師派遣や施設内での認知症研修が実施でき、次年度以降の看取りケアの基盤強化、認知症ケア研修への職員派遣の流れを作ることができた。
 - (イ) 近隣清掃活動や子ども園の園児との交流はコロナウィルス感染拡大等の影響で次年度繰越し。新規地域行事の企画開催への参画、地域サポート型施設として地域見守り活動は実施できた。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	19 名	18 名	
利用者延べ数	21,077 名	6,826 名	3,552 名	546 名
稼働延べ日数	365 日	365 日	307 日	307 日
一日平均利用者数	57.7 名	18.7 名	11.5 名	1.7 名
稼働率	96.2%	98.4%	74.3%	
単価（一人一日当り）	11911.7 円	11581.1 円	9664.3 円	4401.6 円
職員数（常勤換算）	40.6 名	5.6 名	6.6 名	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路第二

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

2021 年度は職員の退職に伴う人材確保が困難であった。その為、訪問看護と訪問介護の分業や協働、周辺業務の整理や分業、ICT を活用したスケジュール管理等、業務の効率化を推進した。結果、事業規模の維持が図れたと共に、ケアセンターにおける協働体制の強化や事業所間連携の基盤ができた。今後は当センターの特色である医療依存度の高い利用者への対応を積極的に行うと共に、サービスを必要とされる全ての方々へ適切で効果的な支援が提供できるよう、聖隷淡路病院等との連携を強化し地域で選ばれる在宅サービスを実践していく。

【事業・運営計画】

1. 安定した経営の継続

- (ア) 看護から介護への可能なサービス移管を積極的に行い訪問看護の人員不足に対応した。
- (イ) 訪問介護は訪問看護と連携し身体介護のケースを増加させ訪問単価向上を図った。
- (ウ) デイサービスは午後半日コースを 2021 年 4 月から開始し、利用者が約 20%増加した。
- (エ) 居宅介護支援は訪問看護と連動し看取り支援等の充実が図れた。

2. ICT による業務改善

- (ア) 訪問看護は訪問看護スケジュール自動作成システム(ZEST)を導入し、訪問スケジュール管理の本格運用を開始した。
- (イ) 訪問介護は訪問看護システム(けあピアノート)を導入し、業務の効率化を図る活用ができた。
- (ウ) 居宅介護支援はタブレットの活用で利用者宅や移動時の隙間時間活用を図った。
- (エ) 事業所間で利用者情報共有ツールとして介護記録・請求システム(WINCARE)の掲示板の活用を推進している。
- (オ) 事業所内 ICT 環境の充実が図れ、Web 研修の充実や Web 会議への参加が増加した。

3. 個別的、効果的なサービス提供のできる人材育成を行う。

- (ア) ケアセンター内の事業所合同による事例検討会で、サービスの検証を行い業務に活かした。
- (ウ) 訪問介護はサービス提供責任者との同行訪問を行い現場の対応力向上が図れた。
- (エ) インシデント・アクシデント・苦情等をセンター全体で確認し対策を共有した。
- (オ) 感染対策についてセンター職員に周知を図り、新型コロナ感染拡大を防いだ。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 聖隷淡路病院と看取りカンファレンスを行い市内居宅研修会でオンデマンド配信した。
- (イ) 平成看護専門学校の在宅看護実習を受け入れた。
- (ウ) 市内訪問介護事業所職員を対象に、感染対策研修を実施した。

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

月平均訪問件数		年間訪問件数		単価		職員数 (常勤換算)
医療	介護	医療	介護	医療	介護	21.5 名
313 件	930 件	3,759 件	11,163 件	11,346 円	8,961 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

月平均請求件数		年間請求件数		単価		職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	介護	予防	3.6 名
102 件	16.5 件	1,227 件	198 件	16,419 円	5,103 円	

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
年間訪問 件数	単価	年間訪問 件数	単価	年間訪問 件数	単価	年間訪問 件数	単価
11,481 件	4,074 円	1,564 件	2,840 円	4,255 件	4,413 円	67 件	3,040 円
職員数（常勤換算）				8.4 名			

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付	
25 名	延べ利用者数	4,044 名	延べ利用者数	2,023 名
稼働日数	1 日平均数	15.7 名	1 日平均数	7.8 名
258 日	単価（1 人 1 日）	7,605 円	単価（1 人 1 日）	5,018 円
職員数（常勤換算）			8.6 名	

聖隷こども園夢舞台

2021 年度に淡路市の民間園 4 園で組織した「民間社会福祉法人連携会議」を進める中で、淡路市へ支援が必要な子どもの認定について等も含め、検討していただける様に継続して投げかけていく必要性を感じている。どのような形で結果に結びついていくかはわからないが、伝えていくことで淡路市の保育に対する考えが変わっていくことを望みとしたい。

園内では、現場内での職員の連携について自然にとり進めていたことが、主任等の配置体制が変わったことで課題が浮き彫りになったように思う。職場内での組織化をもう少し意識し、現場間のずれが少なくなるように課題を明確化して、職員に伝えていきたい。

1. 入所状況

4 月に新入園児、0 歳児 2 名、1 歳児 6 名、2 歳児 2 名、3 歳児 10 名、4 歳児 1 名の 21 名を迎え計 130 名でスタートをする。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア)保育内容

① 統合保育の実践

障がい児：4 歳児 1 名 3 歳児 2 名（療育手帳 3 名）発達が気になる児：4 歳児 2 名、3 歳児 2 名、2 歳児 1 名、（市の巡回相談にかかっている児）が在籍となった。また、極度に偏食のある子どもや、イメージする力や理解力が幼い子どもなど特徴のある子どもも数名いる。淡路市の巡回指導、発達心理相談、保健師により対応について助言・指導を受け、他機関と連携をしながら進めていった。

② 交流

コロナ禍のため、小学校・中学校との交流はなかったが、就学に向けての引継ぎは 3 校で計、4 回行う。また、小学校より DVD を頂き、就学前の 5 歳児に学校の様子を視聴することで、就学前に学校に対するイメージを持って頂くことが出来た。

(イ)地域ニーズに対応

① 延長保育

地域の特性上、18:00～19:00 の延長保育を利用する児童は平均すると 7 人ほどである。感染症の拡大を抑えるため、合同保育の時間をできる限り遅くし、配慮をする。また、1 号認定の 16 時 30 分までの延長利用は、年間で 560 件とかなり多かった。

② 一時預かり

年間延べ利用者数 35 名。緊急事態宣言やコロナ禍の影響もあり、一時保育の利用が極端に減少する。

③ 病後児保育

登録児童数（在園児 22 名、他園児 16 名 新規登録者 6 名）、受け入れ実績 0 名。市内の子育てセンターに毎月「ほけんだより」を配布し、病後児保育事業の案内は、淡路エリアの聖隷施設にも置いて頂くようにした。

④ 子育て支援

園庭開放やプログラムを通して、地域の子育て家庭の交流の場とする。園庭開放などの参加から入園に繋がったケースも数件あった。

(ウ)職員研修

宝塚の 3 保育園が主催する「あゆみ合同研修会」「宝塚保育学会」は、WEB で参加をする。学会は、5 グループが園内で取り組みを行い、積極的に参加の意志表示があり自分達の学びを発表するということへの意識がより高まった。また、年度末研修は、今年度も、浜松・磐田・奄美・宝塚・淡路地区が WEB で同じ研修を受けることができた。

3. 地域における公益的な取組

(ア)トライやるウィークでは、中学生の職場体験実習として 6 名の受け入れを行う。希望する大学生ボランティア 1 名や教育・保育実習生の受け入れも 7 名行った。

また、コロナ禍であっても子育て支援として、園庭開放は止めずに行った。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	2	2	2	3	3	4	4	6	6	7	7	7	53	4.4
1 歳児	16	16	16	17	17	18	18	18	18	18	18	18	208	17.3
2 歳児	16	15	16	16	17	17	17	17	17	16	16	16	196	16.3
3 歳児	35	35	35	35	35	35	36	35	35	35	35	36	422	35.2
4 歳児	33	33	33	33	34	34	34	34	34	34	34	35	405	33.8
5 歳児	28	28	28	29	29	29	29	29	29	30	30	30	348	29.0
合計	130	129	130	133	135	137	138	139	139	140	140	142	1632	136.0

② 保育日数及び出席状況(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延人数	3250	2967	3380	3325	3375	3288	3588	3336	3396	3220	3080	3692	39897
保育日	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293
日平均	130	129	130	133	135	137	138	139	139	140	140	142	1632
一時預り	2	0	2	3	0	7	7	10	8	3	0	0	35
一号預り	16	12	36	30	23	55	61	73	63	50	63	80	562
延長保育	144	147	150	203	183	224	243	205	197	134	164	252	2246
病後児保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

③ 職員の状況(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正/ポ)	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18
保育教諭(パ)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
保育補助	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	31	31	31	31	31	31	31	30	30	30	30	30

奄美佳南園

奄美佳南園特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・在宅介護支援センター
ホームヘルプ事業所・訪問入浴事業所・春日デイサービスセンター
聖隷チャレンジ工房カナン

2021 年度、奄美佳南園はこれまでの介護・障害福祉・地域福祉サービスの事業運営に加え、新型コロナウイルス感染症対策及び発生の対応、津波警報による高台にある施設への避難者受け入れを実施し、感染症や自然災害の発生時における事業継続計画に沿った対応ができた。

このような状況において、地域の高齢者や障害者へのサービス提供、地域共生社会の実現に向け事業運営ができたことは、職員一人ひとりの努力の賜物である。

また、利用者へのサービスの向上を目的としたイーラーニング研修の実施、排泄ケアの統一に向けた勉強会の開催、就労支援事業所の訓練を積んだ障害者雇用により、人材確保が厳しい状況の中、介護周辺業務に従事し、介護職員の負担軽減等サービスの質の向上に努めた。

2022 年度は介護機器や介護ロボット等の導入を積極的に検討し、更なるサービスの向上に努め、既存する福祉事業の強化を図り、地域にとって欠かすことのできない福祉拠点の更なる価値を高めていく。

【事業実績】

1. 利用者の満足向上の取り組みとして

- (ア) 利用者の安全や職員の健康維持を目的としたノーリフト介護（抱えない移動方法）へ向けた知識・技術向上のための研修を実施し、介護機器の活用において安全なサービス提供へ努めた。
- (イ) 排泄ケア方法の統一に向け紙オムツの変更、排泄ケアの研修を実施し、職員一人ひとりの介護技術を確認、質の高いサービス提供へ取り組んだ。
- (ウ) 奄美で生まれ育った入所者の節目の日に大島紬を着用し、入所者の居場所づくり、生き甲斐づくりに努めた。
- (エ) 感染症が施設や事業所に発生する中、感染対策を徹底した事業継続により、地域においての介護・障害福祉・地域福祉サービスが途切れることがないように努めた。

2. 職員の満足向上のための取組として

- (ア) 介護職員・看護職員の知識向上や基本的技術の再確認を目的とした e-ラーニング研修の実施及び介護職員、相談員職員、看護師、栄養士、事務職員の業務ラダー管理を実施し、職員の業務に対する進捗度を確認し、目標管理及び質の向上に努めた。
- (イ) 聖隷チャレンジ工房カナンの訓練を積んだ障害者を雇用し、定期的な消毒作業の感染対応及び衛生物品管理及び整理を実施し、感染対策の強化に努めた。

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築として

- (ア) 感染症の影響から不安を持つ利用者に対し、安心してサービス利用ができるよう電話連絡や訪問等を実施し、利用継続及び健全経営に努めた。
- (イ) 感染症が流行する中、入所者の健康管理及び職員個々の感染対策の徹底を管理するとともに、入院先の医療機関へ電話等連絡を実施し、長期入院の削減に努めた。

4. 地域における公益的な取組として

(ア) 地域住民に福祉拠点施設の経験や機能を活かし、介護者勉強会を開催した。

(イ) 1月15日発生したトンガ島火山爆発の影響により、深夜に奄美大島への津波警報が発令され、高台にある奄美佳南園に多くの避難者を受入れ、駐車場・トイレの開放等地域への災害時支援に努めた。

【数値指標】

	特養		短期入所		奄美佳南園デイサービス		
	従来型	ユニット	介護	障害	介護	予防	障害
利用者定員	50名	30名	10名		18名		
利用者延べ数	17,746名	10,693名	3,198名	80名	3,122名	377名	475名
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	314日	314日	314日
一日平均利用者数	48.62名	29.30名	8.76名	0.22名	9.94名	1.20名	1.51名
稼働率	97.24%	97.65%	87.62%	2.19%	55.24%	6.67%	8.40%
単価(1人1日当り)	12,282円	15,078円	11,929円	12,163円	10,686円	5,866円	7,747円
職員数(常勤換算)	33.2名	20.6名	5.2名		9.0名		
	春日デイサービス		訪問入浴介護		ホームヘルプ		訪問給食
	介護	予防	介護	障害	介護	障害	
利用者定員	15名		—	—	—	—	—
利用者延べ数	2,695名	1,413名	582名	106名	4,570名	691名	14,255名
稼働延日数	309日	309日	287日	287日	365日	365日	365日
一日平均利用者数	8.72名	4.57名	2.03名	0.37名	12.52名	1.89名	39.05名
稼働率	58.14%	30.49%	—	—	—	—	—
単価(1人1日当り)	10,399円	5,190円	16,117円	12,481円	5,283円	4,370円	800円
職員数(常勤換算)	6.3名		2.8名		6.1名		2.8名
	ケアプラン		就労支援		在宅介護 支援	一時生活 支援	合計
	介護	予防	移行支援	継続B			
利用者定員	—	—	6名	14名	—	—	—
利用者延べ数	824名	181名	1,110名	3,544名	1,311名	316名	—
稼働延日数	232日	232日	256日	256日	237日	365日	—
一日平均利用者数	3.55名	0.78名	4.34名	13.84名	5.53名	0.87名	—
稼働率	—	—	72.27%	98.88%	—	—	—
単価(1人1日当り)	14,726円	4,277円	8,119円	10,608円	—	3,819円	—
職員数(常勤換算)	2.5名		8.0名		1.5名	—	98.0名

春日保育園

2021 年度は、4 月当初から定員 120 名に対し 115 名の園児を受け入れ、途中入園も着実にあり、早い時期に定員を満たす安定した運営ができた。療育が必要な子どもたちも積極的に受け入れ、児童発達支援事業所と連携を図りながら保育を実践する事ができたことは職員一人ひとりの努力の賜物である。

また、感染症対策の観点から子どもたちの生活、行事のあり方等見直しを行ったことにより改めて子どもの成長にとって必要な事は何かを考え、各年齢に合わせた行事の取組みを行う事が出来た。感染対策を引き続き行いながら、子どもたちの成長にとって何が必要かを常に考え、保育・行事等に取り組んでいきたい。

職員研修ではオンライン研修を受けることで子育て中の職員も参加しやすくなり、情報共有が図りやすくなった。同じ学びを得たことにより保育士としての専門的知識習得の標準化ができた。

2022 年度も子どもたちを中心に主体性を育むために必要な環境作りに力を入れ、職員一人ひとりが専門性を活かし個別の関わりを大切にしたい保育実践が出来る春日保育園を目指していく。

1. 保育園の機能強化と専門性の向上

- (ア) 職員個々に、保育理念・保育所保育指針等を意識して目標参画を運用した為保育士が子どもたちの発達の連続性を考慮し、0 歳から就学前までの一貫した保育の実施に向けて活かすことが出来た。
- (イ) オンライン研修（平均参加人数 18 人）やキャリアアップ研修会（3 科目以上 7 名達成）に参加し、多くの職員が専門性の向上に努めることが出来た。
- (ウ) 感染対策を徹底した上で、親子教室の継続的な実施をすることにより、保護者の子育ての悩み解消や子育て知識向上が促進された。

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) 地域の児童発達支援事業所を利用する子どもたち（14 名）を積極的に受け入れると同時に、個別支援計画を立案し計画に沿った保育を実践した。職員配置により障害児事業補助金取得が出来た。
- (イ) 奄美市乳幼児健康診査後の相談や発達検査のフォローを実施し、次の専門機関へ繋ぐことが出来た。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 月 1 回広報誌を発行し、子育てについての情報提供を地域住民に行った。
- (イ) 中学校、高校の職場体験受け入れを感染予防対策を行いながら積極的に実施した。
- (ウ) 高校生との郷土菓子作り体験や地域の新川祭りにこいのぼりを制作し提供した。

4. 食育と環境教育

(ア) 新鮮な野菜の収穫体験を通し、野菜や果物に興味や関心を持つことができた。

(イ) 一人ひとりが好きな遊びを通した活動において、自ら選択する環境を整え、自己肯定感を高める支援ができた。

5. 身体発達の向上

運動専門士による体操教室を開催し、身体能力の向上を図ることができた。また、なわとびが跳べるようになった達成感から様々なことに自信を持って活動する意欲向上へとつながった。

【経営実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳	4	4	5	6	6	7	8	9	10	11	12	12	94	7.8
1歳	19	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22	22	259	21.6
2歳	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264	22
3歳	28	29	29	29	29	29	29	29	29	29	28	28	345	28.7
4歳	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	311	25.9
5歳	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204	17
計	115	119	120	122	122	123	124	125	126	127	127	127	1477	123.1

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数	2440	1998	2591	2476	2221	1844	2311	2352	2604	1452	2121	2623
保育日数	24	23	26	25	25	24	26	24	24	20	22	26
一日平均	101	87	99	99	89	77	89	98	108	72	96	101

③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	21	20.8	20.8	20.8	20.8	20.2	19.2	20.2	20.2	20.2	20.7	19.7
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
看護師(パ)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
保育補助(パ)	2.9	2.9	2.9	2.9	1.9	1.5	2.5	2.5	2	2	2	2
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計(換算数)	29.7	29.5	29.5	29.5	28.5	27.5	27.5	27.5	28	28	28.5	27.5

のぞみ園

児童発達支援センター
(児童発達支援・保育所等訪問支援・障害児相談支援)
放課後等デイサービス
計画相談支援

2021年度は、報酬改定に対応した体制を整え安定した経営状態を維持することができた。それにくわえて、のぞみ園内における感染症対策と、可能な限りのリスク軽減を行う中で、2020年度は開催できなかった親子行事等を開催することができた。そこには、職員一人ひとりが感染症に対する取り組みを理解し、実践してくれた賜物であると感謝したい。

また、この間に普及したオンライン環境を最大限に活用して職員の学びの機会や関係機関との連携にも取り組むことができた。

2022年度は感染症や防災に対する取り組みを継続して行いつつ、ライフステージに応じた「継続性のある支援」と「成長した先の自立支援」の実現に向け、奄美エリア各施設を含めた関係機関との連携強化と、支援者育成にも力を入れていく。これらを通して、地域の子育て支援とインクルージョンの推進に欠かすことができない福祉施設としての事業価値を高めていく。

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化

- (ア) 療育支援の質の強化のために職員配置を見直すことで、専門職・実務経験が伴う職員を配置することによる加配加算につながり、安定した経営状況を維持することができた。
- (イ) オンラインによる関係機関との情報交換会開催、鹿児島大学や地域の事業所と共同で行う事例検討会等の参加を通して、日々の実践を振り返り支援の質を高めていくことに取り組むことができた。
- (ウ) 放課後等デイサービス事業において、年齢や発達課題に応じたチーム分けを行い、将来の自立を意識した支援を実践した。この取り組みは、次の継続性のある支援に繋がっていくと考える。
- (エ) 保護者会と密な連携を取りながら、コロナ禍における親子活動や交流をどのような形で行うか様々な検討を行い、行事だけにこだわらず先輩保護者の経験や思いをアンケートに集約し、就学前の保護者へ伝える新たな取り組みを実践した。
- (オ) 感染対策を徹底しながら可能な限り福祉実習を受入れ、将来の福祉人材の学ぶ機会や福祉の職場を知る機会として、奄美看護福祉専門学校の実習や中学校の職場体験などを受け入れることができた。

2. 働きやすい職場環境作りと感染症や災害時に対応できる体制作り

- (ア) オンライン研修の受講を積極的に推進し、個人のキャリアアップだけでなく、加算取得や事業に必須の児童発達支援管理責任者等資格取得支援を計画的に進めることができた。

- (イ) 看護師を中心としたのぞみ園内の感染症対策（体調確認・消毒・換気・意識啓発・職員研修等）を標準化し、保護者・職員が取り組みやすい環境作りを行った。
- (ウ) アウトドア交流や職員一人ひとりの誕生日を紹介する取り組みなど、コロナ禍の中においてもできる職員間のコミュニケーション向上に向けた取り組みや、毎週月曜日のノー残業デイの実践など、交流促進と働きやすい環境作りを推し進めた。
- (エ) 災害時における避難確保計画や感染症対応における BCP 計画の作成、近隣企業協力による津波避難訓練の実施、奄美警察署協力による防犯訓練、家族会と合同の災害研修等（減災・非常食体験）の実施ができた。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 奄美市親子教室への支援者派遣、のぞみ園独自の地域向け親子教室の開催を通し、地域の子育て支援や、早期療育へのつながりに取り組んだ。
- (イ) 奄美大島以外の離島も含めた通所支援事業所に従事する支援者向け研修や、学童クラブ等で働く支援者を対象にした「ペアレントプログラム研修」の実施ができた。

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援
利用者定員	25 名		20 名	
利用者延べ人数	6467 名	35 名	4295 名	505 名
一日平均利用者	26.8 名	0.1 名	17.8 名	2.1 名
稼働率	107.2%		89.1%	
稼働日数（延べ）	241 日		241 日	
単価（一人1日当り）	15,002 円	17,971 円	7,609 円	21,441 円
職員数	17.8 名	0.6 名	7.1 名	3.2 名

聖隷かがやき

児童発達支援センター
(児童発達支援・保育所等訪問支援・障害児相談支援)
放課後等デイサービス

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、療育の中でも保護者と共に子どもの課題や成長を共有できる「親子通園」・「子ども理解」における支援方法を検討し、保護者へ細やかな連絡を取り、情報端末機器を活用した支援を提供した。

また、施設理解のため、感染症対策を行いながら「地域とのつながり」を実施した。しかし感染症の流行下においては、当初の計画通りにいかず、延期や中止の形を余儀なくされた。その為、家族・地域が求める支援の在り方を見直し、職員間で検討を重ね、模索し続けた一年であった。

子ども一人ひとりの「できた・楽しい」思いを持つことが家庭や地域において発揮され、自信を持てる事に繋がるため、個別・集団における丁寧な支援に努めたところ、職員の意識向上も高まり、チームで取り組めたことが、利用する保護者の信頼に結びついている。

今後も児童発達支援センターとして「子ども支援」「家族支援」「地域支援」を基盤とし、北大島地区の地域にとって欠かす事が出来ない福祉拠点の更なる価値を高めていく為に職員と一丸となって取り組んでいく。

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ①個別課題の達成度を確認し、スモールステップで無理のない支援内容を職員間で共有できた。
- ②地域のボランティアの方たちと、郷土菓子作りや、海の安全教室などの「体験交流」を通して、様々な方と出会える機会での「人」と関わり、楽しめる場を提供できた。
- ③「食」に対する個々の課題を家族とも共有し連携した取り組みができた。

(イ) 家族支援

- ①子どもの気持ちに寄り添った支援を家族とも共有できるように、連絡帳やお便りなど家庭との連携を細目に図った。
- ②新型コロナウイルス感染症の影響から、行事として予定した親子触れ合い遊びの提供は実現できなかった。
- ③保護者自身の自己肯定感、子育てへの不安軽減、保護者交流の為にペアレントプログラムを実施して保護者に安心を得られた。

(ウ) 地域支援

- ①施設間の交流は実現が難しく、新たな方法で検討を必要とする。
- ②月1回は行政が主催する3歳以下の子育てサークルで触れ合い遊びを提供できた。

(エ) 経営の安定化

- ①児童発達支援修了から放課後等デイサービスへ移行する児童が増加し登録人数（2020 年度 23 名、2021 年度 28 名）が増えた。
- ②個別の支援の必要性に応じて算定される個別サポート加算を算定することができた。

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

- (ア) 目標参画、保育士ラダーの運用により人材育成を図った。
- (イ) オンライン研修を活用して、職員の資格取得やスキルアップに取り組んだ。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域に向けた施設独自の「親子教室」を実施できた。
- (イ) 地元法人施設との公設無料学習塾「龍進未来塾」を利用する生徒の送迎支援に参画した。
- (ウ) 自然災害発生時における施設活用について、自治体と協議を行った。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利 用 者 定 員	20 名		10 名		
利 用 者 延 べ 数	3,440 名	39 名	2,333 名	131 名	134 名
稼 働 延 日 数	242 日	242 日	242 日	242 日	242 日
一 日 平 均 利 用 者 数	14.2 名	0.2 名	9.6 名		
稼 働 率	70.0%		90.0%		
単価（1 人 1 日当り）	14,000 円	17,871 円	10,213 円	18,778 円	16,320 円
職員数（常勤換算）	8.1 名	0.4 名	4.9 名	0.2 名	0.3 名

聖隷ケアセンター沖縄

聖隷訪問看護ステーションゆい

聖隷居宅介護支援センターゆい

聖隷デイサービスセンターゆい

2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し営業継続してきた。しかし聖隷居宅介護支援センターゆいで職員の予定外退職があり、人員補充が難しく 2021 年 9 月末での事業閉鎖を余儀なくされた。居宅介護支援事業所の閉鎖に伴い、聖隷訪問看護ステーションゆい・聖隷デイサービスセンターゆいも新規利用者の獲得が難しくなった。職員の親切的な姿勢と手厚い支援に対する地域の一定の評価はあったが、今後事業の継続性を保持させることは困難であると判断し、2022 年 3 月末をもってすべての事業を閉鎖することとした。

1. 職員個々の専門性を強化し、地域で信頼される事業所となる

- (ア) 各事業所で研修計画を作成し、WEB・対面での研修参加を行った
- (イ) 各事業で超過勤務削減の声掛けを相互に行った
- (ウ) 閉鎖に伴い、利用者の不利益を最小限にとどめるための会議を頻繁に実施した
- (エ) 利用者アンケートは実施できなかった

2. 感染・災害に対応し事業継続できるための基盤作りとセンター内の連携強化

- (ア) 各事業 BCP 作成に取り組んだ
- (イ) 行政主導で定期的な職員の PCR 検査を実施し、コロナ疑いで対応が必要な時は本部や浜松の統括所長と連絡を取り対応した
- (ウ) センター内で情報共有するべく努力した

3. それぞれの事業が経営的に自立することでセンターとして安定した経営基盤を築く

- (ア) 聖隷デイサービスセンターゆいでの加算取得を実施できなかった
- (イ) 聖隷訪問看護ステーションゆいでは、新規獲得に向けての活動が行えなかった
- (ウ) 職員の退職等で通常運営が優先され、近隣病院等への戦略的な営業活動が行えなかった

4. 地域における広域的な取り組み

- (ア) コロナ禍でも、地域の要請に応じて講師派遣や研修参加は行ってきた
- (イ) 地域の防災訓練への参加はできなかった
- (ウ) 各専門職の実習の依頼、調整は実施したが新型コロナウイルス感染拡大の観点から実際の受け入れはなかった

【数値実績】

① 訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

月訪問件数		年間訪問件数		平均単価		職員数 (常勤換算)
医療	介護	医療	介護	医療	介護	
68 件	113 件	757 件	1,243 件	10,637 円	7,663 円	4.3 名

② 居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数		平均単価		職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	
380 件	78 件	14,764 円	4,034 円	1.7 名

③ 通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数		年間件数		平均単価		職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	介護	予防	
326 件	27 件	3,587 件	298 件	9,156 円	5,411 円	7.8 名

聖隷こども園わかば

2021 年度も乳児、幼児ともに安定して 187 名の園児を受け入れることができた。職員が充足していたこともあり、0 歳児を定員上限の 24 名まで受け入れができたことは園としても安定した運営につながった。また、希望の多い一時預かりについても積極的に受け入れを行うことができた。幼児教育が無償化されてから 2 年がたち、幼稚園では満 3 歳から無償化されることでその時期になると幼稚園への転園を考える保護者も出てきている。少子化の時代、子どもの育ちを継続させた保育を提供することができる方法を考えていきたい。

感染症対策については引き続き試行錯誤しながら、園児の生活、行事の持ち方等を改めて見直した。日々状況が変化する中で、「今」の子どもたちに必要な経験をどのように保障していくか、保護者とどのように共有していくか、昨年度の経験をもとに一つひとつを考えることができ、限られた中でもできることを工夫し、開催できた行事も増えた。また、それらを通して保護者とともに子どもの姿を共有し、喜び合えたことは成果である。

副主任を中心にキャリアアップ研修での学びを園内で活かすことができるようになり、自分たちの保育を振り返る機会が増えた。それらを基盤に、今後も子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対してより質の高い教育・保育の提供ができるよう保育内容の充実を図るとともに、業務改善については課題もあるため、職員にとって働きやすい職場環境の構築のために尽力していく。

【入所状況】

年間平均入所率は 87.6%

途中入所は 0 歳児 14 名 ・転居により 2 名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. より質の高い教育・保育を実践する

(ア)「全体的な計画」が保育を進める上で園の指針となることを理解し、職員一人ひとりが保育を行う中で大切にしていることを言語化し、それらがどのように実践と結びついていくか振り返る機会を持った。それを職員で分かち合い、今後の保育に活かすために継続的な学びをすることが課題である。

(イ)ピアジェの構成論に基づいた保育実践を深めるための学びは十分ではなかったが、「全体的な計画」と自分の保育実践の見直しを通して、改めて子ども一人ひとりをよく観察し、理解しようとすることで、保育者同士が子どものことについて語り合う機会が増えた。

2. 保育職としての専門性を高める

(ア)職員一人ひとりが園の理念・目標、「全体的な計画」を理解する中で、改めて子どもを丁寧に観る姿勢を、フォトラーニング・ビデオカンファレンス等を通して学ぶことができた。

(イ)保育職ラダーと自己評価の取り組みを通して、職員が自己の課題と役割を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につながった。

3. 独自の取り組み

(ア) 食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。また、厨房職員と保育者が一緒に「絵本献立」の紹介を進め、保護者も一緒に給食（食事）への興味がさらに深まった。

(イ) 子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。土曜日に講座を行い、託児もしたことで両親そろって参加をされる家庭が見られた。また、常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援、週1日は地域に出向いた出張ひろば等も行い、特に、相談事業に力を注いだ。

4. 公益的事業

(ア) 感染症の感染拡大防止の観点から、近隣施設との交流は思うように進まなかったが、学生の受け入れ等は双方で連絡を取り合いながら安全に留意した上で行ってきた。また、園庭の開放や、電話による地域の子育て家庭に対する育児相談を行った。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	11	12	11	13	15	20	22	22	23	23	24	206	17.1
1歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
2歳児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32
3歳児	34	34	34	34	33	33	33	33	33	33	33	33	400	33.3
4歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
5歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
合計	174	175	176	175	176	178	183	185	185	186	186	187	2166	180.5

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3412	2992	3670	3200	2798	3344	3583	3583	3533	2928	2859	3634	39536	3294.6
保育日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293	24.4
1日平均	136	130	141	128	111	139	137	149	147	127	129	139	1613	134.4
一時預かり	0	3	1	2	2	19	33	29	20	11	11	12	143	11.9
病後児保育	5	17	0	3	1	1	3	1	4	1	2	0	33	2.75
延長保育	34	22	41	35	29	22	52	60	45	32	33	40	445	37

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
保育教諭(パ)	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15
看護師(正・パ)	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
調理師(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1
保育士助手(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	53	53	53	53	54	54	54	54	54	54	54	54

聖隷こども園桜ヶ丘

2021 年度は、職員の得意なことを活かした親子ひろばを企画し、地域のニーズに応える保育を提供することで入園を確保する計画をたてたが、新型コロナウイルス感染症の対応で実施できない期間があり厳しい状況であった。一方、一時保育事業では積極的な受け入れを行ったことで、定期利用者が増え安定した運営を行うことができた。

働きやすい職場環境を目指し、主任と副主任が中心となり業務改善に取り組んだ。特に記録業務の時間を確保する取り組みを行った。職員同士のコミュニケーションを活発にし、連携をとりながら今後も継続していく。新型コロナウイルス感染症の影響により WEB 研修が増えたことで、興味や関心のある分野の研修を自園で多くの職員が気軽に受けられるようになり、保育の質の向上につながった。

【入所状況】

4 月の新入園児 20 名、年度途中入所は 0 歳児 9 名、1 歳児 5 名、2 歳児 1 名の計 15 名であった。また、転居等家庭の都合で 10 名の転園や退園があった。年間平均入所率は 86.6%であった。

【事業目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 子どもの最善の利益を考え、職員間で施設理念や保育目標の意味を確認し合い、「一人ひとりを大切にする丁寧な保育・教育」を実践した。
- (イ) 各クラスで「子どもが主体の保育」を実践するための保育環境づくりに取り組み、子どもが主体的に遊べるように保育室のコーナー遊びの見直しを行った。更に、子どもの姿を丁寧に見る方法として「乳児クラスのゆるやかな担当制」の導入を検討するため、他園の保育を見学するなど勉強を始めた。
- (ウ) 浜松市の「保育所等巡回支援事業」を利用して個別配慮を必要とする子への関わり方や専門知識を学び、保護者支援に繋げた。障害のある園児の並行通園施設や医療機関と連携を図り、きめ細やかな保育を行った。

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 保育職ラダーを活用することで、職員個々の課題を明確化でき、個人の役割を意識させることができた。
- (イ) 保育の質の向上を目指して、運動遊びや発達支援等の講師を園に招き園内勉強会を実施した。また、積極的に Web 研修やキャリアアップ研修を受講することで教育・保育の専門性を身につけることに繋がった。
- (ウ) 聖隷保育の勉強会では「全体的な計画」を基にワークショップを行い、職員個々の保育観について語り合い、目指すこども像を共有した。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 主任と副主任が中心となって業務改善を行い、記録時間の確保をすることで働きやすい職場になるように環境整備を行い継続中である。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 次世代育成の為、中学生の職場体験の受け入れを行った。

(イ) コロナ禍で開催できない期間もあったが、親子ひろばの園庭開放や企画を通して、地域の子育て家庭の遊びの場、育児相談の場として支援を実施した。

5. 新型コロナウイルス感染症予防の取り組み

(ア) 室内消毒清掃・換気・手洗い（手指消毒）・毎朝の健康観察等の感染対策を徹底しながらコロナ禍における、日々の保育の在り方や行事の開催方法を検討した。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳児	6	7	7	7	9	9	9	10	11	11	11	14	111	9.2
1歳児	28	29	30	30	29	29	28	28	28	28	29	29	345	28.7
2歳児	31	31	31	31	31	31	30	30	31	31	30	30	368	30.6
3歳児	32	31	31	31	30	30	30	30	30	30	30	30	365	30.4
4歳児	32	32	32	32	32	32	32	31	31	31	31	31	379	31.5
5歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
合計	163	164	165	165	165	165	163	163	165	165	165	168	1,976	164.4

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延べ人数	3099	2696	3427	3203	2498	3091	3302	2533	3229	2629	2536	3182	35425	2952
保育日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293	24
1日平均	123	117	131	128	99	127	127	105	134	114	115	122	1442	120
一時預かり	0	1	1	0	5	13	26	29	26	22	19	16	158	13
延長保育	70	85	105	61	46	89	96	89	67	81	76	94	959	79.9

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭（正）	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17
保育教諭（パ）	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員（パ）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
管理栄養士（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育助手（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	44	44	44	44	44	43	43	43	43	43	42	42

聖隷こども園ひかりの子

2020 年度より続く世界的な感染症拡大の中で、感染症予防の対応と園児の心身の育ちの保障を並行して考え、事業や教育・保育の内容の見直しや検討を継続してきた1年であった。予防や感染拡大防止のための取り組みとして、園児の健康観察や保護者の保育室への入室制限、行事の中止や規模の縮小等、保護者の理解と協力を得ながら進めてきた。園と家庭と二人三脚で感染対策に取り組むことができていく実感が得られた。

園内に於いては主幹保育教諭や副主任が中心となり、業務改善に努めた。保護者との連絡ツールの見直しや掃除方法の改善等ができた他、職員の意識改革を行ったことで、一人ひとりが業務改善に主体的に関わろうとする姿が見え始めている。また、保育の質向上のための取り組みとして、チーム力を高めることに園全体で取り組んだことは、職員同士が「一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合う」という園目標にも繋がった。

【入所状況】

4月の新入园児は37名、年度途中入所15名の内10名が在园児下の子の入园であった。また、転居等家庭の都合で9名の転園、退園があった。年間平均入所率は83.8%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) コロナ禍における日常の保育や行事の在り方を見直すことが、必然的に質の向上に繋がった。地域の感染状況に合わせ保育内容を検討し、子どもの健やかな育ちを最優先に考えた上で、保護者対応で重要視すべきことなどを、職員間でその都度確認し合うことができた。
- (イ) 一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践をすべく、職員から挙がってきた課題を少人数グループで検討し学び合った。また職員間のチーム力を高めることの必要性を再確認し、グループワークや園内保育士交換など、質の向上のための取り組みを行った。

2. 職員の資質向上

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を基に自己の目標や役割を見出し、必要な研修に参加することで保育力の向上を図った。オンラインによる外部の専門研修には、園で受講できることにより、対面参加型に比べ多くの職員が参加することができた。
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにした。副主任会議では、役割における迷いや悩みを共有し、また園内の課題を見出すことで、副主任が中心となって園全体へ働きかけをした結果、業務負担に対する職員の意識が変わり始めた。

3. 教育・保育関係機関との連携

- (ア) 主幹保育教諭が近隣小学校での職業紹介の授業に出向き、小学生との交流を図った。また、年長児保護者の就学に対する質問に対して小学校に回答を依頼し、それを保護者に返すことで就学に対する不安を軽減、解消することができた。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 親子ひろばについては、コロナ禍における開催の仕方に十分に配慮しつつ、温かな雰囲気と対応を心がけ、職員や保護者同士が顔見知りとなり継続的に子育ての悩みや楽しさを共有できる場となった。

(イ) 感染対策を図りつつ、ボランティアや実習生の受け入れを行った。

5. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 0歳児保育室に布団庫を設置したことで、職員の動線が良くなり業務負担軽減ができた。

(イ) エコキュートの老朽化に伴う修繕を実施した。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	11	12	13	14	15	17	18	20	20	19	177	14.7
1歳児	29	29	29	29	29	30	30	31	31	31	31	31	360	30
2歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35
3歳児	40	40	40	40	40	40	39	39	39	39	39	39	474	39.5
4歳児	39	39	39	39	39	39	40	40	40	40	40	39	473	39.4
5歳児	40	40	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	470	39.1
合計	192	192	193	194	195	197	198	201	202	204	204	202	2374	197.8

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3753	3175	4032	3522	2920	3655	3913	3731	3842	2753	3017	3764	42077	3506.4
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293	24.4
1日平均(名)	150	138	155	140	116	152	150	155	160	119	137	144	1716	143
一時預かり(名)	0	0	2	0	0	3	0	3	2	2	0	8	20	1.6
延長保育(名)	135	81	91	99	77	101	109	82	98	49	72	95	1089	90.7
学童保育(名)	205	172	206	212	189	189	211	207	231	146	178	223	2369	197.4
親子ひろば(名)	14	18	18	23	5	0	27	19	35	20	0	0	179	14.9

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	20	20	20	20	21	20	20	20	20	20	20	19
保育教諭(パ)	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・7	1・6	1・6
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助・アルバイト	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	2・1	2・1	2・1	2・1
計	55	55	55	55	56	55	55	55	56	57	56	55

聖隷こども園めぐみ

2021年4月に隣接する事業所内保育所めぐみ保育園が統合され、定員を216名に増員し新しい体制でスタートした。めぐみ保育園の全園児の移行に加え、地域におけるニーズが特に高い乳児の受け入れを積極的に行い、地域への貢献を果たすとともに、経営の安定にも繋がった。既存の園舎を有効に活用した新体制の中で、よりよい保育環境を作るために試行錯誤を繰り返し行っていた。また新型コロナウイルスの感染拡大の状況が続く中、園児・保護者・職員等の安全を守りながら園として出来ることは何か模索し、子どもたちにとって必要な経験を保障していくために保育内容・行事について見直ししながら進めていった。

課題であった保育者の確保については統合による職員数の増加と共に、新人職員の確保ができた状態からスタートした。職員の働きやすい職場環境作りを目指し、主任・副主任を中心に業務改善にも取り組んだ。今後さらにモチベーションを高く持って仕事に取り組めるよう、専門職として知識や技術を身に付けていくことが出来る職員育成の環境を整えていく。

今後子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供が出来るよう保育内容の充実を図る。

【入所状況】

年間入所率は88.8%。在園児兄弟の0歳児の途中入園が13名。転居等により4名が途中退園した。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

(ア) 内容の見直しを行なった「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を職員間で共有し、講師のアドバイスを受けながら園内研修を行った。職員それぞれの保育観を語り合うことで保育実践と結びつけた学びになるよう取り組みを継続していく。

(イ) 聖隷の保育の基本となるキリスト教保育や事故を防止する危機管理等、園の課題を明確にし、職員間で共有する時間を継続的に作った。

(ウ) 聖隷保育学会への取り組みを継続した。今後も個々の学びを職員全体で共有し、保育の質の向上につなげていく。

2. 和合せいれいの里との交流・連携をすすめる

(ア) コロナ禍で和合せいれいの里の利用者との交流はできなかったが、一方でめぐみ保育園跡地に開設されたかるみあ和合や訪問看護ステーションとの交流は、園児の並行通園もあり、今後のセンター化等を見据え連絡会を開催するなどの連携がはじまった。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 親子ひろばや病後児保育室はコロナ禍において開催や利用者数の制限が必要になり、全体として利用件数は減ったが、地域の子育て家庭を支援する場所として可能な範囲で開催を継続した。登録希望者や育児相談の件数が増え、地域の中で少しずつ認知度が上がってきていることを感じる。今後も地域の子育て家庭を支える取り組みを継続していく。

(イ) 中高生の職場体験の受け入れを行い、次世代育成の取り組みに貢献した。

4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 浜松エリアで取り組んだ保育システムの検討会議により、システムによる記録業務の具体的な見直しが出来、業務省力に繋がっている。今後は更に、保護者との連絡ツールとしての活用を踏まえ、職員のスキルアップにつながるよう保育システムの検討をしていく。

(イ) 浜松エリア主任副主任会、園内のリーダー会議等で園の課題解決のための取り組みを行っていった。働きやすい職場環境を作るためさらなる検討が必要である。

【数値指標】

(ア) 歳児別入所保育児童数(名) 入所率 88.8%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	5	6	6	8	11	14	15	16	16	18	18	138	11.5
1歳児	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432	36.0
2歳児	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	444	37.0
3歳児1・2号	39	39	39	39	39	39	39	38	38	37	37	37	460	38.3
4歳児1・2号	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33.0
5歳児1・2号	37	37	37	37	37	36	36	35	35	35	35	35	432	36.0
計	187	187	188	188	190	192	195	194	195	194	196	196	2302	191.8

(イ) 保育日数及び延べ出席・利用状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3688	2844	3962	3432	2910	3554	3840	3565	3655	3110	2892	3478	40930	3410.8
保育日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	24	22	26	294	24.5
一日平均	148	124	152	137	116	148	148	149	152	130	131	134	139.2	139.2
一時預かり	0	0	0	0	0	2	0	3	16	4	0	0	25	2.08
病後児保育	0	4	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	9	0.75
親子ひろば	3	4	5	3	0	0	3	5	6	4	0	0	33	2
延長保育	212	138	191	148	149	175	199	187	210	205	156	198	2168	180

(ウ) 職員の状況(名) 正規職5名 年度途中より育児休暇中

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	27	27	27	27	25	25	25	25	25	25	25	23
保育士(パ)	12	12	12	11	11	10	10	10	10	10	10	11
保育補助	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	47	47	48	47	45	44	44	44	44	44	44	43

聖隷浜松病院ひばり保育園

2021 年度は、1 歳児の入園需要が定員を超えていた為、保育室の調整を行い保育室の面積、職員配置など態勢を整え受け入れを行った。0 歳児入所においては、従業員枠の育休延長や入園取り止めがあり、予定通りの入所が難しく定員未達となった。待機児童の減少により、地域枠の入所確保が今後の課題となる。2 歳児では、年度途中の退園はあったが、一定数の園児を利用継続へとつなげることができた。幼児クラスでは、2020 年度から取り組み始めたピアジェの構成論を根拠とした子ども主体の保育実践を発展させ、「子ども会議」や「遊びの部屋」を保護者の理解を得ながら行うことができた。新型コロナウイルス感染症などの感染対策については、聖隷浜松病院と連携を図り、日々の衛生管理の意識を高め園の運営を安全に行うことができた。保育者の専門性の向上については、保育理論を基に毎月の園内勉強会、リモート研修、キャリアアップ研修を活用することで年間を通じて学びの場を確保することができた。業務改善については、記録業務時間の確保に重点を置き、レイバー表の作成と活用を実践したことで改善につながっている。

1. 入所状況

年間平均入所率は 58.9%。4 月は新入園児 16 名を迎え 108 名でスタートし、3 月末には 128 名の在籍となり、4 月から 20 名の増となった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 質の高い保育サービスの提供

- ①理論に基づく子どもの発達や知的な思考発達に視点をあてた活動を展開できた。
- ②職員同士で自己評価の共有を図り、全体的な計画に基づいた保育の振り返り、保育理論に基づいた保育環境の再構築など質の向上を意識した取り組みが実施できた。
- ③聖隷の他園と連携を図り、保育学会等での学びを自園の保育に生かすことができた。

(イ) 専門性の向上を図る。

- ①研修計画に沿って園外研修への参加を促進し学びの機会を増やすことができた。
- ②保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々の課題を明確にすることで目標達成に向けて意識付けができた。
- ③園内研修を充実し子ども理解の視点を得たことで子どもを知る楽しさを味わい、実践に向けて職員の意欲を高めることができた。

(ウ) 職員の働きやすい環境づくり

- ①業務省力化に向け記録時間確保のためにレイバー表の作成と活用をし、日誌や月案の記録時間の確保ができています。今後も継続できるようシステムを確立させる。
- ②新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、園内の保育士交換は実施しなかった。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 育児講演会や人形劇等を企画したが、コロナ禍により地域からの参加は得られなかった。
- (イ) 住吉文化展に参加、出品し、地域との交流の機会をもつことができた。新型コロナの感染拡大を考慮し城北小学校や地域の交友会との交流の機会を新規開拓はできなかった。

【数値実績】

① 児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	6	6	8	10	11	14	17	18	21	22	23	162	13.5
1歳児	39	40	40	40	40	40	40	41	41	41	41	42	485	40.4
2歳児	23	24	24	23	23	24	24	24	24	23	23	23	282	23.5
3歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	286	23.8
4歳児	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	91	7.6
5歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
計	108	110	110	111	113	116	119	123	124	126	126	128	1,414	117.8

②保育日数および延べ出席（利用）状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	2,037	1,715	2,199	2,096	1,880	2,095	2,383	2,336	2,327	1,836	1,879	2,303
保育日数	25日	23日	26日	25日	25日	24日	26日	24日	24日	23日	22日	26日
一日平均	81名	75名	85名	84名	75名	87名	92名	97名	97名	80名	85名	89名
延長保育	120名	81名	107名	101名	79名	95名	108名	106名	107名	87名	84名	126名

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
保育士(パ)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員/用務員	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/2	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1
計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

聖隷のあ保育園

2021 年度に開園 3 年を迎え、1 年を通して安定した利用者数を見込んでいたが、地域性の影響もあり転勤による転園や幼稚園への早期入園が重なり 4 月は見込みを下回った。8 月以降に入園数が伸びはじめ、12 月以降は定員を超える確保ができた。

新型コロナウイルス感染症における緊急対応については法人本部と情報を共有しながら、利用者と職員の健康管理及び衛生管理の徹底につとめた。保護者の協力を得ながら、保育内容や行事について自園でできることを考え工夫し、子どもたちにとって必要な経験が保障できた。外部研修の機会は大幅に減ってしまったが、園内研修を充実させ、小規模園の特性を活かした質の高い保育の提供について学びを深めたことは、保育士のスキルアップにつながっている。

3 歳児以降の受け入れ先である連携園が「聖隷こども園ひかりの子」のみとなり、よりスムーズな移行を目指し連絡を取り合った。連携園以外への転園についても保護者の意向に応じた援助が継続してできている。

今後子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供ができるよう人材育成に努め保育内容の充実を図ると共に、働きやすい職場環境を維持していく。

【入所状況】

4 月は 14 名でスタートし、12 月に定員に達した。年間入所率は 87.3%である。

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う。

聖隷保育の勉強会や園内勉強会では「全体的な計画」を元に、職員全員が園の理念と目標を理解し、柱となるキリスト教保育や子ども一人ひとりの成長発達に合わせた丁寧な保育について学びを深め、保育に活かすことができた。また、クラスの枠にとらわれず園全体で保育することを意識したことで、園児の発達状況に合わせた保育の提供や環境を構築することができた。

2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。

保育システムの運用を見直し、業務省力につなげた。レイバー表と仕事の進捗状況表を用いた職員同士のコミュニケーションを意識し、報告、連絡、相談の徹底をした。職員同士のやりとりの活性化により、職員がストレスなく働ける環境が整ったことで、心身の健康維持につながった。連携園である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育を定期的実施するなど、3 歳児以降の転園が円滑にできた。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の感染状況を確認しながら、自治会や近隣施設との交流が継続してできた。

(イ) 実習生を実際に受け入れることはできなかったが、学生の希望によりリモートで保育現場を見てもらうなど、保育士育成の支援ができた。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名） 入所率 86.8%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	3	3	3	3	3	4	4	6	7	8	8	8	60	5.0
1歳児	5	5	5	5	6	7	7	7	7	7	7	7	75	6.3
2歳児	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	4	4	63	5.3
計	14	14	14	14	15	16	16	18	19	20	19	19	198	16.5

② 保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数 （名）	234	223	230	252	211	305	314	326	311	282	246	294	3228	269.0
保育日数 （日）	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293	24.4
一日平均 （名）	9	10	9	10	8	13	12	14	13	12	11	11	132	11.0
延長保育 （名）	0	0	0	0	1	1	1	0	3	1	0	2	9	0.8

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
（パ）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
管理栄養士 （委託）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（兼務）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11

こうのとりの保育園

2021 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながらの園生活となった。様々な行事を中止、延期、規模縮小と形を変え、工夫をして行ってきた。引き続き衛生管理を徹底し、子どもの生命と健やかな育ちを守っていく。また、子ども一人ひとりに対し丁寧な援助をおこなうため、一人ひとり異なる日課を大切に、子どもが主体的に遊びを選び、自らがやりたいと意欲的に取り組むことができるような環境を目指していく。

【入所状況】

4 月新入園児 20 名。年度途中新入園児 11 名のうち、育休明け 0 歳児が 10 名で、年間入所率は 120%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上への取り組み

発育を促すための心地よい園生活を基盤に、一人ひとりの成長に合わせた教育・保育を実践した。一人ひとりの子どもの動きを細やかに捉えることで、個別の発達課題を把握できるようになった。子どもと保育者の双方向的なやりとりを意識し、0～3 歳児では流れる日課を取り入れ、子どもの発達状況に応じて保育者が援助の仕方を工夫できるようになっている。

また、子どもの身体的、知的、情緒的な発達を促す環境づくりとして、以前より課題となっていた園庭の砂埃を改善するため、園庭全面人工芝工事を行った。安全面と衛生面において改善できただけでなく、子どもの興味関心が広がり、子どもが自ら考えて遊びを行うことができるような、空間的・時間的な保障をすることができた。

2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

保育支援システム「コドモン」の導入を行い、職員の負担となっていた書類の作成や記録、報告業務の省力化を目指した。引き続き有効な運用方法等について園内だけでなくエリア内で検討し、子どもと向き合う時間や心理的ゆとりが増え、専門職として誇りと自覚をもった保育が実践できるよう取り組んでいく。

保護者に対しては、保護者アプリのドキュメンテーション配信等を通し、子どもが「何を感じ、学ぼうとしているか」を可視化した。子どもが園生活の中で体験したことや、思考力が育まれる姿を文章だけでなく、写真や動画を用い伝えたことで、子どもの発見や気づきなど園での成長を共有でき、園と家庭のコミュニケーションを深め、保護者理解につなげることができた。

3. 統合保育の実践

障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う事ができた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 他機関（磐田市こども・若者相談センター等）と連携し、子育て家庭の抱えている課題の相談を定期的に行う事ができた。

(イ) 2021年11月に創立50周年を迎え、地域とともに歩んできた保育園の歴史を園内外に伝え、子どもは社会全体で育てることが大事であることを再認識するきっかけとなった。新型コロナウイルス感染症対策により地域住民や小中高校生が子育てに関わる機会をつくることは難しかったが、引き続き地域福祉に貢献できるよう取り組んでいく。

5. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 修繕…園庭全面人工芝工事、園庭と園庭遊具の整備、床、壁紙交換

(イ) 購入…給食室 GHP 空調設備、給食室消毒保管庫

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	10	11	15	15	15	17	17	17	17	18	18	178	14.8
1歳児	24	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	24	296	24.7
2歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	24	309	25.7
3歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
4歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	311	25.9
5歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
計	137	139	140	145	145	145	147	147	147	147	147	144	1,730	144.1

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,554	2,316	2,822	2,727	2,147	2,194	2,961	2,811	2,846	2,354	2,309	2,319	30,360	2530
保育日数(日)	26	23	26	25	25	24	26	25	24	23	22	26	295	24.5
一日平均(名)	60	100	109	109	86	91.4	114	112	119	102	105	89	1196	99.6
一時預り(名)	42	51	66	65	67	36	88	88	101	61	82	86	833	69.4
延長保育(名)	48	44	43	49	33	39	41	48	47	39	24	37	492	41.0
学童保育(名)	88	7	8	52	178	7	4	3	31	12	5	53	454	37.8
休日保育(名)	4	6	4	17	5	24	5	21	6	18	22	17	149	12.4
病後児(名)	2	0	1	0	1	0	1	4	1	3	1	0	14	1.2
支援センター(名)	305	122	197	518	374	60	225	268	221	179	137	229	2835	236.3

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	14・23	14・23	14・23	14・23	13・23	12・24	12・24	12・24	12・24	12・24	12・24	12・24
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・4	1・4	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・4	1・4	1・4	1・4
事務員(正・パ)	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2
補助他・アルバイト	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	50	50	51	51	50	50	50	50	49	49	49	49

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ “オリーブ”

2021 年度は、職員の異動退職や新入職員数名の入職で、園全体の職員構成が変わったこともあり、副主任やクラスリーダーへの意識付けと役割を明確にするため、定期的に方向性の確認や現状の把握を行ってきた。また、園の核となる“一人ひとりを大切にする保育”を根底に、“子どもの主体性とは何か”をテーマとして、保育環境についての具体的な事例を元に園内での学びの場や研修の時を充実させてきた。園内の人材育成にも有効であるため、2022 年度も継続していく。

また、コロナ禍での保育が続き、感染症対策を徹底しながら日々の保育、行事の在り方を考え、形を変えるなど模索しながら実施に繋がった。保護者とのコミュニケーション不足も課題の一つとなっていたが、保育支援システム（コドモン）導入によって、保育や園生活の様子が保護者に伝わりやすくなった。

放課後児童クラブ “オリーブ” は、利用希望者が増えている。児童が安心できる居場所を提供し、自ら考え行動出来るよう成長を促した。

【入所状況】

1 号認定の子どもは定員 15 名に対して年間平均利用者数 6 名、2・3 号認定の子どもは定員 200 名に対して年間平均利用者数 191 名の利用となった。全体の年間入所率は 91.2%であった。

【年度事業目標・年度重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践した。

保育支援システムの導入で業務省力を目指し、子ども一人ひとりと丁寧に関わる時間を増やすことができた。その上で、子どもの主体性を育てる保育環境について園内での学びの場や研修を定期的に行い、事例検討の場を設け、保育者同士が意見を出し合うことで個人の成長につながった。

(イ) 保護者支援を実践した。

保育支援システム導入により、保護者に向けて園生活の様子をドキュメンテーションで細目に配信し、コロナ禍で行事への参加や園内立ち入り制限がある中でも保育の可視化を実現した。一方で保護者同士の交流や職員とのコミュニケーションの課題は残っている。2022 年度は保育支援システム運用について各園との共有を深め精査し、園内の保護者支援の取り組みについては実践に繋げる方法を検討していく。

2. 統合保育・他機関との連携

発達の遅れのある子どもや育児能力が低い家庭に対し、療育相談や専門機関に繋げるなど連携を図ってきた。また、園生活においても統合保育の実施は、障害の有無に関わらず互いの違いを認め、尊重した関わりを持つことができるなど、年度の初めと終わりで園児それぞれに成長した姿を見ることができた 1 年であった。

3. 食育の推進と環境

(ア) 2020 年度に引き続き田んぼでの活動を行った。地域住民の協力のもと、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、精米とお米になるまでの一連の流れを経験し、取れたてのお米を炊き味わった。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 新型コロナウイルス感染症の影響もある中で、地域の感染状況を鑑みて、地域住民と田植えや稲刈り行事で交流を持ち、園庭開放は年 2 回実施した。

5. 放課後児童クラブ “オリーブ”

(ア) 2021 年度も定員を超えての利用となった。2020 年度の環境整備により、学習空間と遊びの空間をわけることで、それぞれの活動を充実させることができた。また、児童の興味関心に応じ、児童が自分で調べたり学んだりできるような視聴覚教材を揃え、興味関心を追求する場の提供にもつながった。2022 年度も児童の成長につながる環境整備を引き続き行っていく。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	11	12	13	14	15	17	17	18	18	21	23	189	15.7
1 歳児	29	29	29	30	29	30	31	31	31	31	31	31	362	30.1
2 歳児	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432	36.0
3 歳児	35	36	36	36	36	36	36	36	35	35	35	35	427	35.5
4 歳児	39	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	479	39.9
5 歳児	39	39	39	39	39	39	39	39	38	38	38	38	464	38.6
計	188	191	192	194	194	196	199	199	198	198	201	203	2,353	195.8

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数(名)	3,523	2,816	3,949	3,368	2,534	2,904	3,778	3,582	3,628	2,259	3,145	3,075	38,561	3,213.4
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	141	122	152	135	101	121	145	149	151	98	143	118	1,576	131.3
延長保育(名)	58	61	67	61	29	48	51	77	78	40	66	68	704	58.7
学童保育(名)	606	445	606	577	537	408	535	479	503	300	365	451	5,812	484.3
病後児(名)	0	0	5	5	2	2	4	0	0	0	0	0	18	1.5
外国人保育(名)	16	17	17	18	17	18	19	19	19	19	19	19	217	18.0

③ 職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	21・14	21・15	20・14	20・15	19・15	19・15	19・15	19・15	19・15	19・15	20・15	20・15
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・アルバイト	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	45	48	46	47	46	46	46	46	46	46	47	47

聖隷こども園こうのとり豊田

2021 年度は新型コロナウイルス感染防止対策の為、磐田市や在宅福祉サービス事業部と協議しながら衛生管理の徹底に努めた。コロナ禍により様々な制限がある中でも園児一人ひとりの特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行っていった。行事の在り方についても検討を重ね保護者の協力のもと形態や内容を変更しながら実施する事が出来た。4 月より保育システムコードモンを導入し運用を開始した。保育の可視化や保護者との連絡ツール等に写真や動画を活用することで、より明確に伝達することが出来るようになった。初年度は業務省力化へ繋がるための検討期間として園内や他園と情報交換をしながら進めた。

1. 入所状況

4 月に新入园児 27 名を迎えて 162 名でスタートした。年度途中は、0～1 歳児クラスへの入所が 11 名であった。また、5 歳児 1 名 0 歳児 1 名が年度途中より広域での受入れとなった。最終的には 2、3 号認定が定員 140 名に対して 98.8%、1 号認定が定員 15 名に対して 66.1%の入所率であった。

2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア)保育の質の向上

園児一人ひとりの興味や関心を子どもの姿より捉えながら理解を深め、発達を促す玩具や教材の見直しを定期的行うことで熱中して遊びこめる環境を用意することが出来た。乳児は、ゆるやかな育児担当制保育を行うために必要な保育の共有を毎日短時間(10 分ミーティング)実施することが出来た。その事により職員の協働性が高まり質の向上に繋がった。

(イ)家庭と連携して子育てを共有する

保育システムコードモンを活用し、写真や動画による情報を保護者にタイムリーに伝えることで、子どもの成長を園と保護者が共有し見守ることが出来た。懇談会の開催が出来なかった時には担任と保護者での個別面談を実施し、子どもの成長を喜び合う事が出来た。

(ウ)職員間で連携し保育の専門性を高め、働きやすい職場環境を作る

中堅職員の育成を目指して、専門のリーダーが行事や園内研修の企画・運営を副主任のサポートを受けながら進めていくようにしたところ、双方にとって良い学びの機会となり園全体の意欲向上にも繋がった。

クリストファー大学の細田直哉氏により、園の教育・保育の観察、指導、アドバイスを頂き、現状の課題を明確化し、課題に対する取り組みを実践する事が出来た。

(エ)地域における公益的な取り組み

例年、地域の子育て家庭に園庭を開放しているが、新型コロナウイルス感染防止の為、磐田市からの指導のもと開催は見合わせた。ベビープログラムは人数を制限して開催し親同士の交流の場の提供や子育ての相談に応じることが出来た。

(オ)環境整備・修繕

購入：乳児用プール、園庭の小屋、知育玩具、運動器具、机上遊び用テーブル他
修繕：総合遊具他

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	10	10	10	11	12	14	16	17	17	17	17	160	13.3
1歳児	23	24	24	24	24	25	25	25	25	26	26	26	297	24.7
2歳児	28	28	27	28	28	28	28	28	28	28	28	28	335	27.9
3歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
4歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35
5歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
(内広域)					(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)		
計	162	164	163	164	165	167	169	171	172	173	173	173	2016	168

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3124	1914	3351	2982	1935	2389	3394	3185	3238	2593	2449	3053	33607	2800
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	124.9	83.2	128.8	119.2	77.4	99.5	130.5	132.7	134.9	112.7	111.3	117.5	1372.6	114.3
一時預り(名) (内こひつじ)	0 (0)	2 (0)	10 (10)	6 (6)	3 (3)	4 (4)	11 (11)	11 (11)	10 (10)	11 (10)	16 (10)	21 (10)	105 (85)	8.7 (7.0)
一時預かり(幼稚園型)	19	15	33	25	20	18	25	31	40	29	27	28	310	25.8
延長保育(名)	68	40	97	85	51	62	70	99	84	65	47	83	851	70.9
学童保育(名)	141	55	92	146	193	40	81	76	91	74	52	116	1157	96.4

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	16	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15
保育教諭(パ)	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師(パ)	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・子育て支援員(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	42	43	44	43	43	43	44	44	44	44	44	44

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘

開設から2年が経ち、3事業が初年度からステップアップし、それぞれの目標達成に向けて努力を重ね、目標数値達成につながった。新規採用職員及び異動職員がこども園に5名、訪問看護ステーションには2名が加わり、組織運営も少しずつ充実してきた。一方で、後輩指導や業務の省力化の課題解決のためには、こども園の副主任の役割が重要性を増している。新たに取り入れたICT化に伴う保育システム（コドモン）の導入によって、業務の省力化と効率化が図られ、保育の質の向上、保護者支援につながれたことが大きな成果であった。運用をしていく中で見えてきた課題については、今後も継続して、磐田エリアで情報を共有し改善に努めていく。

また、コロナ禍において、子どもの保育や職員同士の学び合い等の3事業の交流は、思うようにいかないこともあったが、それぞれの専門性を活かし、思いを出し合って、より質の高い乳幼児の教育・保育、療育を提供することに時間を費やしてきた。引き続き、多様性を認め合い、だれもが人間らしく幸せに暮らせる社会を目指していきたい。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 施設運営

3事業がそれぞれの役割を活かしながら、保育教諭・保育士・看護師・PT・OT・管理栄養士・調理師が相互に関係し合い、3事業の管理会議・ナース会議・感染委員会・危機管理委員会などが連携し、諸問題に対応できるように運営管理を行った。それぞれの専門性を活かし合い、目的と役割を明確にしながら、問題や課題解決にあたってきた。コロナウィルス等の感染症を予防し拡大を防止するために、ナース会が中心となり臨時感染委員会を開催した。

法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、職員のスキルアップを行った。キャリアアップ研修には、できるだけ参加できるように調整し2021年度も研修発表の場を作り、年度末には職員全体の学びの時間となった。3事業プロジェクトを継続し、チームごとに目標設定を行い、2022年度への飛躍を目指す。訪問看護と児童発達支援の2事業での勉強会では、相互に学び合える場となり、チームで関わることで、医療ケアの必要な児にとっても、より多面的に関われることができるようになってきた。チームで力を発揮することができるよう継続していく。

利用希望者も多く、安定した運営ができるよう、適切な職員配置とコスト管理を行った。

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

[入所状況]

4月新入園児120名を迎え、年度途中入園児12名のうち、育児休暇あけの0歳児が9名。最終的には130名の児童を受け入れることができた。年間入園率は97.3%であった。

(ア) 保育の質の向上(異年齢保育、統合保育の実践)

2021年度は、障がいのある児童(並行通園児童含む)と要支援児童を合わせると7名であったが、関係機関との連携を取りながら、巡回相談も利用し、多面的にひとりひとりを

捉え、健常児も共にお互いに刺激し合い、育ち合う姿が生まれた。

- (イ)「親育て」の観点から乳幼児期の発育を促すための家族関係に着目し、訪問看護ステーションの工藤成美所長に講師をお願いし、保健・医療の観点から、また仕事と家庭を両立しながらの自身の子育てのお話も交えながらミニ講演会を行った。保護者からは「本当に身近に感じ、家族の在り方を考えられた」「自分自身、考えすぎていたかなと思った」等、改めて家族に思いを寄せる事となり、訪問看護についても知ってもらうきっかけとなった。

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 客観的な指標を基に、領域を意識した療育プログラムを作成・実行する
客観的な指標を用いたアセスメントに基づき個々の支援内容が的確に設定できたことで、支援内容の実行に向けた療育プログラムも効果的な内容となった
- (イ) 保護者が子どもと向き合いつつ、自身の社会活動や自己発揮に向けた行動を支える
所内相談（きらきらタイム）の利用が9割を越え、保護者2名が職場復帰した。また、日中一時支援の利用希望が、19家庭中13家庭となった
- (ウ) 職員が、持っている力を十分に発揮しながらチームで支援にあたる（訪問療育の開始）
医療的ケアを必要とする児への居宅訪問療育において、多職種で支援にあたった
- (エ) 安定経営に向け、施設管理を適切に行いつつ新規利用児を計画的に受け入れる
事業運営を安定的に継続し、新規児5名を計画的に受け入れた

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 利用者・家族のニーズに沿ったケアを実施する
職員の増員ができ、利用者・家族の思いを確認しケアの提供を行った。カンファレンスでの事例検討を継続し、勉強会の充実を図っていく。
- (イ) 施設内、事業所内での役割達成のため、自ら行動し、やりがいを創造する
施設内の研修やカンファレンスへの参加はできた。利用者の獲得に繋がるケースもあった。さらにやりがいを持って活動できるよう、職員が中心になって係活動を実施していく。
- (ウ) 磐田地区聖隷事業所との連携を強化し、利用者の確保、安定した経営を目指す
磐田地区法人内での事例検討は継続できた。障害の方の利用に繋がったケースもできた。障害の制度や知識を増やしていくことで、相談連携しやすい事業所にしていく。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の方のご好意でじゃがいも掘りやサツマイモ掘りをさせていただいた。地域に根ざすことを目的とし、実習生やボランティアの受け入れ、また多世代の方たちが子育てに関わることが出来るように、子育ての場を作っていけるように、取り組みを行った。

6. 保育環境の改善、施設整備

- (ア) 修繕と整備…ドアや鍵、保育室のパーテーションの修繕・植え込みや園庭整備
- (イ) 購入…4,5歳児用のロッカー・机・椅子・配膳台・給食用ワゴン他

【数値実績】

■聖隷こども園こうのとり富丘

① 歳児別入所保育児童数（名） 定員 129 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	11	11	13	14	15	17	18	18	20	20	20	20	197	16.42
1 歳児	20	20	20	20	20	20	20	19	20	20	20	20	239	19.92
2 歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264	22
3 歳児	23	23	23	23	22	23	23	23	24	24	24	24	279	23.25
4 歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26
5 歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	18
計	120	120	122	123	123	126	127	126	130	130	130	130	1507	125.6

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数(名)	2260	1740	2445	2240	1347	1825	2541	2284	2387	1392	1731	2298	24490	2040.83
保育日数(日)	25	23	26	25	25	26	26	24	24	16	22	26	288	24
一日平均(名)	90.4	75.65	94.03	89.6	53.88	70.19	97.73	95.16	99.45	87	78.68	88.38	1020.15	85.01
一時預り(名)	1	2	9	19	4	9	15	38	22	10	7	13	149	12.4
延長保育(名)	54	32	58	68	27	60	79	66	74	39	39	65	661	55.1
病後児(名)	0	9	16	23.5	1	1	0.5	1	1	0	1	1	55	4.58

③ 職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7	22・7
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0・7	0・8	0・8	0・8	0・7	0・7	0・7	0・7	0・8	0・8	0・8	0・8
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
計	40	41	41	41	40	40	40	40	41	41	41	41

*産休・育休の職員 3 名含む

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利用者定員	10 名
利用者延べ人数	2,670 名
一日平均利用者数	10.9 名
稼働率	109.26%
稼働日数(延べ)	244 日
単価	19,858 円
常勤換算職員数	9.0 名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	73 名
月間訪問件数	320 件
年訪問件数	9,544 件
単価	9,544 円
常勤換算職員数	7.4 名

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

家庭での保育が楽しめるように、送迎時の担任との対話や園だより等で発達を含めた投げかけを行い子ども理解へとつなげていった。行事への参加は多数あり、子どもたちの成長を共に喜び合う機会がある反面、コロナ禍での開催に対しての危機感が薄れてきている為、今後を見据えた開催方法を考え、感染対策を意識しながらの行事開催の意図を伝えていきたい。

職員間で協力しあえる職場と、一人一人の個性が十分に発揮できる組織作りを心がけた。保育の中では出来つつあるが会議の場で思いを伝えられる集団となるよう職員と共に考えていきたい。

1. 入所状況

4月に0歳児9名、1歳児6名、4歳児2名と逆瀬川あゆみ保育園の4歳児12名、計29名の新入園を迎え、108名でスタートした。定員90名に対して120.0%の入所率であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

- ①統合保育…4歳児1名・5歳児3名が加配対象であった。市の精神科医や臨床心理士による年間4回の巡回指導と職員知識向上のための研修に協力を得た。クラスの一員としての視点を持ちつつ、場面に応じた個別の声かけや配慮を行った。
- ②交流…コロナ禍の為、聖隷デイサービスセンター結いへ花の日や収穫感謝祭訪問をし、のがみっこくらぶとは、なつまつりごっこやハロウィン仮装披露等での関わりがあった。
- ③保護者に向けて…クラス懇談会を開催する中で方法を改めた。保護者間の距離が縮まり親近感が持てるよう事前に簡単な聞き取りをし、配布する等した。年間行事は幼児クラスを対象にその都度検討しつつ、場所の使い方や参加人数等協力の中、開催することができた。
- ④動植物…土作りから野菜栽培を楽しみ、クラスで育てる植物を決める等、意欲を感じられた。カブトムシやアゲハ蝶の幼虫を事務所前に置くことで保護者が興味を持つ姿が伺えた。
- ⑤防災…昨年に引き続き園内研修グループが積極的に職員へ働きかけることで、災害時に必要な物や行動に対して園全体の意識が高まった。

（イ）地域のニーズに対応

- ①一時保育…ニーズは多く問い合わせも多数あり、登録の面接を随時行った。緊急事態宣言での保育自粛中も利用があり、また障がい児や支援児数名の定期的な利用があった。
- ②延長保育…18時16分～19時が平均15名、19時以降は1名の申請があった。保育時間が長いことが感染症への高リスクへつながることもあり、保育終了が早い日もあった。
- ③行政との連携…家庭児童相談室の動きがスムーズなこともあり、定期的な聞き取りと共に園から一報を入れることもあったが、見守りや話しかける等のアプローチのみである。

（ウ）職員研修

- ①年2回（9月3月）あゆみ合同研修「保育者との関わりの理論と実践」
年度末研修「共感から子どもと関わる保育」Web開催
- ②第8回宝塚保育学会は、1月に開催することで取り組む期間が十分にあり職員から好評で

あった。Web開催のため、聖隷保育園の多くの参加があり同法人での力強さを感じられた。

③園内研修…「防災」「病気が」「玩具リスト」をグループ別で取り組み宝塚保育学会に参加した。また、係りを設けることで意識が継続されている。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 園庭開放、季節の製作、保護者向けの体験、積み木、かけっこ教室などを行った。在宅で子育てをする親子の現状に対して、発達への支援につなげる等、幅広い支援を目指した。

(イ) コロナ禍での子育てにしんどさを感じている保護者や多胎児保育の家庭を一時保育で対応する等、子育て支援につなげることができた。

4. 学童保育

4月よりのがみっこくらぶ定員19名、にじっこくらぶ定員25名に対して高学年の受け入れや待機児童がいる状態で始まる。子どもの意欲を受け止め活動を組み立てた。くらぶを兼任する職員配置でそれぞれの取り組みの橋渡しをし、より良い活動につなげている。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
3歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
4歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
5歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
合計	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	1,296	108.00

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2036	1710	2154	1914	1791	1,963	2198	1966	1995	1537	1355	2013
保育日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26
一日平均	81.4	74.3	82.8	76.6	71.6	81.8	84.5	81.9	83.1	66.8	61.6	77.4
一時保育	102	61	91	96	112	112	134	137	114	92	88	105

③職員数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	16
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	15	14	15	14	15	15	15	16	16	17	16	17
計	35	34	35	34	34	34	34	35	35	36	35	36
調理（委託）	6	6	6	5	6	5	5	5	5	5	6	5

野上児童館

新型コロナウイルス感染症のため年度始まりは閉館もあったが、支援が必要な保護者へのアプローチを行政と連携を取りながら進めていった。コロナ禍でできることを模索しつつ、児童館の「役割」や「かわり」を常に意識できるよう会議等で周知する場を設けた。職員それぞれの思いを出し合いながら、確認し、同じ方向に進めるようチームワークを作っていきたい。

1. 利用状況

乳幼児並びに小学生の利用は定着し安定した来館者数があったが、中高生の利用については、学校を通してチラシを配布し児童館の存在を知らせ、利用定着を目指したい。

2. 活動報告（地域における公益的な取組を含む）

（ア）乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」と3つのグループでそれぞれのねらいを持ち、未就学児の親子を対象にプログラムを行った。人数制限や内容等の対策を検討することで、保護者が安心して参加できる活動になるよう心がけた。例年のミニ運動会は、コロナ禍ということで開催を見合わせた。

（イ）小学生集団あそび支援活動

例年行う「児童館まつり」は開催せず、1週毎に内容を変更して自由に遊べる期間を設けコーナーで楽しめる形で行った。また2021年度も市内の子どもたち対象に各児童館が連携して行う大型児童館主催の事業（ミニたからづか）を各館に分けて開催した。計画的に進められたため地域の小学生スタッフ7名も話し合いから参加した。自然体験では、市職員やボランティアの方を招いて、災害についての体験談やグッズを知る機会を提供した。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

新型コロナウイルス感染症のため、近隣の中学校と連携して行う事はなかった。中高生タイムの利用が徐々に増え、また周知方法について配布時期や回数を検討したことで友だちを誘って利用する姿が見られた。卓球は人気で楽しんでいる。職員との会話を楽しむ姿もあった。

（エ）実習生やボランティアの受け入れ

中学生の職業体験活動は中止、実習生1名を受け入れた。

（オ）運営委員会の充実

運営委員会は、年間3回行い、うち2回は緊急事態宣言等の為、書面開催とした。

3. 職員の資質向上

2年目となる職員に「児童館として」の意識を常に投げかけ、かわり方をそれぞれ考える機会を持った。また、市主催の外部研修等では、参加者を検討し、一人ひとりのスキルが身につく機会となるように心がけた。

【数値実績】

① 利用状況 本館（単位：名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合 計	開館日数	一日平均
4 月	352	122	46	0	520	253	773	21	36.81
5 月	224	108	10	3	345	185	530	17	31.18
6 月	365	146	7	0	518	309	827	26	31.81
7 月	339	340	30	0	709	285	994	23	43.22
8 月	300	478	9	0	787	304	1091	22	49.59
9 月	373	276	15	0	664	312	976	24	40.67
10 月	461	168	4	3	636	362	998	26	38.38
11 月	438	154	5	1	598	365	963	24	40.13
12 月	389	251	32	2	674	336	1010	24	42.08
1 月	272	188	2	0	462	238	700	23	30.43
2 月	210	64	7	0	281	178	459	22	20.86
3 月	349	232	19	2	602	293	895	26	34.42
計	4072	2527	186	11	6796	3420	10216	278	36.75

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、4/26～5/11 休館

② 利用状況 出前児童館（単位：名）

	常設 型				派遣 型				イベント型
	回数	就学前	小学生 以上	大人	回数	就学前	小学生 以上	大人	回数
4 月	8	55	1	50	0	0	0	0	0
5 月	6	19	0	18	0	0	0	0	0
6 月	8	60	0	56	0	0	0	0	0
7 月	7	22	3	25	0	0	0	0	0
8 月	8	23	3	20	0	0	0	0	0
9 月	8	29	2	26	0	0	0	0	0
10 月	8	55	0	50	0	0	0	0	0
11 月	8	60	1	57	0	0	0	0	0
12 月	8	68	2	61	1	0	102	0	0
1 月	7	48	1	46	0	0	0	0	0
2 月	7	42	1	38	0	0	0	0	0
3 月	9	58	1	59	0	0	0	0	0
計	92	539	15	506	1	0	102	0	0

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、常設型は 4/26～5/11 休館、派遣型は 1 回のみの開催

逆瀬川あゆみ保育園

2021 年度も、コロナウイルスの感染拡大によって、特に保育士やその家族と、在園児の家族からの罹患が相次ぐ中で、一時期、職員の定数配置が厳しい状況での運営となった。その後宝塚市から、保育料免除での登園自粛を呼びかけられたことにより、少ない登園人数での保育が続いた。また、行事を含め様々な制限の中での生活となった。消毒・換気など、感染対策をしっかりと行うことで園の中での感染の広がりを防ぐことができた。このことにより感染対策の形が出来上がり、日々の流れの中で自然なこととなりつつある。そして、様々な学会や、キャリアアップ研修等の研修がリモート化されたことによって、パート職員を含む沢山の職員が研修を受講できたことが保育力の底上げに繋がった年度となった。

1. 入所状況

4 月に新入園児 0 歳児 9 名、1 歳児 1 名を迎え、計 49 名でスタートした。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容など

①統合保育

2 歳児クラスに、加配担当者を 1 名配置することでコミュニケーションが苦手な本児の仲介をし、想いを代弁し、友達との交流の手助けをした。更に同クラスでは、保護者自らが子どもの発達に不安を感じ医療機関等に相談し療育に繋がったケースが 1 名あり、2022 年度より加配担当者を配置して対応することとなった。

②防災・危機管理

最終避難所となる小学校までの経路確認、様々な場面を想定し避難訓練を行い、避難時に通る場所や出口の確認や振り返りをその都度行った。また、気になる事件が起こった時に自園の場合を想定し不審者訓練等も行った。出されたヒヤリハット、事故報告を通して次の事故に繋がらないよう検討を重ね、職員の危機意識を高めるために取り組んだ。

③食育

3 歳児は、コロナウイルスによるクッキングの自粛を行った。また感染予防に努めながら野菜や果物の形や色、香りや感触を確かめる体験（りんごの食べ比べ等）をし、季節を感じることができた。また、旬の食材や皮むきなど手伝いを通じてにおいや手触りなどを感じ、親しんだ。春の七草を実際に見て、触るなどしてその後七草粥を食べた。

(イ) 保育ニーズに対応

①延長保育

18 時 15 分～19 時の延長保育を行った。コロナ禍でリモートワークが増え、もともと 2 名だった延長の方がコロナ自粛のため 1 名もしくは 0 名の日が続いた。

②一時保育

職員不足により、職員を 1 名しか配置できず、4 月は 8 名、5 月からは 3 名のみの利用となった。保育士は一人だが、同じメンバーで同じ担当ですごすことで信頼関係や子ども同士の関係が深まり一つの家庭、兄弟のように過ごすことができていた。うち 1 名は入園に繋がった。

(ウ) 地域における公益的な取組

①毎年、中学生体験活動「トライやるウィーク」として市内２校の中学２年生を、受け入れていたがコロナウイルス感染対策のため中止となったが、保育実習生は３名受け入れることができた。

②まん延防止措置中、市より登園自粛要請が出されていた期間のみ室内開放を中止し、園庭開放の日を増やした。この間室内開放再開を切望する声や問い合わせが数多くあった。まん延防止措置が明けてからの園庭開放は週１回自由参加５組まで、室内開放は週２回人数制限をし、予約制で実施した。感染対策の観点から園児との交流は２０２１年度も見合わせた。

(エ) 保育室環境の改善、施設整備

すくすくルームの照明のLED化（電球のみ）を行った。また、雨天時の浸水被害に対応するための工事を実施した。近隣にマンションの建設があり車の往来が多くなったため、玄関先に飛び出しぼうやの看板の設置を行った。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	139	11.58
1歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13
2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14
3歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13
合計	49	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	619	51.58

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	926	806	1018	873	855	893	970	901	886	805	482	851
保育日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26
1日平均	37.0	35.0	39.2	34.9	34.2	37.2	37.3	37.5	36.9	35.0	21.9	32.7
一時保育	42	31	25	20	31	38	33	34	32	27	17	32

③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
パート	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	31
調理（委託）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

御殿山あゆみ保育園

コロナ禍であっても、子どもの育ちを保障するために職員は考え、保育を工夫し、子ども一人ひとりの思いを受け止めながら日々を過ごす中で、保育者も子どもも主体的に活動することができた一年であった。行事も日ごろの保育の延長線上に置き、子どもたちは無理なく自信を持って取り組むことができた。新たに導入した保育システムの活用により、ドキュメンテーションを保護者に配信し保育の可視化に努めた。活き活きと自己を発揮する子どもの様子を見て、保護者も子ども中心の保育に理解を深めている。0歳児の待機児童が少なく、定員に達するまでに期間を要した。今後も同じ現象が起きることが予測されるため、2022年度は0歳児の定員を減らし、待機児童の多い1歳児の定員を増やすこととした。

1. 入所状況

4月に19名の新入園児を迎え、計123名（緊急枠含む）でスタート。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

①統合保育

特別支援児は、5歳児クラスに3名、4歳児クラスに2名、3歳児クラスに1名が在籍した。年2回の専門医による巡回指導を受け、専門機関と連携を取ることができた。また、保護者との面談も定期的に行い、コミュニケーションを図った。発達心理相談員による年2回の巡回指導により、困惑する事が多い子どもの対応について助言を受けた。講義にも参加し、内容は全職員に周知した。月に1度ケース会議を実施し、状況の共有を行った。

②危機管理

危機管理委員会を月に1回行い、ヒヤリハットや危険個所の検証、職員への周知、など様々な取り組みを行い職員の意識向上に努めた。

③食育

管理栄養士から次月メニューの食材説明（旬の物など）や、自分たちで育てた野菜に触れたり、食べたりすることで、食物への関心が高まった。幼児クラスは、ぶどう、りんご、みかん等の果物を品種ごとに食べ比べし、たけのこやそら豆、とうもろこしの皮むき等を体験することができた。

(イ) 地域のニーズに対応

①延長保育

18時15分～19時の延長保育を行い、登録者は8名。2021年度もリモートワークの家庭が多いためか利用は少なく、幼児が中心であった。全体的に迎えの時間が早くなっており、乳児は特に仕事量を調整して、延長時間までに迎えに来る家庭が増えている。

②子育て支援

室内開放、園庭開放、子育て講演会、保育士とあそぼう、給食相談会、離乳食相談会年6回、看護師によるミニミニ講座13回や子育て相談を行った。開放に参加し、在宅保護者の悩みやニーズを聴く機会を設けた。子育て支援は、延べ810名の参加があった。

(ウ) 保育環境の改善、施設整備

大型遊具の劣化防止塗装、プール底の補修、1 歳児クラスの定員増に伴う調乳室の環境整備と発達に合わせた定期的な保育環境の見直しを行った。

(エ) 職員研修

園内研修は、わらべうたを行い、出来る限り実践的な研修を受けた。「第 8 回宝塚保育学会」にリモートで参加し、研究グループごとに学会や園内で発表した。リモートで外部研修へ多数参加し、足育の講師を招いて子どもの足についても学びを深めた。

3. 公益的な取り組み

大学、専門学校保育科の保育実習は 2 名、インターンシップは大学生 1 名を受け入れた。

地域の乳幼児親子と園児数名が子育て支援プログラムに参加し、数回交流の場を持った。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	4	4	4	6	7	8	11	14	14	14	14	14	114	9.5
1 歳児	24	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	297	24.8
2 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
3 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
4 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	297	24.8
5 歳児	23	23	23	23	23	24	25	25	25	25	25	25	289	24.1
合計	125	125	125	128	129	131	135	138	138	137	137	137	1585	132.1

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2257	1995	2543	2198	2019	2197	2632	2541	2496	2114	2014	2423
保育日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26
一日平均	90.3	86.7	97.8	87.9	80.8	91.5	101.2	105.9	104.0	91.9	91.5	93.2
一時保育	47	42	70	66	61	42	82	71	67	62	68	81

③ 職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	19	19	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19
計	41	41	42	42	42	42	41	41	41	41	41	41
調理(委託)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

御殿山児童館

2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響で 4 月 26 日から 5 月 11 日まで休館をした。期間が長くはなかったものの、来館者からは地域の居場所がなく大変だったとの声があった。再開してからは徐々に来館者が戻り、親子が日常的に集える場として職員も感染防止対策の徹底に努めた。ベビーきらりん ZERO、リトルきらりん ONE を筆頭に保護者の不安や悩み、子育ての大変さを意識して、仲間づくりもできるよう、事業に取り組むことができた。

児童健全育成プログラムでは、三密を避けるためほとんどのプログラムが中止となったが、募集人数を少なくするなど利用制限を設け、感染防止対策がとれるプログラムを計画、実施した。児童館に来館する小学生も増え、人数制限で思うように遊べないこともあったが、安心して過ごせる居場所を作ることができた。

年長児童健全育成プログラムでは、子どもたちが自分たちで考え行動することを目標に「中高生タイム」を行った。月 1 回のクッキングやカラオケの要望は多いが、ミニ科学あそびや工作等、中高生と職員が考えた“今できるプログラム”を実施。来館する中高生が楽しかったと思える居場所を作ることができた。

【事業・運営状況】

1. 地域との連帯の強化

(ア) 地域との関わりを深め、協力体制をとれるよう地域の会議にリモートで参加し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報の共有と連携に努めた。

2. サービスの質の向上

(ア) 来館者が安心して遊ぶことのできるよう、感染防止対策を講じ、環境作りを考えた。また安全管理と事故等、有事の際に備え新規利用者は緊急連絡先等を登録し、管理を行った。

(イ) 乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、より成長に合わせたプログラム内容とし、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援した。

(ウ) 小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、距離がとれる遊び、屋外での遊びなど、感染防止対策を意識した内容の充実を図り、仲間作りを行った。

(エ) 中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、毎週 1 回開館時間を延長して行った。

(オ) 出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がる、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

(カ) 利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。寄せられた意見は職員会議等で共有し、検討が必要な案件は話し合いをして対応した。

3. 職員の資質向上

(ア) 宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。

(イ) 児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月 1 回の職員会議や担当（乳幼児・小学生・中高生・出前）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

4. 公益目的事業

(ア) 聖和短期大学 2 名、大阪保健福祉専門学校 1 名の保育実習を受け入れた。

【延利用者数】

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合 計	開館日数	一日平均
4 月	692	411	113	21	1,237	387	1,624	21	77.33
5 月	492	236	35	7	770	247	1,017	16	63.56
6 月	935	356	68	5	1,364	536	1,900	26	73.08
7 月	464	510	92	13	1,079	369	1,448	23	62.96
8 月	407	653	91	5	1,156	332	1,488	22	67.64
9 月	569	421	96	13	1,099	341	1,440	24	60.00
10 月	929	430	66	11	1,436	518	1,954	26	75.15
11 月	819	334	144	4	1,301	450	1,751	24	72.96
12 月	759	444	140	7	1,350	429	1,779	24	74.13
1 月	658	361	81	0	1,100	415	1,515	23	65.87
2 月	833	291	89	2	1,215	378	1,593	22	72.41
3 月	927	455	101	10	1,493	467	1,960	26	75.38
計	8,484	4,902	1,116	98	14,600	4,869	19,469	277	70.28

【出前児童館回数・利用者数】

	常 設 型				派 遣 型				イベント型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	7	104	0	71	3	1	0	1	0
5 月	4	18	0	18	1	0	0	0	0
6 月	6	55	0	55	5	6	160	6	0
7 月	8	53	1	47	4	4	0	4	0
8 月	7	26	0	22	2	3	0	2	0
9 月	5	31	0	32	0	0	0	0	0
10 月	8	43	0	47	2	0	106	0	0
11 月	8	72	0	69	4	6	71	6	0
12 月	8	82	0	78	6	10	99	10	0
1 月	7	51	0	47	3	9	0	8	0
2 月	8	78	0	65	3	6	0	6	0
3 月	7	58	0	54	3	4	0	4	0
計	83	671	1	605	36	49	436	47	0

高齢者公益事業部

宝塚エデンの園の大規模建替え工事は、2021 年 10 月に全入居者に周知のうえ、定期的に入居者説明会を開催している。2026 年着工、2031 年完成を目指す。聖隷藤沢ウェルフェアタウンは開設 10 周年、松戸ニッセイエデンの園は 25 周年、油壺エデンの園は 35 周年を迎えた。

2021 年 10 月に松山エデンの園の管理費を改定し、2022 年 4 月には藤沢エデンの園二番館の管理費を改定する予定である。各施設の永続性を確保するため、2022 年度以降も必要な価格改定を実行したい。

2022 年 1 月以降に感染者が急増した新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）は、当事業部でも感染が拡大した施設があり、事業部内の職員による応援体制で対応した。オミクロン株の感染力の高さ、生活の場における感染対策の難しさを痛感した。感染収束のため最善を尽くした職員に敬意を表するとともに、管轄保健所、法人内の感染管理認定看護師等のご指導ご支援に深く感謝する。事業部として引き続き感染拡大防止の対応を継続する。

入居者募集では、コロナ禍のできる活動に注力し、Web オンラインセミナー、テレビ・ラジオ CM、新聞・雑誌への広告出稿、小規模集合セミナー、個別見学会、YouTube 等の動画の活用により入居契約に繋がった。

1996 年の開設以来、単年度契約で東京都住宅供給公社から当法人が運営を受託している明日見らいふ南大沢は、2023 年度以降の 5 年間を受託期間として運営事業者が公募された。企画提案書の審査の結果、当法人が引き続き運営を受託することが決定した。

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化

宝塚エデンの園の大規模建替え工事は、浜名湖エデンの園の耐震建替え工事は経験と実績を踏まえ、準備を進めている。入居者説明会ではさまざまなご意見をいただいたが、引き続き入居者との対話を重視し、宝塚エデンの園の永続性を確保するため、建替え工事に向けて準備を着実に進めたい。

2. 経営の安定と永続性の確保

2021 年 10 月から松山エデンの園の管理費を月額 74,690 円（2 人入居 103,510 円）から 82,390 円（2 人入居 114,180 円）に改定した。2022 年 4 月から藤沢エデンの園二番館の管理費を月額 66,000 円（2 人入居 110,000 円）から 71,500 円（2 人入居 115,500 円）に改定する。

2021 年度の契約件数は 153 件、契約金額 42 億 5 千万円でいずれも予算未達となった。コロナ禍による見学の受入れ制限や入居検討者の来園自粛の影響は避けられなかったものの、Web オンラインセミナー、YouTube、全国紙や有名雑誌での広告展開により広範囲なブランディングと集客を行い、個別見学会を展開し、1 件ずつ入居契約を積み上げた。

災害対策では、各施設の食料・飲料水の備蓄を 5 日分から 7 日分に増加させた。

3. 人材の採用・育成・定着の強化

次世代の施設長、副施設長を担う職員を育成するため、全 6 回の事業部管理者研修を開催した。研修で各施設が立てた行動計画を 2022 年度に実行する。

人材の採用力を高めるため、事業部の採用ホームページを開設し、特に当事業部の看護師・介護職の仕事を具体的にイメージできるショートショート（短編小説）と動画を掲載した。2022年度は「働きたい」と思える各施設の特徴と強みを「見える化」する。

4. サービスの質・安全・効率の向上

在宅・福祉サービス事業部と協働し、介護職を対象とする e ラーニング（インターネットを活用した学習形態）を導入した。

食事満足度調査、一般居室認定者、介護居室入居者、自立者に対する満足度調査を実施して結果を共有し、課題から改善計画を策定・推進した。

標準サービスは一般居室、介護居室の各責任者会で「質」に対応したツールと評価基準を作成のうえ各種マニュアルと連動させ、教育体制を整えることができた。

2021 年度の介護報酬改定を踏まえ、事業部で自然災害、感染症の BCP（業務継続計画）の雛形をとりまとめ、各施設と共有した。2022 年度は各施設で BCP を作成する。

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

宝塚エデンの園の大規模建替え工事は、建物・設備の安全性の向上、居室内環境の最適化による入居促進、経営の安定を目的とし、C 棟以外の建替えを予定している。宝塚エデンの園の特徴を活かしつつ、新しいエデンの園づくりに挑戦する。

直営の計 5 施設で導入している見守りシステム（居室内に設置した各種センサーにより入居者の状態をリアルタイムに把握できるシステム）は、2021 年度から 2022 年度にかけて共同事業である松戸、奈良両ニッセイエデンの園でも導入する。定例会等を通じて、システムを活かす運用を創意工夫したい。ETS2020（業務基幹システム）は、2021 年度のシステム改修によりケアの内容ごとに要した時間を集計できる機能を実装した。2022 年度はケアの「見える化」によって、ケアの質と業務効率の向上に活用したい。入園金管理システムは 2021 年度から稼働し、ETS2020 への統合が完了した。

6. 地域における公益的な取り組み

介護フェスタ、認知症講演会、地域の清掃活動等を行っている。奈良ニッセイエデンの園では小学校の通学路に面しているため、地域活動として職員と入居者が登下校の見守りボランティアを継続している。

【数値実績】

（直営施設）		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1	藤沢 2	計
目標件数		43 件	40 件	13 件	35 件	18 件	20 件	11 件	2 件	182 件
募集実績		34 件 41 名	27 件 34 名	13 件 16 名	33 件 43 名	14 件 15 名	18 件 18 名	12 件 14 名	2 件 2 名	153 件 183 名
入居率	期首	88.6%	88.2%	80.1%	94.3%	92.9%	78.0%	97.1%	72.0%	89.8%
	期末	91.1%	89.5%	80.1%	94.1%	93.3%	80.0%	97.6%	84.0%	91.1%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

新型コロナウイルスの感染流行が長期化する中、2021 年度は 2020 年度の経験を基に、どのような対策を講じれば感染リスクを最小限に抑えながら入居者に健康の維持や季節の楽しみを提供できるかを常に考え、サービスを行った。各種体操は人数を制限しつつも積極的に実施し、トレーニングルームも入居者に開放して自由に使用できる時間を増やした。また、園内放送を活用して毎日 2 回居室でできる体操動画を配信したり、園周辺のお散歩を企画し、入居者の筋力低下の予防や健康維持に努めた。四季折々の行事は楽器の演奏やパフォーマーを中心に 2 部制で開催する他、介護棟でも演奏をしてもらい、より多くの入居者が生の迫力を楽しんで大変好評だった。その他のサービスにおいては、「入居時から看取りまでその人らしく」を実現するために、各種カンファレンスを全職種の職員で実施したり、一般居室と介護居室の担当組織を一部改編して両課の連携が促進したことで情報共有が効率化でき、介護居室への住替えが一層円滑になった。

経営面では、有料老人ホーム会計は若干予算未達だったが、診療所のコロナワクチン接種による収入が大きく、合算すると赤字は解消されていないものの赤字予算を約 1,100 万円改善できた。

新型コロナウイルス感染対策では「ウイルスを園内に持ち込まない」をモットーに、入居者にも職員にも厳しい行動制限や会食制限をお願いした。介護居室は原則外部からの入館禁止を継続し、代わりに面会室やオンライン面会等の整備を行った。その結果、入居者・職員ともに一人の陽性者も出ず 1 年を乗り切れたことを、ありがたく思う。そして、入居者にとって何よりの楽しみである、親族や友人との会話や会食が気兼ねなくできる日が早く訪れることを、心から願う。

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

- (ア) ACP や PCC のカンファレンスに全職種が集まり積極的に開催できた。
- (イ) 最期の時までその人らしさを追求したサービスが提供できるよう、一部組織を改編した。
- (ウ) 標準サービスの内容について園内マニュアルと結び付け検証を行った。
- (エ) コロナ禍であり地域とつながる取り組みはできなかった。

2. 次世代を担う人材確保と育成

- (ア) 園内研修等を通じて「聖隷理念」「施設理念」の継承・発展させる人材育成に取り組んだ。
- (イ) コロナ禍でも資料研修と OJT で積極的に職員の人材育成を行った。
- (ウ) 毎月超過勤務実績を多角的な視点で分析・報告し、超過勤務の削減を働きかけた。
- (エ) インカムやタブレットの有効活用の勉強会を実施したことで、超勤削減につながった。「働きやすい介護職場認証制度」の認証が更新できた。
- (オ) 障がい者雇用枠の拡大を各課で検討したが、実現には至らなかった。

3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

- (ア) 34 件 41 名の新入居者を迎え入居率 91.1%で終了。目標の 91%台に期末間際で到達できた。
- (イ) 業務改善・効率化の意識が高まり、特にケアサービス課の超過勤務は 2020 年度より 100 時間以上削減できた。
- (ウ) 園内研修で事業計画の理解を高めた。また管理会議で毎月の経営報告を行い、職場長の経営意識の向上に努めた。

4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

- (ア) 新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、職員と入居者から一人も陽性者を出さなかった。
- (イ) コンプライアンスに関して、基本に立ち返った内容で紙面配付での研修を実施した。
- (ウ) 実践に即した防災訓練を実施し多くの課題を見出した。2022年度の改善につなげていく。
- (エ) 5号館の老朽化したエレベーターの更新工事で、日中の運転を止めずに行える工法を選択した。防犯面では「さすまた」の設置場所を増やすよう検討し、追加購入を決定した。

5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり

- (ア) 一時介護室の担当組織を居室サービス課に移し、ケアサービス課との連携を強化した。
- (イ) トレーニングルームに新たなマシンを導入するよう検討し機器選定を行った。
- (ウ) 3号館外壁の塗替工事を実施した。新1・2号館の表示に合わせて園内サインを統一した。
- (エ) 入居者と共に地域・園内の清掃活動の実施。その他の地域貢献策はコロナ禍で未検討。

6. 地域における公益的な取組

2018年度に登録をした「浜松市ささえあいポイント事業ボランティア受入施設」を継続した。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	380 戸（73 戸）	154 名	315 名	469 名

表2：地域別契約状況

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	1 名	1 名	67 名	376 名	19 名	3 名	0 名	2 名	469 名
構成比	0.2%	0.2%	14.3%	80.2%	4.1%	0.6%	0.0%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	28 名	80 名	91 名	93 名	74 名	65 名	21 名	17 名	0 名	469 名
構成比	6.0%	17.0%	19.4%	19.8%	15.8%	13.9%	4.5%	3.6%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
82.1 歳	80.1 歳	83.0 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	17 名	7 名	(6 名)
女性	24 名	19 名	(15 名)
計	41 名	26 名	(21 名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	125 名	18 名	10 名	48 名	18 名	20 名	7 名	4 名
期末人数	122 名	20 名	10 名	37 名	18 名	19 名	14 名	4 名
月平均人数	125.1 名	20.8 名	10.1 名	41.1 名	15.5 名	19.7 名	11.6 名	6.3 名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	134.1 名
-----------	---------

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2021年度は、コロナ禍の状況に応じた感染対策実行により、園内生活が少しでも楽しくなるよう行事や介護予防活動を工夫し開催することができた。また、昨今の地球環境の変化による自然災害に備え、備品の強化や炊き出し訓練で実際の動きに則した訓練をすることにより、備品の取り扱いや保管場所等の課題について洗い出し、改善を進めることができた。

2026年より始まる建替え計画の説明会を開催し、事業の永続性と入居者の安心・安全を第一に考えた環境を整えるため、引き続き丁寧な説明を通し入居者の不安や期待に応えることができるよう努めていく。

募集活動においては、建替え計画を踏まえた説明を行うことにより、将来設計に不安が及ばないよう丁寧な説明を心掛けた。また、入居者との座談会やインタビュー動画を活用し、リモートセミナーの在り方を開拓することができた。

1. 入居者満足度の向上

- (ア) コロナ禍でもできることを検討し、食事に関する要望書の運用や、園内自主放送設備を活用したコンサート、入居者全体会の放映等により情報提供やニーズの把握に努めた。
- (イ) 対面で食事ができる環境の整備や、嗜好調査に基づく献立の改善を実施した。
- (ウ) 看取りや認知症に関する職員への継続した教育はできているが、既存の入居者に関する情報把握や医療的なニーズを持つ入居者の継続支援について更なる強化が必要である。
- (エ) 入居者運営懇談会や入居者全体会で、喫食率向上への取り組みや園内整備・点検方法、入居者マナー等に関する意見を出し合い、改善に努めることができた。

2. 職員満足度の向上

- (ア) 施設運営方針に基づいた行動計画の取り組みについて、部署間の進捗状況の共有不足による格差が生じた。
- (イ) 複数課を跨ぐ業務について効率化を目指し、伝票の運用見直し、居室改修工事の進捗状況や問題点の共有により、相互理解を深めることができた。
- (ウ) eラーニングやラダーを活用したキャリアアップへの支援と、防災設備や備品に関する定期的な勉強会を実施し、専門性や知識の向上に努めた。
- (エ) 計画的な有給休暇取得による取得率向上や業務の偏りについて見直し、一部を除き、業務を分散することができた。
- (オ) 見守りシステム導入により、データを活用した業務負荷の改善や分析に必要なデータの収集を行った。

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 期末入居率 93.0%以上の確保はできなかったが、入居後の居室訪問の役割分担により状況に応じた入居後の支援ができる体制を構築した。
- (イ) 診療所の診療枠の見直しや費用対効果を意識した経営体制を検討し、費用削減に努めた。
- (ウ) 介護報酬の改定と内部監査受審を通じた運営の見直しを行った。施設理念の解釈や役職者自身の職業観や想いについて共有した。

(エ) デマンドによる消費電力抑制と、食材比率や食事の提供額の適正化に努めた。

4. 安全・安心な暮らしの提供

(ア) コロナ禍の状況に応じた感染対策を徹底し、入居者の園内感染を防ぐことができた。

(イ) 災害や緊急時における事業継続計画を見直し、文書化することができた。

(ウ) 災害や感染拡大に対する入居者の自主防衛の支援

(エ) リスク、苦情への迅速な対応を心掛けたが、部署間の格差について課題が残った。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の確認

(イ) 新たに婦人科検診を導入し、地域住民への各種健康診断の機会を創出できた。

(ウ) 障がい者の就労基準を満たしており、継続雇用できている。

(エ) WAC 事業の推進

表 1：契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	365 戸 (53 戸)	99 名	319 名	418 名

表 2：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	359 名	23 名	19 名	2 名	7 名	1 名	2 名	5 名	0 名	418 名
構成比	85.9%	5.5%	4.5%	0.5%	1.7%	0.2%	0.5%	1.2%	0%	100.0%

表 3：年齢構成

(単位：名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	33 名	74 名	107 名	94 名	53 名	32 名	19 名	6 名	0 名	418 名
構成比	7.9%	17.7%	25.6%	22.5%	12.7%	7.7%	4.5%	1.4%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

表 5：入・退去状況

平均	男性	女性
83.8 歳	82.5 歳	84.2 歳

	入居	退去	(死亡退去)
男性	16 名	8 名	(6 名)
女性	18 名	18 名	(16 名)
計	34 名	26 名	(22 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	106 名	13 名	11 名	30 名	20 名	16 名	8 名	8 名
期末人数	112 名	27 名	8 名	32 名	13 名	16 名	9 名	7 名
月平均人数	106.9 名	21.7 名	7.8 名	30.7 名	15.5 名	17.8 名	9.0 名	4.4 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	134.8 名
-----------	---------

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2021年度は、感染防止対策を継続しながら縮小したものではあったが、園行事やクラブ活動を行うことができた。募集活動においては、終活シニア大学セミナーや作家田丸雅智氏によるエデンオリジナルストーリー「思い出香」を発行することができ、コロナ過の中でもセミナーや見学対応などを積極的に行うことができた。施設会計においては、2021年10月に20年ぶりとなる管理費の価格改定を行った。

2022年度も新型コロナウイルス感染症に対する対応が続く運営となる事が予測される。そのような中でも標準サービスの具現化や楽しんでいただける行事を行い、入居者につながりある園生活を感じていただき、安心安全にご生活いただける入居者の幸福（しあわせ）づくりを支援できるよう取り組む。

1. 安定した園運営を継続するための入居率の向上

（ア）2021年度は新規契約戸数を目標13戸14名と設定し、実績は13戸16名と目標達成することができた。介護居室への直接入居も促進し、今後は定期的に交流を持っている松山ベテル病院をはじめ、各病院の地域医療連携室や居宅支援事業者から介護居室入居へと繋げる活動を継続して取り組んでいく。

（イ）2021年度と同様に大規模なセミナーを行う事はできなかったが、終活シニア大学として小規模の定期的なセミナーを継続して行い、見学に結び付ける活動や月2回の終活の無料相談会で個別対応を重視した募集活動と入居者相談も併せて行うことができた為、次年度も継続し募集活動に取り組む。

2. 人材の育成

（ア）見守りシステムを取り入れ、業務の見直しや職員教育への取り組みを行った。

（イ）本部採用担当者と連携し、2022年度新卒者採用を行った。

（ウ）eラーニングから専門性のレベルアップを含めた各職員の目標設定につなげる事ができた。

3. よりよいサービスの提供

（ア）各居室内で視聴できる自主放送設備を設置し、運用を開始した。入居者全体会や講演やコンサート等を行い、コロナ過でも入居者に楽しんでいただける行事の開催に努めた。

（イ）人数制限や感染対策を職員が関わりながら、クラブ活動の継続や、入居者全体会を開催するなど、入居者が交流できる対応を行った。又、体力測定や体操教室等園内で取り組む事ができる介護予防活動を継続した。

（ウ）コロナ禍において入居者と家族の面会が自由にできない中、タブレット端末を使用したりリモート面会の実施や園内報の作成など、入居者とご家族へ寄り添う支援の実施に取り組んだ。

4. 安心・安全な施設環境づくり

- (ア) 医療法人聖愛会と情報共有を図り、裏山の土砂災害や停電や自然災害時対応方法や現状報告を共有し連携できる体制に努めた。
- (イ) ETS2020（業務基幹システム）を活用したケア業務の効率化を図り、発生したリスクに迅速に対応できるよう取り組んだ。
- (ウ) 松山ベテル病院と情報共有を図り新型コロナウイルス感染予防対策に努めた。

5. 地域貢献・交流の推進

- (ア) 毎年行っていた市民清掃、地方祭等、地域との交流活動は新型コロナウイルス感染防止の為、中止となったが、2022年度は地域貢献できる施設を目指し交流を行っていく。
- (イ) 医療法人聖愛会とWEBでの研修を行い、専門性を高めあう交流を行った。
2022年度も合同研修の開催や意見交換会など積極的な交流に取り組む。

【数値実績】

表1：契約状況

(単位：名)

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	117戸（15戸）	43	89	132

表2：地域別契約状況

(単位：名・%)

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	108	11	5	5	1	2	132
構成比	81.8	8.3	3.8	3.8	0.8	1.5	100.0

表3：年齢構成

(単位：名・%)

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	5	35	36	22	13	12	6	3	0	132
構成比	3.8	26.5	27.3	16.7	9.8	9.1	4.5	2.3	0	100.0

表4：平均年齢

(単位：歳)

平均	男性	女性
84.00	83.47	84.26

表5：入・退去状況

(単位：名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	7	4	3
女	9	11	10
計	16	15	13

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

(単位：名)

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	52	15	5	7	7	9	7	2
期末人数	46	12	2	12	4	9	1	6
月平均人数	49	12.6	3.6	10.0	4.8	9.5	4.1	4.4

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2021 年度は、新型コロナウイルスの感染対策が継続し、自粛生活が長期化する中で対策に協力いただいた入居者、職員にあらためて感謝したい。募集活動は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置適用の影響で上期は出遅れたが、下期の取り組み強化等の追い上げもあり、33 件の新規入居契約を得ることができた。

運営面では、会議体は書面開催や WEB 会議が主流となり、効率化が図られつつあるが十分な活動はできなかった。ETS2020（業務基幹システム）の運用では、タブレットによる業務運用が定着し、サービス内容の可視化や適正化が図れた。設備整備については、計画修繕は予定どおり実施され、延期していた共用部和室・茶室改修も実施できた。また、経営面では食材料費や燃料費高騰の影響が大きく、施設会計においては有料老人ホーム・附属診療所共に厳しい状況が続いている。引き続き感染防止対策を最優先にしながらも、入居率向上や有料老人ホーム・診療所の体制見直し等、抜本的な経営改善を図りたい。

1. 安心、安全を基盤としたサービスの質向上

- (ア) トータルサービスについては入居、入院、住替検討など迅速連携ができた。
- (イ) 感染第 6 波の影響で貴重な経験をした。振り返りを重視して対策に活かしていく。
- (ウ) ETS2020（業務基幹システム）はタブレット運用が定着し業務の効率化が図れた。
- (エ) コロナ禍でできる行事と開園 35 周年記念行事が実施された。
- (オ) 喫食率向上アイデア、メニューアピール、質維持のうえ食材比率切り詰めが必要である。
- (カ) 接遇に起因するサービス提供の苦情を減らす方策が必要である。
- (キ) リスク報告件数が少ない傾向である。入居者向けの転倒防止講演会が実施できた。

2. 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア) コロナ禍での協力体制はできているが、感染対策や欠員による疲弊がある。
- (イ) 部署間連携不足によるサービス低下や苦情につながる事例が散見された。
- (ウ) 会議体やシステム活用により少しずつ効率化が図れた。
- (エ) 採用については困難職種雇用には苦慮しているが、地元人材採用については定着した。
- (オ) コロナ禍と欠員が続いたため、計画した部署間の交流研修は未実施となった。

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 計画した大規模設備改修は実施された。老朽化による改修箇所が多いことが課題である。
- (イ) 新入居者件数は実績 33 件 43 名（予算 35 件 47 名）で入居率は 94%と未達となった。
- (ウ) 入居者状況に合わせ、適正に介護サービスへの移行ができ、介護報酬確保に貢献した。
- (エ) 介護予防活動はコロナ禍で最低限の活動となり、新たな取り組みは未実施となった。
- (オ) 診療所ベッドの適正利用については、平均入院患者数 12.2 名と高稼働を維持した。

4. 環境・省エネへの取り組みと地域との関わり

- (ア) 電気デマンド管理(最大需要電力管理)は継続実施したが、燃料費高騰が課題となった。
- (イ) 十分な地域貢献活動はできなかったが、入居者参画で近隣のごみ清掃を実施した。
- (ウ) 介護フェスタでは社会福祉協議会と共にフレイルチェックを実施した。

(エ) 感染対策で空気清浄機の各部署配置により環境改善を図った。

(オ) 障がい者雇用の増加はなかったが、高齢者雇用は若干名増加した。

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

(ア) 防災マニュアルの見直しを行うとともに、コロナ禍で縮小訓練や机上訓練を実施した。

(イ) コロナ禍で防災意識を高める活動は十分に取れなかった。

(ウ) 三浦市との地域防災協定を継続している。

6. その他の公益的事業について

(ア) 三浦市社会福祉協議会の協力のもと介護フェスタを開催した。

(イ) 三浦市のフレイルチェック事業に職員（フレイルサポーター）を派遣した。

実績：3回開催、51人の地域住民対象に延べ7人の職員が参加

【数値実績】

表1：契約状況 (単位:名)

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	396 (90)	159	327	486

表2：地域別契約状況 (単位:名・%)

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	449	14	13	1	4	0	1	0	2	2	486
構成比	92.4	2.9	2.7	0.2	0.8	0.0	0.2	0.0	0.4	0.4	100.0

表3：年齢構成 (単位:名・%)

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	40	82	115	101	58	52	28	10	0	486
構成比	8.2	16.9	23.7	20.8	11.9	10.7	5.8	2.0	0.0	100.0

表4：平均年齢 (単位:歳)

平均	男性	女性
83.2	81.7	83.9

表5：入・退去状況 (単位:名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	17	18	(14)
女	26	28	(22)
計	43	46	(36)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数） (単位:名)

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	125	14	20	30	16	17	14	14
期末人数	123	14	16	29	20	14	14	16
月平均人数	129.3	13.7	18.1	31.4	20.0	14.3	16.5	15.3

表7：職員数

職員数（常勤換算）	138.0名
-----------	--------

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2021 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を重点課題として取組んだ 1 年となった。施設内が安心して過ごせる場所であることに注力し、入居者と職員が一丸となり感染予防対策を行った。入居者へのコロナワクチン接種を浦安市と連携し、早い時期に施設内で接種ができたことは安心感につながれたと感じている。その他の感染予防対策では、ご家族をはじめとした外部者の入館制限やサークル活動、行事の縮小といった対策や、職員が施設に持ち込まないよう体調確認を徹底し、定期的 PCR 検査の実施等の対策を行い感染防止に努めた。しかし、第六波の急激な感染者増加の際には、防ぎきれず陽性者が確認される結果となった。その際には共用部の利用制限等の対策に入居者に協力をいただき、感染の拡大はなく単独の発生にとどめることができた。制限ある生活の中でも楽しみの提供や介護予防活動を実施するために、感染症予防対策を講じ自主放送を活用したイベントや講演会を実施した。毎月のデザート振舞いでは、季節を感じられるよう工夫し、多くの入居者に参加していただけた。市内の感染状況が落ちついた際には対面での集団体操を再開したが、感染の再拡大もあり中止せざるを得ない状況が続き、体操でも自主放送を活用した内容での提供となった。災害対策強化については、自然災害への備えを強化するため計画的に備蓄を増やし、水や食料の備蓄を入居者分及び復旧作業にあたる職員も想定した人数の 7 日分を確保した。設備面では井戸の設置を行った。今後も入居者が安心して生活できる施設となるよう努めていく。

1. 良質なサービスの追求

安心した生活を支えるサービスの質の向上に向けて、全課で協力する体制強化に取り組んだ。看取り介護の際には毎日朝礼で情報を共有し、その方のよりよい生活を支えるために全課で連携しケアの提供を行った。また、ICT 化の一環として、介護居室、一時介護室に介護ロボットを導入し見守りを強化した。各課の相談窓口の機能向上のため、専門職としての知識・技術の向上を図る研修や接遇向上を目指した行動指針の周知徹底に努めた。レストラン運営では、季節感や楽しさを意識した食事の提供、減塩の取組み等を実施した。

2. 働きがいのある職場風土の醸成

職員の学習面の支援強化のため、介護職のオンライン研修システム e-ラーニングを導入した。看護師の e-ラーニング研修も継続的に実施し各専門職としてのスキルアップに努めた。メンタルヘルス向上の取組みについては、ストレスチェックの受検率 100%を継続できた。働きがいのある職場風土の醸成のため、各職場で業務改善の取組みを行っている。

3. 安心・安全な施設づくり

施設関連では引き続き老朽化に伴う設備更新等を行い環境改善に努めた。共用部に入居者が交流に使える部屋が少なかったことから、有効活用ができていなかった各階のエレベーターホールに談話室を設置した。暗くなって帰宅する際、足元が危なくないように正面玄関前の電灯設備を更新した。災害に備えて食料や水、非常用の簡易トイレ等の備蓄を増やした。防犯・防災訓練についても継続実施し、入居者の安全・安心につながるよう取り組んだ。また、コロナ禍で入居者の外出機会が減り、施設内で過ごす時間が長いことを考慮し、

施設が安らげる場所となるよう、床や窓、網戸の特別清掃を増やし美化に努めた。

4. 安定した施設経営の実現

感染予防対策のために募集活動の制限があり入居率は93.3%とわずかに上昇したが目標には届かなかった。経営の安定のため、感染症予防対策を講じた募集活動を継続し、入居率95%以上の維持を目指していく。環境・省エネへの取組みについては、物品購入や設備更新の際にSDGs（持続可能な開発目標）を意識して選定した。

5. 地域における公益的な取組み

近隣保育園との津波・高潮時の避難訓練について、合同開催を継続し交流を継続した。コロナ禍で交流が減少しているが、学童クラブや保育園から作品や手紙が季節ごとに届き、入居者に喜ばれている。今後も地域に根ざした施設を目指し近隣学校等との交流が深められるよう努めていく。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	209 戸（33 戸）	79 名	164 名	243 名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	227 名	7 名	2 名	2 名	0 名	4 名	1 名	243 名
構成比	93.4%	2.9%	0.8%	0.8%	0.0%	1.7%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	24 名	36 名	60 名	53 名	41 名	22 名	5 名	2 名	0 名	243 名
構成比	9.9%	14.8%	24.7%	21.8%	16.9%	9.0%	2.1%	0.8%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
83.8 歳	81.2 歳	85.1 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	8 名	5 名	（4 名）
女	7 名	12 名	（11 名）
計	15 名	17 名	（15 名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	70 名	15 名	12 名	15 名	6 名	9 名	9 名	4 名
期末人数	69 名	14 名	10 名	14 名	9 名	8 名	10 名	4 名
月平均人数	68.9 名	15.4 名	11.6 名	13.8 名	7.2 名	8.2 名	9.3 名	3.4 名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	66.3 名
-----------	--------

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

コロナの感染状況が落ち着きを見せない中、2021年度はこれに影響されない施設運営を目指した。入居者の楽しみである施設行事は工夫しながら実施し、家族との面会は年間を通してほぼ中止せずに行うことができた。課題であった入居者募集活動は、少人数でのセミナーを開催しオンライン施設見学を取り入れた。サービスの特徴である見守りシステムを活用したケア実践、看取り介護実践を広報誌等で紹介することができ、18名の新規契約につながった。一方、地域連携・地域貢献活動は様々な制約があり実施できず、継続課題となった。

ケア実践においては、見守りシステムを試験的に導入した。この結果、入居者の生活をより「個」「面」で捉える視点を持てるようになった。今後、システムを活用し、職員が「人にしかできない仕事」に注力することによって、充実したエンド・オブ・ライフケア（最期までその人らしく生きることを支援するケア）の実践につながる可能性を感じた。

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 入居者の状態変化に応じて医師との連携、ケアや食事の見直しを即日行う体制ができた。
- (イ) 事故が発生した際には即日、原因分析と対策を実施し、対策の効果測定までを一連の流れとして整備、実施できた。苦情については効果測定までは十分に実施できなかった。
- (ウ) 認知症ケア体制の強化を図るために、認知症専門研修の受講を促し、認知症の方を中心にしたアクティビティ活動「ひまわりの会」を再開した。
- (エ) エンド・オブ・ライフケアの充実を図るために、密に聖隷横浜病院と医療連携を図ることができた。また入居者の願いを叶えるために、チームで知恵を絞りあらゆる工夫によって実現できた事例もあった。
- (オ) 第三者評価を2月末に受審し、サービス向上の向け改善課題を明確化できた。

2. 人財の育成

- (ア) コロナ感染の長期化による職員ストレス緩和の取り組みとして、入居者とともに楽しめる行事やアクティビティを定期的の実施できた。
- (イ) 人財を確保するため近隣大学への訪問、新たな職員募集媒体を活用した。
- (ウ) 職員同士で感謝等を言語化する「エーデンなカード」を継続し、モチベーション向上に取り組んだ。
- (エ) 「働き方改革」を推進するため業務内に会議、研修を行うよう工夫したが2020年度と比較して全職場、平均超過勤務時間が増加した。
- (オ) e-ラーニングを導入したが、各職員の取り組み状況には差があるため継続課題とする。

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率90%、新規契約20件を目指したが、平均入居率83.8%、18件であった。
- (イ) 入居者募集活動は少人数セミナー、オンライン施設見学を実施した。見守りシステムを活用したケア実践、看取り介護の内容を広報誌やホームページ等で紹介できた。
- (ウ) 入居者の生活やケアに影響が出ないよう計画的に修繕・修理を行った。

(エ) 職員が「人にしかできない仕事」に注力し、ケアの充実に向け見守りシステムを全居室に設置した。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域防災連携のため近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査や災害支援ナースの設置は未実施であった。BCP の整備と併せて継続課題とする。

(イ) 社会福祉協議会を通じ、経済的に困窮している大学生へ食料の寄付を行った。

5. 環境・省エネ活動への取り組みの強化

(ア) 入居者とともに、エコキャップ推進活動に参加した。

(イ) 感染対策のため換気しながらエアコンを使用したため省エネにはつながらなかった。

(ウ) 4 月より事業ゴミの出し方が変わり職員に分別の徹底、削減の意識づけを行った。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	40 戸（0 戸）	7 名	33 名	40 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	38 名	1 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	40 名
構成比	95%	2.5%	2.5%	0%	0%	0%	0%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	11 名	10 名	11 名	5 名	0 名	2 名	1 名	0 名	0 名	40 名
構成比	30%	28%	28%	8%	3%	3%	0%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
89.3 歳	88.1 歳	89.5 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	7 名	5 名	(5 名)
女	11 名	12 名	(11 名)
計	18 名	17 名	(16 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	39 名	0 名	6 名	6 名	10 名	4 名	6 名	7 名
期末人数	40 名	0 名	4 名	6 名	11 名	8 名	6 名	5 名
月平均人数	41.9 名	0 名	4.5 名	5.7 名	12.3 名	6.2 名	7.3 名	5.9 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	47.5 名
-----------	--------

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2021 年度、聖隷藤沢ウェルフェアタウンは開設 10 周年を迎え、コロナ禍でも感染対策のもと園内放送などを活用して複数のイベントを開催することができた。新型コロナウイルス感染症対策では、ワクチン接種を始めとする感染予防対策、感染者が発生した際の感染拡大防止対策などを行い、感染拡大期には入居者、職員に感染者が発生したものの、併設診療所や地域医療機関とも連携を取り重症化することなく感染を収束させることができた。2022 年度は開設 10 年が経過し状況の変化があるため、既存サービスの検証を行い必要に応じてサービスの更新を行っていく。

【藤沢エデンの園一番館】

2021 年度末、一番館では 97%を超える入居率となった。一方で二番館への住み替えや一番館で終末期を迎える入居者が増えているため、入居者向けに介護保険の勉強会や二番館の説明会を実施した。そちらを継続して行なうことでより安心して暮らすことができる一番館としていく。

【藤沢エデンの園二番館】

2021 年度は生活サービス課、在宅部門と連携して、直接入居者 2 名、一番館からの住替者 9 名を受入れ、年度末には入居率 84%となった。今後も入居者が安心して入居、住替ができるよう、感染症対策を含め、安全、安心なサービスの提供を行っていく。

【藤沢愛光園】

新型コロナウイルス関連では、2022 年 1 月の第 6 波で感染者は発生したものの感染を拡大させることなく最小限に留めることができた。その中で入居者の身体的負担軽減のための離床アシストベッドの追加購入や見守りシステムを増設してサービスの質の向上を行った。

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2021 年度はコロナ禍で訪問件数は伸び悩んだが、利用者が自分らしく安心して在宅生活が送れるよう取り組みを行った。さらには理学療法士 1 名を配属して訪問リハビリテーションの充実を図った。2022 度は専門看護師による訪問や医療依存度の高い利用者への訪問を推進していく。

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

認知症利用者への対応や知識の向上を図るために研修や同行訪問を行ない、職員の質、技術向上に取り組んだが、全ての業務を引継ぐまでには至らなかった。今後も利用者が在宅生活を継続できるよう認知症の専門性を高める研修に参加し、質、技術向上に取り組んでいく。

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

特定事業所加算再取得については、職員の採用により 4 月に加算Ⅲを、7 月には加算Ⅱを再取得できた。さらに在籍職員が資格を取得し主任介護支援専門員も 3 名となった。今後も利用者が各種サービスを利用して住み慣れた自宅で暮らし続けられるようにケアマネジメントを実践する。

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

目標である「利用者個々に合わせた機能訓練の提供」については、定期的な自宅訪問による情報収集により、マシン訓練メニューと共に個別の訓練メニューを多職種で検討し立案、提供できる体制が取れるようになった。2022 年度も利用者が長く在宅で生活ができる様に、より個別性の高い訓練メニューを提供し、利用者には選ばれるデイサービスとしてより発展させていく。

1. 最善を追求したサービスの提供

2021 年度より園内放送システムを導入し、コロナ禍であっても園内行事や体操などに居室から参加できる体制を整え提供を行った。また、入居者の関心の高い「二番館の生活」や「介護保険」についての説明会を実施し、住み替えや介護が必要になった際の生活への理解を深めることができた。

2. 環境の変化に対応できる体制づくり

開設 10 年が経過し、一番館から二番館への住替が増える状況の中、両事業所と在宅部門が連携を行い、9 名の入居者が住替を行った。また在宅部門では、閉鎖や転換を行うこととなった地域の事業所から利用者の受け入れを行った。

3. 多様・多職種の人材確保と育成の強化

2021 年度も 4 人の EPA 介護福祉士候補生の受け入れを行うことができた。育成の強化については、コロナ禍で e-ラーニングや WEB を使った研修スタイルとなり、育成の強化までは至らなかったが、感染拡大期においても、研修を中止することなく実施することができた。

4. 法人中期事業計画に基づく新たなプランの検討

聖隷 DX の推進において、藤沢愛光園に見守りシステムを増設し、少人数であっても効率性よく業務を遂行できる体制を整えた。また部品の供給が遅れたため実施には至らなかったが、神奈川県とも連携し配下膳ロボットでの実証実験の検討を行った。

5. 地域共生社会における社会福祉法人として役割の具現化と実践

2021 年度より藤沢市内 NP0 法人が設立した『フードバンク藤沢』に法人として参加して、職員から食品を募り提供することができた。また以前から行っている事業所前の『二番構公園』の清掃も継続して行った。

【藤沢エデンの園一番館一数值実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	204（53 戸）	88 名	169 名	257 名
職員数（常勤換算）	50.5 名			

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	四国	計
人数	228 名	7 名	17 名	0 名	2 名	2 名	1 名	257 名
構成比	88.7%	2.7%	6.6%	0.0%	0.8%	0.8%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	1 名	30 名	62 名	68 名	51 名	32 名	12 名	1 名	0 名	257 名
構成比	0.4%	11.7%	24.1%	26.5%	19.8%	12.4%	4.7%	0.4%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
81.5 歳	81.5 歳	81.4 歳

表 5：入・退去状況 *退去数には二番館への住み替え数を含む

	入居	退去	(死亡退去)
男	5 名	2 名	(0) 名
女	9 名	12 名	(4) 名
計	14 名	14 名	(4) 名

【藤沢エデンの園二番館—数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	42 戸（0 戸）	7 名	35 名	42 名
職員数（常勤換算）	34.4 名			

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	36 名	0 名	5 名	1 名	0 名	0 名	42 名
構成比	85.7%	0.0%	11.9%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	6 名	12 名	15 名	7 名	2 名	0 名	0 名	0 名	0 名	42 名
構成比	14.3%	28.6%	35.7%	16.7%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
88.2 歳	88.7 歳	88.1 歳

表 5：入・退去状況 *入居数には一番館からの住替数を含む

	入居	退去	(死亡退去)
男	2 名	1 名	(0) 名
女	9 名	4 名	(4) 名
計	11 名	5 名	(4) 名

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	35 名	1 名	3 名	1 名	8 名	13 名	5 名	4 名
期末人数	43 名	0 名	3 名	7 名	11 名	12 名	5 名	5 名
月平均人数	38.4 名	0.8 名	3.0 名	4.3 名	7.8 名	13.1 名	4.3 名	5.1 名

【藤沢愛光園—数値実績】

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利用 者 定 員	名	100 名	名	20 名	—
利用者延べ数	名	35,113 名	名	6,172 名	—
稼 動 延 日 数	365 日		365 日		—

一日平均利用者数	名	96.2名	名	16.9名	—
稼働率	%	96.2%	%	84.5%	—
単価（1人1日当り）	14,983円		14,722円		—
職員数（常勤換算）	62.3名		15.2名		77.5名

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	単 価	職員数 （常勤換算）
実績	106.3名	624.8件	7,498件	10,686円	10.6名

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

介護給付			予防・総合事業	自立支援		
月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数
37.6名	413.7件	4,964件	141.3件	1,696件	199.2件	2,390件

単価			職員数 （常勤換算）
介護給付（回）	予防・総合事業（回）	自立支援（回）	5.3名
3,973円	19,047円	4,357円	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

	年間請求件数		単 価		訪問調査		職員数 （常勤換算）
	介護	予防・ 総合事業	介護	予防・ 総合事業	件数	単価	
実績	1,310件	571件	16,868円	4,153円	163件	4,208円	3.9名

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

	介護給付			予防・総合事業	
	一日 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数
一日	21.5件	498件	5,977件	10件	121件
半日	3.1件	54件	650件		

	単価		職員数 （常勤換算）
	介護給付（回）	予防・総合事業（回）	
一日	11,719円	39,312円	11.7名
半日	7,242円		

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2021 年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の対応が必要になり、新しい生活スタイルや働き方をよく考えながら実践していく必要があった。2020 年度からの継続で、「新型コロナウイルスだけでもできること」「新型コロナウイルスだからできること」、この 2 つのスローガンを抱えながら、皆様にこの園の中でも安心・安全・楽しい施設作りを推進するため、何もできないのではなく、できる方法もあるのではないかとという視点をもって取り組んできた。有料老人ホームにおいては、新規契約者獲得の募集見学会等も中止になった中で、一般居室は高い入居率が継続できている。また、行事や介護予防等の活動もできるところから感染予防を行いながら実施できている。安心・安全面の取り組みとして、感染対策はもちろん、災害・防災対策においても、防災訓練が職員のみの実施となるなど、感染対策の影響は否めないが、逆により実践的な内容に更新するなど、対応力向上のきっかけとした。ニッセイ聖隷クリニックにおいては、新型コロナウイルスワクチン接種対応を、入居者・職員・委託業者・地域住民まで広げ、町にも貢献しながら実施することができた。奈良ベテルホームにおいては、特に新型コロナウイルス感染症の感染の影響があった事業であり、利用者・職員等の感染の影響で、入所の受入れや通所リハビリテーションの閉鎖期間があったため収益の確保が非常に厳しい状況になった。在宅事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響も大きく無く、医療・介護・地域との連携を引き続き強化したことで、最終利益は 3 事業所共、予算を上回る決算で終了することができた。

各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

(ア) マイメモリーシートの活用方法を見直し、その人らしさを終末期まで支えるケアの推進

①介護保険の方だけでなく自立の方でも「人生会議」が行えるよう計画し、身元引受人も交え、終末期に向け自分らしく生ききる支援が行えるように、入居者の思いを話し合う場を設けることができ、一般居室入居者を対象に 10 件実施した。また、8 月に入居者向けに介護サービス基準説明会を行い、人生会議についての説明も行った。

②介護居室での看取りは 5 名であった。マイメモリーシートを 6 ヶ月カンファレンス時に確認し情報を共有することで、入居者に寄り添った看取り介護に取り組むことができた。

(イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの浸透

①年間に計画していた生涯学習支援「エデン大学（年 4 回講座）」の内、2 講座（介護サービス基準・認知症予防）は感染対策を取りながら実施することができた。外部講師の 2 講座（EOL・成年後見人）は中止した。

②エデン版地域包括ケアシステムの充実に向け、生活支援サービスの継続者には、生活支援計画書の作成を行い、自立期からの関わりに力を入れた。

(ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり

①居室サービス課主導で健幸チェックを開催し、52 名の参加があった。そのうち MCI 検査には 42 名の方が参加された。また、記憶力低下や生活に支障が出てこられた方を早期に関わり、生活を整える支援を積極的に行った。

(エ) “エデン食堂”として身近に感じていただくための企画・運営と満足度向上

- ①エデン食堂としての満足度を向上させるために、大食堂を利用していない入居者へ個別に聞き取り調査を実施。食事に対する課題を明確にし、業者とともに改善策を検討した。また、3月末に食事懇談会を実施し、ご意見を事前に伺い、改善策を回答する形とした。入居者の参加は27名、委託業者と共にエデン食堂の更なる満足度アップをお約束した。

(オ) 開園30周年記念に向けた企画立案

- ①30周年記念プロジェクトを中心に2022年度実施に向けて企画立案を行った。4月7日の記念式典・記念御膳から始まり、コロナ禍の影響を見ながら年間を通して実施に向け検討する。

2. 安定した経営基盤の確立

(ア) 安心・安全なサービスを提供するための適切な住み替え

(イ) 入居募集活動への協力と連携

- ①一般居室から介護居室への住み替えが必要な方へ適切に進めることにより、一般居室の新入居12件17名の新規入居契約につなげ、実質入居率100%を維持できている。
- ②生活支援サービスを定期的に評価し、介護保険新規契約目標15件に対し22件の契約ができた。また、入居者の状態に合わせた介護度の見直しを毎月行い、適正化を図るとともに、収益も予算より大幅に確保することができた。
- ③介護保険改定で算定できる新規加算は職場間で連携し情報共有を行った。特に、科学的介護推進体制加算（LIFE）算定のため入力を開始、8月分から請求を行うことができた。

(ウ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化

- ①園全体・各部門の防災訓練や、より実践的な内容を導入することで、非常時の対応力強化に取り組んだ。
- ②災害等が起こった際、自衛消防隊組織編成に必要な「自衛消防業務講習（外部2日間講習）」を班長になる職場長クラスが随時受講を行い、資格取得を進めている。

(エ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備

- ①介護居室では開設以来使用していたベッド38台の更新を行うことができた。また、更新以外のベッドについても、メーカーメンテナンスを実施し安全に使用できるように管理している。
- ②設備整備では防犯カメラを更新し、防犯対策強化に努めた。また、非常階段等の出入口に庇を設置するなど入居者の安心、安全な住環境を計画的に整備した。

(オ) 省エネルギー資源活動への継続的な取り組み

- ①省エネ活動は、共用部のLED化計画は継続して実施中である。

3. 人財の育成・活用・定着の強化

(ア) 働き方改革への取り組み

- ①基幹システムへのメールアドレス登録、給与明細web交付率はともに90%を達成した。

(イ) 多様な働き方への対応した採用力強化への取り組み

- ①有資格者を始め、看護・介護職等の採用困難は深刻となり、紹介業者の利用が増加した。外国人雇用において、介護専門学校の留学生とのコネクションを開拓し、新規採用の目途を立てることができた。
- ②短時間パート採用と定着をすすめ、多様な働き方への対応と職員採用力の強化の両立に努めた。（見守り入浴補助、夕食業務など）

(ウ) 障がい者雇用に向けた各職場間の連携

- ①障がい者の就労実習を7名受け入れ、専門学校や職業リハビリセンターの若年者採用につながった。採用チャンネルが拡大したことで、ケアマネジャーの有資格者の採用など、応募者の質の向上にも寄与している。(障がい者雇用率3.77%：法定雇用率2.30%)

(エ) 目標参画等の各種ツールを活用し自ら考え行動できる職員の育成

- ①目標参画や各種ラダーを実施・活用し、専門職としての知識と技術の向上に向けて取り組んでいる。また、計画的な交換研修はコロナ禍で職場間の横断を控えた為、実施できなかった。

(オ) 専門研修等の参加・資格取得の支援と職場還元による職場の活性化

- ①eラーニングの導入による自己学習の推進、オンラインセミナー活用による職員のスキル・能力開発を実施した。
- ②実務者研修修了などの資格取得にむけた参加者への勤務配慮など支援を継続している。

(カ) 活気とやりがいを感じる職場環境整備と風土づくり

- ①ストレスチェック結果を活用した職場ごとのアクションプランを作成、実施し、職場風土の改善に役立てている。

4. サービスの質・安全・効率の向上

(ア) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止

- ①入居者・利用者・職員のコロナ陽性者は出たが、集団感染することなく経過。感染疑い事例に対し、速やかに判断、対応できる運用と検査体制を構築することができた。感染者の発生は免れないが、今後も集団感染を発生させないことを念頭に対策を継続する。また、補助金を活用し簡易陰圧装置を導入。園内での感染者療養を想定した体制を構築することができた。

(イ) 身体拘束、虐待防止への取り組み

- ①各部門（有料クリニック・老健・在宅）での委員会で身体拘束・不適切ケアへの議論、検討を繰り返していく仕組み作りを継続。園全体のコンプライアンス委員会で、事例共有を行っている。また、全職員対象に勉強会を年2回実施。上半期は学研介護サポート動画配信及び確認テストを実施、下半期は職場毎に高齢者虐待に関する考え方の勉強会及び事例の検討を行った。

(ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止

- ①リスクにおいては、効果測定やPm-SHELL分析を活用し同じ事故を起こさない対策や分析力アップに向けた取り組みを継続している。また、Pm-SHELL分析を使用し慣れていくこと、必要性を理解することを目的に、事務系を含めた各職場でPm-SHELL事例を行ってもらい、園全体のリスク委員会で報告、共有を行っている。

(エ) ETS（エデン・トータル・システム）の有効活用

- ①ETS内の事故報告システムIAとケア記録が連動できるよう勉強会を実施しOJTに努めた。

(オ) 接遇向上を目指し職員間で指摘しあえる風土づくり

- ①接遇においては人材育成委員会が主導し、各職場で接遇チェックリスト（自己・他者評価）を継続して実施し、個々の意識や行動の変化があるように年2回実施、評価を行った。

(カ) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上

- ①各種満足度調査（自立・介護・食事）を実施し、結果集計を行った。今後、結果に基づき、入居者満足度・サービスの質向上に向けての対策を実施していく。

5. 地域における公益的な取組み

(ア) WAC 施設としての地域貢献・交流

(イ) 地域との災害時の協力体制の強化

(ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

①毎年継続の河合町から委託、参加していた地域行事等（しゃきっと教室、家族介護教室、地域総合防災訓練、大和川一斉清掃、RUN 伴等）は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大により全て中止となった。また、園で企画していた「介護の日ふれあいフェスタ」「認知症 Café」等も中止した。

②年 2 回の世代間交流として河合町こども園に訪問し、園内ボランティア「虹のわ」の入居者が制作した人形をプレゼントした。

③近隣の河合第 2 小学校への下校時の安全確保のための見守り活動を入居者と職員（園全体職場）で継続している。

④高塚台自治会との防災協定を締結。非常時における園としての協力体制が明確になった。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は 12 戸で、(対前年-7 戸) その内、5 戸が 2 人入居であった。また、退去が 18 人（一般 13 人、介護居室 5 人）、介護居室への住替えが 5 戸(対前年比+2 戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室 354 戸（対前年比-3 戸）、介護居室 49 戸（対前年比±0 戸）となり、入居率は一般居室 97.8%、介護居室 98.0%、全体で 97.8%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は 2022 年 3 月 31 日現在で要支援 1：15 名（含介護居室 0 名）、要支援 2：30 名（同 0 名）、要介護 1：34 名（同 8 名）、要介護 2：25 名（同 10 名）、要介護 3：17 名（同 13 名）、要介護 4：14 名（同 12 名）、要介護 5：9 名（同 7 名）、合計：144 名（同 50 名）となった。

【数値実績】

■表 1: 契約状況

(3 月末現在)

(3 月末現在)

	居室数	契約数（内複数入居）	入居率	男 性	女 性	全 体
一般居室	362	354（115）	97.8%	160	359	519
介護居室	50	49（ 1）	98.0%	30.8%	69.2%	100.0%
合 計	412	403（116）	97.8%			

■表 2：地域別契約状況

(3 月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件 数	359	17	1	20	1	4	1	0	403
構成比	89.1%	4.2%	0.2%	5.0%	0.2%	1.0%	0.2%	0.0%	100.0%

■表 3：年齢構成

(3 月末現在)

	～ 60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人 数	0	4	21	68	81	125	101	87	32	519
構成比	0.0%	0.8%	4.0%	13.1%	15.6%	24.1%	19.5%	16.8%	6.2%	100.0%

■表4：平均年齢 (3月末現在) ■表5：入・退居状況

男 性	女 性	全 体
81.8 歳	83.3 歳	82.9 歳

	入居	退去(内死亡退去)
男性	6	6 (6)
女性	11	12 (12)
合計	17	18 (18)

■表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	120 人	15 人	20 人	28 人	21 人	17 人	12 人	7 人
期末人数	125 人	13 人	26 人	30 人	18 人	15 人	14 人	9 人
月平均人数	126 人	14 人	24 人	27 人	23 人	17 人	13 人	8 人

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

2021 年度は、河合町立文化会館まほろばホールを使用し、入居者と一般受講生の二部構成で、安全対策を講じた上で開催可能な文化教養講座を再開したものの、新型コロナウイルスの影響による講座・催しの中止が重なり、講座開催数及び参加者数が減少した。新たな試みとしてエデン芸術祭期間に合わせて「入江泰吉写真展」を開催しアンケート調査を実施、概ね好評であった。

◆ニッセイ聖隷クリニック

2021 年度は、新型コロナワクチンのサテライト型（連携型）として、入居者・職員・地域住民の受入を積極的に行い、大幅な増収につながった。外来は1月に奈良県独自制度の発熱外来認定医療機関を取得し、抗原検査及びPCR検査を実施した。また、新型コロナ罹患患者で軽症から中等症の方には、中和抗体薬もしくは抗ウイルス薬を投与できる体制を整備した。2022 年度皮膚科新規開設に向けて、医師派遣及び診療体制の準備を行った。入院は、感染予防対策としてオンラインを活用した終末期援助やグリーフケアを実施することができた。患者数も年間を通して、ほぼ満床で推移した。健診については、新型コロナウイルス感染症の影響による受診離れは若干改善した。しかし、人間ドックでは婦人科検診実施ができないため、減少となった。

◆奈良ベテルホーム

2021 年度は、4 月～9 月新型コロナウイルス感染症の感染拡大、2022 年 2 月に入所利用者の感染の影響により、入所、通所リハビリテーションとも経営状況が安定しない年度となった。入所に関しては、近隣病院の入院患者の退院支援制限、居宅事業所からの相談減少などがあり稼働率が低下した。11 月頃～2 月初旬まで入所相談がほぼない状況であった。通所リハビリテーションに関しては、9 月から予算数値に至ったが1 月頃より感染拡大による感染不安から利用控えがあり減少となった。新型コロナ感染症、社会情勢の不安定による物価の上昇、燃料費の高騰もあり予算未達、収入減少となったが、2021 年度4 月介護報酬改定による加算要件の追加、食費の改訂により収入を増やすことができた。新型コロナウイルス感染症の感染が終息しない状況であったが感染対策を講じることにより施設内での感染は抑えることが出来ている。

◆ニッセイせいい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症対応に追われる一年となった。中でも感染予防対策を徹底し職員やヘルパーで感染者を出すことなく業務を行うことができた。『コロナだからできること』と考え、これまで集合する形で行ってきた定例会を、小グループに分けて回数を増やし実施できた。e ラーニングを活用した勉強会に変更し定期的に開催することができた。

◆訪問看護ステーション西大和

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を強化しながら拡大防止に努めた。事業所・医療機関等との連携を強化し、利用者に寄り添う訪問看護を心がけながら事業の安定運営に取り組んだ。

◆ニッセイせいいケアプランセンター西大和

2021 年度も新型コロナ感染拡大の影響で介護サービスを控える方や、身体機能の低下により状態変化される利用者が増える中、医療・介護・地域との連携強化を図ったことで、定期的に新規の依頼があり、地域のニーズに合わせ対応したことで予算が達成できた。

◆その他公益的事業

- (ア) 実習生受入(実人数 8 名 延べ日数 77 日)
- (イ) 外部ボランティア受入 (実人数 0 名、延べ日数 0 日、延べ人数 0 名)
行事ボランティア受入 (実人数 0 名、延べ日数 0 日、延べ人数 0 名)
- (ウ) 介護の日ふれあいフェスタ開催 (入居者約 0 名、外部約 0 名)
- (エ) 文化教養講座 (開催数 14 回：参加者 190 名)
- (オ) 地域住民・入居者を対象としたコンサート・講演会 (開催数 0 回 参加者 0 名)
- (カ) 河合町開催マーケットへ参加・売上金は町社協寄贈 (来場者約 0 名、売上 0 円)
- (キ) RUN 伴 2021 への参加 (入居者 0 名、利用者・家族 0 名、職員 0 名)
- (ク) エデン介護教室 (年 2 回開催：参加者 0 名)
- (ケ) ベテル介護教室 (年 2 回開催：参加者 0 名)
- (コ) エデン河合町こども園訪問 (年 2 回)
- (サ) 献血 (実人数 13 名)
- (シ) 小学校児童の下校時見守り活動 (入居者・全職場)

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2021年度は開園から25年を迎え入居者の平均年齢は85.0歳と2020年度と横ばいであった。新型コロナウイルスの蔓延から2年が経過したが、終息の目途は立たず感染拡大防止・感染予防について入居者ならびに職員には多大な制限と負担をかける結果となった。また、介護居室6戸増築を柱とする新館工事は2022年7月には竣工を迎えるため介護居室不足解消及び入居者数増加に繋げ施設発展への準備を進めていく。入居状況は、契約数333戸（一般居室301戸、介護居室32戸）、入居率は一般居室95.6%、介護居室86.5%、全体で94.6%となり対前年度を1.1%上回る結果であった。

【2021 年度事業の振り返り】

1. 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

（ア）各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

新型コロナウイルスの蔓延で従来通りの募集見学会は実施できていないが、感染対策を講じながら各種セミナーを開催するなど、各課が募集活動を意識した行動をとる事が出来た。また年度末には介護居室への見守りシステムの設置が完了し、今後、入居者の行動アセスメントにより適切なケアによるサービスの向上に努めていく。

（イ）人材育成と連携

外部研修への参加が困難な中でeラーニングや動画を活用した知識・技術習得を継続した。職員の新型コロナウイルス陽性疑いで出勤できない場合など、他部署からの応援体制を取り、入居者へのサービス提供が滞る事がないよう努める事が出来た。

（ウ）経営基盤の安定

コロナ禍であるため“味の旅”と題して、ご当地グルメを提供し入居者に旅行気分を味わって頂くための機会を設けた。電子会議の活用や開催する会議・委員会は1時間以内を原則として超勤の削減に努めた。

（エ）リスク管理体制の強化

新型コロナウイルス感染者発生を想定したシミュレーションを3回実施した事で、実際に発生した際に入居者ならびに職員が混乱なく行動ができ、感染拡大を防止することが出来た。

（オ）社会・地域への貢献と連携

新型コロナウイルスが蔓延している中でも社会貢献にもつながるフードバンクを実施した。また住み替えや退去に伴う居室片付けにおいて、リサイクルとして家財を預かってくれる業者の紹介を行い、「処分したくない」家族の意向をかなえる事に繋げる事が出来た。

2. 松戸ニッセイ聖隷クリニック

新型コロナウイルスワクチン接種の実施医療機関となり、入居者ならびに職員へのワクチン接種を3回実施する事が出来た。新型コロナウイルスPCR検査、抗原検査等の検査体制は継続し感染対策や診療継続に努めた事で当クリニックの存在意義が発揮出来た。

3. 高齢者総合福祉センター

2021年度は、以前のような活動は出来なかったが、アカデミー教室は一部教室を再開することが出来た。イベントは生活サービス課や行事プロジェクトと共催し、入居者にはCATV

を活用したりリアルタイムイベントの提供や人数を制限した有観客イベントを毎月開催した。
また、地域の方へ向けには開催したイベントの動画を YouTube で配信した。

4. ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

2021 年度はコロナ禍ということもあり、事業の継続が課題と考えてきた。職員・利用者共に発熱や諸症状がある場合は即連絡することを何度も周知し、訪問時利用者の体温測定を必須とし、介護員から陽性者を出すことはなかった。障がい者総合支援サービスが軌道に乗り、収益の 3 割を占める実績をあげている。介護・障がいとも逝去・入所などで例年数十件がサービス終了となるため、新規受け入れを図った結果、予算達成となった。

【公益的事業について】

- ・コロナ禍における社会貢献にもつながるフードバンクを 3 回/年実施した。
- ・ペットボトルキャップ回収により、80 kg 分（前年度+20 kg）を NPO 法人エコキャップ推進協会へ寄付を行なった。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	333 戸（79 戸）	118 名	294 名	412 名

表 2：地域別契約状況

	関東	東海	東北	近畿	信越	北陸	中国	北海道	合計
人数	392 名	9 名	1 名	4 名	2 名	2 名	2 名	0 名	412 名
構成比	95.1%	2.2%	0.2%	1.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	42 名	105 名	87 名	77 名	41 名	46 名	9 名	5 名	0 名	412 名
構成比	10.2%	25.5%	21.1%	18.7%	9.9%	11.2%	2.2%	1.2%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
85.0 歳	83.9 歳	85.5 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	10 名	6 名	（6 名）
女	20 名	19 名	（17 名）
計	30 名	25 名	（23 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	125 名	29 名	19 名	28 名	22 名	12 名	10 名	5 名
期末人数	133 名	30 名	22 名	29 名	19 名	13 名	12 名	8 名
月平均人数	127.3 名	28.2 名	19.5 名	28.0 名	20.7 名	13.2 名	11.7 名	6.0 名

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2021 年度、明日見らいふ南大沢(東京都住宅供給公社からの運営受託事業)は開設して 25 周年を迎え、300 世帯、入居者 330 名、平均年齢が 87.3 歳で終えることとなった。施設としては、2020 年から引き続き新型コロナウイルス感染対策に追われる 1 年ではあったが、リモート（オンライン）面会やデイケア等の新しい形でのサービスも次第に安定してきた。今後も感染状況は予断を許さないが、感染拡大により提供できなくなったサービス、またはそれに代わるサービスをコロナ禍でどう提供していくのが今後の課題である。

以下、2021 年度事業の結果・成果について報告する。

【 事業・運営計画 】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供

(ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり

- ① 転倒予防体操のリニューアルやフレイル予防エクササイズを施設内 TV で放映するなど、コロナ禍でも入居者の身体機能が低下しないように工夫しながら実施した。

(イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組みの継続

- ① 業者の入館制限のため、宅配等の受付・連絡・配達などを職員が業者に代わって行った。

(ウ) 要介護未認定のご入居者や職員との接点の少ないご入居者に対する支援の実践

(エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり

(オ) 介護が必要になった時に向けてのご入居者の意志を聞き取る体制づくり

(カ) ケア充実のための新しい福祉用具・IT 機器導入の検討

- ① 防災やイベントで使用していたトランシーバーを、インカムとしても使用できるタイプに更新した。

2. 人材の育成

(ア) 次世代の育成

(イ) 自信につながる専門領域の習得

(ウ) 他業種の研修等を取り入れての接遇向上への取り組み

- ① 各課の係長メンバーにより、外部講師を招いての接遇研修会を企画・検討した。

(エ) 他課の業務を体験して理解を深める

(オ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

(ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり

- ① あすみ秋祭りとして、第二ホールで夏祭りや花火大会の映像放映、毎年恒例の作品展を第一ホールで同時開催、更にキッチンカーによる販売と新しいスタイルで開催した。

(イ) 健康増進センターを活用した地域との交流への取り組み

(ウ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり

(エ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動・防災対策への取り組み

(ア) 入居者と共同・協働による環境活動の実施

①希望された入居者とともに施設周辺の公園までエリアを拡大し、環境活動を実施した。

(イ) 省エネへの取り組みの継続

(ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

(ア) コロナ禍に対応できる新たな募集活動

① PCR 検査付き体験入居とそれに伴う運用のながれなど、コロナ禍に対応した新しい募集活動を検討した。

(イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

■2022 年 3 月 31 日時点

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男 性	女 性	計
人 数	300 戸（30 戸）	86 名	244 名	330 名

表 2：地域別契約状況

（単位：名・％）

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	中国	計
人 数	310 名	6 名	7 名	1 名	1 名	3 名	1 名	1 名	330 名
構成比	94.0%	1.8%	2.1%	0.3%	0.3%	0.9%	0.3%	0.3%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人 数	31 名	97 名	106 名	61 名	23 名	11 名	1 名	0 名	0 名	330 名
構成比	9.4%	29.4%	32.1%	18.5%	7.0%	3.3%	0.3%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

全 体	男 性	女 性
87.3 歳	87.1 歳	87.4 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男 性	3 名	14 名	（14 名）
女 性	4 名	17 名	（16 名）
計	7 名	31 名	（30 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	100 名	17 名	13 名	27 名	7 名	15 名	14 名	7 名
期末人数	114 名	24 名	11 名	29 名	10 名	20 名	17 名	3 名
月平均人数	103.8 名	15.9 名	12.5 名	27.2 名	11.8 名	14.8 名	15.2 名	6.4 名

法人本部

新型コロナウイルス感染症により、事業団全体の経営、運営にも大きな影響を受けた。法人本部として情報収集に努めると共に、職員への行動制限の通達、マスク等の物資不足への対応、業務上感染した際の休職制度など、職員が少しでも安心して感染症対策に向き合える環境整備に努めた。EPA 候補者の渡航制限や第 1 四半期の経営悪化など極めて厳しい人員管理、予算管理、投資抑制が求められた。

一方で、WEB 会議システムの整備を進め、理事会・経営会議をはじめとする各種会議や採用面接、人事研修、監査においてもリモート対応が可能となった。ID-LINK による連携施設や画像共有システムの拡大、財務システムの安定稼働やエルダー職員規則の運用開始など DX や働き方改革を推進するための基盤整備が行われた。

コロナ禍により創立 90 周年記念式典は中止としたが、記念誌の発行や次期中期事業計画の策定がなされ、節目の年として取り組みができた。また、20 年ぶりの理事長交代に関する各種交代事務や広報業務を遂行することができた。

青木理事長が就任し、法人本部においても新体制の一年となった。中期事業計画 Vision2025 がスタートし、SDGs との関わりを明確に表現すると共に、5 年後の聖隷のあるべき姿に向かって進みはじめた。厳しい社会情勢が継続する中、事業計画が適正に遂行されているかを諮るため投資管理委員会の設置をはじめ、聖隷 DX としてグループウェアの統一や職員の諸申請をスマートデバイスから可能とする取り組みが行われた。また、ディーセントワークの推進として職員の両立支援制度の拡充が検討された。

新型コロナウイルス感染症への対応は継続して行われた。全国的にワクチン接種が始まり、EPA 候補生の来日など再開されるものがあつたが、多くの制限は継続されることとなった。聖隷各事業部、各施設においても、市民接種、職域接種のワクチン接種が行われた。また、職員用のコロナ検査試薬やキットの調達も行い、職員が安心して勤務できる体制の維持と確保に努めた。2020 年度は厳しい経営環境であつたが、2021 年度は各事業の努力により堅実な結果を残すことができた。

【各部の報告】

《総務部》

2021 年度は、2020 年度から引き続き新型コロナウイルス感染症に伴い、日々の生活や働き方を見直す 1 年であつた。WEB 会議は定着し、様々な会議や打ち合わせに用いられるようになり、必要な設備の整備を行った。また、コロナ禍での新しい生活様式を見据え、結婚や永年勤続による特別休暇の取得期間延長などは徐々にコロナ禍前の状況に戻すことを行った。

大規模広域法人としての強みを活かした仕組化の推進については、広域防災対策本部として、職員安否確認システム「ANPIC」の登録件数が、9,306 件から 13,278 件に上昇し、全施設加入することができた。

ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進としては、職員家族向けに、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を行った。福利厚生サービスは、聖隷互助会の親族区分の見直しをし、準会員として非常勤職員を加入させた。また、職員が生き活きと働ける環境を整えるために、人事企画部を中心として、新部署として「健康推進室」を設置した。

聖隷 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進については、WEB 会議の定着による効率化を進め、安全運転講習会は、本部から各施設に WEB 配信することにより実施した。給与明細の電子交付率は 83%（前年比 5%増）、メールアドレス登録率は 66%（同 10%増）となった。年末調整はスマートフォンを使用し申請ができるようになり、職員の利便性が向上した。身上異動届の WEB 申請は、一部の事業部では先行して行っていたが、2023 年 4 月の全事業部導入に向け、ソフト面では、事業部間を越えたチームを結成し検討を行う体制を、ハード面では、個人所有のパソコンやスマートフォンからいつでも申請できるよう設備を整えた。

《人事企画部》

新型コロナウイルスの感染状況が刻々と変化する中、「その時、その状況で最善を尽くすこと」を大切にし、役割を遂行した。また、採用や人材育成面で ICT（information and communication technology）を積極的に導入し、聖隷 DX の推進に尽力した。

聖隷に興味を持ち、聖隷の職員として働きたいと思ってもらえるよう、採用ホームページをリニューアルし、動画チャンネルを作成して採用活動を強化した。さらに、公式 LINE や Instagram（インスタグラム）等の SNS（Social Networking Service）を活用し、求人者数が増加につながる環境を整備した。また、EPA 介護福祉士候補者は、2020 年度に新型コロナウイルス感染症の影響で入国できなかった対象者を含め 24 名が入職した。候補者が各施設配属前に日本の文化や介護技術等の研修を受け、現場の受け入れがスムーズになる取り組みも行っている。さらに、入職後は施設と協力して国家資格取得のための学習支援を行っている。聖隷の外国人人材受入れの取り組みが評価され、外国人介護福祉士の転職要望もあり、柔軟に入職対応している。

次に人材育成においては、コロナ禍の中、「事業団キャリアパス」に沿った研修を感染状況の各フェーズに対応した感染対策を講じて実施した。2021 年度、新たに「成果につながる経営的視点を理解し現場で実践すること」をねらいの 1 つとしたマネジャー4 研修を開催し、今後の聖隷を担う人材育成の充実を図った。また、課長以上の役職者定期評価の運用を再検討し、評価結果を昇進や降職時にも活用するなど育成の仕組みを構築した。

毎年実施している自己申告書に、職員の求めている両立支援についてのアンケートを組み入れ、職員の生の声を聴き取り、職員の働きやすさの向上にも努めた。その結果、2022 年度以降の厚生休暇に介護休暇の時間取得を組みこむことができた。加えて 2022 年 4 月から不妊治療の一部が保険適用になることを受け、厚生休暇時間取得についても改めて職員周知を行った。また、必要な人材が活躍できるよう役職定年制度を改訂し、在職期間要件の撤廃と役職延長可能な年齢を設定した。さらにエルダーマネジャー制度を設け、定年年齢後も活躍できるよう改訂した。

社会的な課題である「地域包括ケアシステム」を実現するため、「術中麻酔管理領域」や「在宅慢性期領域」パッケージなど医療・福祉のニーズに応じて看護師特定行為研修を企画・運用している。聖隷内の看護師が、「在宅慢性期領域」パッケージを修了する予定であり、地域で活躍する特定看護師が誕生する。現在、地域や関係各所と協力し特定看護師が活躍できる土壌を整

え、事業団の強みを生かしたスキームづくりに着手する。

人事企画部として多様な人材が長く働ける組織・最高のサービスを提供する組織を目指している。地域・聖隷の活性のための人事施策と働く環境の整備を通して、利用者、そして職員が幸せを実感できるよう努めていく。

《財務部》

2021 年度は、「新中期事業計画 2021-2025」の初年度にあたり、事業団経営管理機能の強化と経理業務効率化の推進に注力した年であった。

経営管理機能の強化としては、理事長の諮問機関として「投資管理委員会」を設置し、聖隷浜松病院新 S 棟や宝塚エデンの園増改築等計 5 つの投資案件について、必要性和経済性の両面から審議を行い、理事会に対して意見具申を行った。事業団全体の経営管理については、特に聖隷横浜病院、聖隷佐倉市民病院の経営改善に焦点を当て、両病院で策定した経営改善計画の執行状況について、月次決算時にモニタリングを実施した。

経理業務効率化については、経費精算システムの導入が 71 事業所において完了し、現金出納業務の省力化とキャッシュレス化を実現することができた。2022 年度中に 100%の導入を目指していく。

2022 年度の経営は、物価高騰によるコスト増は明らかであり、さらには新型コロナウイルスの感染状況により大きく影響を受けるものと考えられる。財務部としては、経営環境の変化に即応し、事業運営の継続に努めたい。

《総合情報システム部》

2021 年度は、各事業部へのシステム導入・更新支援を行いつつ、中期事業計画に掲げられた聖隷 DX について準備を進めた 1 年であった。10 月、デスクネットの更新を行った。レスポンス改善、メール容量増加など利便性の向上を行いつつ、操作性を継承し利用者負担の少ない更新を行った。また 2022 年 2 月、聖隷三方原病院にてデスクネットの利用が開始されたことで、事業団グループウェアの統一が完了した。今後は事業団全体の情報ポータルとしての利用が期待される。

聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院では、医療用画像管理システム(PACS: Picture Archiving and Communication Systems)更新と連動し、BCP 対策としての遠隔バックアップ、病院間の医療用画像連携、今後 AI 活用の基盤となりえる VNA(Vendor Neutral Archive)の構築を行った。10 月より本格運用が開始されたマイナンバーカードを利用した保険証オンライン資格確認の導入にあたり、各施設へネットワーク関連の導入支援を行っている。

在宅・福祉サービス事業部、高齢者公益事業部では、昨年引き続き見守り支援システムの導入をサポートした。特に同システムで使用する無線 LAN の構築では、設計段階から関わりを持ち、計画通りの構築に寄与した。また 3 月にリリースされた、科学的介護情報システム(LIFE)対応にも協力した。

次世代の情報部門を担う人材育成の一環として、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院協力のもと、病院ネットワーク更新プロジェクトに中堅職員が参加し、経験を積む機会を設けた。2021 年度は、聖隷淡路病院、浜松市リハビリテーション病院での構築作業が完了した。引き続き、聖隷袋井市民病院、聖隷富士病院、聖隷沼津病院のプロジェクトに参加している。

聖隷 DX 関連では、11 月より各事業部のシステム化計画のヒアリングを行い、利用者価値向上という目的を掲げ、中期情報システム整備計画を取りまとめた。9 月より法人本部各部門の代表者参加による DX ワークショップを開催し、現状の課題共有、10 年後に予測される課題の掘り起こしを行い、これらの解決にデジタル技術がどのように活用できるかを検討した。課題解決の方法としてデジタル技術の活用が積極的に検討されているが、利用者価値向上という目的を常に意識した対応を進めていきたい。

《総合企画室》

コロナ禍における物品調達、管理業務、補助金のとりまとめを行い、事業部の運営を支援した。厳しい経営環境となる中、関連法人を含む病院経営支援に引き続いて取り組んだ。医師キャリア支援センターとしては 14 名の医師採用（常勤 8、非常勤 6）に関与することができた。社会福祉連携推進連携法人制度のため厚生労働省社会援護局社会基盤課との意見交換を継続。山本理事長の全国経営協や静岡県の外務役職業務のリモート化への対応を支援した。

創立 90 周年記念事業では記念式典は中止としたが、記念誌の発行、記念品の配布、特設ホームページの設置などにより節目の年を盛り上げることができた。関連して、次期中期事業計画 2021-2025 の策定、SDGs の推進など今後の事業展開につながり、聖隷の付加価値を高める取り組みを開始した。年度末の理事長交代においては社内報等での意思表示や取材対応、関係各所への挨拶など、企図とおりに推進することができた。

青木理事長就任に伴い、各種メディアの取材や事業団内外における講演、各施設への視察など、理事長の精力的な活動を滞ることなく実施することができた。職員に対しても、青木理事長メッセージを WEB、社内報を通じて発信した。新たな企画として、聖隷 DX ワークショップの開催、聖隷みらい創造プロジェクトの立案を行った。

新型コロナウイルス感染症の対応として、検査試薬の調達、職員・職員家族を対象とした職域接種、補助金等のとりまとめを行い、事業部の運営を支援した。急激な経営への影響をタイムリーに把握し、共有する場としてモニタリング会議を定期開催し、関連法人を含む病院経営支援に引き続き取り組んだ。医師キャリア支援センターとして 16 名の医師採用（常勤 7、非常勤 9）に関与することができた。

広報は社内報編集員事務局として誌面充実に取り組むとともに、制作会社のプロポーザルを実施し、誌面刷新と e ブック導入に向けて推進できた。SDGs については、小学校へ出張授業の継続や、社内報に中期事業計画と連携する形で「聖隷における SDGs」を掲載するなど、発信強化に努めた。

《健康推進室》

健康推進室は、2021 年 10 月に健康経営推進、メンタルヘルス推進、健康管理を 3 本柱に事業団全体を組織横断的に関わる、新たな理事長直轄部署として設立された。

健康経営においては、健康経営優良法人認定の手続きを行い、「健康経営優良法人 2022」認定を受けることができた。また、社内報に積極的に情報を掲載し、職員の健康経営への理解を促進

し、ヘルスリテラシーの向上を図った。

メンタルヘルスにおいては、ストレスチェックにエンゲージメントやプレゼンティーズムを測定する指標の追加検討を実施し、今後の組織改善活動の準備を進め、2022年度に活用を計画している。

健康管理においては、健康診断後の事後指導（フォロー）体制の構築のため、データ管理方法や各種施策について健康保険組合と連携を強化し業務構築を行っている。また、各施設での健康管理を充実させるべく、現状ヒアリングを開始している。

さらに、委員会として従来あった「メンタルヘルス推進委員会」を、メンタルヘルス推進に健康経営や健康管理の視点を加え、職員の健康全般に関して取り組む「ヘルスケア委員会」に再編した。

健康推進室では、職員が元気に働きがいを持って働き続けるための施策立案や各施設、各現場支援を充実させていく。

《監査室》

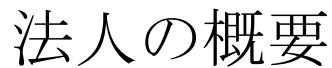
2021年度は、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた年となった。内部監査は、当初予定していた71施設のうち19施設が中止となり、結果的に52施設の往査実績となった。1施設当たりの指摘数は前年度より増えている。超過勤務に関する指摘が大きく増加し、ここでもコロナ禍の影響が読み取れる。

内部通報窓口においては、2020年度並みの相談件数を受け付けた。新型コロナウイルスの感染者数の推移と相談件数には、ある程度の相関関係が認められた。特筆すべきはハラスメントに関する相談の占める割合であり、近年急激に増加している。2022年度は事業団全体でハラスメント防止に取り組む年とする。

コンプライアンス啓発活動については、陳腐化が長らく懸案となっていた「コンプライアンスQ&A」を全面的に見直し、新訂版として発行することができた。

2021年度施設整備事業報告

施設種別	障害者支援施設	
施設名	浜松学園	
所在地	浜松市北区都田町9478-1	
工事名	浜松学園増築・改修工事	
事業完了年月日	2022年3月11日	
施設の構造	鉄筋コンクリート造・2階建て	
延床面積	3,022.04㎡（増築延床面積）	
総事業費	土地購入費	
	建築工事費	1,119,580,000（税込）
	設計監理費	62,227,000（税込）
	備品費	127,340,208（税込）
	その他費用	36,296,460（税込）
	事業費 計	1,345,443,668（税込）
財源	銀行より借入（本部借入金含む）	166,600,000 ＊福祉医療機構
	法定補助金	465,884,000
	福祉基金繰入	500,000,000
	自己資金	212,959,668
	財源 計	1,345,443,668
備考	＊民営化に伴う既存建物有償譲渡額：11,412,459円（税込）	



- 203-

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2022年3月31日現在

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	25
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	70
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	14
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	51
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市	北村 典嗣	104
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	46
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	15
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	75
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	39
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	103	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	68
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	55
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	74
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	39
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	72
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	32
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	33
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	39
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	森岡 由美	59
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市	長谷川 清太	10
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	伊藤 智之	2
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	36
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	中野 聡美	7
障害者支援施設	障害者支援施設 みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	20
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	47
障害者支援施設	静岡県立浜松学園(受託経営)	60	2019年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	16
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	200

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療保護施設	聖隷三方原病院	940	1942年11月9日	静岡県浜松市	荻野 和功	1,723
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市	白濱 律子	15
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 昭子	12
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	22

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
地域子育て支援拠点事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	白濱 律子	15
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	28
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17
地域子育て支援拠点事業	野上あゆみ保育園	—	2008年11月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
地域子育て支援拠点事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 昭子	12
地域子育て支援拠点事業	磐田市子育て支援総合センター のびのび(受託経営)	—	2003年7月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
一時預かり事業	聖隷こども園夢舞台	—	2017年4月1日	兵庫県淡路市	辻田 紀子	23
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	白濱 律子	15
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	28
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	19
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	森下 美由紀	23
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	28
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	勝又 みさ子	23
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	18
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	永島 弘美	24
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 昭子	12
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	22
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市	小南 律子	—
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	1
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市	荻野 和功	39
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市	岡 俊明	—
老人デイサービスセンター	聖隷トライサポート和合	40	2001年8月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	11
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	8
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市	飛田 耕志	6
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	村上 和文	4
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	7
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	竹田 拓未	4
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	金原 智恵	7
老人デイサービスセンター	浜北愛光園デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	北村 典嗣	6
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	8
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービス センター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	4
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービス センター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	34	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	4
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	3
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービス センター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	6
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	9

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	山浦 真佳	7
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	山浦 真佳	2
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	岡田 直也	3
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	8
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	3
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうつとこ	12	2015年8月1日	兵庫県淡路市	田村 健	3
老人デイサービスセンター	デイサービスセンター淡路	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	2
老人デイサービスセンター	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターゆい	20	2017年4月1日	沖縄県中頭郡	宮里 仁一郎	4
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	40	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	金子 英里	7
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	70
老人短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	14
老人短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	51
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	北村 典嗣	104
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	46
老人短期入所事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	15
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	75
老人短期入所事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	39
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	21	2003年6月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	68
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	55
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	74
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	39
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	72
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	32
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	19	1999年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	33
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	39
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	森岡 由美	13
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	5
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	5
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	新箭 幸平	1
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	7
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	2
老人居宅介護等事業	森町愛光園ホームヘルパー ステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	2

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市	森 大悟	11
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	7
老人居宅介護等事業	奄美佳南園ホームヘルプ事業所	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
老人居宅介護等事業	ニッセイせいいれ在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
老人居宅介護等事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのほのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	7
障害福祉サービス事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	200
障害福祉サービス事業	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	18
障害福祉サービス事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	70
障害福祉サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	14
障害福祉サービス事業	障害者支援施設 みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	20
障害福祉サービス事業	聖隷トライサポート和合	共生 型	2019年8月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	11
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房和合	10	2012年3月15日	静岡県浜松市	小野 英之	8
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	7
障害福祉サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	47
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市	石川 明彦	7
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	25
障害福祉サービス事業	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市	山本 達哉	7
障害福祉サービス事業	福祉共同住宅 ファーストステップ	10	2019年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	3
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園ナルド工房	10	2007年4月1日	静岡県浜松市	長谷川 展之	8
障害福祉サービス事業	静岡県立浜松学園	60	2019年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	16
障害福祉サービス事業	静岡県立浜松学園	60	2019年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	16
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜松学園	10	2019年10月1日	静岡県浜松市	林 俊之	4
障害福祉サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	2
障害福祉サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	共生 型	2018年10月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	7
障害福祉サービス事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市	北村 典嗣	104
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜北	15	2014年4月1日	静岡県浜松市	丸地 利弘	10
障害福祉サービス事業	生活介護事業所きらめき	20	2019年4月1日	静岡県浜松市	丸地 利弘	3
障害福祉サービス事業	森町愛光園	—	2013年11月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	46
障害福祉サービス事業	森町愛光園デイサービスセンター	基準 該当	2017年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	8
障害福祉サービス事業	森町愛光園ホームヘルパー ステーション	—	2016年7月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	2
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市	中道 景	8
障害福祉サービス事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	39

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	62
障害福祉サービス事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	68
障害福祉サービス事業	松戸愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	4
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	55
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年10月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	3
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	74
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	共生型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	6
障害福祉サービス事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	39
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	森 大悟	11
障害福祉サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	山浦 真佳	7
障害福祉サービス事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	72
障害福祉サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	8
障害福祉サービス事業	淡路栄光園	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	33
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	7
障害福祉サービス事業	聖隷カーネーションホーム	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市	田村 健	32
障害福祉サービス事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	39
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	基準該当	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
障害福祉サービス事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
障害福祉サービス事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	8
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年5月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
障害福祉サービス事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2006年10月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
障害福祉サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2017年7月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
地域活動支援センター	地域活動支援センターナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	4
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	7
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	森 大悟	11
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6
移動支援事業	奄美佳南園	—	2007年7月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	7
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	165
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市	林 泰広	—
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市	鈴木 理志	—
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	83
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	62
障害児通所支援事業	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	7

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ和合	20	2016年10月1日	静岡県浜松市	白佐 純一	6
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援事業所 かるみあ和合	10	2021年6月1日	静岡県浜松市	山口 香代子	6
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ森町	20	2017年4月1日	静岡県周智郡	望月 緒子	5
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市	小野田 樹	14
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市	小野田 樹	6
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市	猪原 裕子	5
障害児通所支援事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
障害児通所支援事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	8
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援事業所 かるみあ富丘	10	2016年4月1日	静岡県磐田市	大塚 美美	4
一般相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	5
特定相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	3
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	5
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	2
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	1
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
特定相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	三谷 晋一	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	2
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	3
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
特定相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	8
障害児相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	3
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	5
障害児相談支援事業	浜松市障害者相談支援事業所浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	2
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	1
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
障害児相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	三谷 晋一	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	2
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	3
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
障害児相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	8
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園夢舞台	120	2017年4月1日	兵庫県淡路市	辻田 紀子	23
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	206	1966年11月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	28
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	19
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	236	1976年4月1日	静岡県浜松市	森下 美由紀	23

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	166	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	28
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	215	1978年4月1日	静岡県磐田市	勝又 みさ子	23
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	18
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり富丘	129	2020年4月1日	静岡県磐田市	永島 弘美	24
病児保育事業	聖隷こども園夢舞台	3	2019年1月1日	兵庫県淡路市	辻田 紀子	23
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	28
病児保育事業	聖隷こども園めぐみ	4	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	28
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市	勝又 みさ子	23
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり富丘	4	2020年4月1日	静岡県磐田市	永島 弘美	24
放課後児童健全育成事業	オリーブ(聖隷こども園こうのとり東)	—	2015年4月1日	静岡県磐田市	勝又 みさ子	23
子育て援助活動支援事業	磐田市子育て支援総合センター 「のびのび」	—	2003年7月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
小規模保育所	聖隷のあ保育園	19	2019年4月1日	静岡県浜松市	石川 綾乃	7

【公益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市	岡 俊明	2,091
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	438
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市	宮本 恒彦	189
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市	武藤 繁貴	237
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市	森 厚嘉	198
医療施設	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	—	2010年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	141
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	14
医療施設	地域・企業健診センター	—	2008年1月1日	静岡県静岡市	鳥羽山 滋生	157
医療施設	浦安せいれいクリニック	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	—
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市	日置 弥之	3
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	飯田 俊博	12
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市	渡邊 弘美	13
医療施設	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	進藤 敬久	26
医療施設	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	28
医療施設	聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市	宮城島 正行	5
有料老人ホーム	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	44
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	1973年5月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	102
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	中安 章人	77
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市	栗田 昌宏	42
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市	笹ヶ瀬 慶造	88
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	44
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	若野 倫義	30

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	31
有料老人ホーム	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	村井 康隆	82
有料老人ホーム	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	中村 哲也	86
有料老人ホーム	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	伊藤 暢浩	83
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1996年7月22日	兵庫県宝塚市	中安 章人	77
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	中安 章人	1
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	村井 康隆	82
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	村井 康隆	4
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイせいい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	中村 哲也	86
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	中村 哲也	2
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	村井 康隆	82
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	村井 康隆	4
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	進藤 敬久	26
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	65
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	福田 清香	7
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいいケアプランセンター 西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	中村 哲也	86
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	中村 哲也	2
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	28
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
ケア付き高齢者住宅	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	伊藤 暢浩	83
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	川並 あさき	10
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	5
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市	山口 美津子	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	12
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	6
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	10
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	濱田 史子	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	4
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市	白幡 友子	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市	野中 みぎわ	9

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	8
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市	久保田 南美	8
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	13
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	中西 幸子	11
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	11
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市	於田 里実	17
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーションゆい	—	2013年3月1日	沖縄県中頭郡	仲里 智秋	5
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	4
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	7
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	福田 清香	7
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	5	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	1
居宅介護支援事業	せいれいケアプランセンター佐倉	—	2019年6月1日	千葉県佐倉市	金子 綾子	1
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市	紋谷 めぐみ	6
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	市原 夏織	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	澤田石 理恵	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部	—	2015年10月1日	静岡県浜松市	加藤 勇	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	深澤 和弘	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 響子	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市	牧野 光子	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市	三谷 晋一	4
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	2
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市	亀田 由美子	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	高松 英理	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	大浦 有紀子	6
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	8
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市	新箭 幸平	3
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市	於田 里実	4
居宅介護支援事業	奄美佳南園 在宅介護支援センター	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市	坂井 あかね	3
居宅介護支援事業	ニッセイせいれいケアプランセンター西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	5
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	12
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	7
福祉用具貸与事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	12

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	7
特定福祉用具販売事業	ニッセイせいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	12
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	7
特定介護予防福祉用具販売事業	ニッセイせいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	荻野 和功	—
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	荻野 和功	—
特定施設入居者生活介護事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	36
特定施設入居者生活介護事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	44
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2000年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壺	102
特定施設入居者生活介護事業	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	中安 章人	77
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2000年4月1日	愛媛県松山市	栗田 昌宏	42
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2000年4月1日	神奈川県三浦市	笹ヶ瀬 慶造	88
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	44
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	31
特定施設入居者生活介護事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	村井 康隆	82
特定施設入居者生活介護事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2000年4月1日	千葉県松戸市	中村 哲也	86
特定施設入居者生活介護事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2000年4月1日	東京都八王子市	伊藤 暢浩	83
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松山 美津代	5
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市	石田 真規子	7
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	前田 知恵美	10
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 勇太	6
地域包括支援センター	磐田市南部地域包括支援センター (受託経営)	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下 由紀	3
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市	浅地 香織	4
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	3
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市	森川 亜矢子	8
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	大浦 幸生	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	川並 あさき	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	宮本 恒彦	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園 特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	70
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園 和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	14
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷トライサポート和合	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	11
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園デイサービスセンター	62	2006年4月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	7

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	山口 美津子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター初生	50	2006年4月1日	静岡県浜松市	飛田 耕志	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション高丘	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	村上 和文	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション細江	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園 特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	51
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ほのぼのケアガーデン	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	竹田 拓未	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	濱田 史子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	金原 智恵	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 特別養護老人ホーム	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	北村 典嗣	104
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 デイサービスセンター	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	北村 典嗣	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション貴布祢	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	白幡 友子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	46
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 デイサービスセンター	42	2006年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	宮崎 弘光	15
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション浅田	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	野中 みぎわ	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市特別養護老人ホーム	50	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	75
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市高洲高齢者デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	39
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	62
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 特別養護老人ホーム	21	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	68
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 デイサービスセンター	34	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 特別養護老人ホーム	16	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	55
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 デイサービスセンター	30	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	久保田 南美	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 特別養護老人ホーム	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	74
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	6

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	36
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	44
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚栄光園	15	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	39
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	森 大悟	11
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山浦 真佳	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	山浦 真佳	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	岡田 直也	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷栄光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	72
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	59	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	中西 幸子	11
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	2006年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	11
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	32
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホームデイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園	19	2006年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	33
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	デイサービスセンター淡路	35	2006年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2006年4月1日	兵庫県淡路市	於田 里実	17
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 特別養護老人ホーム	10	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	39
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	20	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 訪問入浴事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーションゆい	—	2013年3月1日	沖縄県中頭郡	仲里 智秋	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンターゆい	—	2017年4月1日	沖縄県中頭郡	宮里 仁一郎	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2006年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	102
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	中安 章人	77
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2006年4月1日	愛媛県松山市	栗田 昌宏	42
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2006年4月1日	神奈川県三浦市	笹ヶ瀬 慶造	88
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	44
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	31
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	村井 康隆	82

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奈良ベテルホーム	116	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	65
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイせいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション西大和	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	福田 清香	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2006年4月1日	千葉県松戸市	中村 哲也	86
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2006年4月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケア付き高齢者住宅「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2006年4月1日	東京都八王子市	伊藤 暢浩	83
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷厚生園信生寮	—	2006年10月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	47
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	みるとす	—	2006年10月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	20
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市中障がい者相談支援センター(受託経営)	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	藤川 晴海	7
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター	—	2021年4月1日	兵庫県宝塚市	古結 智	4
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	12
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	7
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	青木 善治	99
身体障害者向け住宅の事業	聖隷厚生園信生寮(シオンハウス)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	1
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	200	2015年4月1日	静岡県浜松市	松井 理会	27
浜松市生活困窮者自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センターつながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳 雄大	11
無料職業紹介事業	浜松市生活自立相談支援センターつながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳 雄大	11
訪問リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	—
訪問リハビリテーションの事業	聖隷淡路病院	—	2019年4月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	6
訪問リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	—
訪問リハビリテーションの事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	宮本 恒彦	—
訪問リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	—	2018年10月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	65
通所リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	50	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	7
通所リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	54	2019年4月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	—
通所リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	45	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	62
通所リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	47	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	65
短期入所療養介護事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	—
短期入所療養介護事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	62
短期入所療養介護事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	65

【収益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市	青木 善治	99

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 役員名簿

	氏 名	役 職 名	理事会 開催日
理事長	青木 善治	代表執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団会長 (一財)芙蓉協会理事長 (一財)恵愛会理事長 (学)聖隷学園理事	4月 1日 4月 9日 4月 23日
理事	岡 俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 (学)聖隷学園理事	5月 14日 5月 28日
理事	荻野 和功	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 (学)聖隷学園理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員	6月 4日 6月 25日
理事	鎌田 裕子	常務執行役員・人事企画部長 (福)さくま理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員 (一財)日本老人福祉財団評議員	7月 9日 7月 30日 8月 13日
理事	日下部 行宏	常務執行役員 (一財)芙蓉協会常務理事 (医)聖愛会常務理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員	8月 27日 9月 10日 9月 24日
理事	津幡 佳伸	常務執行役員・在宅・福祉サービス事業部長 (福)松溪会理事長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団理事 (福)さくま理事 (一財)日本老人福祉財団評議員 (福)神戸聖隷福祉事業団評議員 (福)十字の園評議員	10月 8日 10月 22日 11月 12日 11月 26日
理事	彦坂 浩史	常務執行役員・総務部長 (一財)日本老人福祉財団理事 (一財)恵愛会理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員 (福)小羊学園評議員	12月 3日 12月 17日 1月 14日
理事	平川 健二	常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事 (一財)日本老人福祉財団理事 (医)聖愛会評議員	1月 28日 2月 4日 2月 25日
理事	福田 崇典	専務執行役員・保健事業部長 (一財)芙蓉協会評議員 (一財)恵愛会評議員	3月 11日 3月 25日

	氏 名	役 職 名
監事	佐野 國治	
監事	白木 政幸	
監事	鈴木 睦明	(一財)日本老人福祉財団評議員
監事	武居 敏	(福)松溪会評議員

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 評議員名簿

	氏 名	役 職 名	評議員会 開催日
評議員	青木 雅人	一般財団法人日本老人福祉財団理事長	6月 25日 3月 25日
評議員	伊藤 孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長	
評議員	大石 一雄	社会福祉法人さくま理事長	
評議員	小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会理事長	
評議員	小里 俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長	
評議員	小柳 守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長	
評議員	坪井 一弘	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事	
評議員	中村 一彦	東京海上日動ベターライフサービス株式会社代表取締役社長	
評議員	森本 俊子		
評議員	湯口 哲世	浜松商工会議所理事	

(2022年3月31日時点・五十音順)

附属明細書

該当ありません。